女川町文化財調査報告書第６集

内山遺跡

－女川町東日本大震災復興事業関連遺跡調査報告書Ⅰ－

平成29年3月

宮城県女川町教育委員会

内山遺跡

－女川町東日本大震災復興事業関連遺跡調査報告書Ⅰ－

1. 遺跡遠景（南西から）

2. 遺跡遠景（北東から）

序　　文

女川町では、平成23年３月11日に発生した東日本大震災からの復興に向け、「とりもどそう笑顔あふれる女川町」を復興計画の基本目標に掲げ、新しい女川のまちづくりが着実に進められています。その一方で土地との結びつきの強い埋蔵文化財は、各種の開発や工事の急増により、破壊・消滅の危機にさらされています。このため、教育委員会では、開発関係機関に遺跡の所在を周知徹底するとともに、開発との係わりが生じた場合には貴重な文化財を積極的に保護することに努めております。

本書は、被災市街地復興土地区画整理事業に伴う高台移転地の造成工事に先立って実施した内山遺跡の発掘調査報告書です。内山遺跡の発掘調査は平成26年度に実施され、本町では初めての大規模調査となりました。

調査の結果、石巻地方で初の検出例となる複式炉を伴う竪穴建物跡や小規模な貝塚などが発見され、今から約4,500年前の集落の存在が明らかになりました。これは、女川湾を望む高台の集落で営まれた当時の人々の生活の一端を窺い知ることができる貴重な成果です。

本書は、この調査成果を収録したもので、地域における歴史解明の資料として広く町民の皆様や各地の研究者に活用され、文化財保護への理解と関心の高揚に役立てば幸いです。

最後になりましたが、遺跡の保護に御理解を示され、発掘調査に際して多大なる御協力をいただいた関係機関の方々、発掘調査から本書の刊行に至るまで御協力をいただいた宮城県教育委員会及び復興支援として全国から派遣された専門職員の方々、さらに実際の調査にあたられた皆様に対して、心から感謝申し上げます。

平成 29 年３月

女川町教育委員会　教育長　村上　善司

例　　言

1．本書は、2011年３月11日に発生した東日本大震災における復興事業である、女川町被災市街地復興土地区画整理事業（中心部地区）に伴う内山遺跡の発掘調査報告書である。

2．発掘調査は、女川町教育委員会が主体となり、宮城県教育庁文化財保護課が協力した。

3．本書の第１図、第３図は、国土交通省国土地理院発行1/25,000地形図「女川」「出島」「萩浜」「寄磯」を複製して作成した。

4．本書で使用した測量原点の座標値は、世界測地系に基づく平面直角座標第Ｘ系による。なお、方位Ｎは座標北を表している。使用した測量基準点の座標は以下のとおりである。

ＴＢ86：Ｘ＝－173178.595　　Ｙ＝53277.007　　Ｚ＝43.930

ＴＢ87：Ｘ＝－173218.645　　Ｙ＝53263.199　　Ｚ＝43.030

ＴＢ88：Ｘ＝－173232.676　　Ｙ＝53206.612　　Ｚ＝37.658

5．本書で使用した遺構略号は以下の通りである。

SI：竪穴建物跡　　SB：掘立柱建物跡　　SK：土坑　　ST：墓跡

SX：炉跡、柱穴・ピット集中、遺物包含層・貝層、その他の遺構　　P：ピット・小穴、柱穴

6．土色の記述にあたっては、『新版標準土色帳』（小山・竹原：1996）を用いている。

7．遺構図版・遺物図版の縮尺は、それぞれスケールを付して示している。

8．遺物図版において、礫石器のスクリーントーンは磨面の範囲を示している。

9．本書の整理・作成については、古田和誠・福沢佳典・佐々木真裕美（女川町教育委員会）、田中秀幸・木下晴一・垣内拓郎（宮城県教育庁文化財保護課）が行った。遺物の整理については古田、福沢、佐々木が担当した。遺構の整理については、古田、福沢、田中、木下、垣内が担当した。

10. 航空写真撮影は日本特殊撮影株式会社、Ａ～Ｄ区の土器･石器の一次整理（水洗い、注記、接合）と二次整理（掲載遺物の資料化及び写真撮影）は国際文化財株式会社、Ｅ区の土器・石器の一次整理と二次整理は株式会社シン技術コンサルに委託して行った。また、動物遺存体の整理、同定、分析は株式会社パレオ・ラボに委託して行い、その成果は附章として本書に収録した。

11. 本書の執筆・編集は、調査担当者の協議を経て、古田が行った。

12. 本遺跡の調査成果については、平成26年度宮城県遺跡調査成果発表会や発掘された日本列島展及び『発掘された日本列島2016』でその内容の一部を公表しているが、本書と内容が異なる場合には、本書がこれに優先する。

13. 発掘調査の記録や出土遺物は女川町教育委員会が保管している。

目　　次

巻頭写真
序文
例言
目次
調査要項

第１章　調査に至る経緯……1
1. 調査に至る経緯……1
2. 発掘調査の方針……1

第２章　遺跡の概要……3
1. 遺跡の位置と地理的環境……3
2. 周辺の遺跡……4

第３章　調査の経過と方法……6
1. 調査の経過……6
2. 調査の方法……8
3. 整理の経過……8

第４章　調査成果……9
1. 検出状況と基本層序……9
2. 発見された遺構と遺物……14
（１）竪穴建物跡……14
（２）掘立柱建物跡……27
（３）柱穴・ピット集中と炉跡……27
（４）土坑……31
（５）遺物包含層……59
（６）江戸時代以降の墓跡……85
（７）ピット・基本層出土遺物……85

第５章　総括……97
1. 遺物……97
（１）縄文土器……97

（２）石器……102
2. 遺構……106
（１）遺構の年代と特徴……106
（２）遺構の変遷……109
3. まとめ……111
引用文献……111

附章　内山遺跡から出土した動物遺存体……㈱パレオ・ラボ　中村賢太郎　113

写真図版……129
報告書抄録

挿 図 目 次

第１図　土地区画整理事業に関連する遺跡……2
第２図　内山遺跡の位置……3
第３図　内山遺跡と周辺の遺跡……5
第４図　調査区の位置……7
第５図　基本層序……9
第６図　遺構配置図……10
第７図　A区・B区及びC区北端遺構配置図……11
第８図　C区北側及びE区遺構配置図……12
第９図　C区南側及びD区遺構配置図……13
第10図　SI66竪穴建物跡（1）……15
第11図　SI66竪穴建物跡（2）……16
第12図　SI66竪穴建物跡出土遺物（1）……17
第13図　SI66竪穴建物跡出土遺物（2）……18
第14図　SI66竪穴建物跡出土遺物（3）……19
第15図　SI91竪穴建物跡……21
第16図　SI91竪穴建物跡出土石器……22
第17図　SI14竪穴建物跡と出土石器……23
第18図　SI58竪穴建物跡と出土石器……25
第19図　SI58竪穴建物跡出土石器……26
第20図　SB108掘立柱建物跡……28
第21図　SB108掘立柱建物跡出土遺物……29
第22図　SB61掘立柱建物跡と出土石器……30
第23図　SX98柱穴・ピット集中と出土遺物……32
第24図　SX99柱穴・ピット集中と出土遺物……33
第25図　SX15・50炉跡……34
第26図　SK03～08土坑……36
第27図　SK07土坑出土遺物……38
第28図　SK04土坑出土遺物（1）……39
第29図　SK04土坑出土遺物（2）……40
第30図　SK04土坑出土遺物（3）……41
第31図　SK04土坑出土遺物（4）……42
第32図　SK04土坑出土遺物（5）……43
第33図　SK04土坑出土遺物（6）……44
第34図　SK04土坑出土遺物（7）……45
第35図　SK04土坑出土遺物（8）……46
第36図　SK03・05・08土坑出土遺物……47
第37図　SK52～57土坑……48
第38図　SK52土坑出土遺物（1）……51
第39図　SK52土坑出土遺物（2）……52
第40図　SK53・54・56土坑出土遺物……53
第41図　SK55土坑出土遺物……54
第42図　SK57土坑出土遺物……55
第43図　SK09土坑……56
第44図　SK09土坑出土遺物……57
第45図　SK01土坑と出土遺物……58
第46図　SK02・45・60土坑と出土遺物……60
第47図　SK60土坑出土石器……61
第48図　SK34・86・49土坑出土遺物……62
第49図　SX30遺物包含層と出土遺物……63
第50図　SX30遺物包含層出土遺物……64
第51図　SX110遺物包含層・貝層……66
第52図　SX110遺物包含層・貝層出土遺物（1）……67
第53図　SX110遺物包含層・貝層出土遺物（2）……68
第54図　SX110遺物包含層・貝層出土遺物（3）……69
第55図　SX110遺物包含層・貝層出土遺物（4）……70
第56図　SX110遺物包含層・貝層出土遺物（5）……72

第57図　SX110遺物包含層・貝層出土遺物（6）……73
第58図　SX110遺物包含層・貝層出土遺物（7）……74
第59図　SX10遺物包含層（1）……76
第60図　SX10遺物包含層（2）……77
第61図　SX10遺物包含層出土遺物（1）……78
第62図　SX10遺物包含層出土遺物（2）……79
第63図　SX10遺物包含層出土遺物（3）……80
第64図　SX10遺物包含層出土遺物（4）……81
第65図　SX10遺物包含層出土遺物（5）……82
第66図　SX10遺物包含層出土遺物（6）……83
第67図　SX10遺物包含層出土遺物（7）……86
第68図　SX10遺物包含層出土遺物（8）……87
第69図　SX10遺物包含層出土遺物（9）……88
第70図　SX10遺物包含層出土遺物（10）……89
第71図　SX10遺物包含層出土遺物（11）……90
第72図　SX10遺物包含層出土遺物（12）……91
第73図　江戸時代以降の墓跡……92
第74図　ピット出土遺物（1）……93
第75図　ピット出土遺物（2）……94
第76図　ピット・基本層出土遺物……95
第77図　基本層出土遺物……96
第78図　縄文土器分類図（1）……100
第79図　縄文土器分類図（2）……101
第80図　縄文土器分類図（3）……102
第81図　石器分類図……104
第82図　中期末葉～後期初頭の主な遺構の分布‥110

表　目　次

第１表　調査経過表……6
第２表　遺物整理委託の経過……8
第３表　土坑一覧表……35
第４表　SK06・07土坑土層観察表……37
第５表　SK52～57土坑土層観察表……49
第６表　SX110遺物包含層出土土器点数表……65
第７表　SX110遺物包含層出土石器・石製品
　　ほか点数表……71
第８表　SX10遺物包含層出土土器点数表……75
第９表　SX10遺物包含層出土石器・石製品点数表‥84
第10表　遺構別出土石器一覧表……103
第11表　器種ごとの石材別点数表……105
第12表　竪穴建物跡一覧表……107
第13表　掘立柱建物跡一覧表……107
第14表　遺物包含層の土器出土状況……109
第15表　主な遺構の時期と重複関係……109

写真図版目次

写真図版１　調査区全景……131
写真図版２　SI66竪穴建物跡……132
写真図版３　SI91竪穴建物跡……133
写真図版４　SI14・58竪穴建物跡……134
写真図版５　SX98・99柱穴・ピット集中……135
写真図版６　SB108・61掘立柱建物跡ほか……136
写真図版７　SX15・50炉跡と周辺のピットほか…137
写真図版８　B区南端の土坑群……138
写真図版９　SK01･02･09･45･49･60･86土坑……139
写真図版10　C区南西の土坑群……140
写真図版11　SX30・110遺物包含層……141
写真図版12　SX10遺物包含層……142
写真図版13　C・D区ピットとB区近世墓群……143
写真図版14　SI66竪穴建物跡出土遺物……144
写真図版15　SI66・91竪穴建物跡出土遺物……145
写真図版16　SI14･58･SX98･99出土遺物……146
写真図版17　SB108・61掘立柱建物跡出土遺物…147
写真図版18　SK04土坑出土遺物（1）……148
写真図版19　SK04土坑出土遺物（2）……149
写真図版20　SK04土坑出土遺物（3）……150
写真図版21　SK04土坑出土遺物（4）……151
写真図版22　SK04土坑出土遺物（5）……152
写真図版23　SK04土坑出土遺物（6）……153
写真図版24　SK04・07土坑出土遺物……154

写真図版25　SK02～08土坑ほか出土遺物……155
写真図版26　SK09・60土坑出土遺物……156
写真図版27　SK01･53･54･57土坑出土遺物……157
写真図版28　SK52土坑出土遺物……158
写真図版29　SK55・56土坑出土遺物……159
写真図版30　SX30・110遺物包含層出土遺物……160
写真図版31　SX110遺物包含層出土土器（1）……161
写真図版32　SX110遺物包含層出土土器（2）……162
写真図版33　SX110遺物包含層出土土器･骨角器･163
写真図版34　SX110遺物包含層出土石器……164
写真図版35　SX10遺物包含層出土遺物（1）……165
写真図版36　SX10遺物包含層出土遺物（2）……166
写真図版37　SX10遺物包含層出土遺物（3）……167
写真図版38　SX10遺物包含層出土遺物（4）……168
写真図版39　SX10遺物包含層出土遺物（5）……169
写真図版40　SX10遺物包含層出土遺物（6）……170
写真図版41　SX10遺物包含層出土遺物（7）……171
写真図版42　ピット出土遺物（1）……172
写真図版43　ピット出土遺物（2）……173
写真図版44　ピット・基本層出土遺物……174

調 査 要 項

遺 跡 名：内山遺跡（宮城県遺跡地名表登載番号73019）

所 在 地：宮城県牡鹿郡女川町鷲神浜字内山

調査原因：女川町被災市街地復興土地区画整理事業（中心部地区）に伴う発掘調査

調査主体：女川町教育委員会

調査担当：女川町教育委員会生涯学習課

調査協力：宮城県教育庁文化財保護課、女川町復興推進課、独立行政法人都市再生機構、鹿島・オオバ女川町震災復興事業共同企業体

調 査 員：女川町生涯学習課

福沢佳典（長野県松本市教育委員会より派遣）、古田和誠（宮城県教育委員会より派遣）

宮城県教育庁文化財保護課

田中秀幸、木下晴一（香川県教育委員会より派遣）、垣内拓郎（兵庫県教育員会より派遣）

調査期間：平成26年４月14日～７月25日、平成27年１月14日～17日

調査面積：約4,400㎡

第１章　調査に至る経緯

１．調査に至る経緯

平成23年３月11日に発生した東日本大震災の巨大津波により、三陸海岸の南端に位置する当町は甚大な被害を受けた。低地部の大半が浸水し、町内人口の約１割が犠牲となり、住家の７割以上が全半壊し、道路や鉄道は寸断され、災害対策の拠点となるべき役場庁舎も壊滅的な被害を受けた。このような中、今後も繰り返し発生が予想される津波から町民の生命を守り、安心・安全なまちづくりを速やかに進めるため、同年４月15日に復興対策室、５月１日に女川町復興推進本部を設置し、５月から８月にかけて開催した復興計画策定委員会を経て、９月15日に「女川町復興計画」を決定した。津波被害が特に甚大であった町中心部では、土地区画整理事業により役場、病院や道路等の基盤施設の整備と土地利用の再編を図り、居住地を高台及び地盤嵩上げにより確保することで、安全性と利便性を考慮した復興市街地の整備をめざすこととなり、これを実現する事業として、被災市街地復興土地区画整理事業が実施されることとなった。

本事業の基本計画段階で、女川町復興推進課（以下町復興推進課）、女川町教育委員会（以下町教育委員会）、宮城県教育庁文化財保護課（以下県文化財保護課）は計画地内に周知の遺跡が所在することを確認した（第１図）。内山遺跡が所在する内山地区では、居住地を高台に移転するために本事業で遺跡が立地する丘陵を切土造成することが計画された。平成24年３月に町復興推進課、町教育委員会、県文化財保護課の３者で現地確認を実施し、工事前に試掘調査を実施することとした。

試掘調査は条件が整った平成26年２月17日～２月27日に宮城県教育委員会主体で実施し、町教育委員会が協力した（宮城県教育委員会 2015）。調査対象地に36本のトレンチを設定し調査した結果、丘陵頂部東側のトレンチで縄文時代中期後葉～後期初頭の土坑やピットのほか、土器・石器を含む旧表土が確認された。

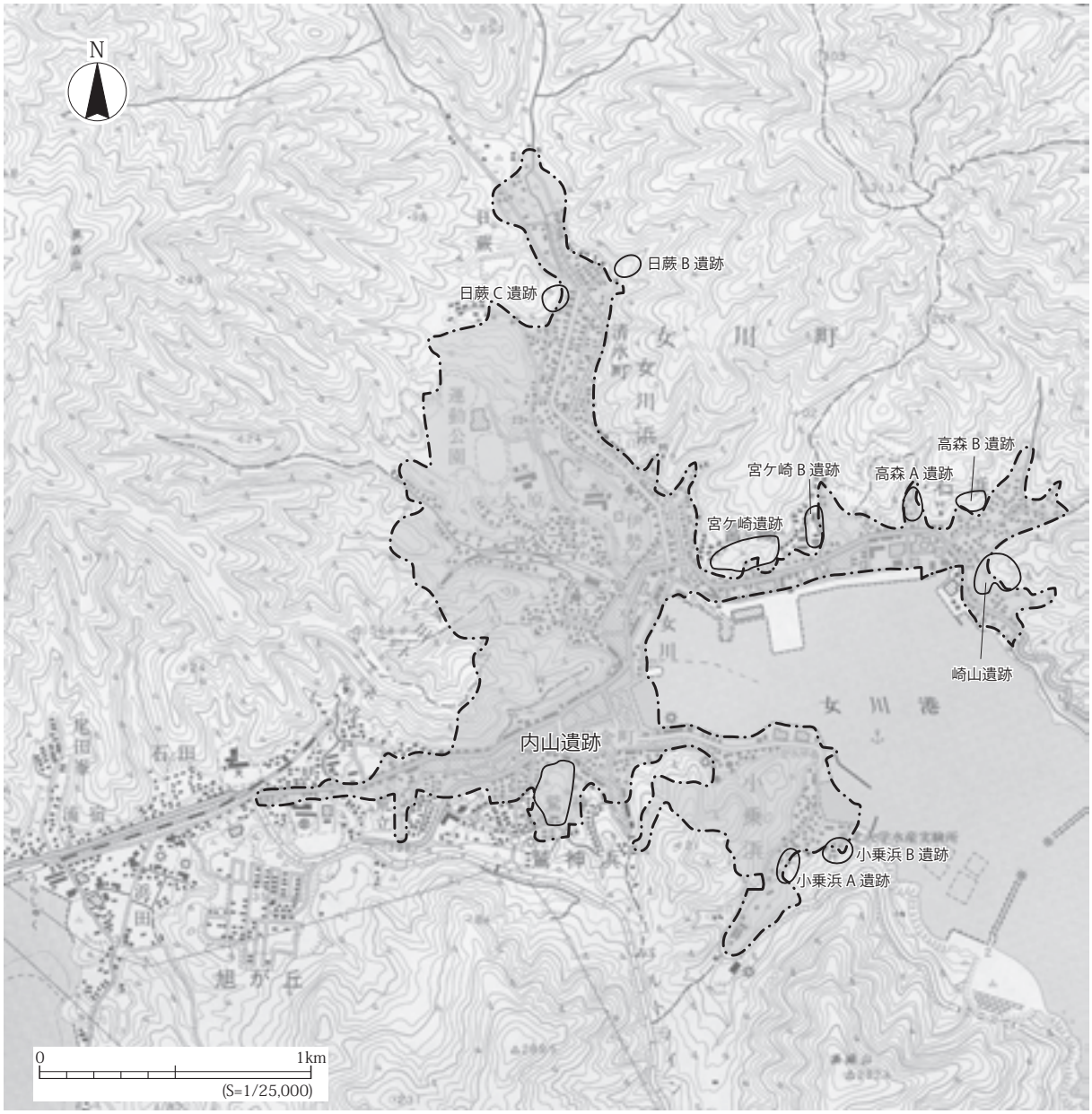
これらの結果を受けて、再度町復興推進課、町教育委員会、県文化財保護課の３者で協議を行ったが、復興事業を迅速に進めるため計画変更は困難と判断されたことから、遺構が検出された範囲について、女川町教育委員会が主体となり記録保存を目的とした本発掘調査を実施することとなった。

２．発掘調査の方針

復興事業に伴う発掘調査の方法等については、宮城県教育委員会通知の平成23年６月３日付け文第268号「東日本大震災の復興事業に伴う埋蔵文化財の取扱いについて」において、「復興事業を円滑に推進するため、復興事業に伴う発掘調査等の実施にあたっては、宮城県発掘調査基準を弾力的に運用するものとする。」との基本方針が示された上、「本発掘調査は、工事による掘削が遺構を破壊する場合に限って行うものとする。」との取扱いが示されている。内山遺跡については、試掘調査で遺構が検出された範囲の全域が切土施工となるため、本発掘調査の対象となった。

復興事業に伴う発掘調査は円滑・迅速に進める必要があり、埋蔵文化財専門職員がいない当町は調

査体制を強化する必要があった。そのため文化庁の協力のもと地方自治法252条の17項に基づく職員派遣（自治法派遣）により、平成26年４月に宮城県教育委員会及び長野県松本市教育委員会から各１名の専門職員の派遣を受けた。さらに内山遺跡の本発掘調査については、県文化財保護課に調査協力を依頼し、宮城県教育委員会及び宮城県教育委員会に派遣された香川県・兵庫県教育委員会の専門職員３名の協力を得て、発掘調査にあたった。



第１図　被災市街地復興土地区画整理事業（中心部地区）に関連する遺跡

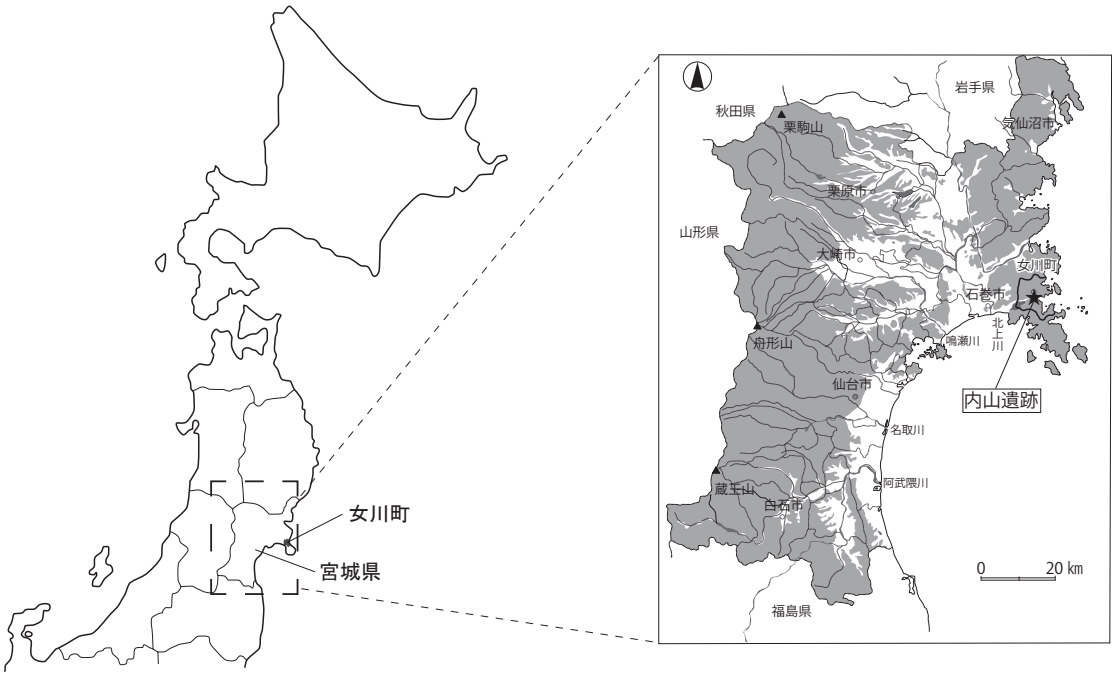
第２章　遺跡の概要

１．遺跡の位置と地理的環境

内山遺跡は、宮城県牡鹿郡女川町鷲神浜字内山に所在する。宮城県東部の女川町は北上山地と三陸海岸の南端にある牡鹿半島の基部に位置する（第２図）。牡鹿半島の基部は西から万石浦、東から女川湾が湾入し、大きく括れたような形となっている。町の東部は太平洋に面し、西部、南部、北部の三方を北上山地から延びる山々に囲まれ石巻市に隣接している。女川湾を囲むように町が形成されており、湾の沖合には出島や江島などの大小の島々が点在している。町の８割は標高456mの石投山を最高峰とする起伏に富んだ山地形を持つ森林により占められ、平坦地は狭小な沿岸部に限られる。町西部は北上山地の支脈が南北に走り牡鹿半島の脊梁をなす。町東部は太平洋に面し、屈曲に富む海食崖が連続するリアス式海岸が形成され、女川湾、御前湾、五部浦湾などが湾入した海岸線となっている。

内山遺跡が所在する鷲神浜地区は町中心部に位置し、町役場から南に約１kmの距離にある。女川湾の西奥部に向かって南北方向に延びる丘陵に位置し、丘陵頂部の標高は25～42mである。遺跡範囲は東西150m、南北240mほどである。調査前の現況は北側が森林、南端が宅地跡であった。

内山遺跡ではこれまでに発掘調査は行われていないが、縄文土器や石器が採集できることが古くから知られていた。『女川町誌 続編』によると東側斜面からは磨製石斧が30個以上まとまって出土したと言われており、遺跡内で採集された縄文時代中期中葉～後期中葉の土器、横型・縦型の石匙、磨製石斧、脚付石皿、長さ41cmの大型石棒等の遺物が紹介されている（女川町誌編さん委員会 1991）。



第２図　内山遺跡の位置

２．周辺の遺跡

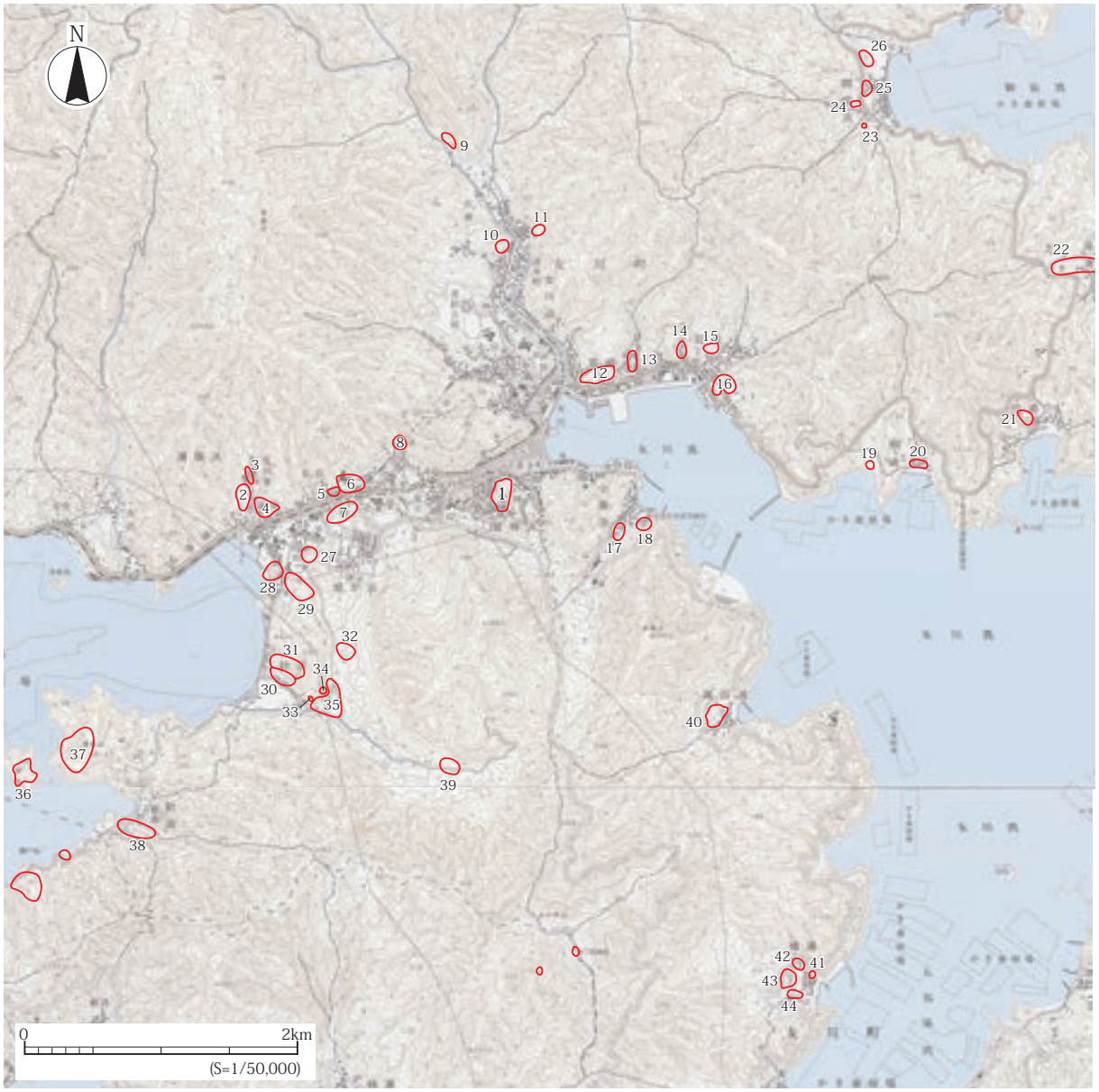
女川町内には53の遺跡が登録されており、女川湾の西奥部と万石浦周辺に縄文時代から近世にかけての遺跡が多く分布しているが(第３図)、発掘調査が実施された遺跡はわずかに過ぎない。

内山遺跡の周辺では、女川湾を望む丘陵上に縄文時代の遺跡が点在しており、宮ケ崎遺跡では縄文時代後期前葉の土器が採集されている。また、崎山遺跡では当遺跡と同一の復興事業に伴い平成26年11月から平成27年１月にかけて本発掘調査が実施されている。崎山遺跡では、丘陵頂部で縄文時代の竪穴建物跡１棟、丘陵下の沢部で後期前葉を主体とする前期初頭から後期前葉の遺物包含層が発見されている(女川町教育委員会 2017年３月刊行予定)。また、南緩斜面では奈良時代の石組みカマドを伴う竪穴建物跡２棟が発見され、竪穴建物跡から製塩土器が出土している。

万石浦周辺では、万石浦の北東最奥部に位置する浦宿尾田峯貝塚で縄文時代晩期の貝層から大型の遮光器土偶や骨角器が出土しているほか、遺物包含層から前期・後期・晩期の土器・石器が出土している(加藤・木村 1960、女川町教育委員会 1993)。沢を挟んだ東側には浦宿Ｂ遺跡があり、縄文時代前期初頭から前期前葉を中心とした遺物包含層と平安時代の竪穴建物跡が発見されている(宮城県教育委員会 2006)。万石浦の北東部に位置する針浜地区では、館崎館跡(宮城県教育委員会 1990b)、町内最古の板碑がある針浜板碑群(女川町教育委員会 2001)、針浜経塚などの中世から近世にかけての遺跡が分布するほか、小浦遺跡では縄文時代前期後葉を主体とする前期初頭から中期初頭の土器・石器が採集されている。また、万石浦東岸に張り出した丘陵の先端部に位置する唐松山下貝塚では、古代の製塩土器が採集されている(女川町誌編さん委員会 1991)。

町北東部に位置する荒井田貝塚では復興事業に伴う発掘調査が実施され、縄文時代前期後葉の遺物包含層や中期中葉の竪穴建物跡１棟のほか、古代の土師器・須恵器が少量出土している(宮城県教育委員会 2015・2016)。

女川町中心部から北東約９kmの海上に浮かぶ出島に所在する出島貝塚では、昭和30～40年代に小牛田農林高等学校郷土研究班が発掘調査を行っており、山下地点(旧山下貝塚)では縄文時代前期・後期の貝層を確認している (邊見 1971・1972・1974・1977)。貝層からは縄文時代前期初頭の土器や後期前葉の多量の土器が出土しているほか、石器、骨角器、土製品などの人工遺物や獣骨・貝類などの動物遺存体が多数出土している。また、平成元年には県道改良工事に伴う発掘調査が実施され、遺物包含層から縄文時代後期～晩期の土器・石器、弥生時代中期の土器、古墳時代中期の土師器が出土しているほか､分布調査では海岸沿いの低地で平安時代とみられる厚手の製塩土器が採集されている(宮城県教育委員会 1990b)。



No.	遺跡名	立地	種別	時代	No.	遺跡名	立地	種別	時代
1	**内山遺跡**	丘陵	集落	縄文・弥生・奈良・近世	23	松葉板碑群	丘陵斜面	板碑群	中世
2	浦宿尾田峯貝塚	丘陵麓	貝塚	縄文後・晩	24	荒井田貝塚	丘陵斜面	貝塚	縄文・古代
3	浦宿Ｃ遺跡	丘陵斜面	散布地	縄文後	25	田の島遺跡	丘陵麓	散布地	縄文・古代
4	浦宿Ｂ遺跡	丘陵斜面	散布地	縄文前～ 晩・古代	26	田の入遺跡	丘陵麓	散布地	縄文前・古代
5	門前一小前遺跡	丘陵麓	散布地	縄文	27	浦宿浜田遺跡	丘陵麓	散布地	古代
6	門前ガード脇遺跡	丘陵麓	散布地	縄文中	28	館崎館跡	丘陵	城館	中世
7	十二神遺跡	丘陵麓	散布地	縄文前	29	小浦遺跡	丘陵	散布地	縄文前～後・奈良
8	照源寺境内遺跡	丘陵斜面	散布地	古代～近世	30	針ノ浜墓地下遺跡	丘陵	散布地	縄文前～後・古代
9	日蕨Ａ遺跡	丘陵斜面	散布地	縄文	31	石塔場館跡	丘陵斜面	城館	中世
10	日蕨Ｃ遺跡	丘陵麓	散布地	古代	32	館の森館遺跡	丘陵	城館	中世
11	日蕨Ｂ遺跡	丘陵斜面	散布地	縄文	33	針浜板碑群	丘陵麓	板碑群	中世
12	宮ケ崎遺跡	丘陵麓	散布地	縄文中～晩・弥生・古代	34	針浜経塚	丘陵麓	経塚	中世
13	宮ヶ崎Ｂ遺跡	丘陵斜面	散布地	縄文中～晩・弥生・古代	35	花坂遺跡	丘陵麓	散布地	縄文・古代
14	高森Ａ遺跡	丘陵斜面	散布地	縄文前	36	黒島貝塚	島嶼	貝塚	縄文晩・弥生・古墳・古代
15	高森Ｂ遺跡	丘陵	散布地	縄文	37	唐松山下貝塚	丘陵麓	貝塚	縄文前・晩・弥生・古代
16	崎山遺跡	丘陵斜面	散布地	縄文後	38	猪落遺跡	丘陵麓	散布地	旧石器・縄文前・中
17	小乗浜Ａ遺跡	丘陵麓	散布地	縄文	39	善五郎館跡	丘陵斜面	城館	近世？
18	小乗浜Ｂ遺跡	丘陵麓	散布地	縄文	40	高白浜遺跡	丘陵斜面	散布地	縄文・奈良・平安
19	桐ヶ崎板碑群	海岸	板碑群	中世	41	名不知板碑群	丘陵麓	板碑群	中世
20	桐ヶ崎遺跡	丘陵	散布地	縄文前・中	42	横浦Ａ遺跡	丘陵麓	散布地	古代
21	竹の浦遺跡	丘陵斜面	散布地	縄文	43	横浦館跡	丘陵	城館	中世・近世
22	尾浦貝塚	丘陵	貝塚	縄文前～後・古代	44	横浦Ｂ遺跡	丘陵麓	散布地	縄文・古代

第３図　内山遺跡と周辺の遺跡

第３章　調査の経過と方法

１．調査の経過

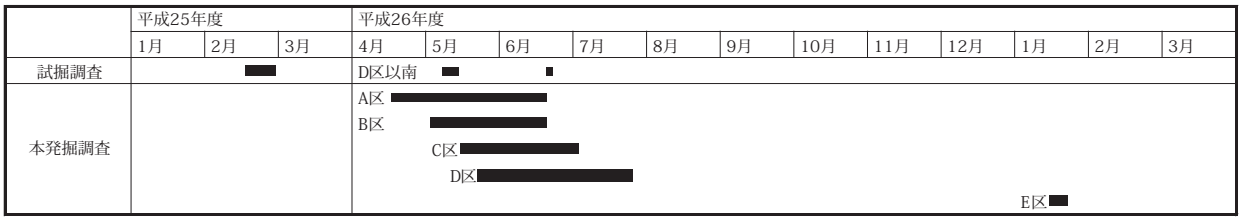
本発掘調査は平成26年４月14日に開始した。本発掘調査の対象範囲は丘陵平坦面の東半部で、近現代の造成により３段に分かれている。調査区は北からA区、B区、C区と設定し、A区から調査着手した。重機で表土を除去し人力で遺構検出したところ、B区南端で竪穴建物跡１棟や土坑６基が検出され、C区南側でも竪穴建物跡３棟、掘立柱建物跡１棟、土坑10基が検出された。また、試掘調査時に条件が整わず未調査となっていた対象範囲南側について本発掘調査と併行して試掘調査したところ、道路より北側の約660㎡で新たに柱穴・ピット集中２ヶ所、炉跡、遺物包含層などが検出されたことから、D区と設定して本発掘調査の対象とした（第４図）。このように、調査前の想定を大幅に超える遺構が確認されたことから、5月20日に町復興推進課、町教育委員会、県文化財保護課の３者で協議し、当初６月末の予定であった調査期間を７月末に変更することとなった。

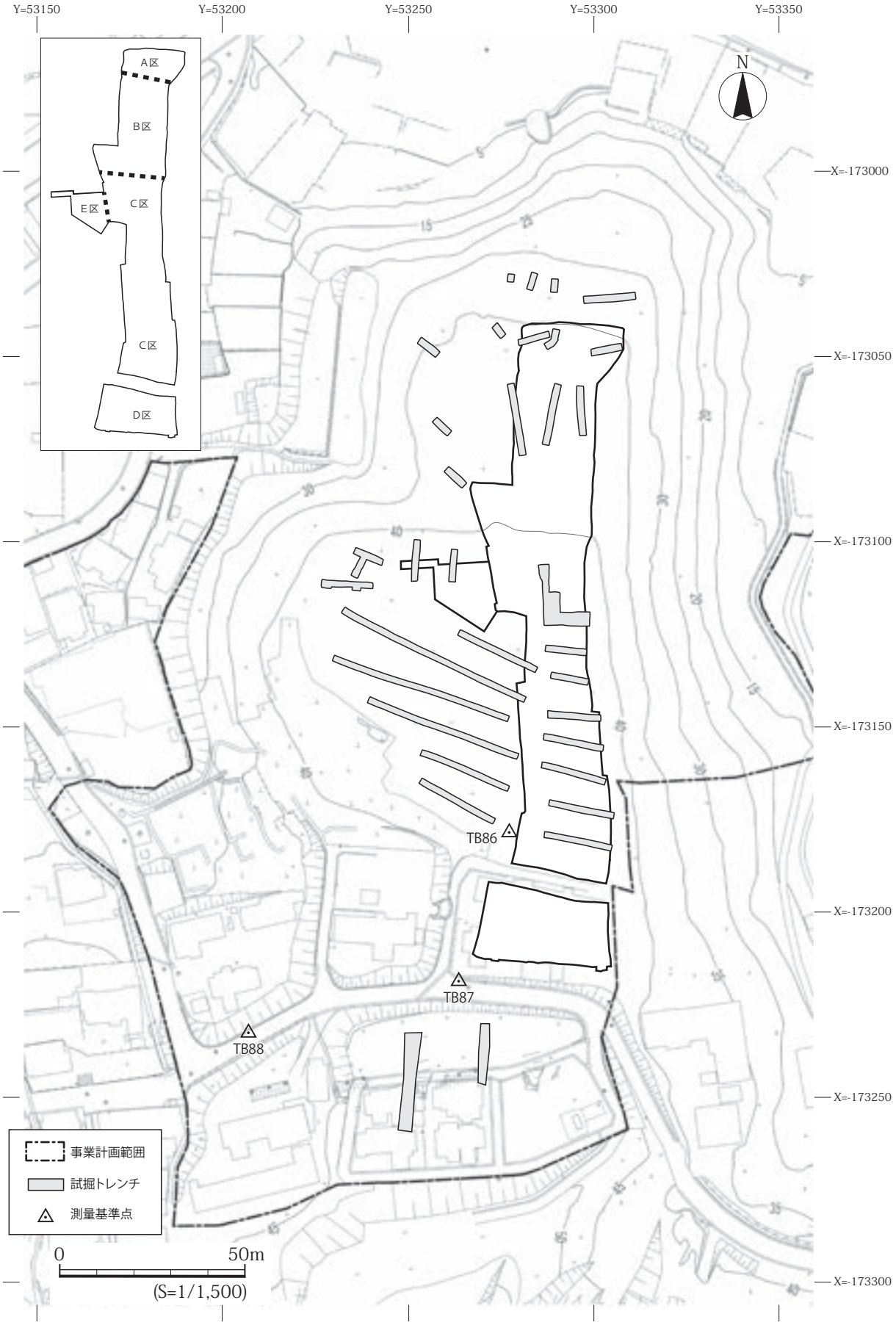
本発掘調査では、検出された遺構は原則完掘したが、D区のSX10遺物包含層については工事による掘削が遺構の下部に及ばないことが判明したため、復興事業に伴う発掘調査の方針に基づき、工事で破壊される深度までを調査対象とし、それ以下についてはサブトレンチによる部分的な精査にとどめ現状保存した。

５月30日には文化庁青柳正規長官が復興調査の現状を確認するため来跡した。６月19日には調査区全体の航空写真撮影を実施した。６月21日には現地説明会を実施し、町内の参加者75人を含む122人の参加者があった。また、現地説明会以外にも発掘調査の意義や文化財保護に対する啓発を目的として、６月11日に女川小学校６年生46名による現場見学、７月４日に女川中学校18名による現場見学及び発掘体験を実施した。７月25日に現場事務所等の撤収作業を実施して調査が完了し、調査区を工事側に引き渡した。

ところが、平成27年１月13日に工事担当者から、切土工事後の造成面で土器や動物の骨が散在しているとの連絡が町復興推進課を通じ町教育委員会にあった。町教育委員会で至急現状確認したところ、C区北西端に近接する地点で縄文土器、石器、獣骨、魚骨、貝類を含む遺物包含層・貝層が分布していることを確認した。同日、町復興推進課、町教育委員会、工事担当者の鹿島・オオバ女川町震災復興事業共同体で現地協議し、工事の妨げにならない範囲で追加調査を実施することとした。追加調査は遺物包含層・貝層が検出された170㎡を対象とし（E区）、1月14日～１月17日に実施した。切土造成が既に完了していたことから、調査はサブトレンチによる部分的な精査にとどめたが、貝層部分についてはほぼ完掘し、貝層土壌は土のう袋で全て回収した。

第１表　調査経過表




Y=53150
Y=53200
Y=53250
Y=53300
Y=53350
X=-173000
X=-173050
X=-173100
X=-173150
X=-173200
X=-173250
X=-173300
N
A区
B区
C区
E区
C区
D区
TB86
TB87
TB88
事業計画範囲
試掘トレンチ
測量基準点
0
50m
(S=1/1,500)

第４図　調査区の位置

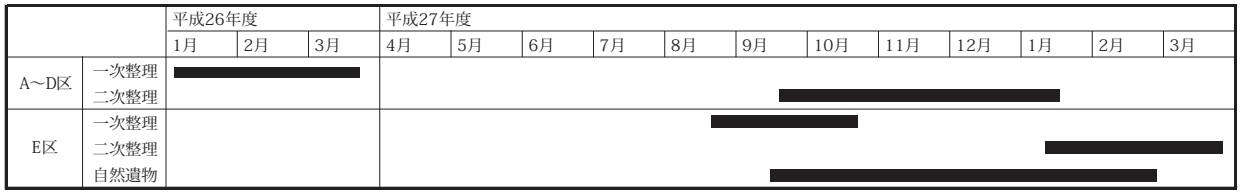
２．調査の方法

調査区や遺構の平面図は、東日本震災後に工事用に設定された４級基準点（TB86・TB87・TB88）を基準とし、株式会社CUBIC製発掘調査関連測量専用ソフト「電子平板　遺構くん」と株式会社ソキア・トプコン製の自動追尾トータルステーションを用いて作成した。基準点の国家座標は例言に示したとおりである。埋設土器や土坑の遺物集中出土状況の平面図は縮尺1/10の手実測で作成した。遺構の断面図は縮尺1/20の手実測で作成した。写真撮影には35mm一眼レフデジタルカメラ（1,800万画素）を使用した。

３．整理の経過

整理作業は平成26年度から平成28年度にかけて実施した。遺構の整理は調査を担当した調査員を中心に行った。遺物の整理については、当町に整理作業場がなく整理作業員の確保も難しい状況であったことから、業者委託を中心に進めることとした。土器・石器等の人工遺物の整理作業は水洗い、注記、接合までを「一次整理」、掲載遺物の資料化及び写真撮影を「二次整理」と区分し、それぞれ業者委託した。なお、掲載遺物の抽出、土器実測図作成、土器断面図作成、遺物観察表作成、遺物図版・写真図版等の版組は調査員で行った。また、SX110遺物包含層・貝層から出土した自然遺物及び貝層土壌サンプルについては、遺物の水洗いや貝層土壌の水洗篩から、選別、同定、分析までを一括して業者委託した（第２表）。

第２表　遺物整理委託の経過



現地説明会風景

女川中学校発掘体験風景

第４章　調査成果

１．検出状況と基本層序

調査区は遺跡範囲中央の丘陵頂部に位置し、近現代の造成によりA区とB区の境、B区とC区の境で段状に削平されている。調査区の標高は概ね北から南に向かって高くなり、A区が最も低く標高33～36m、B区が標高37～39m、C区39～44m、D区が42～43m、E区が40mである。特に丘陵尾根の頂部付近が削平を受けており、A区・B区・C区・D区の中央部では旧地形が残存しておらず遺構が検出されていない。調査区内の基本層序はⅠ層：表土、Ⅱ層：盛土で、各調査区の大部分は盛土直下が地山・岩盤となり、大半の遺構は地山・岩盤で検出している。C区・D区の東端、D区の西端、E区の北側では縄文時代の旧表土（Ⅴ層）が部分的に確認された。基本層序は以下のとおりである（第５図）。

Ⅰ層：表土

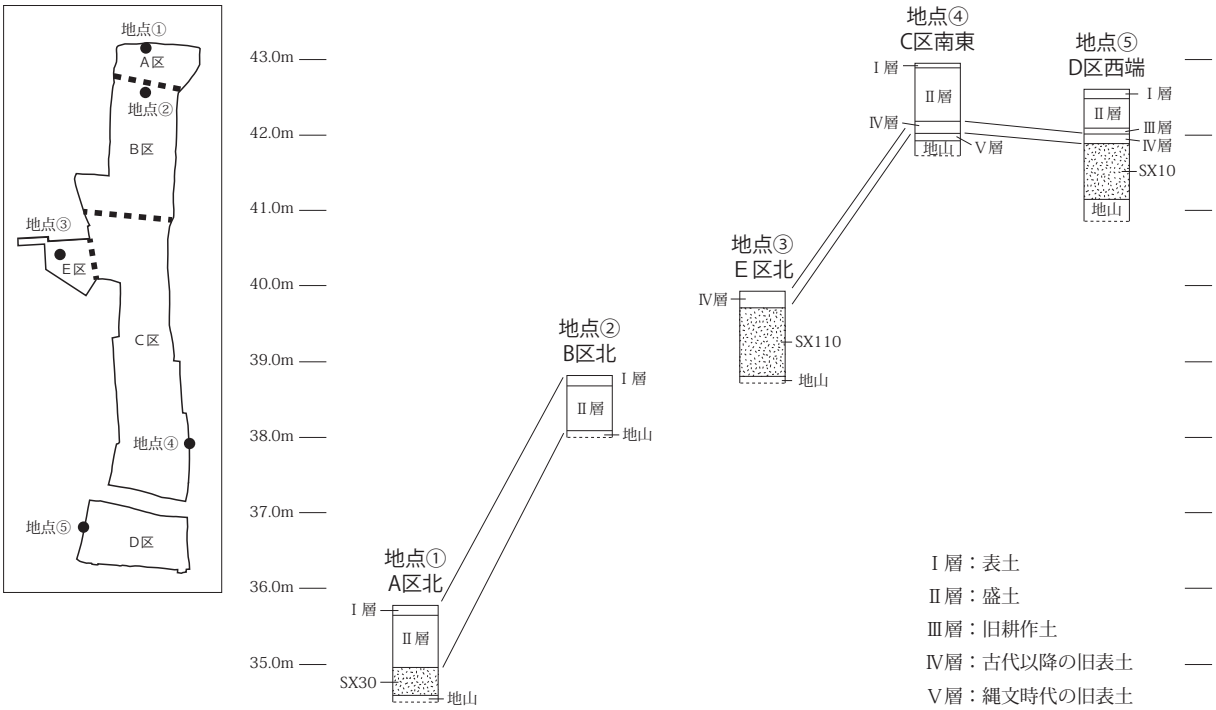
Ⅱ層：盛土。調査区周辺で切土した土を盛土したとみられ、B区やC区では縄文時代とみられる礫石器が多数出土した。

Ⅲ層：暗褐色シルトの旧耕作土。D区西側でみられる。

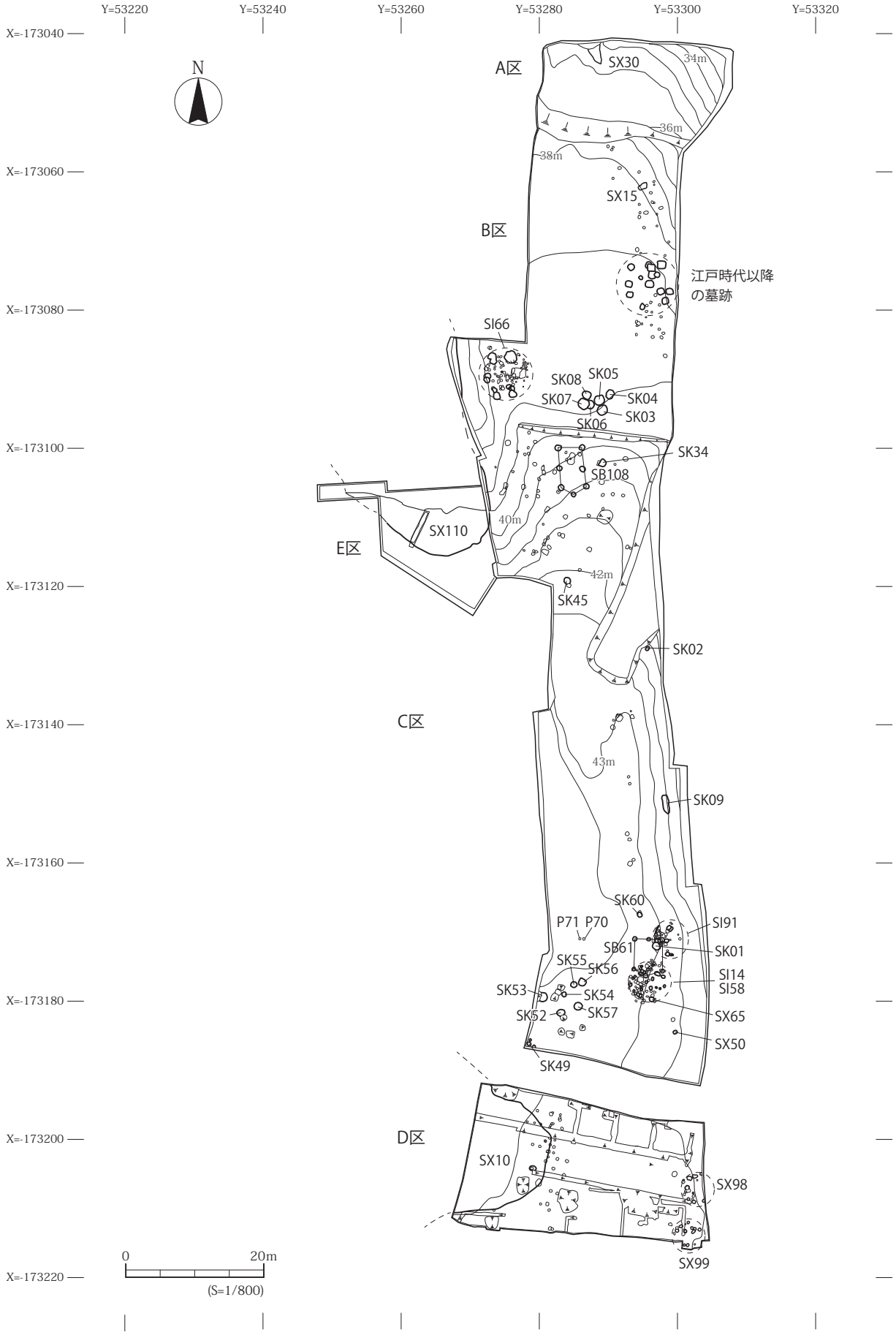
Ⅳ層：暗褐色シルト質砂の自然堆積層で、古代以降の旧表土とみられる。C区南東、D区西側でみられる。

Ⅴ層：縄文土器・石器を含む暗褐色砂質シルトの自然堆積層で、縄文時代の旧表土とみられる。C区・D区の東端、D区の西端、E区の北端でみられる。

Ⅵ層：地山。褐色シルトのⅥa層、黄褐色シルトのⅥb層、凝灰岩質の岩盤のⅥc層に大別できる。

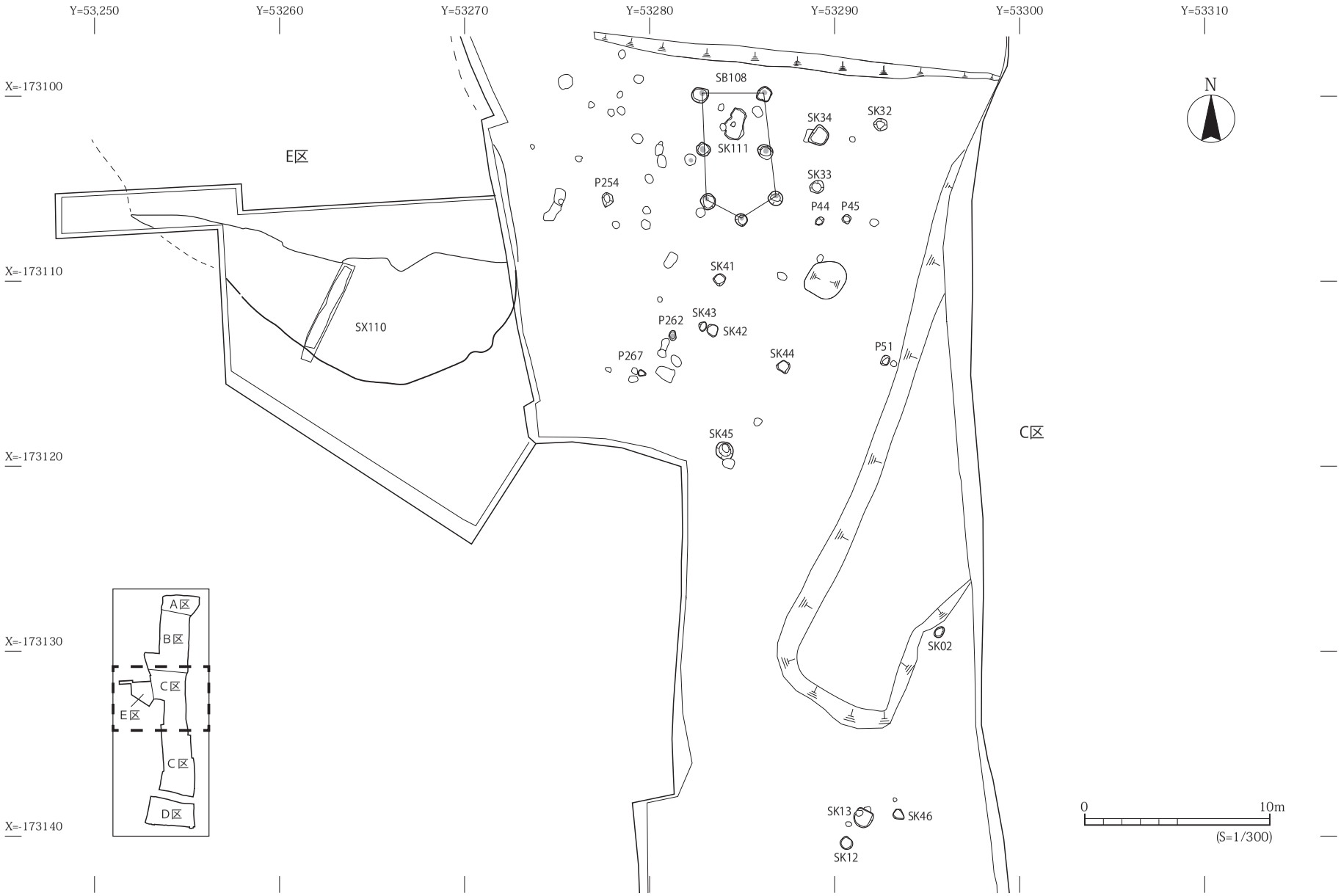


第５図　基本層序


Y=53220
Y=53240
Y=53260
Y=53280
Y=53300
Y=53320
X=-173040
X=-173060
X=-173080
X=-173100
X=-173120
X=-173140
X=-173160
X=-173180
X=-173200
X=-173220
N
A区
B区
C区
D区
E区
SX30
34m
36m
38m
SX15
江戸時代以降
の墓跡
SI66
SK08
SK05
SK07
SK04
SK03
SK06
SK34
SB108
40m
SX110
42m
SK45
SK02
43m
SK09
SK60
P71
P70
SI91
SB61
SK01
SK55
SK56
SI14
SI58
SK53
SK54
SK52
SK57
SX65
SX50
SK49
SX10
SX98
SX99
0
20m
(S=1/800)

第６図　遺構配置図

第７図　A区、B区及びC区北端遺構配置図



第８図　Ｃ区北側及びＥ区遺構配置図

第９図　Ｃ区南側及びＤ区遺構配置図

２．発見された遺構と遺物

検出された遺構には、竪穴建物跡７棟、掘立柱建物跡２棟、柱穴・ピット集中２ヶ所、炉跡３基、埋設土器１基、土坑40基、遺物包含層３ヶ所、江戸時代以降の墓跡14基などがあり（第６～９図）、出土遺物には縄文土器・土製品、石器・石製品、骨角器、動物遺存体などがある。以下、主要なものについて説明する。

（１）竪穴建物跡

建て替えを含めるとB区南西で２棟、C区南東で５棟の竪穴建物跡を検出している。いずれも残存状況が悪く、炉跡、柱穴、周溝の一部のみを確認している。

【SI66竪穴建物跡】（第10～14図）

B区南西部に位置し、SK86土坑より古い。残存状況が悪く、炉跡と主柱穴のみを検出している。炉と主柱穴の作り替えが認められ、１度改築されている（SI66A→SI66B）。以下SI66AとSI66Bに分けて説明する。

【SI66A竪穴建物跡】

〔平面形・規模〕平面形は不明で、規模は炉跡や主柱穴から推定すると径6.6m以上となる。

〔柱穴〕新旧関係や位置から、SI66Aの主柱穴とみられる柱穴P1A～P5Aの５個を確認している。いずれもSI66Bの柱穴や柱抜取穴で壊されているが、柱穴掘方はおおよそ径83～118cmの不整円形で、深さは32～55cmである。断面形は逆台形である。柱穴掘方埋土は褐色シルト～粘土質シルトを主体としている。柱痕跡は確認していないが、２個（P1A・P2A）で柱抜取穴を確認している。

〔炉跡〕建物中央東側にあり、掘り込み部・土器埋設掘り込み部からなる複式炉とみられる。土器埋設部は径34cmの円形である。深さは11cmで、断面形は皿状である。埋設土器（土器３）は底部付近のみ確認されており、正位に据えられていたとみられる。掘方は埋設土器より一回り大きい。土器の周囲に被熱の痕跡は認められないが、土器内の堆積土には焼土や炭化物が多く含まれていた。掘り込み部は大部分をSI66B炉やSK86土坑に壊されており、詳細は不明である。

〔出土遺物〕柱穴掘方埋土から縄文土器深鉢（第11図１・２）が出土している。

〔その他の施設〕建物の推定範囲内で58個ピットが確認されており、その一部は建物に伴う柱穴や壁柱穴になる可能性がある。

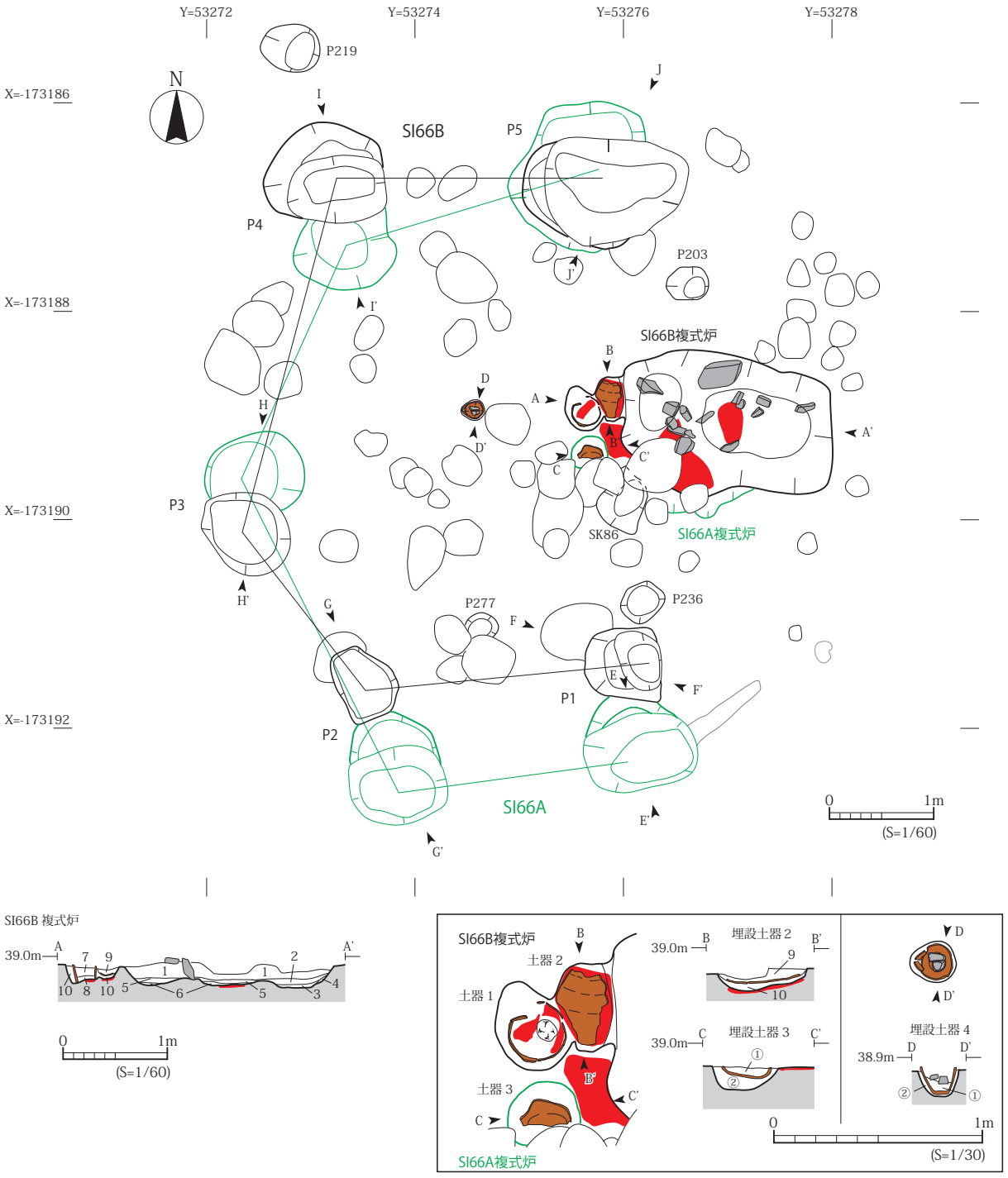
【SI66B竪穴建物跡】

〔平面形・規模〕平面形は不明で、規模は炉跡や主柱穴から推定すると径6.0m以上となる。

〔柱穴〕新旧関係や位置から、SI66Bの主柱穴とみられる柱穴P1B～P5Bの５個を確認している。柱穴掘方は径71～118cmの不整円形で、深さは29～55cmである。断面形は逆台形である。柱穴掘方埋土は褐色シルトを主体としている。いずれの柱穴でも柱抜取穴を確認しており、柱抜取穴の堆積土は炭化物や焼土粒を含む。

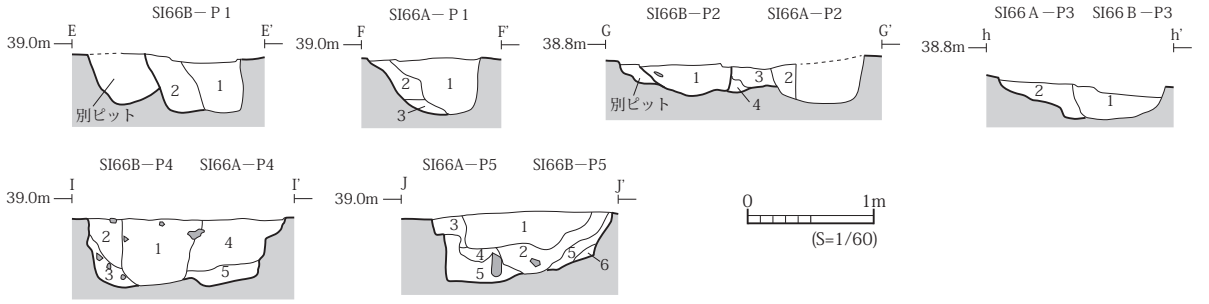
〔炉跡〕建物中央東側にあり、掘り込み部・土器埋設掘り込み部からなる複式炉である。

〈土器埋設掘り込み部〉長軸57cm、短軸43cm、深さ19cmの不整形で、断面形は台形状である。埋

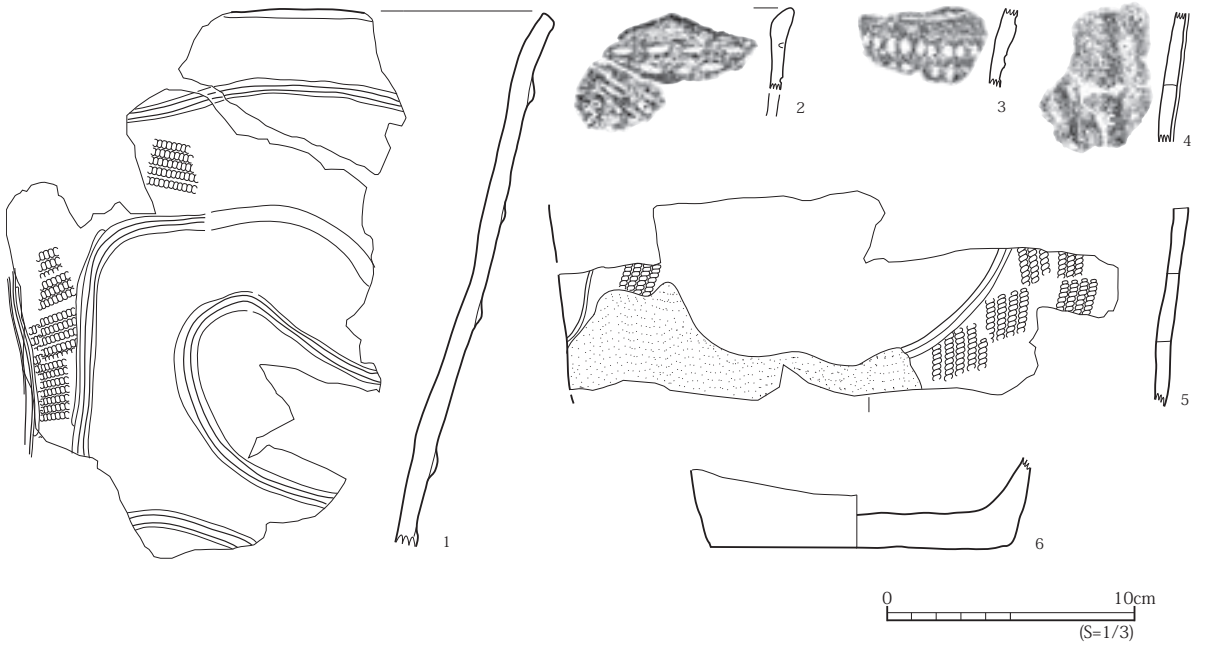


遺構	層	土色	土性	特徴	解釈
SI66B 複式炉	1	暗褐色(7.5YR3/4)	粘土質シルト	基盤岩細礫を多く含む。焼土粒・炭化物を含む。	自然堆積
	2	褐色(7.5YR4/6)	粘土質シルト	基盤岩細礫を多く含む。	自然堆積
	3	褐色(7.5YR4/4)	粘土質シルト	基盤岩細礫・炭化物粒を少量含む。	自然堆積
	4	明褐色(7.5YR5/8)	シルト	基盤岩細礫主体。炭化物を少量含む。	自然堆積
	5	灰褐色(7.5YR4/2)	粘土質シルト	基盤岩細礫・炭化物粒を少量含む。	自然堆積
	6	黒色(7.5YR1.7/1)	粘土質シルト	炭化物主体。焼土を少量含む。	機能時堆積
	7	暗褐色(7.5YR3/4)	粘土質シルト	焼土粒を極少量含む。	自然堆積
	8	極暗褐色(7.5YR2/3)	粘土質シルト	焼土粒・炭化物粒を含む。	機能時堆積
	9	褐色(7.5YR4/4)	粒土質シルト	焼土・炭化物を多く含む。	機能時堆積
	10	明赤褐色(5YR5/8)	粘土質シルト	基盤岩細礫を多く含む。炭化物を含む。上面被熱。	埋設土器の据え方
SI66A 複式炉	①	明赤褐色(5YR5/8)	粘土質シルト	焼土・炭化物を多く含む。基盤岩細礫を少量含む。	機能時堆積
	②	褐色(7.5YR4/4)	粘土質シルト	地山ブロックを多く含む。炭化物・焼土粒少量含む。	埋設土器3の据え方
埋設 土器 4	①	褐色(7.5YR4/4)	粘土質シルト	基盤岩粒～細礫・炭化物粒を含む。磨製石斧・被熱した礫出土。	自然堆積
	②	橙色(5YR6/8)	粘土質シルト	基盤岩粒を含む。炭化物を少量含む。しまりあり	埋設土器4の据え方

第10図　SI66竪穴建物跡（1）

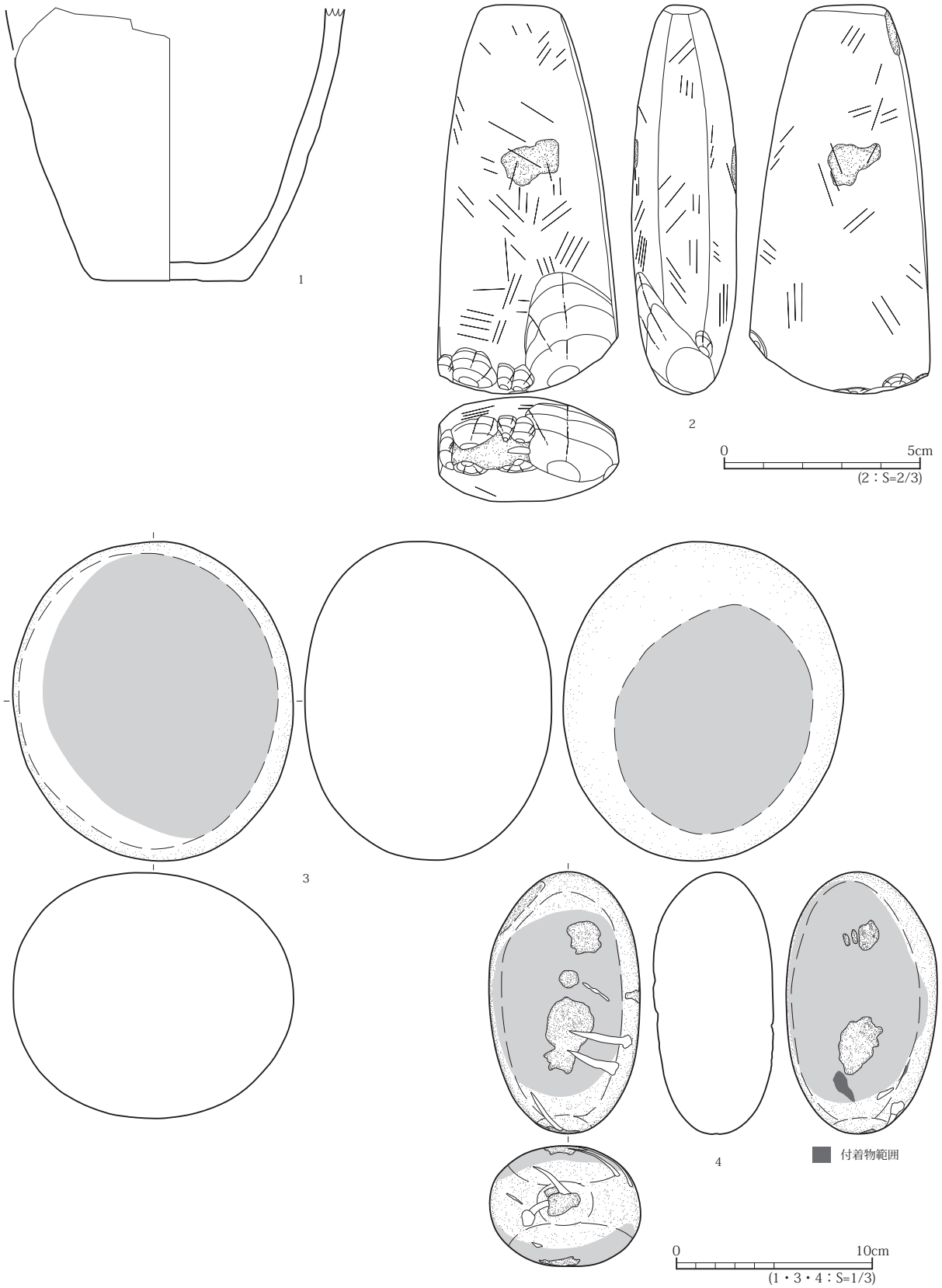


遺構	断面	層	土色	土性	特徴	解釈
SI66A-P1	F-F'	1	褐色(7.5YR4/3)	シルト	基盤岩粒～小礫・粗砂を含む。炭化物を極少量含む。	柱抜取穴
		2	にぶい赤褐色(5YR5/4)	砂質シルト	基盤岩、夾雑物を含む。	掘方埋土
		3	褐色(7.5YR4/4)	粘土質シルト	基盤岩粒を含む。炭化物を極少量含む。	掘方埋土
SI66B-P1	E-E'	1	褐色(7.5YR4/3)	シルト	細砂を少量含む。基盤岩粒・炭化物を極少量含む。	柱抜取穴
		2	暗褐色(7.5YR3/4)	シルト	基盤岩粒を含む。炭化物を少量含む	掘方埋土
SI66B-P2	G-G'	1	褐色(7.5YR4/3)	粘土質シルト	基盤岩粒・炭化物含む。	柱抜取穴
SI66A-P2		2	褐色(7.5YR4/3)	砂混じり粘質土	炭化物を含む。基盤岩粒・焼土粒を少量含む。	柱抜取穴
		3	にぶい黄褐色(10YR4/3)	極細砂質土	基盤岩粒を少量含む。	掘方埋土
		4	にぶい赤褐色(5YR4/4)	極細砂質土	基盤岩粒を含む。	掘方埋土
SI66B-P3	H-H'	1	暗褐色(10YR3/4)	シルト	焼土粒・炭化物を含む。	柱抜取穴
SI66A-P3		2	褐色(7.5YR4/4)	シルト	基盤岩粒を多量含む。	掘方埋土
SI66B-P4	I-I'	1	暗褐色(10YR3/4)	シルト	焼土粒・炭化物を含む。基盤岩粒を少量含む。	柱抜取穴か
		2	褐色(7.5YR4/3)	シルト	基盤岩粒・細砂を少量含む。炭化物を極少量含む。	掘方埋土
		3	褐色(7.5YR4/4)	シルト	基盤岩粒・細砂を少量含む。	掘方埋土
SI66A-P4		4	褐色(7.5YR4/3)	シルト	基盤岩粒・細砂を少量含む。炭化物を極少量含む。	掘方埋土
		5	褐色(7.5YR4/4)	粘土質シルト	基盤岩粒を含む。	掘方埋土
SI66B-P5	J-J'	1	褐色(7.5YR4/3)	シルト	焼土粒・炭化物粒・基板岩粒・粗砂を含む。	柱抜取穴
		2	褐色(10YR4/4)	シルト	基板岩粒・炭化物・粗砂を少量含む。	柱抜取穴
SI66A-P5		3	褐色(7.5YR4/3)	シルト	基盤岩粒～細礫を多量含む。炭化物を極少量含む。	掘方埋土
		4	褐色(7.5YR4/4)	シルト	基盤岩粒を多量含む。	掘方埋土
		5	褐色(7.5YR4/4)	シルト	基板岩粒を多量含む。	掘方埋土
		6	赤褐色(5YR4/6)	砂質シルト	基盤岩・夾雑物を含む。	掘方埋土



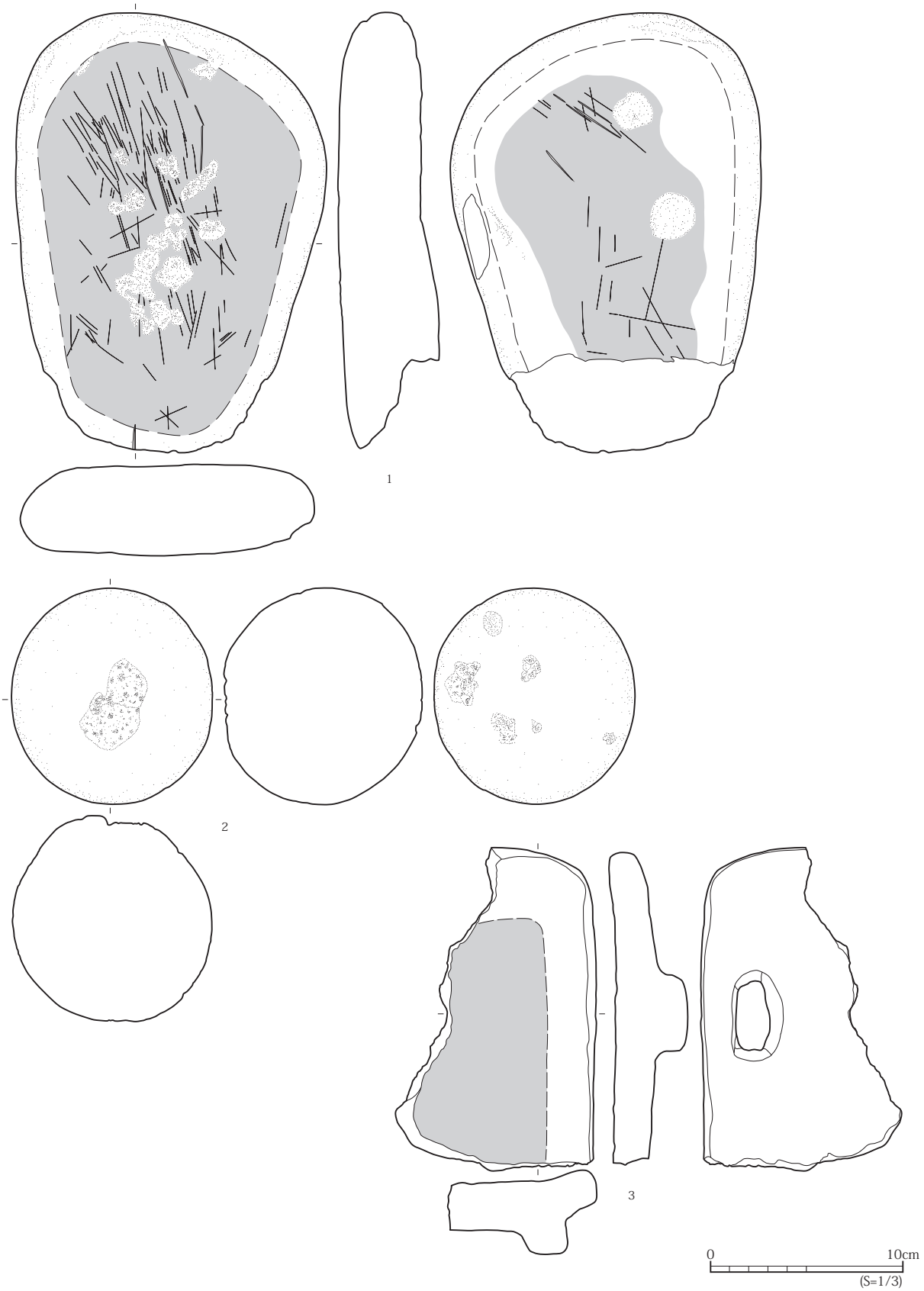
番号	遺構・層	器種	特徴	写真	登録番号
1	ＳI66A-P3・掘方埋土	深鉢	充填縄文（LR）、隆線文（横Ｓ字状文）	14－1	pa027
2	ＳI66A-P4・掘方埋土	深鉢	波状口縁、縄文（RLか）→沈線・刺突文（２列）	14－2	pa029
3	ＳI66B-P2・堀方埋土	深鉢	隆沈線→連続刺突文（２列）	14－3	pa026
4	ＳI66B-埋設土器2	深鉢	縄文（LR)、隆線文	14－4	pa032
5	ＳI66B-埋設土器1	深鉢	縄文（RL）→沈線	14－5	pa031
6	ＳI66B-P5・柱抜取穴	深鉢	底径12.1cm、底面:ナデ	14－7	pa028

第11図　SI66竪穴建物跡（2）



番号	遺構・層	器種	特徴	写真	登録番号
1	S I66-埋設土器4	深鉢	底径8.0cm	14－6	pa033
2	S I66-埋設土器4内	磨製石斧	緑色片岩、長さ98.3mm、幅44.2mm、厚さ25.5mm、重さ194.4g	14－8	S 101
3	S I66B複式炉	磨石	安山岩、長さ167.5mm、幅132.9mm、厚さ117.9mm、重さ4100g	14－9	S 535
4	S I66B複式炉	凹石	安山岩、長さ132.3mm、幅78.7mm、厚さ61.4mm、重さ713.0g、転用（磨石→）	14－10	S 320

第12図　SI66竪穴建物跡出土遺物（1）



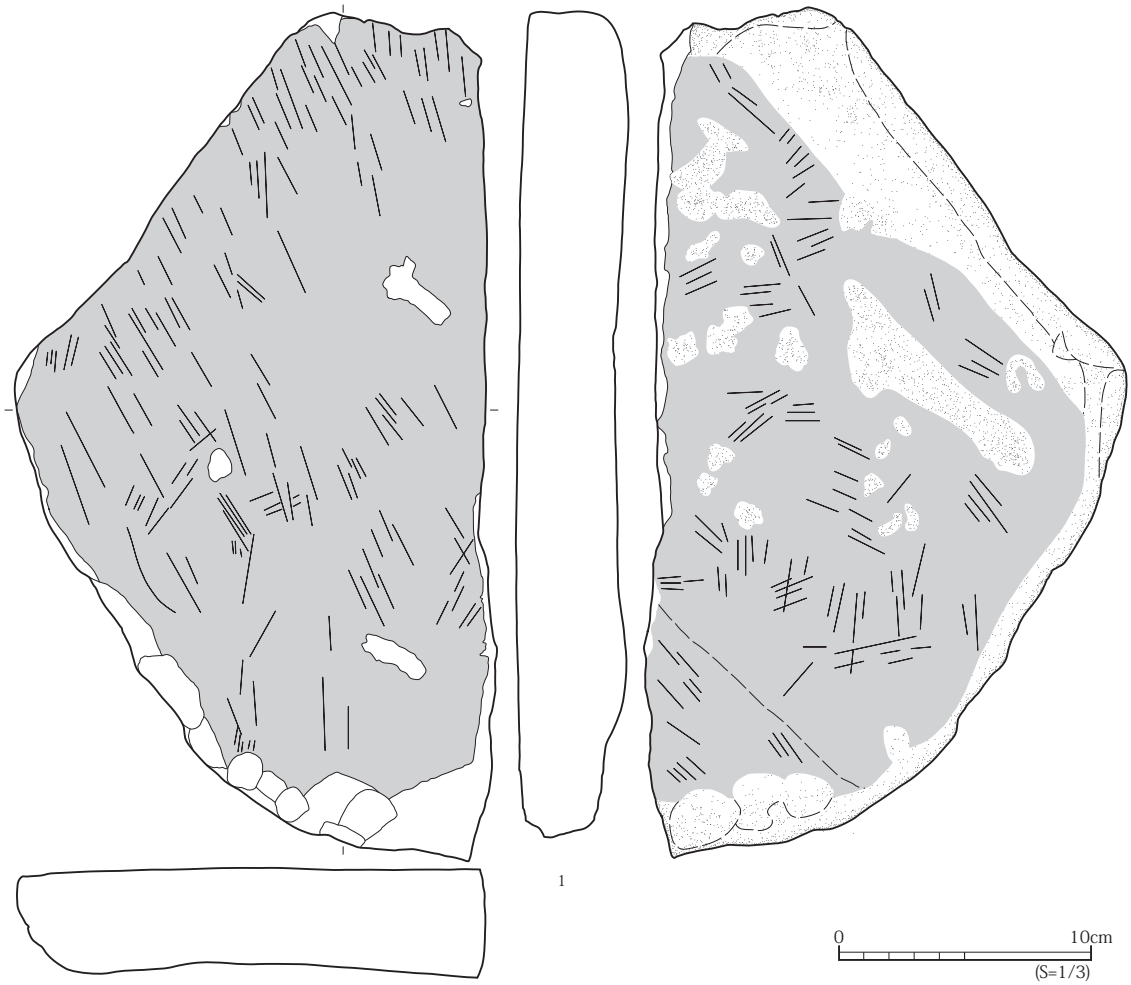
番号	遺構・層	器種	特徴	写真	登録番号
1	S I66B複式炉	磨石	安山岩、長さ216.8mm、幅160.5mm、厚さ39.9mm、重さ2304g	14－11	S 539
2	S I66B-P2	凹石	安山岩、長さ108.8mm、幅97.8mm、厚さ96.8mm、重さ1751.0g	15－1	S 530
3	S I66B-P5抜取穴	脚付石皿	凝灰岩、長さ164.9mm、幅103.9mm、厚さ36.5mm、重さ616.0g	15－2	S 032

第13図　SI66竪穴建物跡出土遺物（2）

設土器は炉の中軸線上に正位に据えられたもの（土器１）と、炉の中軸に直交する向きで横位に据えられたもの（土器２）の２基ある。掘方は埋設土器より一回り大きく、土器内の堆積土には焼土や炭化物が含まれていた。土器１（第11図５）は土器の上半部が据えられたものとみられ、土器の内部に被熱痕跡が認められる。土器２（第11図４）は口縁部を炉の内側に向けた状態で据えられており、器面は著しく磨滅している。土器の周囲に被熱痕跡が認められる。

〈掘り込み部〉直軸202cm、短軸139cmの楕円形で、底面から緩やかに立ち上がる。掘り込み部の中央と西側に被熱した面が認められる。底面直上に炭化物主体で焼土を含む層があり、機能時の堆積土と考えられる。長さ10～40cmの河原石が複数出土しており、その一部は底面や壁に沿う状態で出土していることから、炉の構築材として使用されたと考えられる。

〔埋設土器〕建物中央に正位の状態で据えられた埋設土器（第12図１）を確認した。掘方は埋設土器より一回り大きく、掘方埋土は橙色粘土質シルトである。土器の内部から磨製石斧（第12図２）と被熱した亜角礫が検出された。炉の中軸線の延長線上に位置することから、SI66Bに伴うものと考えられる。



番号	遺構・層	器種	特徴	写真	登録番号
1	S I66B－P5	石皿	砂岩、長さ270.1mm、幅264.6mm、厚さ42.9mm、重さ4300g	15－3	S 274

第 14 図　SI66竪穴建物跡出土遺物（3）

〔その他の施設〕建物の推定範囲内で58個ピットが確認させており、その一部は建物に伴う柱穴や壁柱穴になる可能性がある。

〔出土遺物〕柱穴から縄文土器深鉢（第11図３）・凹石（第13図２）・石皿（第14図１）、柱抜取穴から縄文土器深鉢（第11図６）と脚付石皿（第13図３）、複式炉の堆積土から磨石（第12図３・第13図１）・凹石（第12図４）が出土している。

【SI91竪穴建物跡】（第15・16図）

C区南部に位置し、SB61掘立柱建物跡、SK01土坑より古い。東半は削平されており、西半の周溝の一部、炉跡、主柱穴のみを検出している。

〔平面形・規模〕平面形は不整円形とみられ、規模は周溝から推定すると径6.0m程度となる。

〔柱穴〕P1～P8の８個の柱穴を検出している。柱穴掘方は径36～59cmの不整円形で、深さは13～43cmである。柱穴掘方埋土は黒褐色～暗褐色の粘土質シルトを主体としている。４個（P1・P5・P6・P7）で柱痕跡を確認しており、２個（P3・P4）で柱抜取穴を確認している。柱痕跡は径22～26cmの円形である。炉跡との位置関係から、P1～P４が主柱穴の可能性がある。

〔炉跡〕建物中央西側にあり、中央部がSB61の柱穴で壊されているが、掘り込み部・土器埋設部からなる複式炉とみられる。東側に直径54cm、短径53cmの焼面が広がる。焼面の中央に径21cmの焼面を切る小穴があり、炉の中軸線上に位置することから埋設土器の抜取穴と考えられる。掘り込み部は直軸175cm以上、短軸78cmの楕円形である。

〔周溝〕北西部で一部確認している。上幅10～28cm、下幅４～14cm、深さ８～15cmである。断面形はU字状である。

〔壁柱穴〕北西部で壁柱穴とみられる柱穴１個を確認している。柱穴掘方は径26cmの円形で、深さは17cmである。

〔出土遺物〕炉跡から磨石（第16図２）、柱穴から打製石斧（第16図１）・凹石（第16図３）・磨石（第16図４）が出土している。

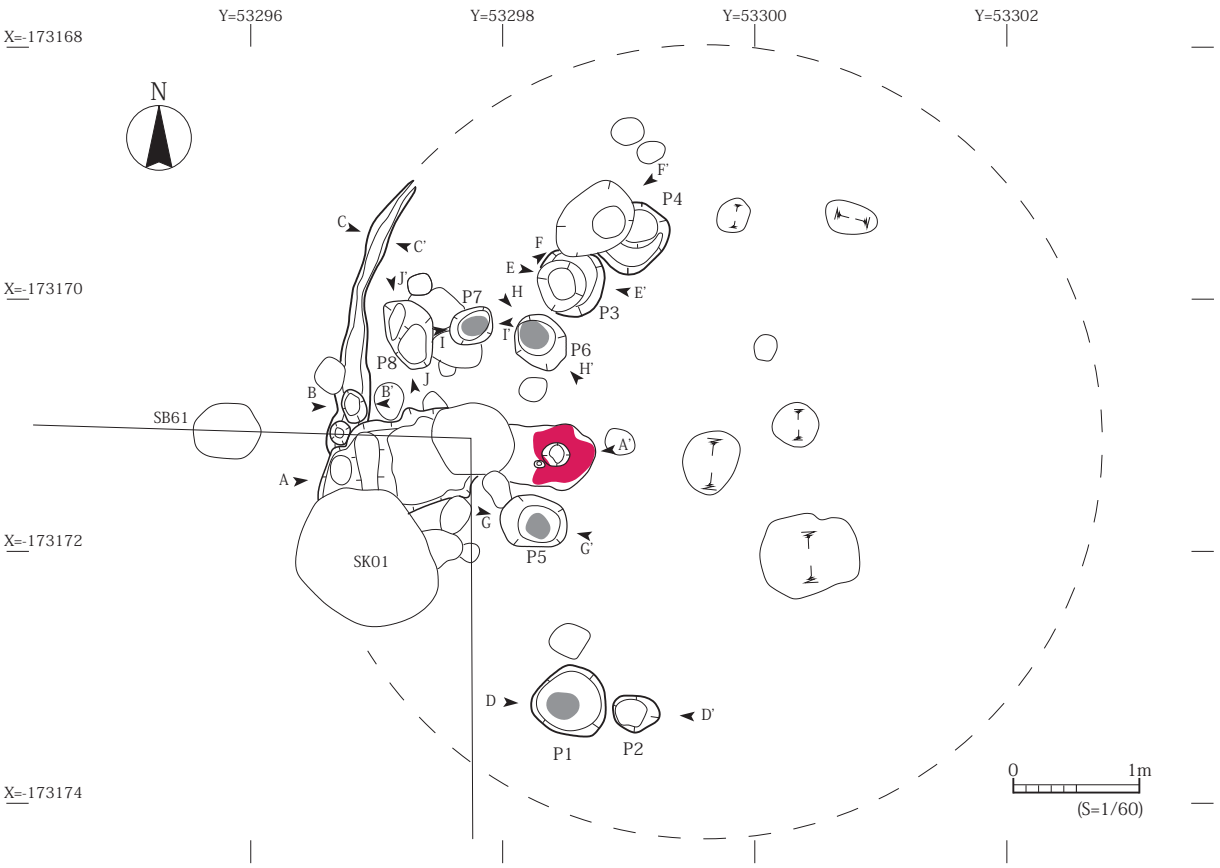
【SI14竪穴建物跡】（第17図）

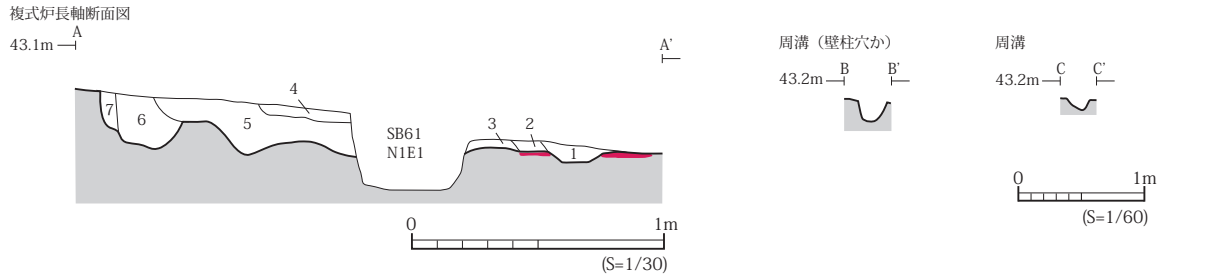
C区南部に位置し、SB61掘立柱建物跡より古く、SI58竪穴建物跡より新しい。床面は残存しておらず、周溝の一部と柱穴のみ検出している。柱穴の新旧関係から、一度改築されたと考えられる（SI14A→SI14B）。以下、SI14AとSI14Bに分けて説明する。

【SI14A竪穴建物跡】

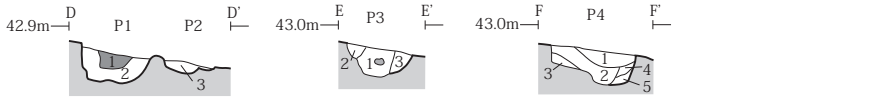
〔平面形・規模〕平面形は不整円形とみられ、規模は周溝と柱穴から推定すると径5.4m程度となる。

〔柱穴〕建物に伴うと考えられる柱穴が13個ある。中央に主柱穴とみられるP1A～P5Aの５個を確認している。柱穴掘方は径25～41cmの不整円形で、深さは12～38cmである。柱穴掘方埋土は暗褐色の粘土質シルトを主体としている。３個（P1A・P4A・P5A）で柱痕跡を確認しており、柱痕跡は径15～22cmの円形である。P6A～P9A・P10～P13の８個は外縁側にほぼ等間隔に位置しており、補助的ないし付加的な柱穴と考えられる。柱穴掘方は径25～40cmの不整円形で、深さは15～42cmである。柱穴掘方埋土は暗褐色の粘土質シルトを主体としている。３個（P7A～P9A）で柱痕跡を





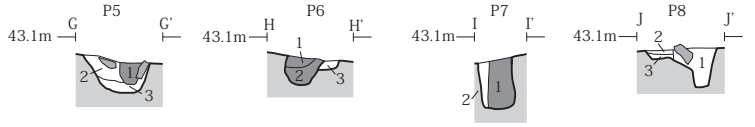
遺構	層	土色	土性	特徴	解釈
SI91 複式炉	1	暗褐色(10YR3/3)	粘土質シルト	基盤岩粒～細礫を多く含む。炭化物粒を少量含む。	埋設土器抜取痕跡か
	2	黒色(10YR2/1)	粘土質シルト	炭化物を多量含む。基盤岩粒を少量含む。	機能時堆積
	3	暗褐色(10YR3/3)	粘土質シルト	基盤岩粒・炭化物を少量含む。	自然堆積か
	4	明赤褐色(2.5YR5/6)	粘土質シルト	焼土主体。基盤岩粒を少量含む。	人為堆積か
	5	黒褐色(10YR2/2)	粘土質シルト	基盤岩粒・焼土・炭化物粒を少量含む	自然堆積
	6	暗褐色(10YR3/3)	粘土質シルト	基盤岩粒・焼土・炭化物粒を極少量含む。	柱穴か
	7	灰黄褐色(10YR4/2)	粘土質シルト	基盤岩細礫を少量含む。焼土粒を極少量含む。	周溝



1：P1 柱痕跡
2：P1 掘方埋土
3：P2 掘方埋土か

1・2：柱抜取穴
3：掘方埋土

1 ~3：柱抜取穴
4・5：掘方埋土



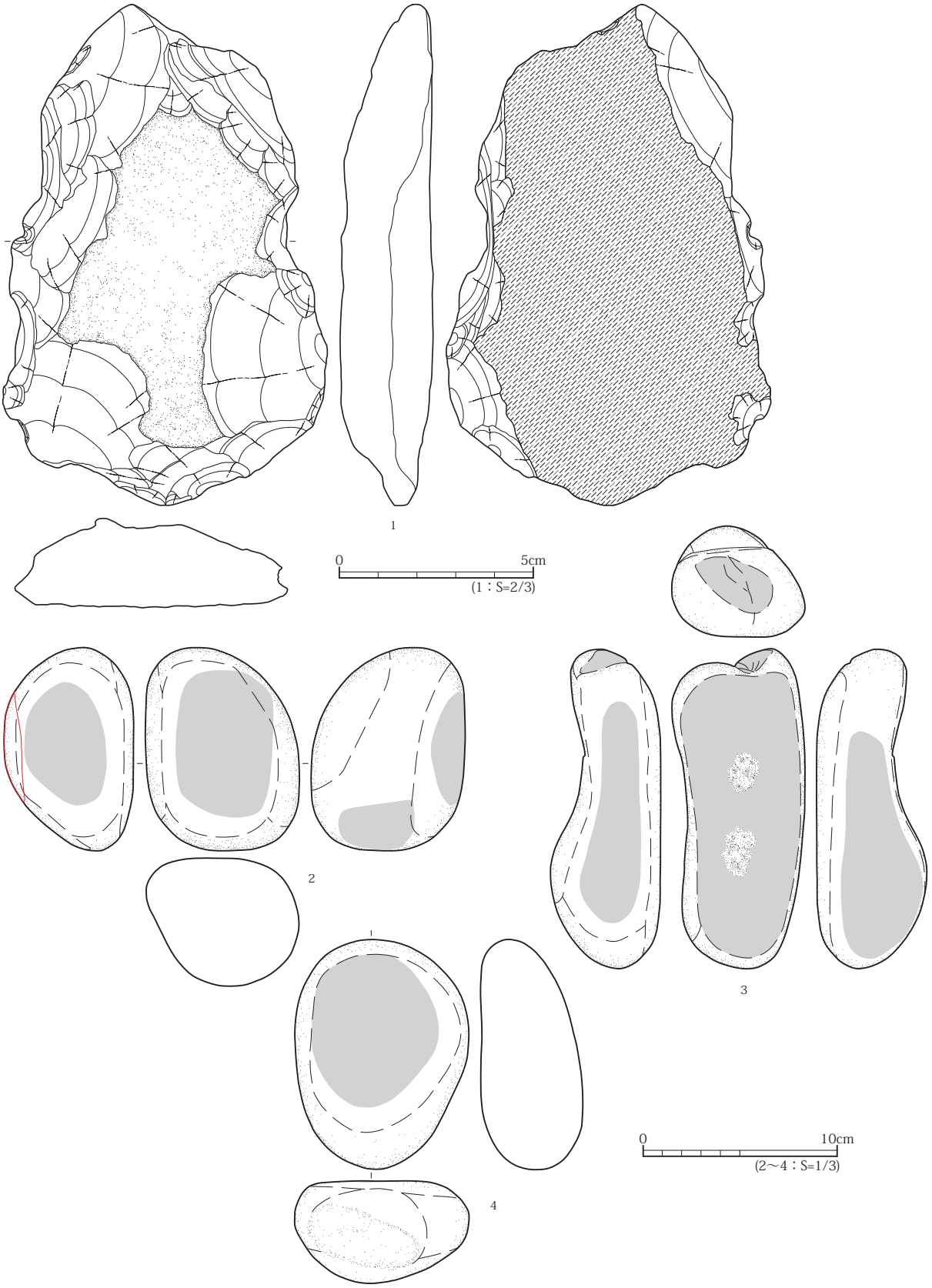
1：柱痕跡
2・3：掘方埋土

1・2：柱痕跡
3：掘方埋土

1：柱痕跡
2：掘方埋土

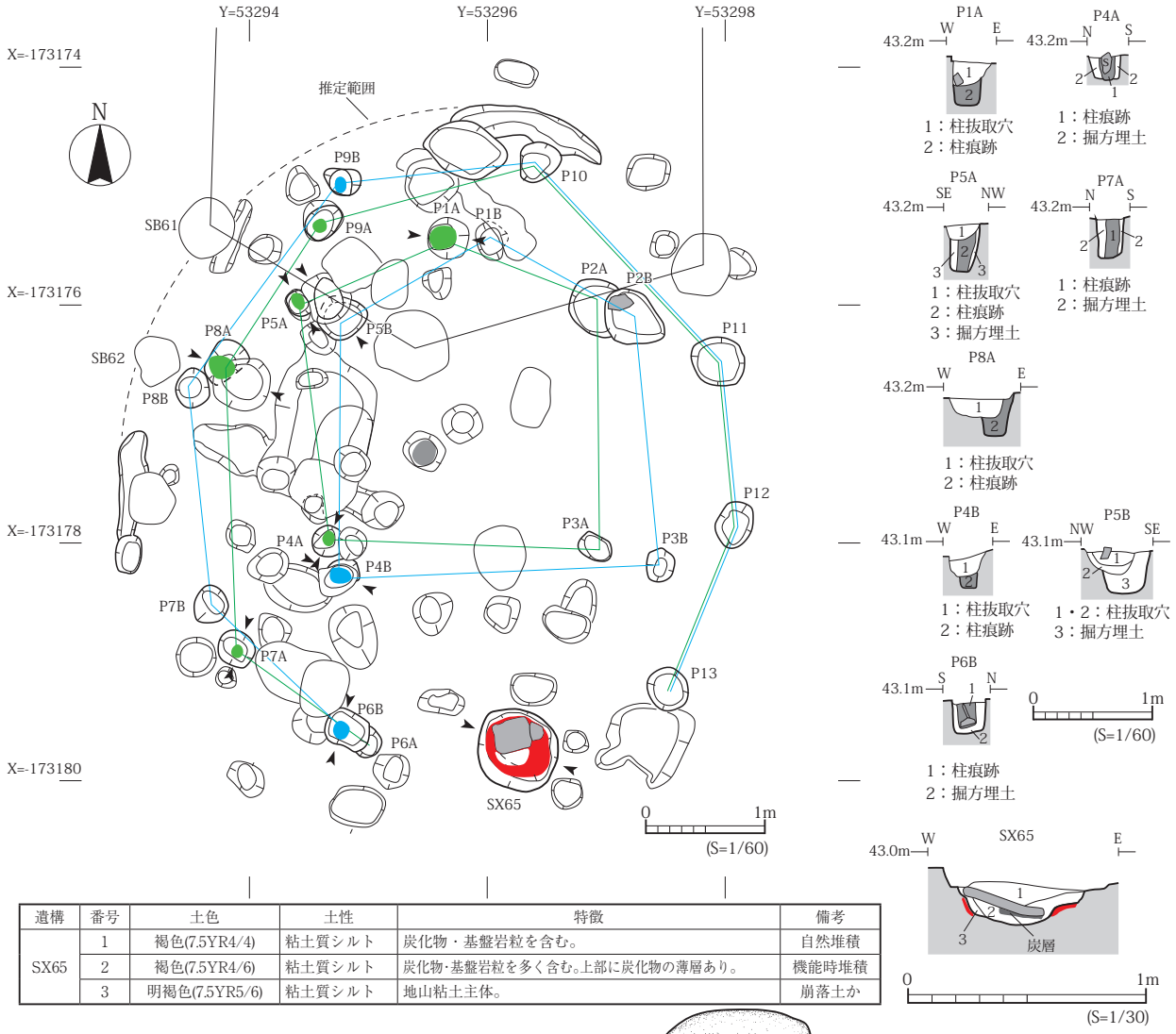
1：柱抜取穴か
2・3：掘方埋土

第15図　SI91竪穴建物跡

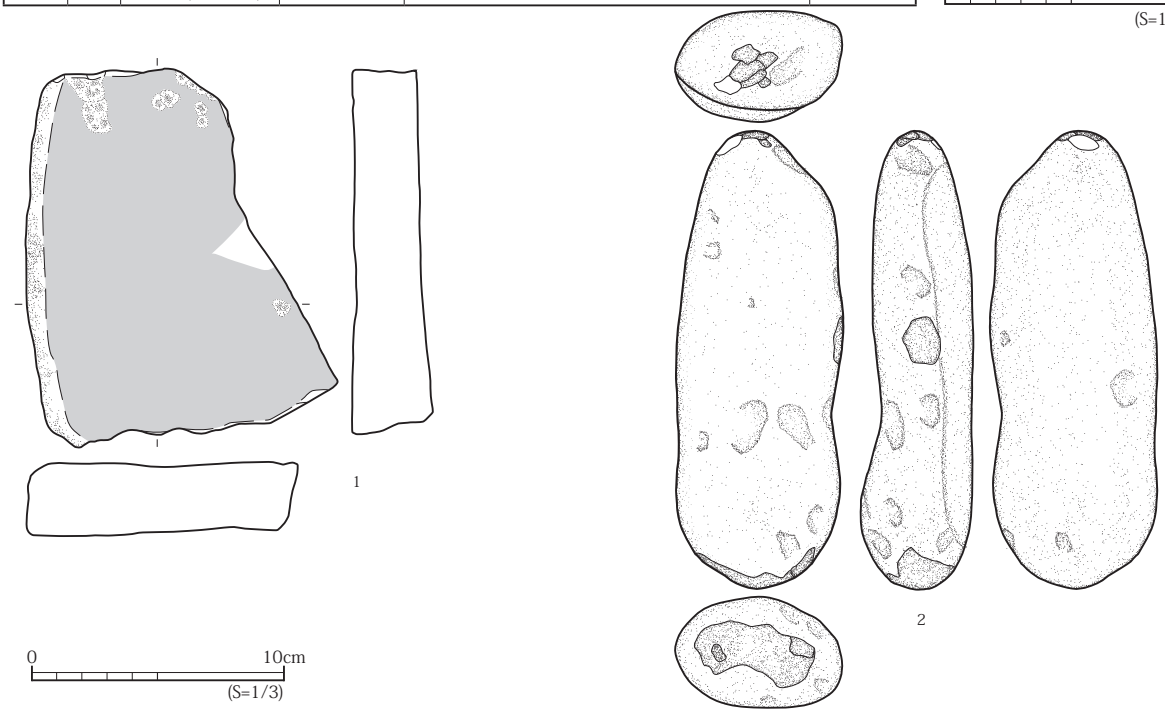


番号	遺構・層	器種	特徴	写真	登録番号
1	SI91-P3	打製石斧	凝灰岩、長さ129.1mm、幅82.8mm、厚さ23.1mm、重さ240.8g	15－4	S 277
2	SI91-複式炉	磨石	安山岩、長さ105.6mm、幅78.6mm、厚さ66.5mm、重さ735.5g、被熱あり	15－5	S 440
3	SI91-P3	凹石	安山岩、長さ164.6mm、幅82.8mm、厚さ23.1mm、重さ832.5g	15－6	S 433
4	SI91-P4	磨石	安山岩、長さ119.1mm、幅89.7mm、厚さ51.3mm、重さ752.0g	15－7	S 490

第16図　SI91竪穴建物跡出土石器



遺構	番号	土色	土性	特徴	備考
SX65	1	褐色(7.5YR4/4)	粘土質シルト	炭化物・基盤岩粒を含む。	自然堆積
	2	褐色(7.5YR4/6)	粘土質シルト	炭化物･基盤岩粒を多く含む。上部に炭化物の薄層あり。	機能時堆積
	3	明褐色(7.5YR5/6)	粘土質シルト	地山粘土主体。	崩落土か



番号	遺構・層	器種	特徴	写真	登録番号
1	SI14A-P8柱抜取穴	石皿	安山岩、長さ147.2mm、幅113.2mm、厚さ31.6mm、重さ796.5g、被熱あり	16－1	S 436
2	SX65・底面	凹石	安山岩、長さ157.9mm、幅65.2mm、厚さ43.9mm、重さ622.5g	16－2	S 270

第 17 図　SI14竪穴建物跡と出土石器

確認しており、柱痕跡は径12～20cmの円形である。

〔周溝〕建物北側と西側で一部確認している。上幅13～26cm、下幅８～18cm、深さ10～25cmである。断面形はU字状である。

〔その他〕建物中央南側にSX65炉跡があり、建物に伴う可能性がある。径67cmの不整円形で、深さは18cmである。底面の一部に被熱痕跡が認められる。

〔出土遺物〕柱抜取穴から石皿（第17図１）、SX65炉跡の底面から凹石（第17図２）が出土しているほか、SX65炉跡の堆積土から鎖状隆線文が施された縄文土器小片が出土している。

【SI14B竪穴建物跡】平面形・規模、周溝、その他についてはSI14Aと共通する。

〔柱穴〕建物に伴うと考えられる柱穴が13個ある。中央に主柱穴とみられるP1B～P5Bの５個を確認しており、A期から東南方向に位置をずらして作り直されている。柱穴掘方は径26～45cmの不整円形で、深さは16～34cmである。柱穴掘方埋土は暗褐色の粘土質シルトを主体としている。P4Bで柱痕跡を確認しており、柱痕跡は径19cmの円形である。P5Bで柱抜取穴を確認している。P6B～P9B・P10～P13の８個は外縁側にほぼ等間隔に位置しており、補助的ないし付加的な柱穴と考えられる。西半のP6B~P9Bの４個はA期から北西方向に位置をずらして作り直されており、東半のP10～P13の４個はA期と共通する。P6B~P9Bの柱穴掘方は径28～37cmの不整円形で、深さは23～35cmである。柱穴掘方埋土は暗褐色の粘土質シルトを主体としている。P6B・P9Bの２個で柱痕跡を確認しており、柱痕跡は径13～15cmの円形である。

【SI58竪穴建物跡】（第18・19図）

C区南部に位置し、SI14竪穴建物跡、SK95土坑、P103より新しい。床面は残存しておらず、周溝の一部、炉跡、柱穴のみ検出している。柱穴の新旧関係から、一度改築されたと考えられる（SI58A→SI58B）。以下、SI58AとSI58Bに分けて説明する。

【SI58A竪穴建物跡】

〔平面形・規模〕平面形は不整円形とみられ、規模は周溝と柱穴から推定すると径5.3m程度となる。

〔柱穴〕建物の中央に主柱穴とみられるP1～P6の６個を確認している。柱穴掘方は径43～53cmの不整円形で、深さは19～43cmである。柱穴掘方埋土は暗褐色の粘土質シルトを主体としている。P1～P6の全てで柱痕跡を確認しており、柱痕跡は径16～19cmの円形である。

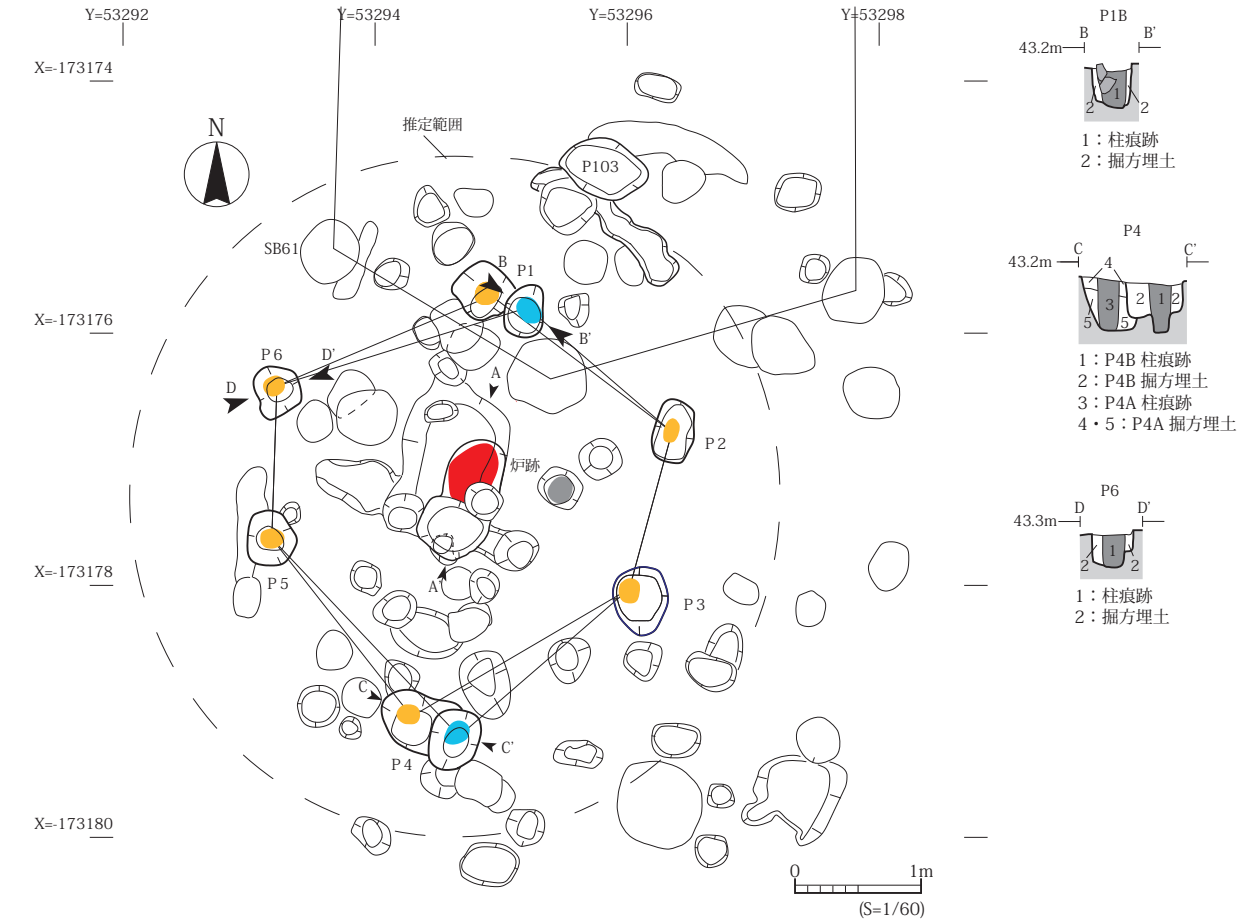
〔炉跡〕建物中央に焼面を確認しており、炉跡と考えられる。焼面は一部が土坑やピットで壊されているが、直軸50cm、短軸37cmの楕円形状に広がる。焼面の上部には、焼土や炭化物を含む褐色粘土質シルトが堆積しており、機能時の堆積とみられる。

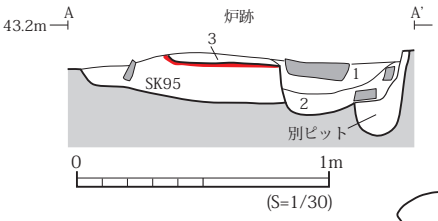
〔周溝〕建物北側で一部確認している。上幅20～30cm、下幅９～21cm、深さ９～17cmである。断面形はU字状である。

〔出土遺物〕炉跡から石皿（第18図１）、打製石斧（第19図１）が出土している。

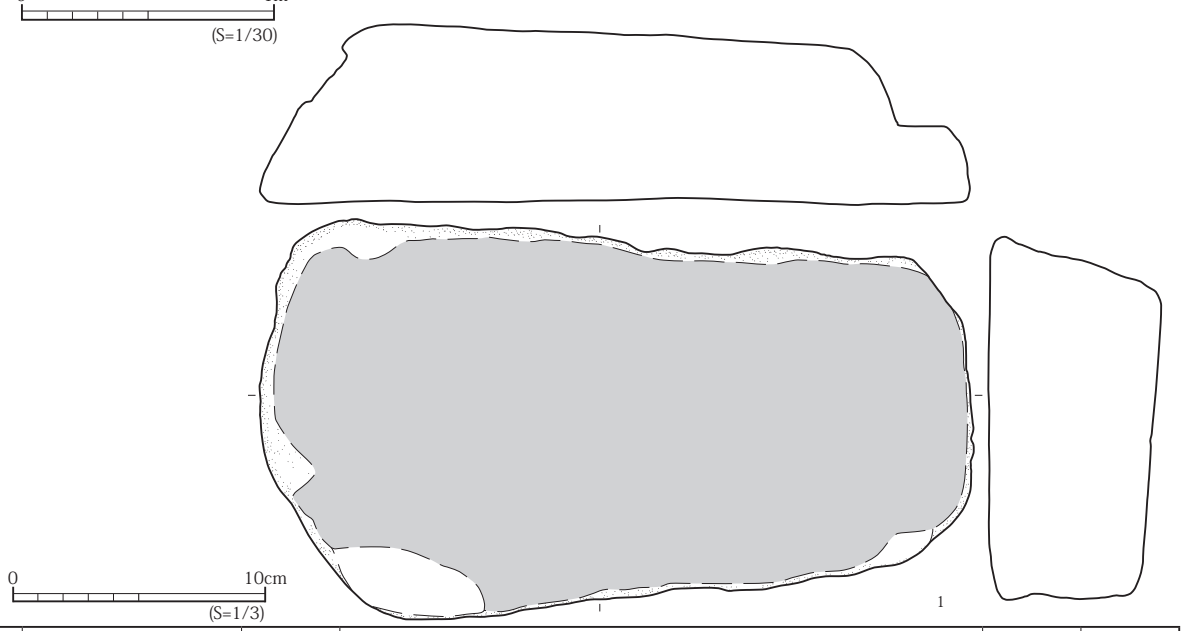
【SI58B竪穴建物跡】平面形・規模、周溝、炉跡についてはSI58Aと共通する。

〔柱穴〕建物の中央に主柱穴とみられるP1B、P2、P3、P4B、P5、P6の６個を確認しており、A期からP1とP4の2個で柱を東側にずらして作り直している。P1B・P4Bの柱穴掘方は径41～48cmの不整



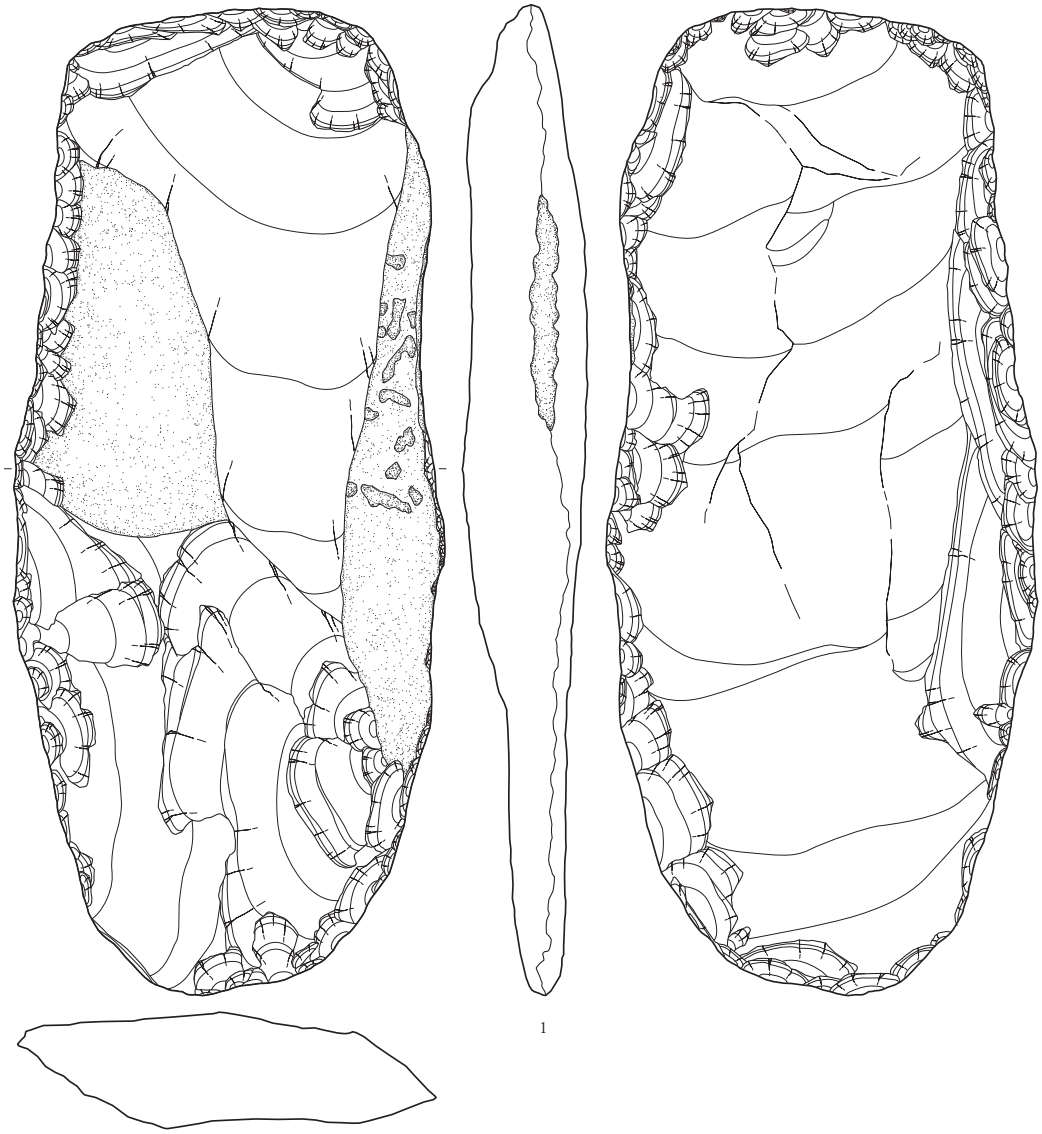


層	土色	土性	特徴	解釈
1	暗褐色(7.5YR3/4)	粘土質シルト	基盤岩細礫・炭化物を含む。焼土を少量含む。	自然堆積
2	褐色(7.5YR4/4)	粘土質シルト	基盤岩細礫を多く含む。炭化物を少量含む。	自然堆積
3	褐色(7.5YR4/6)	粘土質シルト	基盤岩細礫・焼土・炭化物を含む。	機能時堆積か



番号	遺構・層	器種	特徴	写真	登録番号
1	SI58炉跡・２層	石皿	花崗岩、281.5mm、幅153.5mm、厚さ76.6g、重さ5500g	16－3	S 489

第 18 図　SI58竪穴建物跡と出土石器



番号	遺構・層	器種	特徴	写真	登録番号
1	SI58炉跡・２層	打製石斧	粘板岩、長さ195.2mm、幅85.1mm、厚さ23.5mm、重さ371.0g、自然面あり	16－4	S 305

第 19 図　SI58竪穴建物跡出土石器

円形で、深さは37～39cmである。柱穴掘方埋土は暗褐色の粘土質シルトを主体としている。いずれの柱穴でも柱痕跡を確認しており、柱痕跡は径21～24cmの不整円形である。

（２）掘立柱建物跡

C区の北端と南東で南辺に棟持柱（張出し）をもつ掘立柱建物跡を検出している。

【SB108掘立柱建物跡】（遺構：第20図、遺物：第21図）

C区北端に位置する東西１間、南北２間、南側に棟持柱（張出し）を持つ南北棟掘立柱建物跡である。北側は削平されており、北側にも棟持柱（張出し）があった可能性がある。他の遺構との重複関係はない。柱穴は側柱６個、棟持柱１個を検出し、全てで柱痕跡、2個（N2E1、N4）で柱抜取穴を確認している。建物規模は桁行が西側柱列で総長5.7m、柱間寸法は北から3.0m、2.7m、梁行が北側柱列で総長3.3mである。棟持柱は南側柱列から1.0m外側に張り出している。建物の方向は西側柱列でみるとN－２°－Wである。柱穴掘方は径66～88cmの不整円形で、深さは22～43cmである。柱穴掘方埋土は基盤岩粒や炭化物粒を含む褐色～暗褐色粘土質シルトを主体としている。柱痕跡は径29～35cmの円形である。柱穴掘方埋土から縄文土器深鉢、（第20図１）、磨石（第20図２・３）、石皿（第20図４）が出土している。

【SB61掘立柱建物跡】（第22図）

C区南部に位置する東西２間、南北１間、南側に棟持柱（張出し）を持つ南北棟掘立柱建物跡である。SI91・14竪穴建物跡より新しい。柱穴は側柱５個、棟持柱１個を検出し、４個（N1E1、N2E1、N2W1、N3）で柱痕跡を確認している。建物規模は桁行が東側柱列で総長4.5m、梁行が北側柱列で総長3.9m、柱間寸法は西から2.0m、1.9mである。棟持柱は南側柱列から0.8m外側に張り出している。建物の方向は東側柱列でみるとN－１°－Wである。柱穴掘方は一径48～67cmの円形で、深さは18～43cmである。柱穴掘方埋土は基盤岩粒や炭化物粒を含む褐色粘土質シルトである。柱痕跡は径13～24cmの円形である。柱穴柱痕跡から石皿（第22図１）が出土しているほか、縄文土器の小片が出土している。

（３）柱穴・ピット集中と炉跡

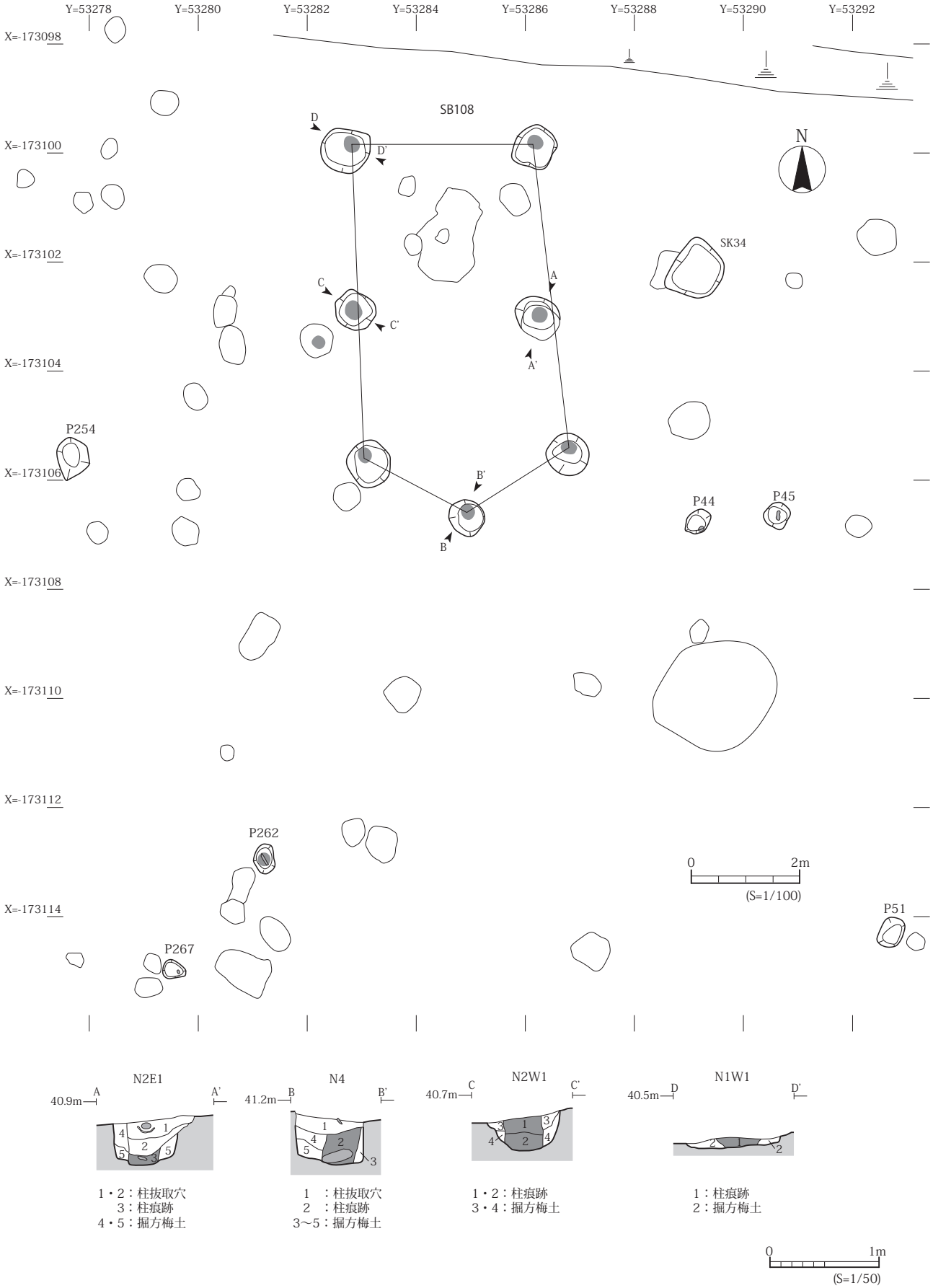
D区東側で２ヶ所の柱穴・ピット集中を検出している。それぞれ炉跡、土器埋設炉が近接していることから、竪穴建物跡の可能性も考えられる。また、B区北端、C区南東端で炉跡を確認している。

【SX98柱穴・ピット集中】（第23図）

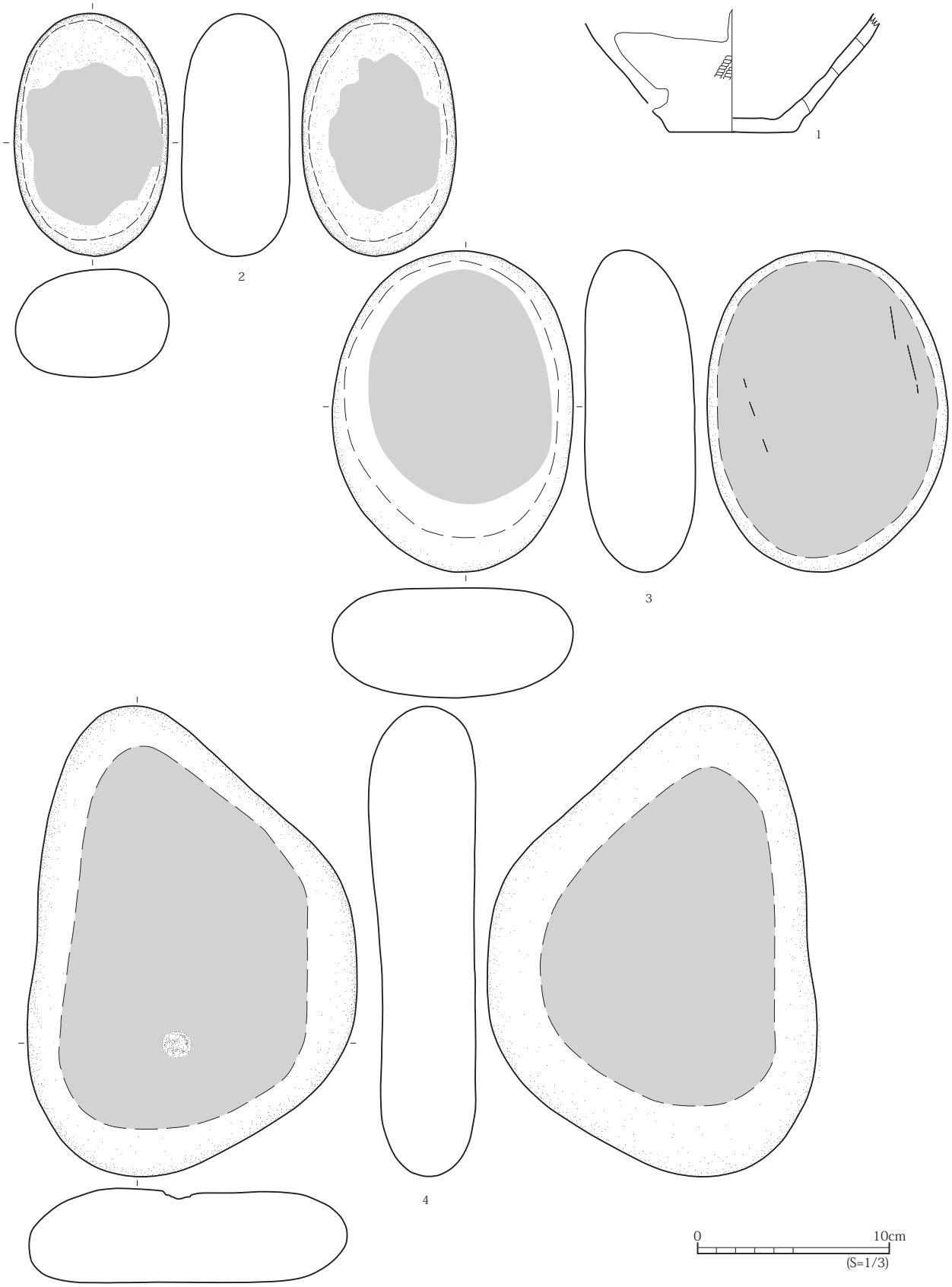
D区北東でおおよそ半円形に並ぶ柱穴・ピット集中と埋設土器１基、炉跡とみられる焼面１ヶ所を確認している。

〔柱穴〕柱穴は６個検出し、２個（P5・P6）で柱痕跡を確認している。柱穴掘方は径35～46cmの不整円形で、深さは24～34cmである。柱穴掘方埋土は褐色シルトを主体としている。柱痕跡は径17～29cmの円形である。

〔炉跡〕半円形に並ぶ柱穴の内側に炉跡の可能性がある浅い掘り込みを伴う焼面を確認した。掘り込

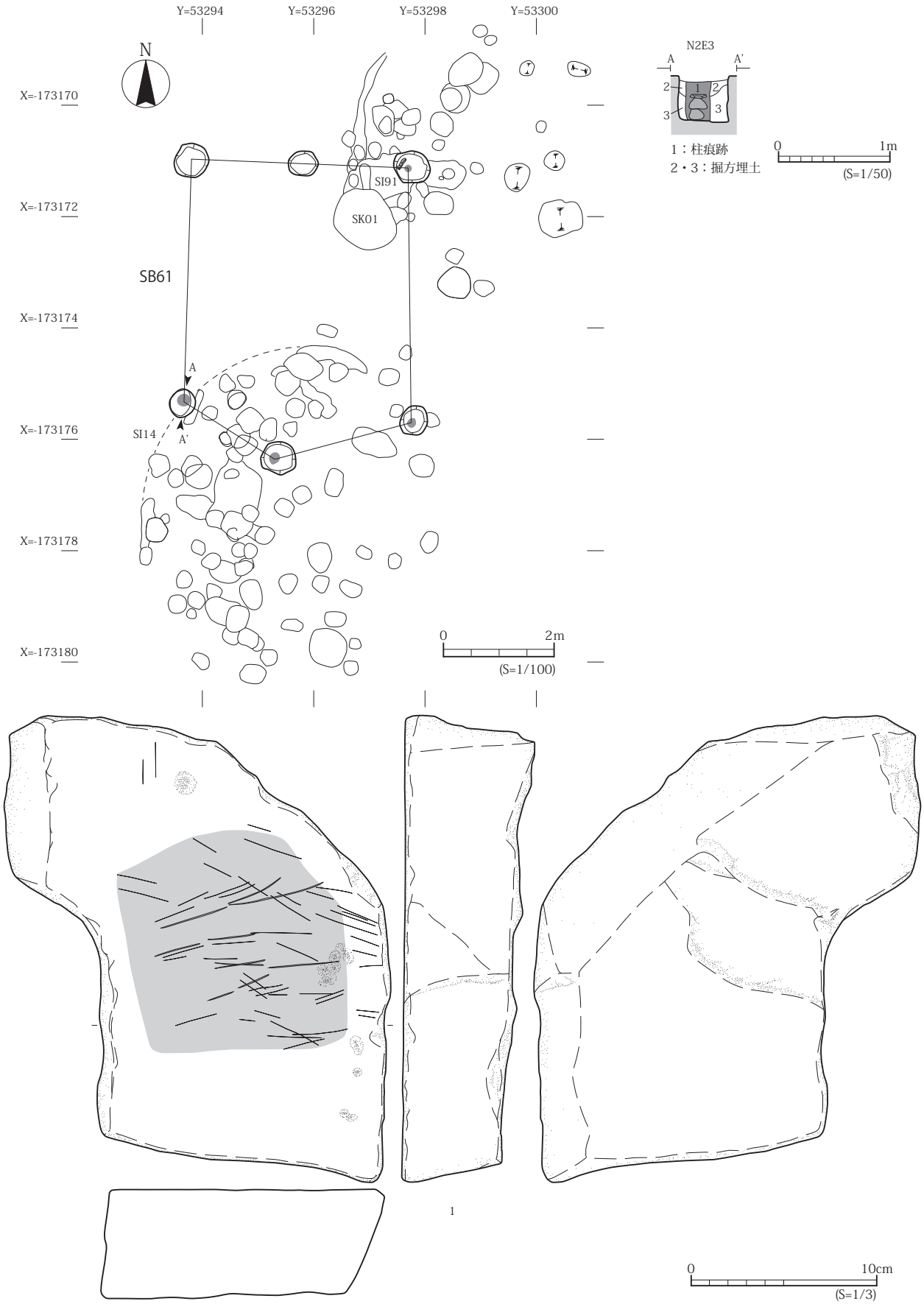


第 20 図　SB108掘立柱建物跡



番号	遺構・層	器種	特徴	写真	登録番号
1	SB108-N2E1	深鉢	底径6.7cn	17－1	pa034
2	SB108-N2E1	磨石	安山岩、長さ124.8mm、幅79.7mm、厚さ55.1mm、重さ874.5g	17－2	S 309
3	SB108-N4	磨石	安山岩、長さ159.4mm、幅124.3mm、厚さ58.1mm、重さ1874.0g	17－3	S 450
4	SB108-N4	石皿	安山岩、長さ242.8mm、幅168.5mm、厚さ52.9mm、重さ3300g	17－4	S 451

第 21 図　SB108掘立柱建物跡出土遺物



番号	遺構・層	器種		写真	登録番号
1	SB61-N2E3・1層	石皿	凝灰岩、長さ304.5mm、幅192.5mm、厚さ61.8mm、重さ4600g、被熱あり	17－5	S 496

第 22 図　SB61掘立柱建物跡と出土石器

みは南側を攪乱で壊されているが、平面形は径0.5mの不整円形とみられる。底面中央に長軸0.3m、短軸0.2mの焼面が広がる。焼面の上部には焼土・炭化物を含む褐色シルトが堆積している。

〔埋設土器〕半円形に並ぶ柱穴・ピットの内側に横位の状態で据えられた埋設土器を確認した。掘方は埋設土器より一回り大きく、掘方埋土は橙色シルトである。埋設土器の内面や掘方の底面に被熱した痕跡は認められない。

〔出土遺物〕埋設土器（第23図１）のほか、柱穴から凹石（第23図２）が出土している。

【SX99柱穴・ピット集中】（第24図）

D区北東でおおよそ円形に並ぶ柱穴・ピット集中と土器埋設炉１基を確認している。

〔柱穴〕柱穴は８個検出し、３個（P2・P6・P7）で柱痕跡を確認している。柱穴掘方は径28～43㎝の円形で、深さは17～39㎝である。柱穴掘方埋土は褐色シルト～粘土質シルトを主体としている。柱痕跡は径14～20㎝の円形である。

〔土器埋設炉〕円形に並ぶ柱穴の内側に埋設土器（第24図1）が斜位の状態で据えられている。掘方は埋設土器より一回り大きく、掘方埋土は橙色粘土質シルトである。埋設土器内に焼土を含む黒褐色粘土質シルトが堆積しており、機能時堆積と考えられる。埋設土器の周囲に被熱した痕跡が認められる。

【SX15炉跡】（第25図）

B区北端に位置する。東側は削平されているが、平面形は長軸138cm、短軸79cmの楕円形である。西側と東側の二つの窪みに分かれ、断面形は西側が浅く窪み、東側はおおよそ平坦になっている。東側の窪みの中央に長軸0.3m、短軸0.2mの焼面が広がる。堆積土は３層に大別される。１層は暗褐色粘土質シルト、２層は褐色粘土質シルト、３層は焼土・炭化物を含む暗褐色粘土質シルトで、１・２層は自然堆積層で、３層は炉跡の機能時堆積とみられる。遺物は出土していない。

【SX50炉跡】（第25図）

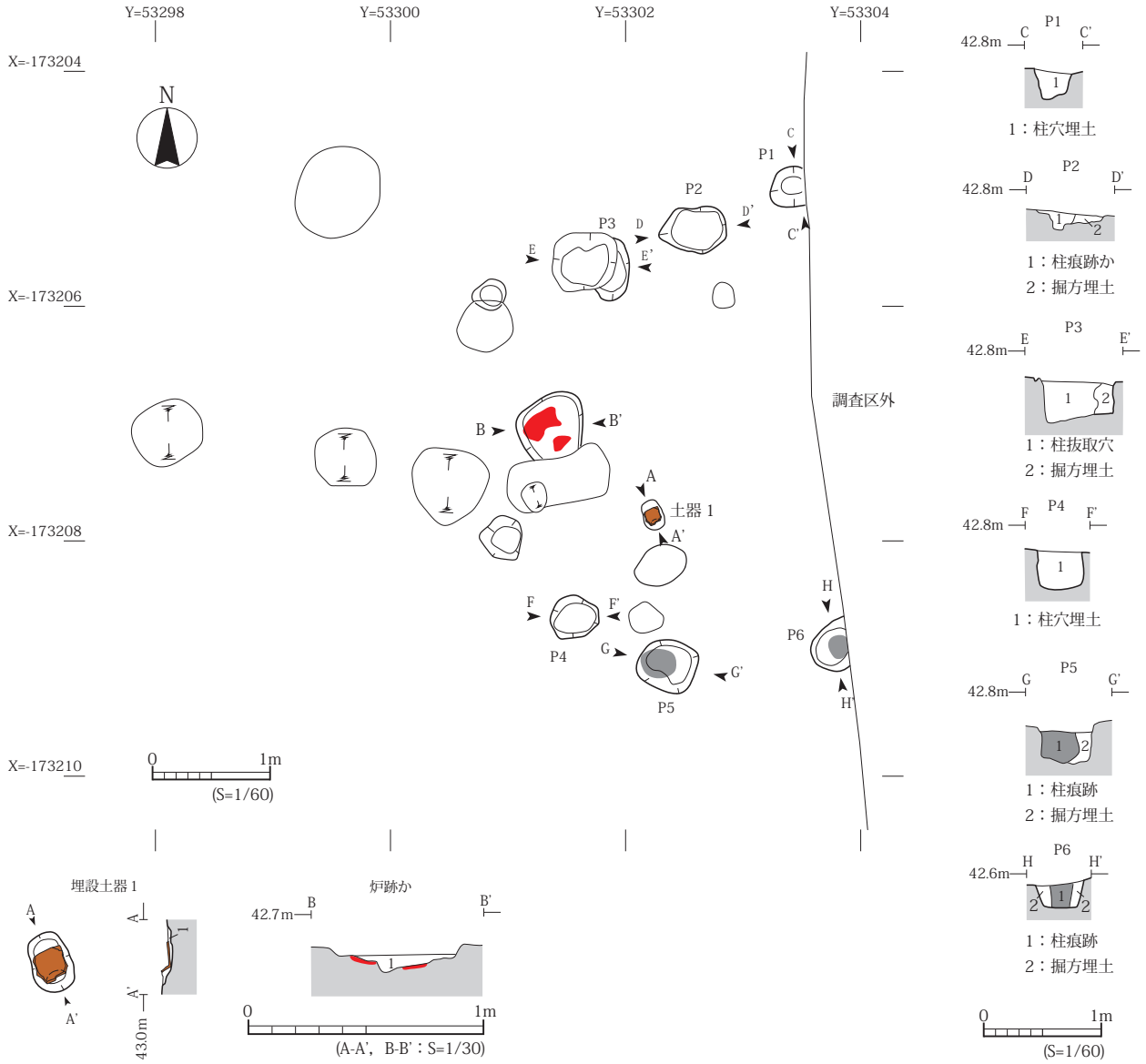
C区南東端に位置する。平面形は径58cmの円形である。深さは31cmで、断面形は皿状である。東側はおおよそ平坦になっている。底面に焼面が認められ、中央が攪乱で壊されているものの、本来は長軸0.5m、短軸0.3m程度広がっていたとみられる。堆積土は焼土・炭化物を含む褐色シルトで、炉跡の機能時堆積とみられる。遺物は出土していない。

（4）土坑

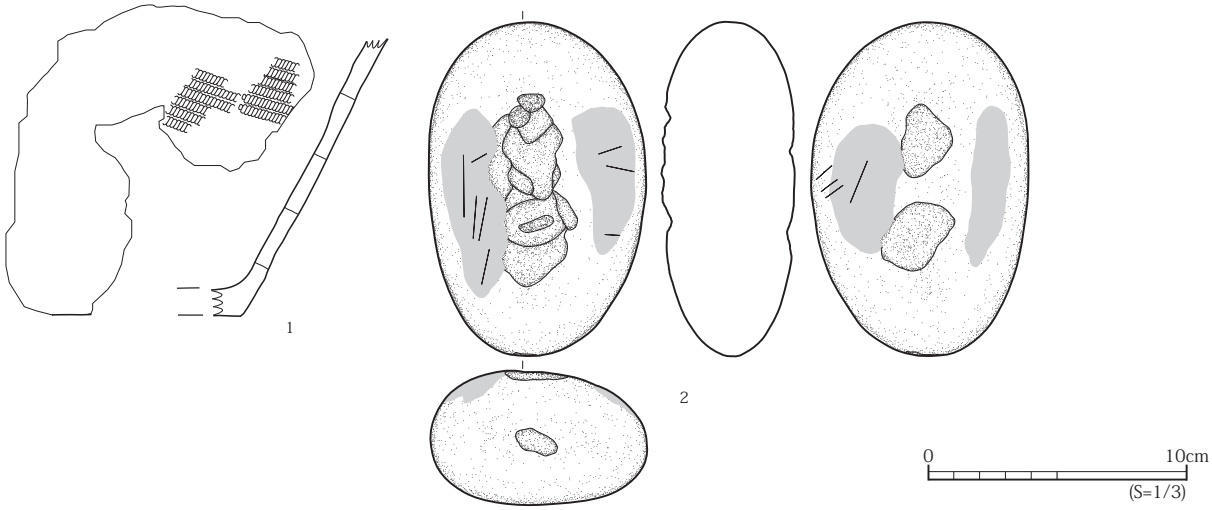
土坑はB区、C区、D区で40基検出している。B区南端とC区南西に土坑の集中部があり、その他は竪穴建物跡に隣接するものや他の遺構から離れて位置するものがある。ここでは２ヶ所の土坑群と形態や出土遺物に特徴がみられる土坑について記述し、その他は第３表に特徴をまとめた。

①B区南端の土坑群

B区南端で径1.2m以上の円形または不整円形の土坑が６基（SK03～08）確認された（第26図）。土坑群の約３m南はC区との調査区境で、近現代の造成によりB区南端は高さ１m程削平されており、C区より１段低くなっている。B区南端に位置する土坑群の上部は削平された可能性が高い。

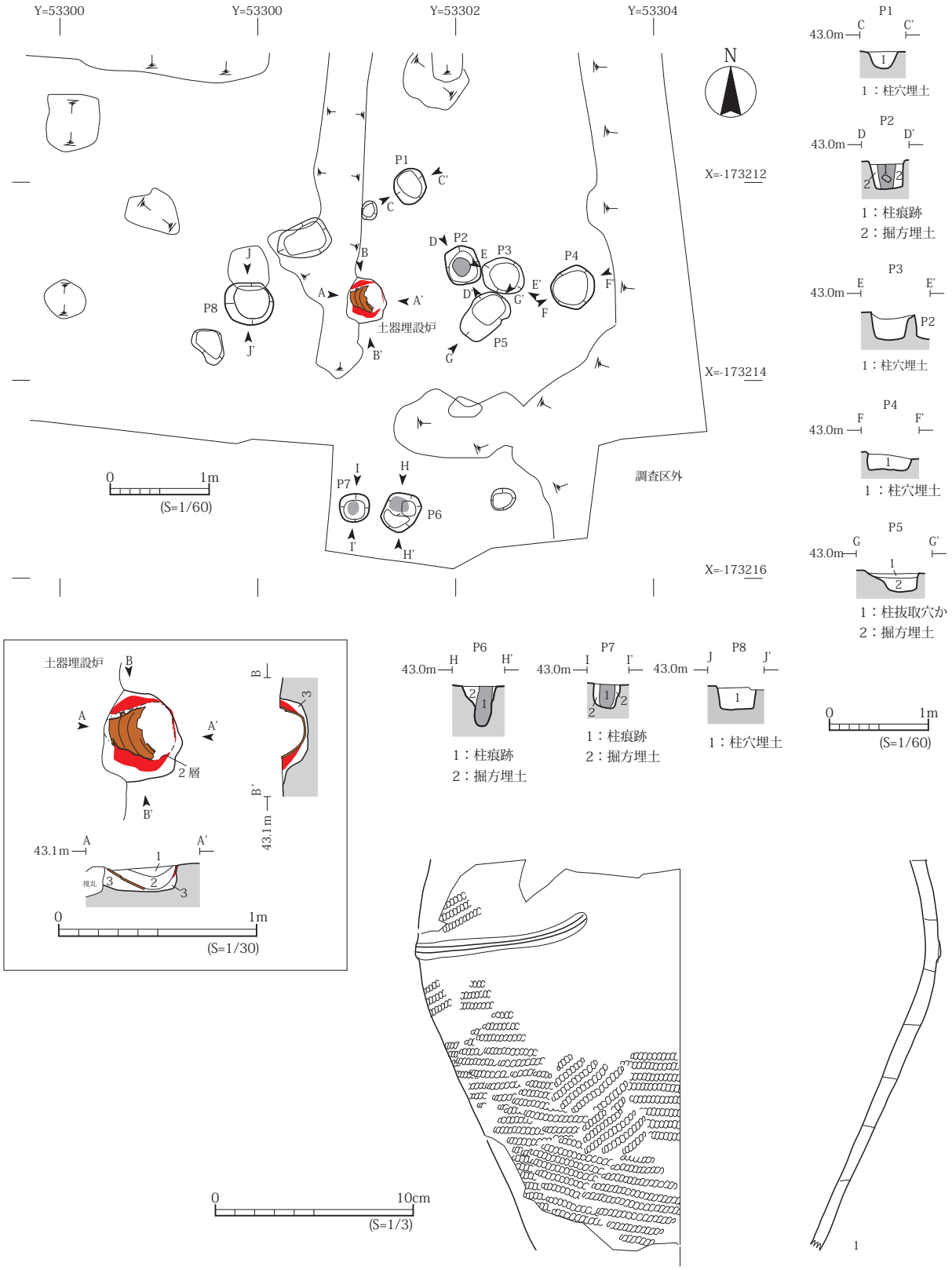


遺構	層	土色	土性	特徴	解釈
埋設土器 1	1	褐色(10YR4/6)	シルト	基盤岩粒を少量含む。	土器の据え方
炉跡か	1	にぶい褐色（7.5YR4/4)	粘土質シルト	焼土を含む。基盤岩粒・炭化物を少量含む。	機能時堆積



	遺構・層	器種	特徴	写真	登録番号
1	SI98-埋設土器1	深鉢	縄文（LR)	16－6	pa110
2	SI98-P3・1層	磨石→凹石	安山岩、長さ128.6mm、幅83.7mm、厚さ51.3mm、重さ790.0g	16－7	S 266

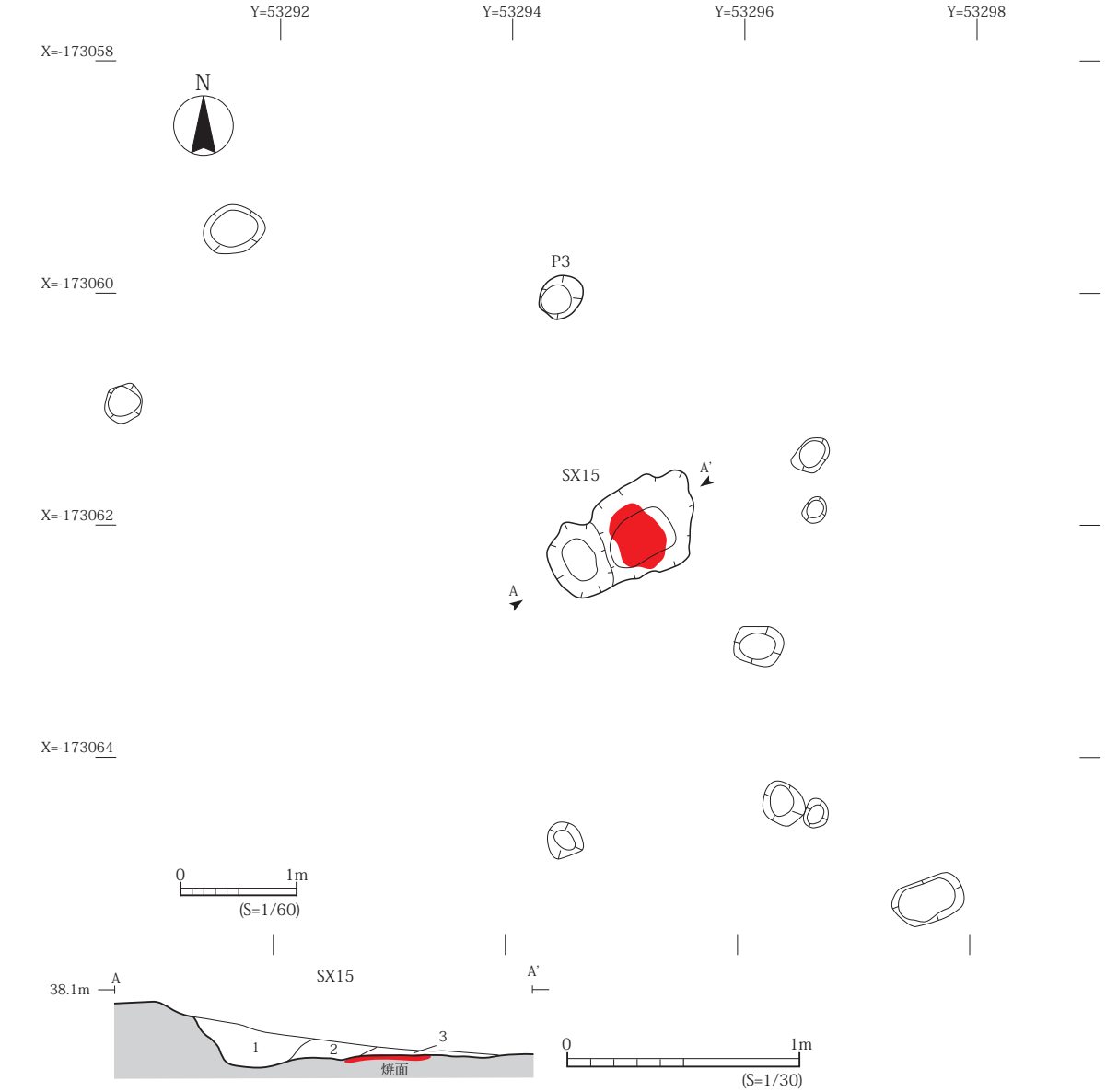
第 23 図　SX98柱穴・ピット集中と出土遺物



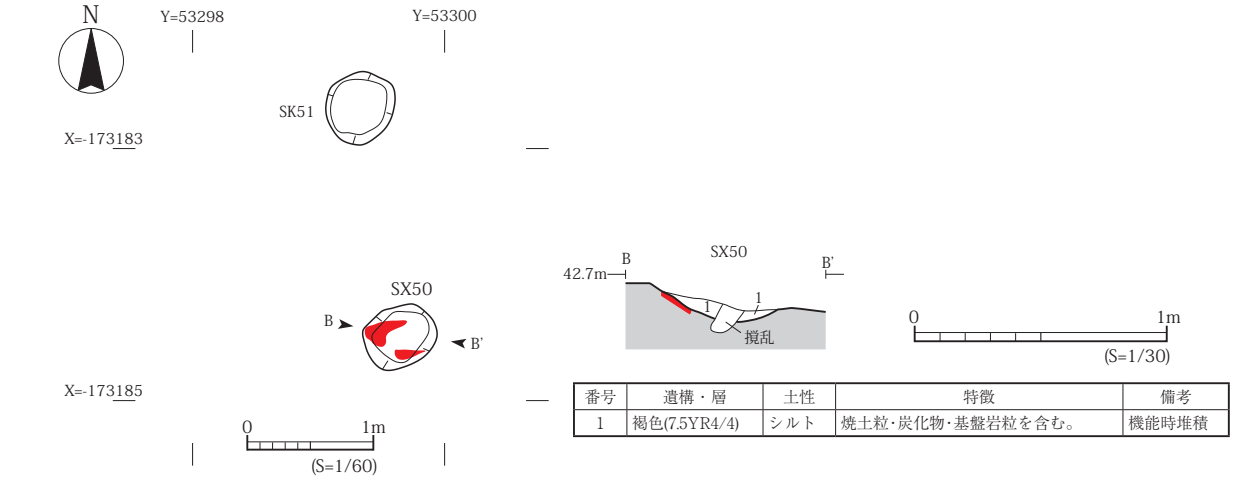
遺構	層	土色	土性	特徴	解釈
土器埋設炉	1	黒色(7.5YR2/1)	粘土質シルト	焼土粒・基盤岩粒を含む。	機能時堆積
	2	黒褐色(7.5YR3/2)	粘土質シルト	焼土小ブロック・地山小ブロック含む。炭化物を少量含む。	機能時堆積
	3	褐色(7.5YR4/3)	粘土質シルト	基盤岩粒(上部は被熱)を含む。	土器の据え方

番号	遺構・層	器種	特徴	写真	登録番号
1	SX99・土器埋設炉	深鉢	縄文（LR)→隆線文	16－5	pa111

第24図　SX99柱穴・ピット集中と出土遺物



遺構名	層	土色	土性	特徴	性格
SX15	1	暗褐色(7.5YR3/4)	粘土質シルト	地山由来の細礫を多く含む。炭化物を少量含む。	自然堆積
	2	褐色(7.5YR4/3)	粘土質シルト	地山由来の細礫・炭化物を少量含む。	自然堆積
	3	暗褐色(7.5YR3/3)	粘土質シルト	焼土粒・炭化物粒を含む。	機能時堆積か



番号	遺構・層	土性	特徴	備考
1	褐色(7.5YR4/4)	シルト	焼土粒･炭化物･基盤岩粒を含む。	機能時堆積

第 25 図　SX15・X50炉跡

第３表　土坑一覧表

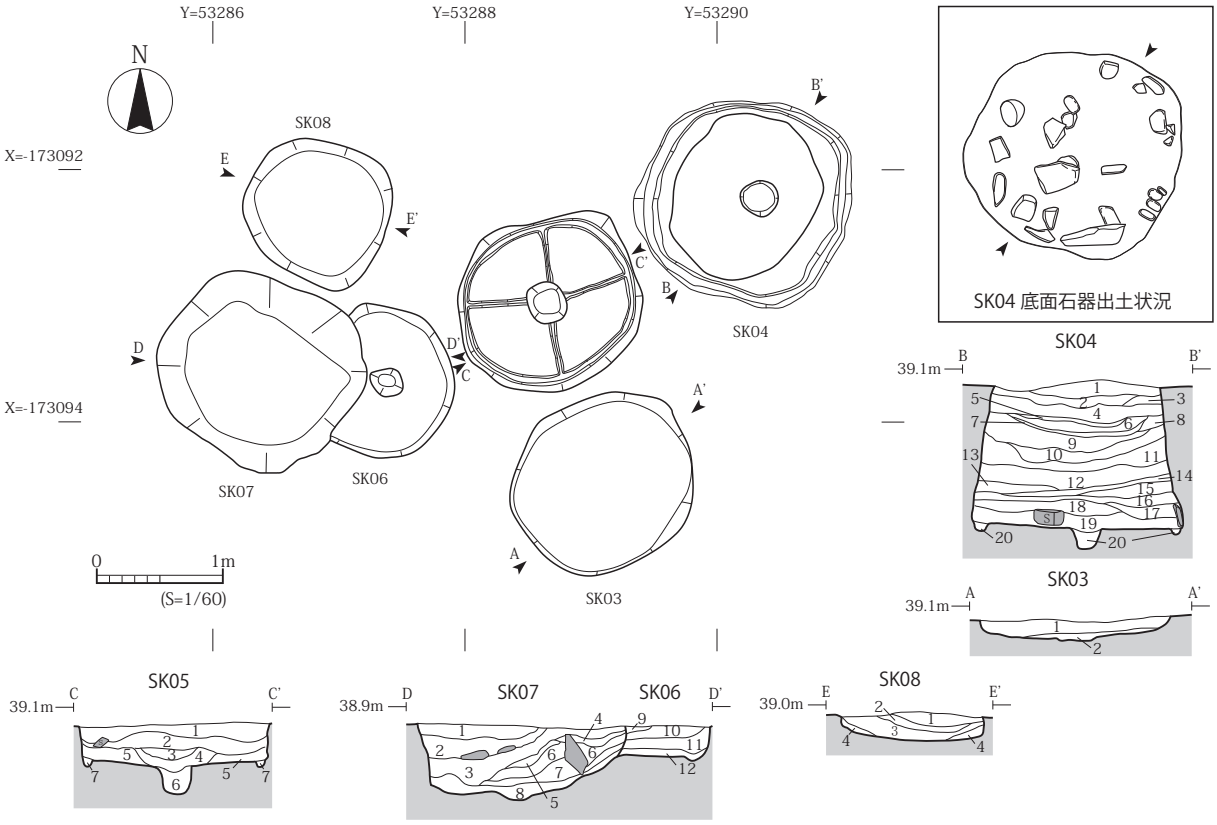
遺構番号	位置	新旧関係	規模			平面形	断面形	特記事項	図番号	
			長軸(m)	短軸(m)	深さ(cm)				遺構図	遺物図
SK01	C区南	SK94→SK01	1.2	1.0	121	楕円形	フラスコ状	縄文土器・石器出土。底面に小穴あり。	45図	45図
SK02	C区北	－	0.7	0.5	26	楕円形	逆台形	縄文土器・石器出土。	46図	46図
SK03	B区南	－	1.6	1.4	23	不整円形	皿状	縄文土器出土。	26図	36図
SK04	B区南	－	1.6	1.3	134	楕円形	フラスコ状	縄文土器出土。底面に小穴、周溝あり。	26図	28～35図
SK05	B区南	－	1.6	1.4	62	不整円形	箱形	縄文土器出土。底面に小穴、周溝あり。	26図	36図
SK06	B区南	SK06→SK07	1.2	1.0以上	35	円形	－	縄文土器出土。底面に小穴あり。	26図	－
SK07	B区南	SK06→SK07	1.6	1.6	65	不整円形	逆台形	縄文土器出土。	26図	27図
SK08	B区南	－	1.3	1.2	26	円形	皿状	縄文土器出土。	26図	36図
SK09	C区中央	－	2.7	0.9	71	長楕円形	逆台形	縄文土器・石器出土。	43図	44図
SK12	C区中央	－	0.7	0.7	27	円形	逆台形	縄文土器・石器出土。	８図	－
SK13	C区中央	P315→SK13 →P314	1.0	1.0	18	円形	皿状	縄文土器出土。	８図	－
SK20	B区北	－	0.6	0.5	19	円形	逆台形	縄文土器出土。	７図	－
SK29	B区北	P32→SK29	0.6	0.6	13	不整円形	逆台形		７図	－
SK32	C区北	－	0.8	0.7	29	不整円形	逆台形	縄文土器出土。	８図	－
SK33	C区北	－	0.8	0.7	25	円形	皿状		８図	－
SK34	C区北	ピット→SK34	1.1	0.9	28	楕円形	皿状	縄文土器・石器出土。	20図	48図
SK41	C区北	－	0.7	0.7	24	不整円形	逆台形		８図	－
SK42	C区北	－	0.7	0.6	15	不整円形	皿状		８図	－
SK43	C区北	－	0.5	0.4	16	不整円形	皿状		８図	－
SK44	C区北	－	0.7	0.7	21	不整円形	皿状	縄文土器出土。	８図	－
SK45	C区北	SK45→P123	0.9	0.9	65	円形	逆台形	縄文土器・石器出土。	46図	46図
SK46	C区中央	－	0.7	0.5	15	楕円形	皿状	縄文土器出土。	８図	－
SK47	C区中央	－	0.6	0.6	23	円形	逆台形	縄文土器出土。	９図	－
SK48	C区中央	－	0.7	0.7	27	不整円形	逆台形		９図	－
SK49	C区南	－	0.6	0.5	24	不整円形	逆台形	縄文土器・石器出土。	37図	48図
SK51	C区南	－	0.6	0.5	22	不整円形	逆台形	縄文土器出土。	９図	－
SK52	C区南	－	1.1	0.9	115	楕円形	フラスコ状	縄文土器・石器出土。底面に小穴あり。	37図	38・39図
SK53	C区南	－	1.3	1.0以上	92	不整円形	箱形	縄文土器・石器出土。	37図	40図
SK54	C区南	－	0.7	0.7	58	不整円形	箱形	縄文土器・石器出土。	37図	40図
SK55	C区南	－	0.9	0.8	146	不整円形	フラスコ状	縄文土器・石器出土。底面に小穴あり。	37図	41図
SK56	C区南	－	1.1	1.1	114	不整円形	フラスコ状	縄文土器・石器出土。	37図	40図
SK57	C区南	－	1.2	1.1	155	不整円形	フラスコ状	縄文土器・石器出土。底面に小穴あり。	37図	42図
SK60	C区南	ピット→SK60	0.8	0.6	36	楕円形	逆台形	縄文土器・石器出土。	46図	47図
SK69	B区南西	SK69→SI66P1	0.6	0.5以上	22	円形か	皿状か		７図	－
SK83	B区南西	SK83→P273 ・P276	0.7以上	0.5	26	長楕円形	皿状か		７図	－
SK86	B区南西	SI66→SK86	0.6	0.5	18	不整円形	皿状	縄文土器出土。	10図	48図
SK95	C区南	SK95→SI58 →P82	0.9	0.8	20	楕円形か	皿状か	縄文土器・石器出土。	18図	－
SK106	D区西	SX10→SK106	1.0	0.6以上	27	楕円形か	皿状	縄文土器出土。	59図	－
SK107	D区西	P309→SK107	0.4以上	0.4	15	楕円形か	皿状	縄文土器出土。	59図	－
SK111	C区北	SK111→P292	1.7	1.0	23	不整楕円形	皿状		８図	－

【SK03土坑】（遺構：第26図、遺物：第36図）

Ｂ区南端に位置する。長軸1.6m、短軸1.4mの不整円形で、深さは23cmである。断面形は皿状である。堆積土は２層に分けられ、１層は人為堆積、２層は自然堆積である。堆積土から縄文土器深鉢（第36図５）が出土している。

【SK04土坑】（遺構：第26図、遺物：第28～35図）

Ｂ区南端に位置する。上端は長軸1.4m、短軸1.1mの楕円形、下端は長軸1.6m、短軸1.3mの不整円形で、壁がオーバーハングしており、外側に12～30cm広がる。深さ134cmで、断面形はフラスコ形である。底面には中央にピット、壁際を一周する溝（周溝）が認められる。ピットは径29cmの円形で、深さは17cmである。周溝は上幅６～18cm、下幅２～９cm、深さ４～８cmで、断面形はU字状である。堆積土は20層に分けられ、地山の崩落土を主体とする自然堆積層が中心で、上部（５～７層）、中部（12・14層）、底面付近（19層）に炭化物や焼土を含む人為的な廃棄土層が認められる。底面のピットと周



遺構	層	土色	土性	特徴	性格
SK03	1	褐色(7.5YR4/4)	粘土質シルト	炭化物・地山由来の細礫を多く含む。	人為堆積
	2	橙色(7.5YR6/8)	シルト	地山由来の細礫を多く含む。炭化物粒を少量含む。しまりあり。	自然堆積
SK04	1	褐色(7.5YR4/4)	シルト	細礫を多く含む。炭化物含む。	自然堆積か
	2	褐色(7.5YR4/6)	粘土質シルト	炭化物を多く含む。細礫・焼土粒を含む。	人為堆積
	3	明赤褐色(5YR5/6)	粘土質シルト	細礫を含む。炭化物少量含む。	自然堆積
	4	褐色(7.5YR4/6)	粘土質シルト	炭化物・細礫を少量含む。	自然堆積
	5	明赤褐色(7.5YR5/6)	粘土質シルト	地山ブロック・細礫を含む。	人為堆積
	6	褐色(7.5YR4/6)	粘土質シルト	炭化物・細礫を多く含む。下部に骨片を含む。	人為堆積
	7	暗赤褐色(5YR3/6)	粘土質シルト	焼土主体。炭化物を多く含む。	人為堆積
	8	褐色(7.5YR4/6)	粘土質シルト	炭化物・細礫を少量含む。	自然堆積
	9	褐色(7.5YR4/4)	粘土質シルト	細礫・炭化物を少量含む。粘性ややあり。しまりなし。	自然堆積
	10	褐色(7.5YR4/4)	粘土質シルト	炭化物・細礫を含む。	自然堆積
	11	黄橙色(10YR7/8)	シルト	地山由来の礫を多く含む。炭化物を少量含む。	自然堆積
	12	褐色(7.5YR4/4)	粘土質シルト	炭化物を多く含む。細礫・焼土粒を含む。礫石器・自然石が一括出土。	人為堆積
	13	明褐色(7.5YR5/8)	粘土質シルト	炭化物・細礫を含む。	自然堆積
	14	にぶい黄褐色(10YR4/3)	粘土質シルト	炭化物を多く含む。細礫を少量含む。	人為堆積
	15	褐色(7.5YR4/4)	粘土質シルト	炭化物・細礫を含む。	自然堆積
	16	橙色(7.5YR6/8)	粘土質シルト	地山由来の細礫主体。炭化物を少量含む。	自然堆積
	17	明褐色(7.5YR5/6)	粘土質シルト	地山由来の細礫主体。炭化物を極少量含む。	自然堆積
	18	褐色(7.5YR4/4)	粘土質シルト	炭化物を少量含む。	自然堆積
	19	暗褐色(7.5YR3/4)	粘土質シルト	炭化物を多く含む。細礫・焼土粒を少量含む。礫石器・自然石が一括出土。	人為堆積
	20	褐色(7.5YR4/4))	粘土質シルト	地山由来の細礫を多く含む。しまりあり。	自然堆積
SK05	1	橙色(5YR6/6)	シルト	細礫を多く含む。炭化物・焼土を少量含む。	人為堆積
	2	明褐色(7.5YR5/6)	粘土質シルト	炭化物・細礫を多く含む。焼土含む。	人為堆積
	3	褐色(7.5YR4/6)	粘土質シルト	細礫を多く含む。炭化物を含む。	自然堆積
	4	橙色(7.5YR6/8)	シルト	地山由来の細礫主体。	自然堆積
	5	褐色(7.5YR4/4)	粘土質シルト	炭化物含む。地山由来の細礫を少量含む。	自然堆積か
	6	明褐色(7.5YR5/8)	粘土質シルト	地山由来の細礫を多く含む。炭化物粒を少量含む。しまりあり。	自然堆積
	7	明褐色(7.5YR5/6))	粘土質シルト	地山由来の細礫を多く含む。しまりあり。	自然堆積
SK08	1	褐色(7.5YR4/4)	粘土質シルト	炭化物・細礫を多く含む。	人為堆積
	2	褐色(7.5YR4/6)	粘土質シルト	細礫を多く含む。炭化物少量含む。	自然堆積
	3	明褐色(7.5YR5/6)	粘土質シルト	細礫・炭化物を含む。しまりあり	自然堆積
	4	明褐色(7.5YR5/8)	粘土質シルト	地山由来の礫主体。炭化物少量含む。	自然堆積

第 26 図　SK03～08土坑

第４表　SK06・07土坑土層観察表

遺構	層	土色	土性	特徴	性格
SK07	1	褐色(7.5YR4/4)	粘土質シルト	細礫・炭化物をを多く含む。	人為堆積
	2	褐色(7.5YR4/3)	粘土質シルト	細礫・炭化物を多く含む。底面で礫がまとまって出土。	人為堆積
	3	明褐色(7.5YR5/6)	粘土質シルト	細礫・炭化物少量含む。	自然堆積か
	4	褐色(7.5YR4/4)	粘土質シルト	細礫・炭化物を含む。	人為堆積
	5	褐色(7.5YR4/4)	粘土質シルト	細礫・炭化物多く含む。	人為堆積
	6	明黄褐色(10YR6/8)	シルト	地山由来の礫を多く含む。炭化物少量含む。	自然堆積
	7	褐色(7.5YR4/4)	粘土質シルト	細礫・炭化物を多く含む。	人為堆積
	8	黄褐色(10YR5/8)	シルト	地山由来の礫主体。炭化物少量含む。しまりあり。	自然堆積
SK06	9	明褐色(7.5YR5/8)	シルト	地山由来の礫を多く含む。	自然堆積
	10	黒褐色(10YR2/3)	粘土質シルト	細礫・炭化物を多く含む。	人為堆積
	11	明褐色(7.5YR5/6)	粘土質シルト	細礫・炭化物を少量含む。	自然堆積
	12	明褐色(7.5YR5/8)	シルト	細礫を多く含む。	自然堆積

溝には褐色粘土質シルト（20層）が堆積している。遺物は各層から縄文土器（第28図１～11・13）、石器（第28図12・14・第29～35図）が出土しており、12層と土坑底面～底面直上（19層下部）では礫石器と礫石器の素材とみられる礫（写真図版８－４・５、21－上・24－上）がまとまって出土した。縄文土器には櫛描文（第28図２・６）、方形区画文（第28図７）、ボタン状貼付文（第28図８）、２個１対の刻み目文（第28図９）が施されたものがある。石器は打製石斧（第32図２）、磨石（第28図14、第29図１・２、第31図２、第33図１～５）、凹石（第29図４）、石皿（第29図３、第30図、第31図１・３、第32図１・３、第33図６、第34・35図）が出土している。

【SK05土坑】（遺構：第26図、遺物：第36図）

Ｂ区南端に位置する。長軸1.6m、短軸1.4mの不整円形で、深さは62cmである。断面形は箱形である。底面には中央にピット、壁際を一周する溝（周溝）、ピットと周溝を結ぶように放射状に延びる溝が認められる。ピットは径33cmの円形で、深さは22cmである。周溝及びピットから放射状に延びる溝は上幅５～８cm、下幅２～５cm、深さ４～６cmで、断面形はU字状である。堆積土は７層に分けられ、１・２層は焼土を含む人為的な廃棄土層、３～７層は地山の崩落土を主体とする自然堆積層である。底面のピット、周溝、放射状に延びる溝には明褐色の粘土質シルト（６・７層）が堆積している。遺物は１・２層から隆線に連続刺突文が施された縄文土器（第36図１）・凹石（第36図３）・石皿（第36図４）、土坑底面から底部に網代痕がみられる縄文土器（第36図２）が出土している。

【SK06土坑】（第26図・第４表）

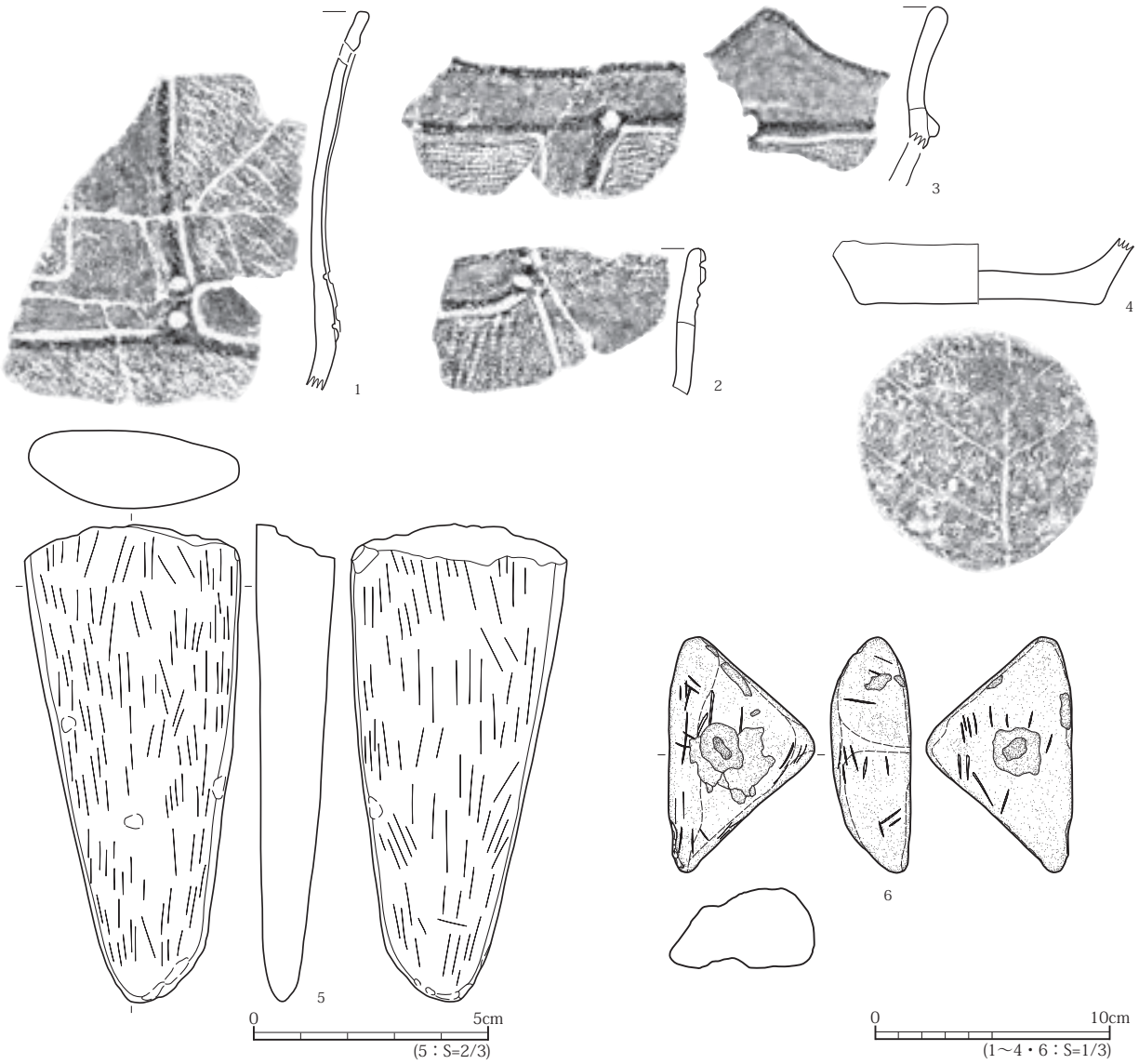
B区南端に位置する。SK07土坑より古い。西側がSK07土坑に壊されているが、平面形は径1.2mの円形とみられる。深さは35cmで、断面形は箱形とみられる。底面の中央にピットが認められる。ピットは径26cmの円形で、深さは９cmである。堆積土は４層に分けられ、１・３・４層は地山の崩落土を主体とする自然堆積層、２層は炭化物を多く含む人為的な廃棄土層である。２層から縄文土器の小片や礫石器の素材とみられる板状の礫・亜円礫（写真図版８－８）が出土している。

【SK07土坑】（遺構：第26図・第４表、遺物：第27図）

B区南端に位置する。SK06土坑より新しい。径1.6mの不整円形で、深さは60cmである。断面形は逆台形である。堆積土は８層に分けられ、１・２・４・５・７層は炭化物を多く含む人為的な廃棄土層、３・６・８層は地山の崩落土を主体とする自然堆積層である。堆積土から縄文土器（第27図１～４）、石刀類（第27図５）、凹石（第27図６）が出土している。縄文土器には２個１対の刻み目文が施されるもの（第27図１・２）がある。

【SK08土坑】（遺構：第26図、遺物：第36図）

B区南端に位置する。径1.3mの円形で、深さは26cmである。断面形は皿状である。堆積土は４層に分けられ、１層は炭化物を多く含む人為的な廃棄土層、２～４層は自然堆積層である。堆積土１・２層から、小型の縄文土器鉢（第36図６）、底面に網代痕がみられる縄文土器（第36図７）、磨石（第36図８）が出土している。

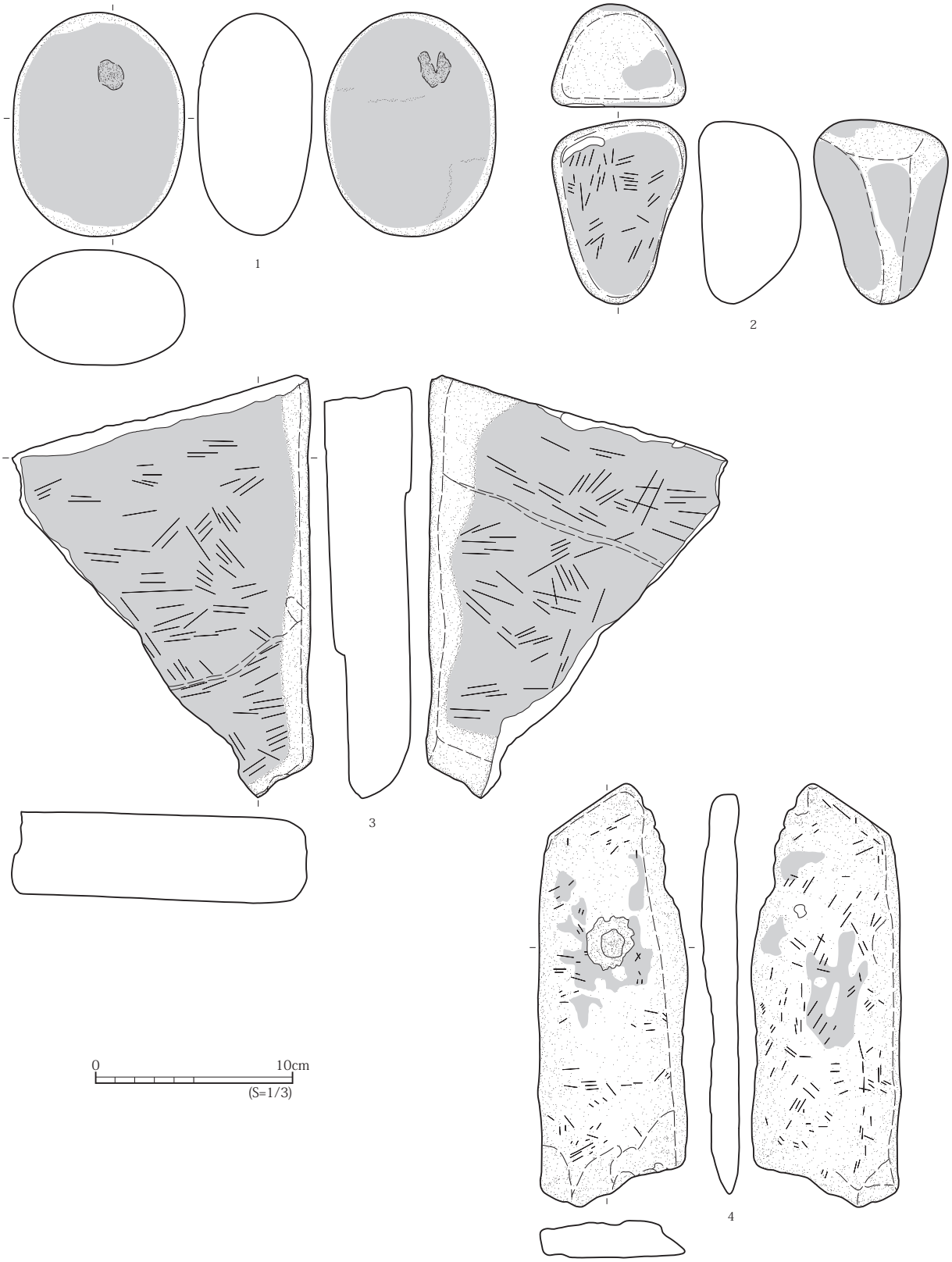


番号	遺構・層	器種	特徴	写真	登録番号
1	SK07・2層	深鉢	平縁、隆沈線→縄文（LLR）・２個１対の刻み（横位）、補修孔あり	24－1	pa020
2	SK07・8層	深鉢	平縁、縄文（RL)→沈線文・ヒレ状隆線文→２個１対の刻み（斜位）	24－3	pa021
3	SK07・堆積土	深鉢	波状口縁、縄文（LR)→隆沈線→刻み	24－2	pa022
4	SK07・堆積土	深鉢	底径10.4cm、底面：木葉痕	24－4	pa023
5	SK07・2層	石刀	安山岩、長さ100.4mm、幅45.2mm、厚さ17.4mm、重さ80.1g	24－6	S 318
6	SK07・7層	凹石	凝灰岩、長さ77.4mm、幅71.6mm、厚さ33.9mm、重さ178.4g、転用（磨石→）	24－5	S 268

第27図　SK07土坑出土遺物

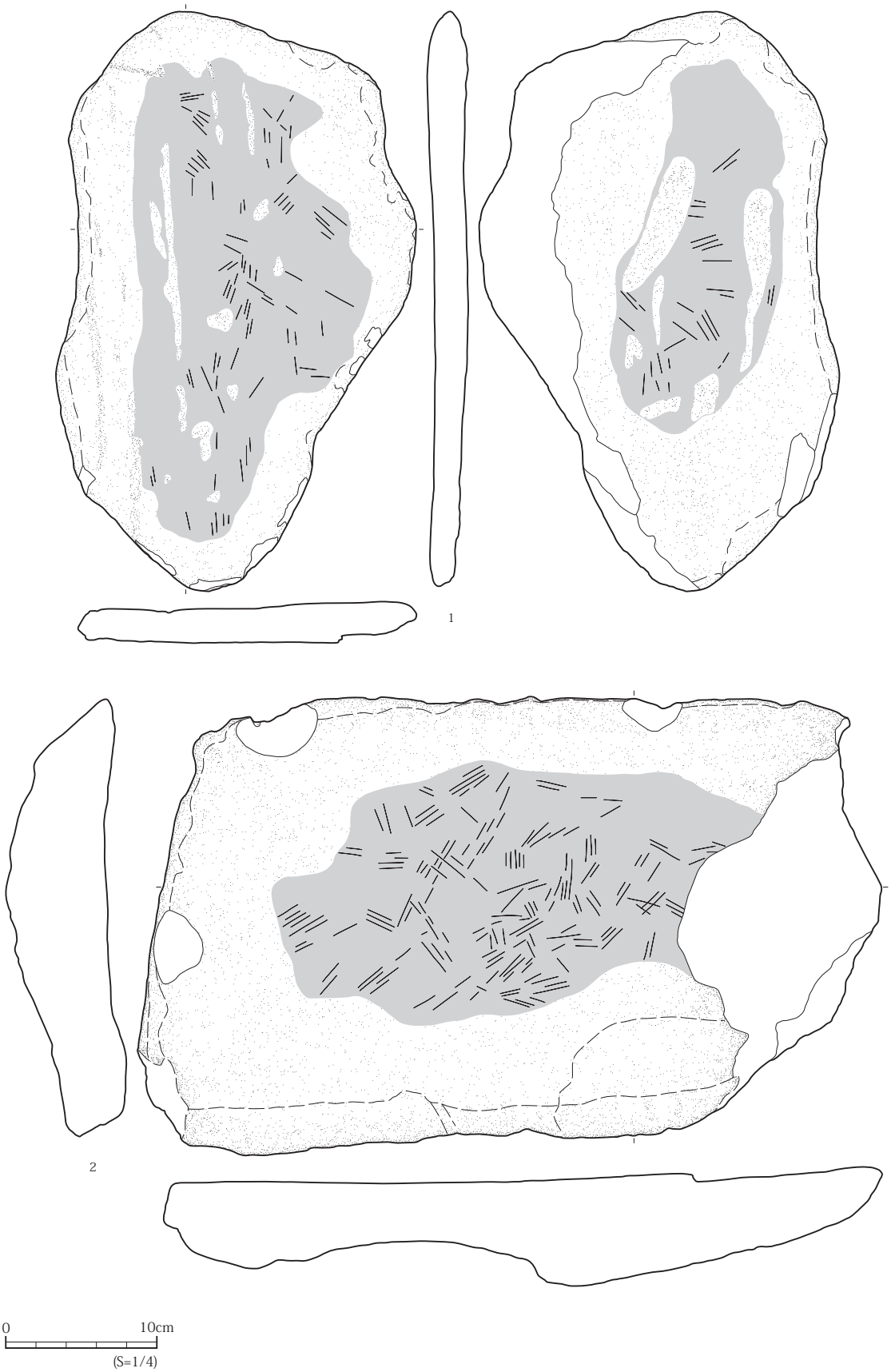
	遺構・層	器種	特徴	写真	登録番号
1	SK04・1層	深鉢	底径6.3cm、底面:網代痕(２本潜１本越１本送)	18－1	pa017
2	SK04・4層	深鉢	平縁、櫛描文	18－2	pa007
3	SK04・4層	深鉢	橋状把手、隆沈線文	18－3	pa008
4	SK04・4層	深鉢	平縁、縄文（LL・反撚）	18－4	pa016
5	SK04・4層	深鉢	底径7.2cm、沈線文	18－5	pa118
6	SK04・10層	深鉢	櫛描文→体下部ミガキ	18－6	pa009
7	SK04・12層以下	深鉢	平縁、口径15.9cm、磨消縄文（LR3）→沈線文、炭化物付着	18－11	pa011
8	SK04・11層	深鉢	波状口縁か、刺突（短沈線）→隆帯・ボタン状貼付文	18－7	pa010
9	SK04・12層以下	深鉢	波状口縁、縄文（RL)→沈線→２個１対の刻み（斜位）	18－8	pa012
10	SK04・12層以下	深鉢	底径8.4ｃｍ	18－10	pa013
11	SK04・12層以下	深鉢	底径7.1cm、底面:木葉痕	18－9	pa014
12	SK04・11層	不定形石器	頁岩、長さ50.6mm、幅29.3mm、厚さ7.0mm、重さ8.6g	18－13	S 133
13	SK04・12層以下	深鉢	底径8.6cm、底面：網代痕（４本越２本潜３本送）	18－12	pa015
14	SK04・3層	磨石	安山岩、長さ167.2mm、幅117.9mm、厚さ63.5mm、重さ2015g	18－14	S 384

第28図　SK04土坑出土遺物（1）



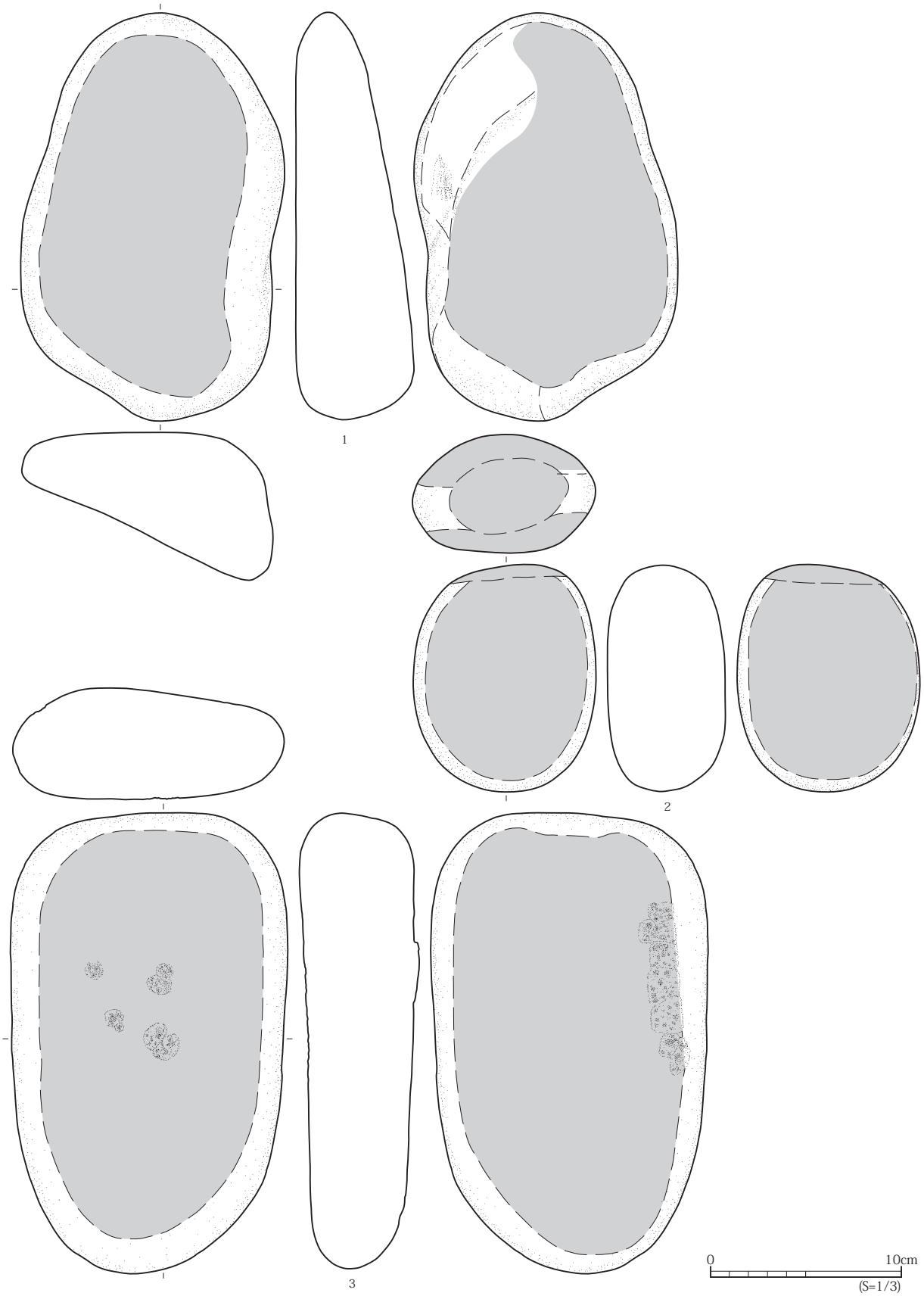
番号	遺構・層	器種	特徴	写真	登録番号
1	SK04・9層	磨石	安山岩、長さ112.7mm、幅86.3mm、厚さ57.7mm、重さ845.5g	18－15	S 385
2	SK04・10層	磨石	凝灰質安山岩、長さ89.8mm、幅65.5mm、厚さ51.5mm、重さ436.0g	18－16	S 382
3	SK04・11層	石皿	安山岩、長さ214.3mm、幅144.6mm、厚さ42.7mm、重さ1650g	18－17	S 390
4	SK04・11層	石皿	粘板岩、長さ212.5mm、幅74.6mm、厚さ17.5mm、重さ422.5g	18－18	S 389

第29図　SK04土坑出土遺物（2）



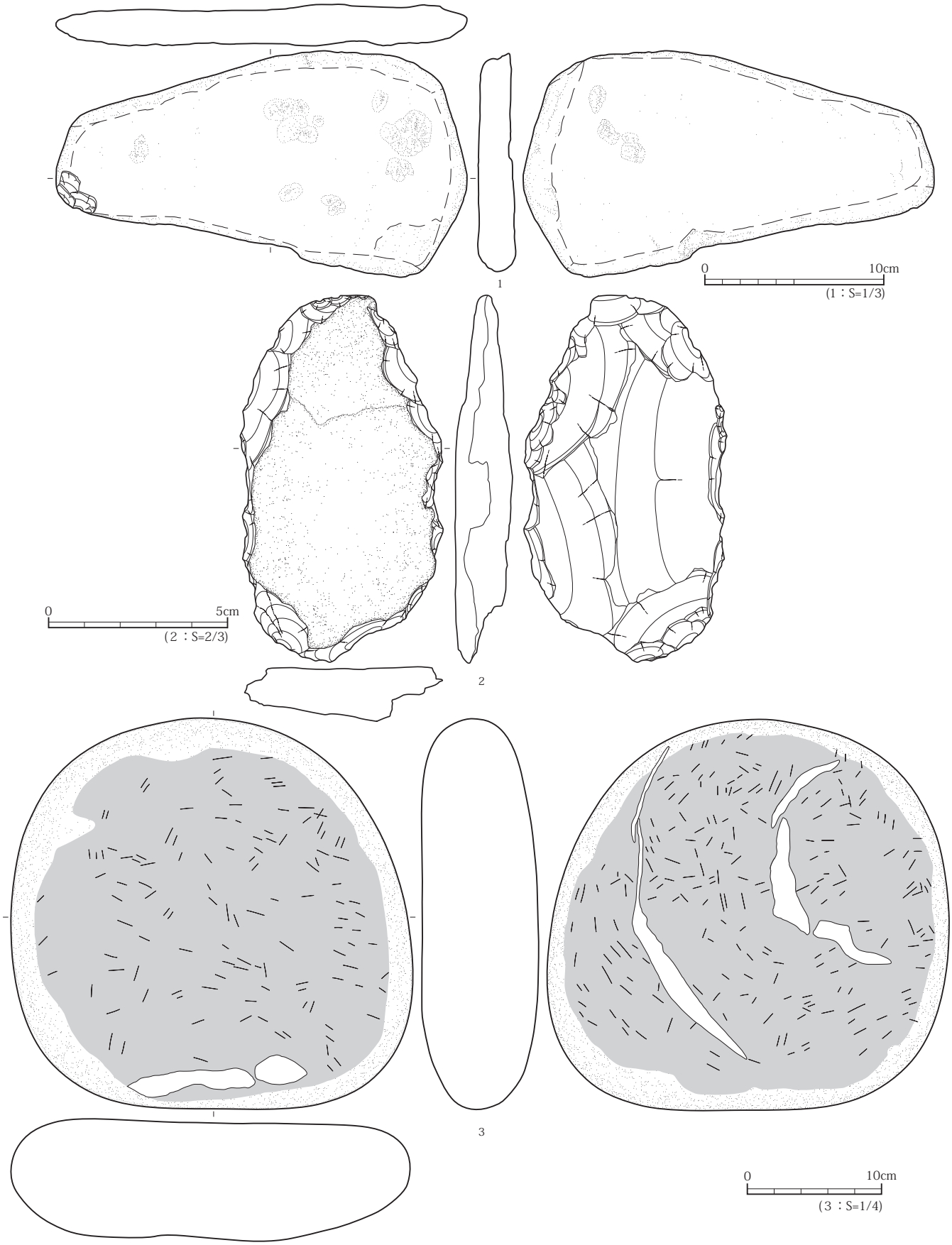
番号	遺構・層	器種	特徴	写真	登録番号
1	SK04・11層	石皿	安山岩、長さ382.6mm、幅246.5mm、厚さ26.7mm、重さ2954g	19－1	S 393
2	SK04・11層	石皿	凝灰岩、長さ482.5mm、幅287.0mm、厚さ67.5mm、重さ12700g	19－2	S 688

第30図　SK04土坑出土遺物（3）



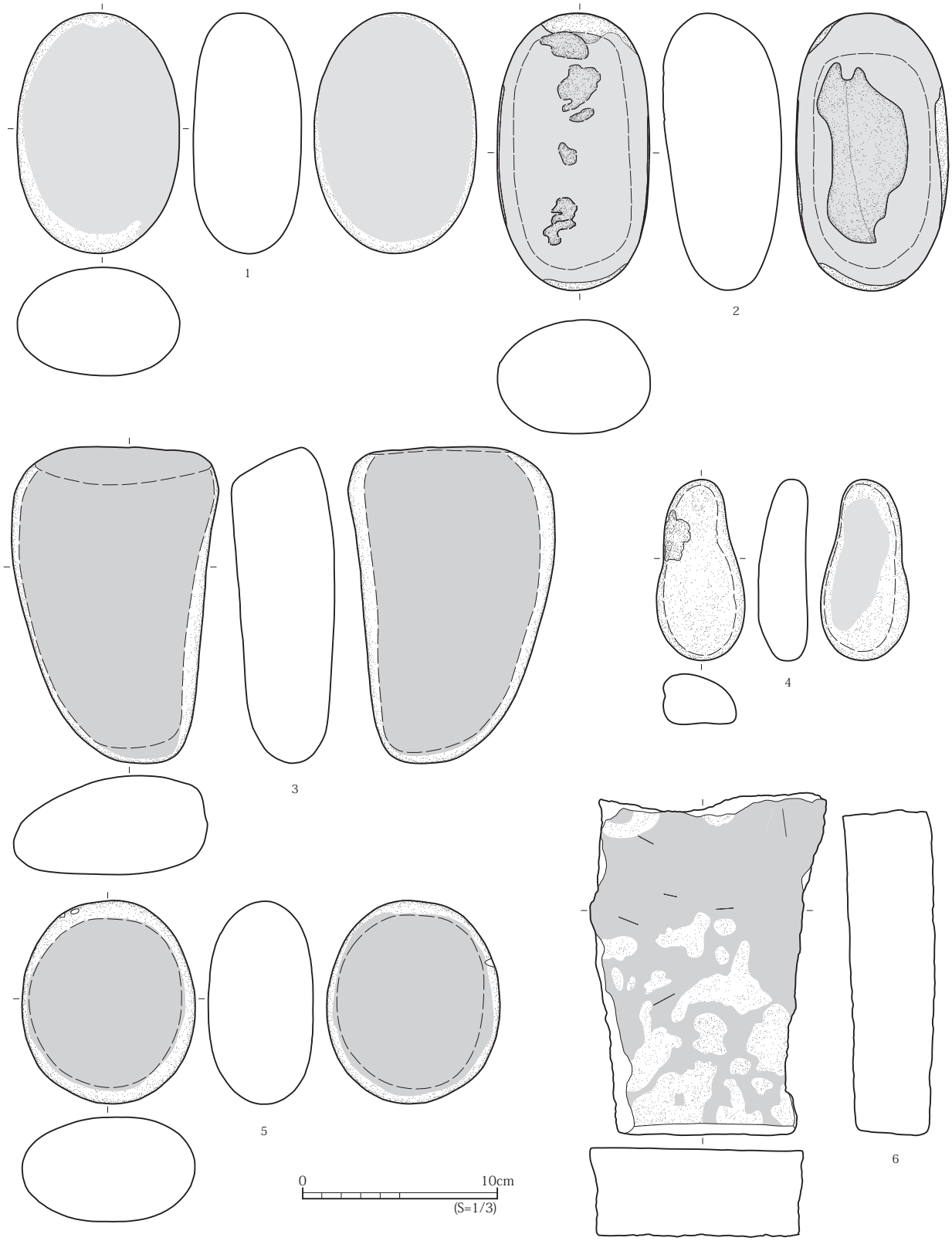
番号	遺構・層	器種	特徴	写真	登録番号
1	SK04・12層	石皿	安山岩、長さ210.4mm、幅140.9mm、厚さ74.9mm、重さ2394g	20－3	S 683
2	SK04・12層	磨石	安山岩、長さ118.5mm、幅90.5mm、厚さ61.0mm、重さ1006.0g、被熱あり	20－1	S 680
3	SK04・12層	石皿	安山岩、長さ269.9mm、幅224.3mm、厚さ42.1mm、重さ3300g	20－4	S 681

第31図　SK04土坑出土遺物（4）



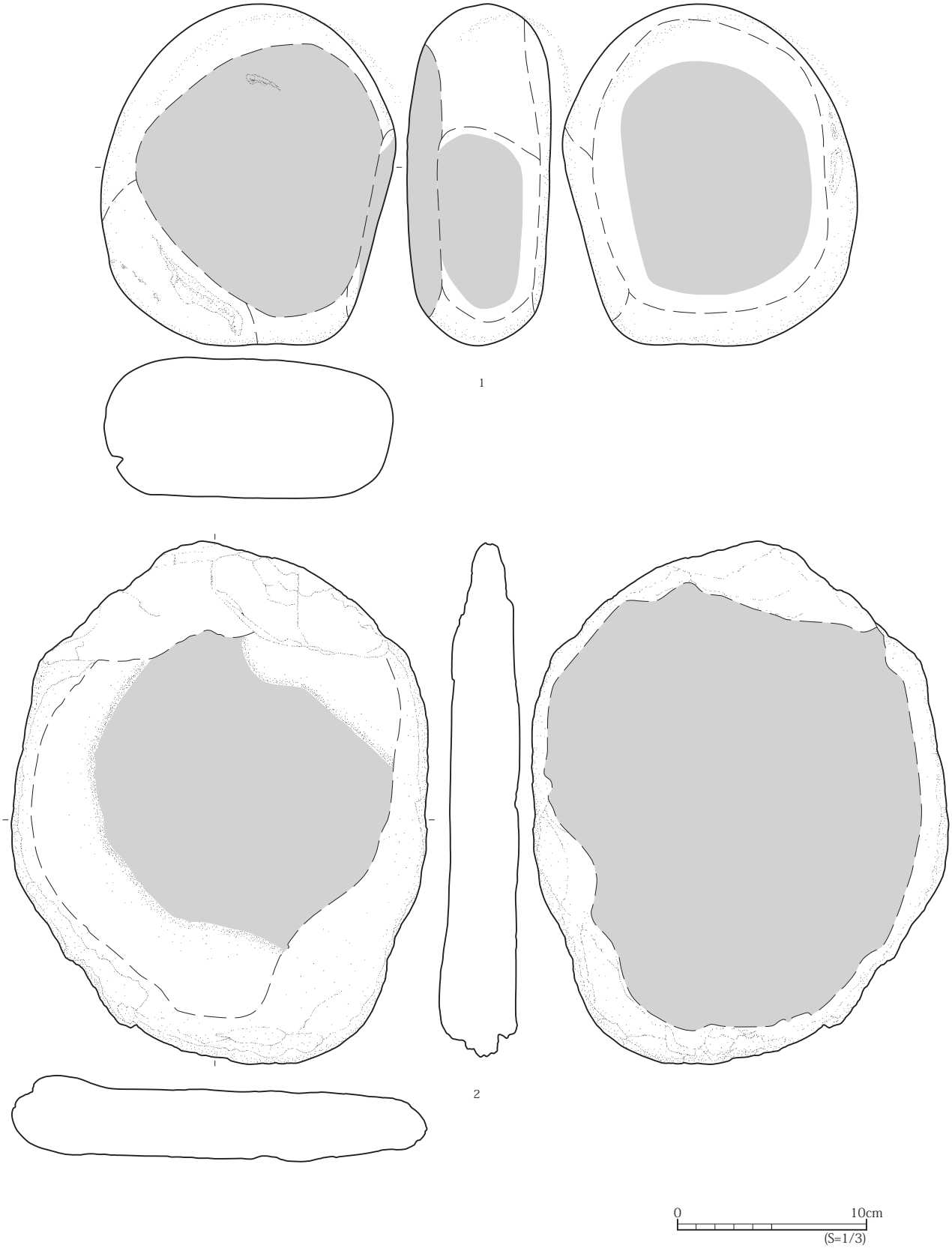
番号	遺構・層	器種	特徴	写真	登録番号
1	SK04・12層	石皿	凝灰岩、長さ223.2mm、幅125.0mm、厚さ22.4mm、重さ784.0g	20－2	S 682
2	SK04・19層	打製石斧	粘板岩、長さ103.2mm、幅55.3mm、厚さ16.5mm、重さ88.2g、自然面あり	21－1	S 208
3	SK04・19層	石皿	安山岩、長さ297.5mm、幅283.5mm、厚さ87.4mm、重さ13000g	21－2	S 687

第32図　SK04土坑出土遺物（5）



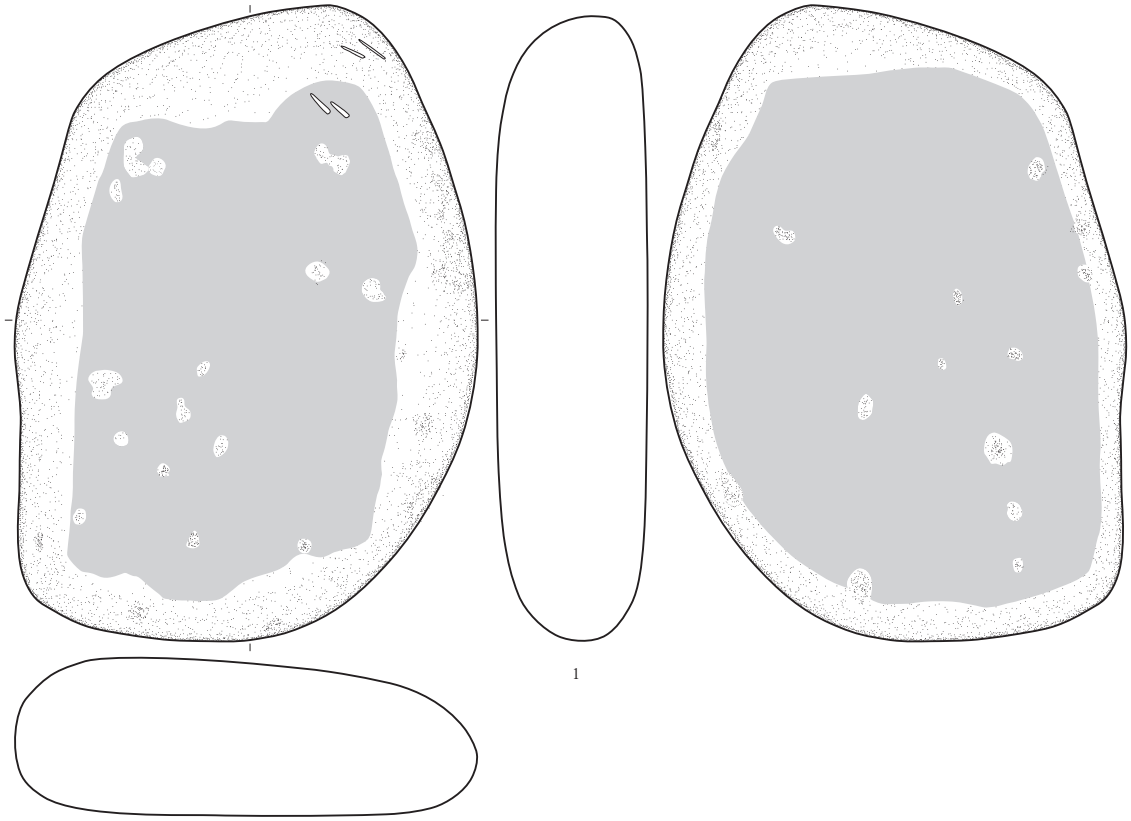
番号	遺構・層	器種	特徴	写真	登録番号
1	SK04・底面	磨石	安山岩、長さ123.4mm、幅82.9mm、厚さ55.0mm、重さ838.5g	22－3	S 351
2	SK04・底面	磨石	安山岩、長さ142.1mm、幅77.4mm、厚さ60.7mm、重さ990.5g、転用（凹石→）	22－4	S 352
3	SK04・底面	磨石	安山岩、長さ159.4mm、幅106.0mm、厚さ51.9mm、重さ1218.5g	22－5	S 353
4	SK04・底面	磨石	安山岩、長さ92.0mm、幅44.6mm、厚さ25.3mm、重さ104.7g	22－1	S 354
5	SK04・底面	磨石	砂岩、長さ104.2mm、幅89.0mm、厚さ53.1mm、重さ721.5g	22－2	S 383
6	SK04・底面	石皿	花崗岩、長さ173.9mm、幅115.1mm、厚さ43.5mm、重さ1953.0g	22－6	S 391

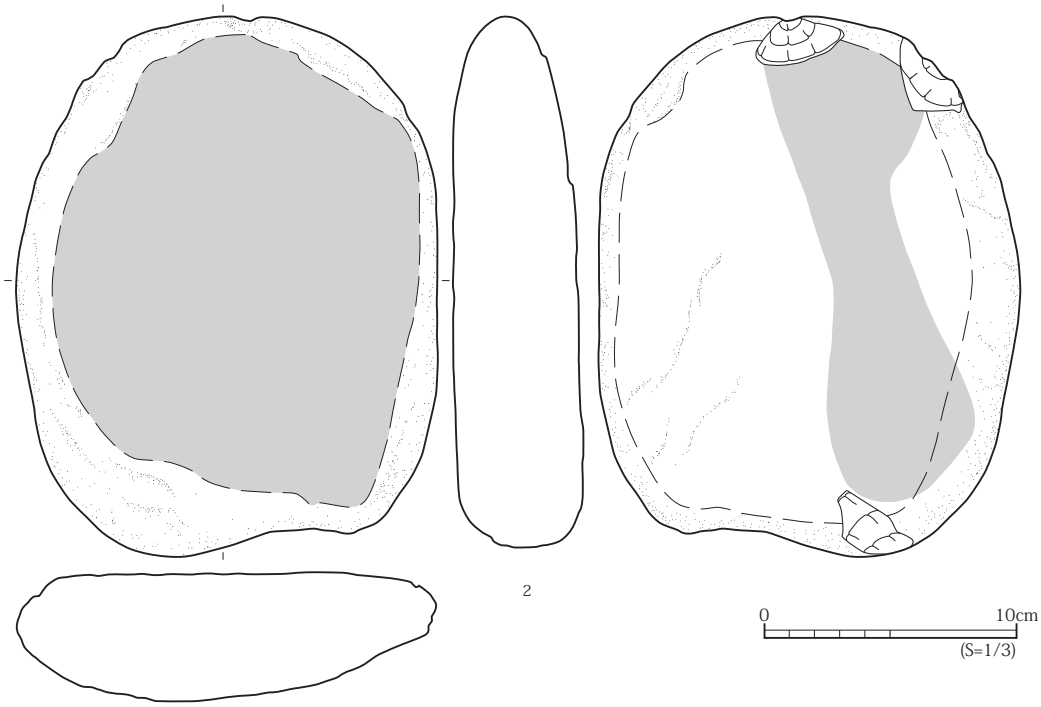
第33図　SK04土坑出土遺物（6）



番号	遺構・層	器種	特徴	写真	登録番号
1	SK04・底面	石皿	安山岩、長さ173.9mm、幅144.1mm、厚さ72.2mm、重さ3100g	22－7	S675
2	SK04・底面	石皿	安山岩、長さ269.9mm、幅224.3mm、厚さ42.1mm、重さ3300g	23－2	S677

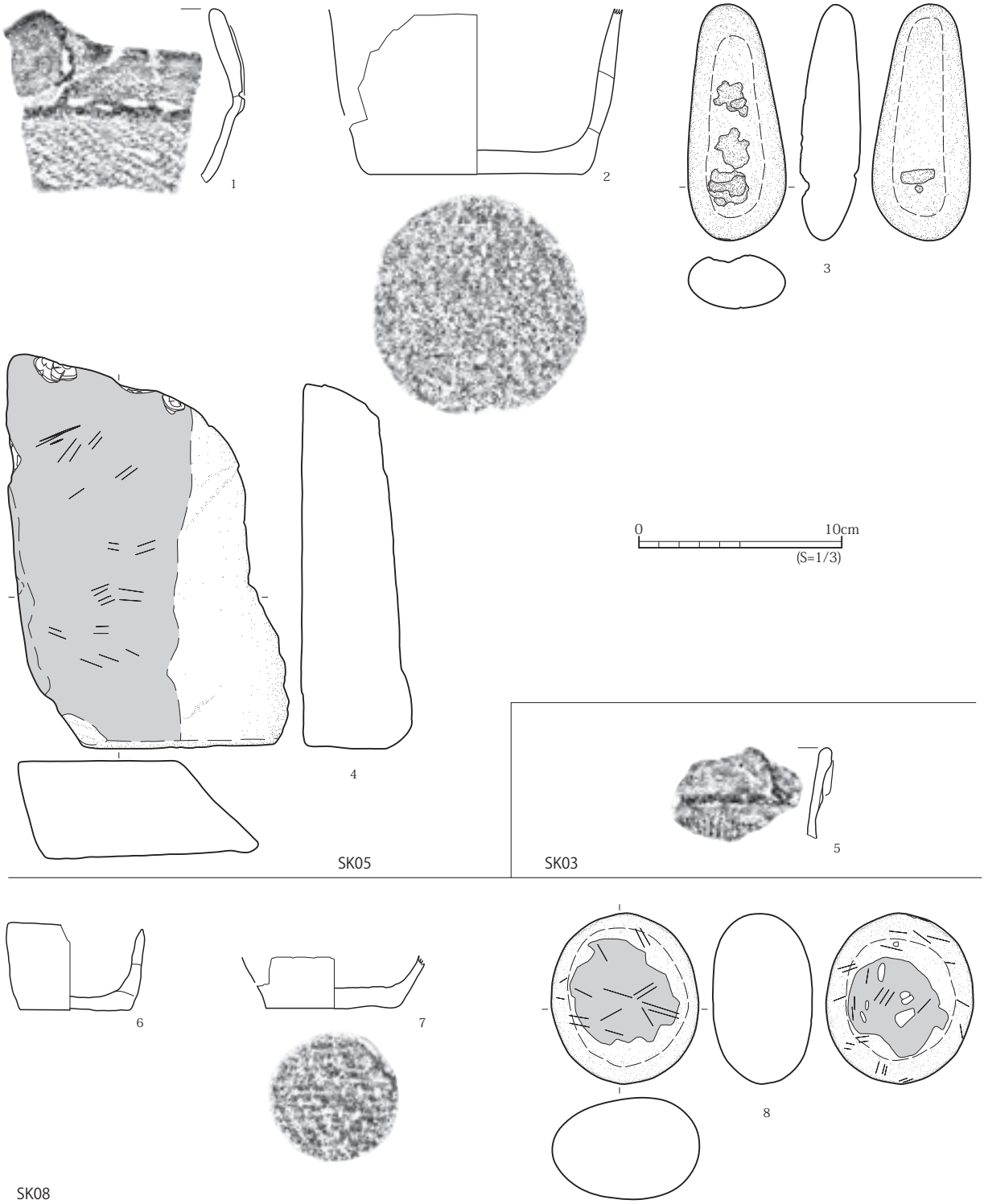
第34図　SK04土坑出土遺物（7）





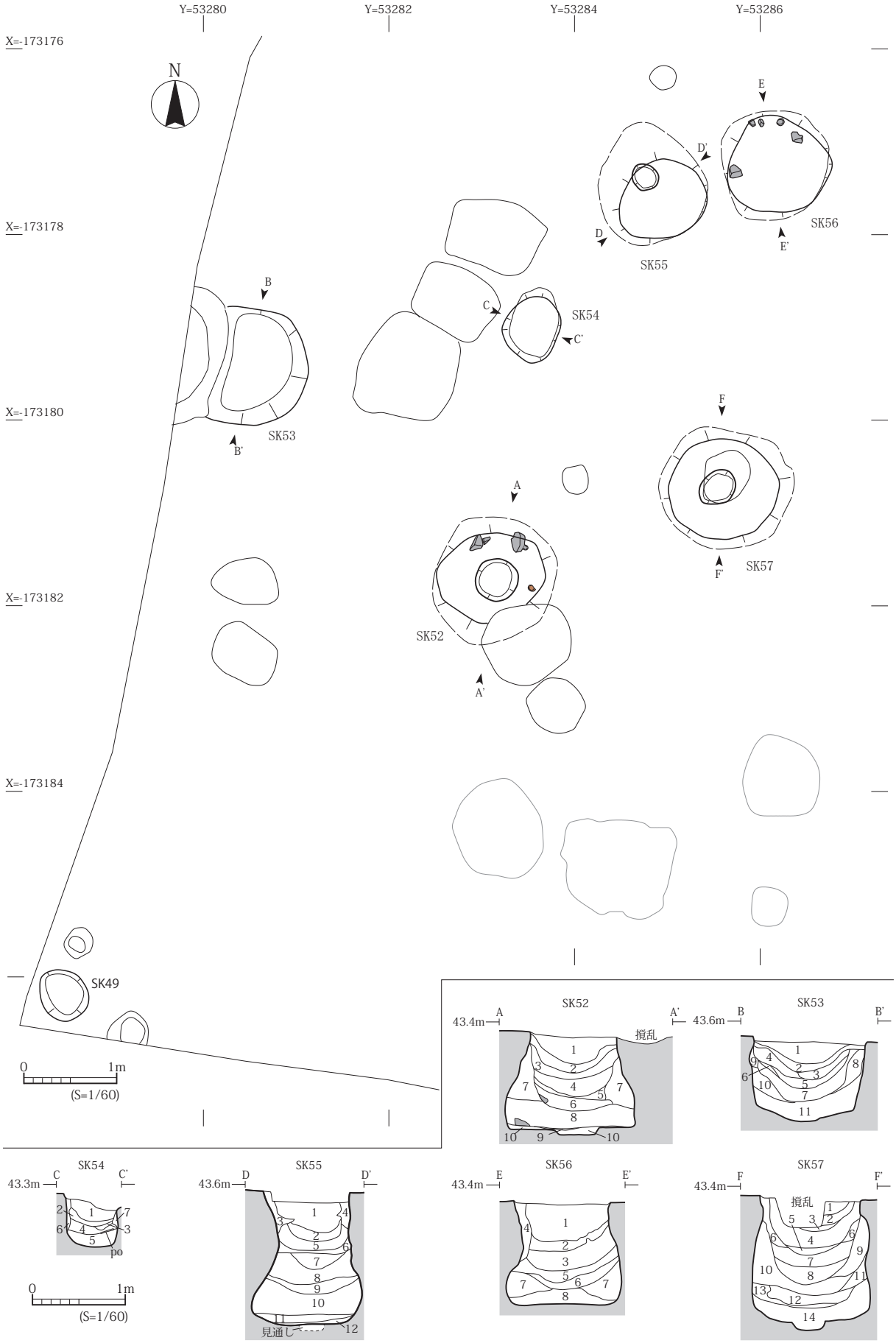
番号	遺構・層	器種	特徴	写真	登録番号
1	SK04・底面	石皿	安山岩、長さ253.3mm、幅184.5mm、厚さ58.9mm、重さ4500g	23－1	S 392
2	SK04・底面	石皿	安山岩、長さ201.5mm、幅162.5mm、厚さ47.4mm、重さ2245g	22－8	S 676

第35図　SK04土坑出土遺物（8）



	遺構・層	器種	特徴	写真	登録番号
1	SK05・2層	深鉢	波状口縁、縄文(LRL)→ヒレ状隆線文→連続刺突文	25－1	pa018
2	SK05・底面	深鉢	底径10.8cm、底面：網代痕	25－2	pa019
3	SK05・1層	凹石	安山岩、長さ115.9mm、幅47.5mm、厚さ30.4mm、重さ205.5g、転用（磨石→）	25－4	S 292
4	SK05・2層	石皿	凝灰岩、長さ190.8mm、幅125.7mm、厚さ59.8mm、重さ1802g、被熱あり	25－3	S 518
5	SK03・堆積土	深鉢	波状口縁、縄文（不明）・隆線文→ヒレ状隆線文	25－5	pa006
6	SK08・2層	深鉢	器高4.2cm、底径6.2cm、器表面摩耗	25－9	pa024
7	SK08・1層	深鉢	底径6.4cm、底面:網代痕（２本越１本潜１本送）	25－10	pa025
8	SK08・1層	磨石	安山岩、長さ83.2mm、幅72.1mm、厚さ49.5mm、重さ425.5g	25－11	S 319

第 36 図　SK03・05・08土坑出土遺物



第37図　SK52～57土坑

第５表　SK52～57土坑土層観察表

遺構	層	土色	土性	特徴	性格
SK52	1	褐色（7.5YR4/3）	シルト	粗砂～細砂・炭化物粒を含む。基盤岩の細礫を極少量含む。しまりあり。	自然堆積
	2	褐色（7.5YR4/6）	粘土質シルト	細砂・炭化物を少量含む。基盤岩粒を極少量含む。	自然堆積
	3	褐色（7.5YR4/4）	粘土質シルト	炭化物含む。細砂・基盤岩粒を少量含む。	自然堆積
	4	暗褐色（10YR3/3）	粘土質シルト	炭化物･粗砂を含む。基盤岩粒を少量含む。底面に炭化物が集中。焼土がレンズ状堆積。	人為堆積
	5	明褐色（7.5YR5/6）	粘土質シルト	炭化物ブロックを含む。	人為堆積か
	6	暗褐色（10YR3/4）	粘土質シルト	炭化物を含む。焼土粒・細砂を少量含む。	人為堆積か
	7	明褐色（7.5YR5/6）	粘土質シルト	炭化物ブロックを少量含む。	自然堆積
	8	暗褐色（10YR3/4）	粘土質シルト	炭化物を含む。地山ブロックがレンズ状に入る。細砂を少量含む。	人為堆積か
	9	明褐色（7.5YR5/6）	砂質シルト	地山ブロックを少量含む。	自然堆積
	10	橙色（7.5YR6/8）	粘土質シルト	地山と酷似するが夾雑物含む。	自然堆積
SK53	1	褐色（10YR4/4）	粘土質シルト	基盤岩粒を含む。細砂を少量含む。底部に炭化物及び被熱面あり。	自然堆積
	2	褐色（10YR4/4）	粘土質シルト	細砂を少量含む。基盤岩粒を極少量含む。	自然堆積
	3	暗褐色（10YR3/3）	粘土質シルト	炭化物を多く含む。細砂・基盤岩粒を少量含む。	人為堆積か
	4	暗褐色（10YR3/3）	粘土質シルト	炭化物を極少量含む。細砂・基盤岩粒を少量含む。	自然堆積
	5	暗褐色（10YR3/4）	粘土	基盤岩粒を少量含む。	自然堆積
	6	褐色（10YR4/6）	粘土	基盤岩粒を極少量含む。	自然堆積
	7	暗褐色（10YR3/3）	粘土質シルト	炭化物を含む。砂を少量含む。	人為堆積
	8	褐色（7.5YR4/4）	粘土質シルト	基盤岩粒・細砂を少量含む。	自然堆積
	9	褐色（7.5YR4/4）	粘土質シルト	細砂を少量含む。最下部に暗褐色シルトが堆積。	自然堆積
	10	明褐色（7.5YR5/6）	粘土質シルト	細砂を少量含む。	自然堆積
	11	明褐色（7.5YR5/6）	粘土質シルト	細砂を極少量含む。	自然堆積
SK54	1	にぶい黄褐色（10YR4/3）	シルト	基盤岩粒・炭化物を含む。土器小片を少量含む。	人為堆積か
	2	褐色（10YR4/4）	シルト	基盤岩粒を少量含む。	自然堆積
	3	褐色（10YR4/6）	粘土質シルト	細砂を少量含む。	自然堆積
	4	褐色（10YR4/4）	シルト	炭化物を少量含む。	自然堆積
	5	褐色（10YR4/6）	シルト	基盤岩粒を少量含む。	自然堆積
	6	褐色（10YR4/6）	シルト	細砂を少量含む。	自然堆積
	7	褐色（10YR4/4）	粘土質シルト	細砂・炭化物を少量含む。	自然堆積
SK55	1	暗褐色（10YR3/4）	シルト	基盤岩粒を含む。炭化物・細砂を少量含む。焼土を極少量含む。	自然堆積
	2	褐色（10YR4/6）	シルト	基盤岩粒・炭化物を極少量含む。	自然堆積
	3	黄褐色（10YR5/8）	砂質シルト	夾雑物を含む。炭化物を極少量含む。	自然堆積
	4	明褐色（7.5YR5/8）	シルト	夾雑物を含む。炭化物を極少量含む。	自然堆積
	5	褐色（10YR4/6）	砂質シルト	基盤岩粒・炭化物・焼土粒を極少量含む。	自然堆積
	6	明褐色（7.5YR5/6）	砂質シルト	地山粘土ブロック・夾雑物を少量含む。	自然堆積
	7	明褐色（7.5YR5/8）	砂質シルト	中礫を含む。地山粘土ブロック・基盤岩粒・炭化物を少量含む。	自然堆積
	8	明褐色（7.5YR5/6）	粘土質シルト	夾雑物を含む。炭化物を極少量含む。	自然堆積
	9	褐色（7.5YR4/4）	粘土質シルト	細礫～細砂を含む。炭化物を少量含む。	自然堆積
	10	褐色（7.5YR4/4）	粘土質シルト	細砂・基盤岩粒・炭化物を少量含む。	自然堆積
	11	暗褐色（10YR3/4）	粘土質シルト	炭化物を含む。細砂・基盤岩粒を少量含む。	人為堆積か
	12	明褐色（7.5YR5/8）	粘土質シルト	基盤岩粒を含む。	自然堆積
SK56	1	褐色（7.5YR4/3）	シルト	細砂・基盤岩粒・炭化物を少量含む。焼土粒を極少量含む。	自然堆積
	2	明褐色（7.5YR5/6）	砂質シルト	褐色シルト質土のブロックを含む。	自然堆積
	3	褐色（10YR4/4)	シルト	細砂・基盤岩粒・炭化物を含む。焼土粒を少量含む。	自然堆積
	4	明褐色（7.5YR5/6）	砂質シルト	地山粘土小ブロック・炭化物を少量含む。基盤岩粒を極少量含む。	自然堆積
	5	褐色（10YR4/4）	シルト	細砂・基盤岩粒を少量含む。焼土粒を極少含む。炭化物が層状に堆積。	自然堆積
	6	黄褐色（10YR5/6）	砂質シルト	地山粘土小ブロック・基盤岩粒を少量含む。夾雑物を含む。	自然堆積
	7	橙色（7.5YR6/6）	シルト	基盤岩粒を少量含む。	自然堆積
	8	暗褐色（10YR3/4）	粘土質シルト	細砂・炭化物を含む。しまりなし。	自然堆積
SK57	1	黒褐色（7.5YR3/2）	シルト	基盤岩細礫を含む。砂・炭化物を少量含む。	自然堆積
	2	明褐色（7.5YR5/6）	粘土質シルト	細砂を含む。	自然堆積
	3	明褐色（7.5YR5/6）	粘土質シルト	基盤岩細礫を含む。砂を少量含む。	自然堆積
	4	褐色（7.5YR4/4）	粘土質シルト	細砂・炭化物粒・焼土粒を少量含む。基盤岩粒を極少量含む。	自然堆積
	5	褐色（7.5YR4/4）	粘土質シルト	砂・炭化物粒を含む。基盤岩粒を少量含む。	自然堆積
	6	褐色（10YR4/4）	粘土質シルト	細砂・基盤岩粒・炭化物・焼土粒を少量含む。	自然堆積
	7	褐色（10YR4/4）	粘土質シルト	炭化物を含む。砂・焼土粒を少量含む。基盤岩粒を極少量含む。	人為堆積
	8	褐色（10YR4/4）	砂質シルト	炭化物多くを含む。基盤岩粒・焼土粒を含む。地山粘土ブロックを少量含む。	人為堆積
	9	褐色（10YR4/6）	砂質シルト	地山粘土小ブロックを含む。	自然堆積
	10	橙色（7.5YR6/8）	粘土質シルト	基盤岩片を多く含む。	自然堆積
	11	褐色（10YR4/6）	砂質シルト	地山粘土小ブロックを含む。	自然堆積
	12	褐色（10YR4/4）	粘土質シルト	砂・基盤岩粒を少量含む。炭化物を極少量含む。	自然堆積
	13	橙色（7.5YR6/6）	粘土質シルト	基盤岩粒～細礫を多く含む。	自然堆積
	14	明褐色（7.5YR5/6）	粘土質シルト	基盤岩細礫を含む。	自然堆積

②C区南西の土坑群

C区南西で土坑が６基（SK52～SK57）確認された（第37図）。このうち４基（SK52・55～57）は下端が径1.3m以上の円形～楕円形、深さが1.1ｍ以上で断面形がフラスコ形の土坑である。SK52・55・57土坑の底面中央にはピットが認められる。

【SK52土坑】（遺構：第37図・第５表、遺物：第38・39図）

C区南西に位置する。上端は長軸1.1m、短軸0.9m、下端は長軸1.4m、短軸1.2mで、壁がオーバーハングしており、外側に10～24cm広がる。深さは115㎝で、断面形はフラスコ形である。底面中央にピットが認められる。ピットは径46cmの円形で、深さは９cmである。堆積土は10層に分けられる。４～６層は焼土や炭化物を含む人為的な廃棄土層で、その他は自然堆積とみられる。堆積土から縄文土器（第38図１～４）、円盤状土製品（第38図５）、円盤状石製品（第38図６・７）、磨石（第38図８～10）、凹石（第39図１）が出土しているほか、底面から凹石（第39図２・６）、石皿（第39図３～５）が出土している。縄文土器には２個１対の刻み目文（第38図１）や鎖状隆線文（第38図２）が施されたものがある。

【SK53土坑】（遺構：第37図・第５表、遺物：第40図）

C区南西に位置する。西側は撹乱で壊されているが、平面形は径1.3mの円形とみられる。深さは92㎝で、断面形は箱形である。堆積土は11層に分けられる。７層は炭化物を含む人為的な廃棄土層、その他は自然堆積であるとみられる。堆積土から凹石（第40図１）が出土している他、縄文土器の小片が出土している。

【SK54土坑】（遺構：第37図・第５表、遺物：第40図）

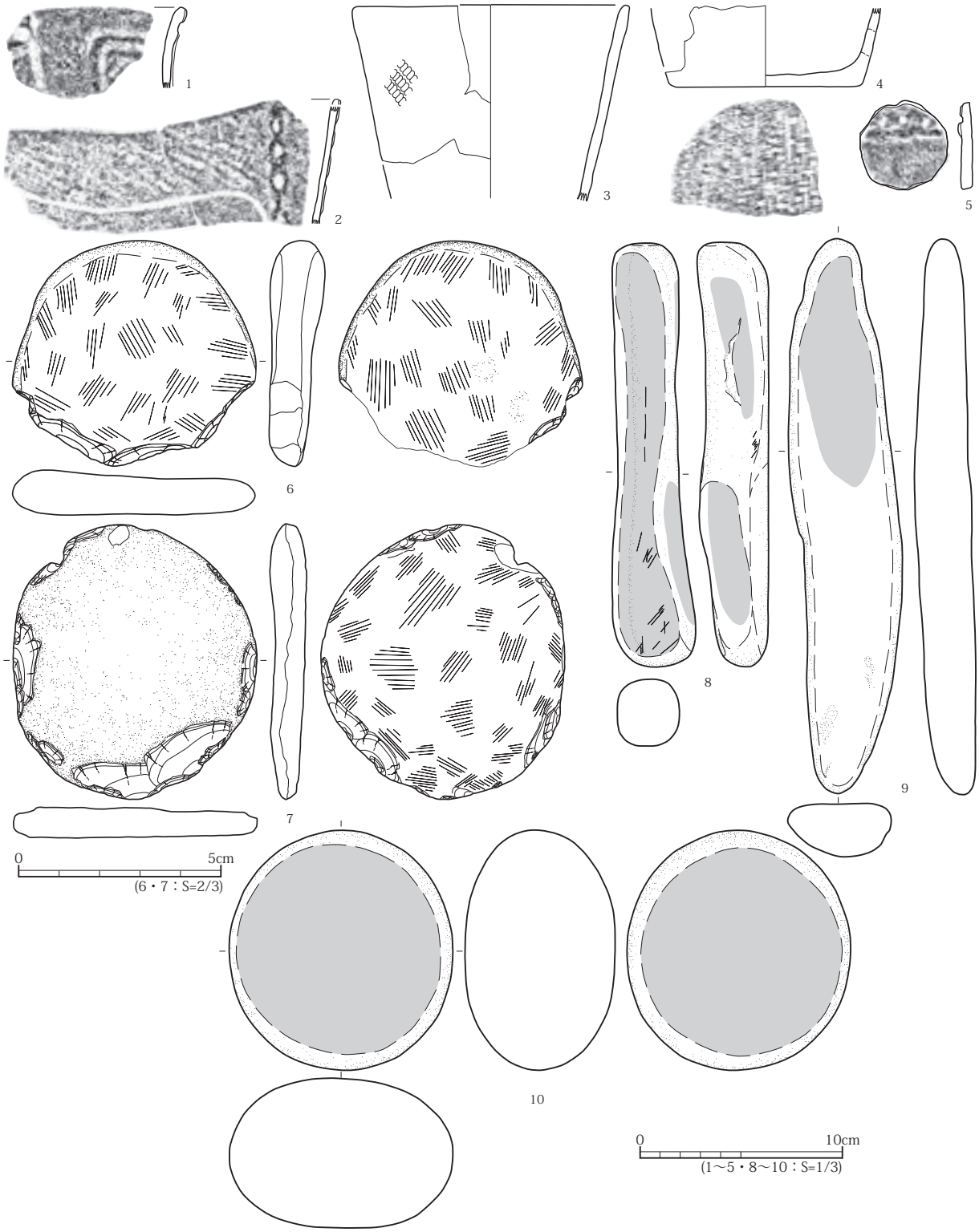
C区南西に位置する。径0.7mの不整円形で、深さは58㎝である。北側の壁はオーバーハングしており、外側に約10cm広がる。堆積土は７層に分けられ、いずれも自然堆積である。堆積土から２個１対の刻み目文が施された縄文土器（第40図２）、鋸歯状の刃部をもつ不定形石器（第40図３）が出土している。

【SK55土坑】（遺構：第37図・第５表、遺物：第41図）

C区南西に位置する。上端は径0.9mの不整円形、下端は長軸1.3m、短軸1.2mの楕円形で、北西側の壁がオーバーハングしており、外側に８～44cm広がる。深さは146cmで、断面形はフラスコ形である。底面中央にピットが認められる。ピットは径30cmの円形で、深さは８cmである。堆積土は12層に分けられ、11層が人為堆積とみられ、その他は自然堆積である。堆積土下部から縄文土器（第41図１・２）、ミニチュア土器の底部（第41図３）、石鏃（第41図４）、石刀（第41図５）、脚付石皿（第41図６）、敲石（第41図７）、凹石（第41図８）が出土している。縄文土器には２個１対の刻み目文（第41図１）が施されたものがある。

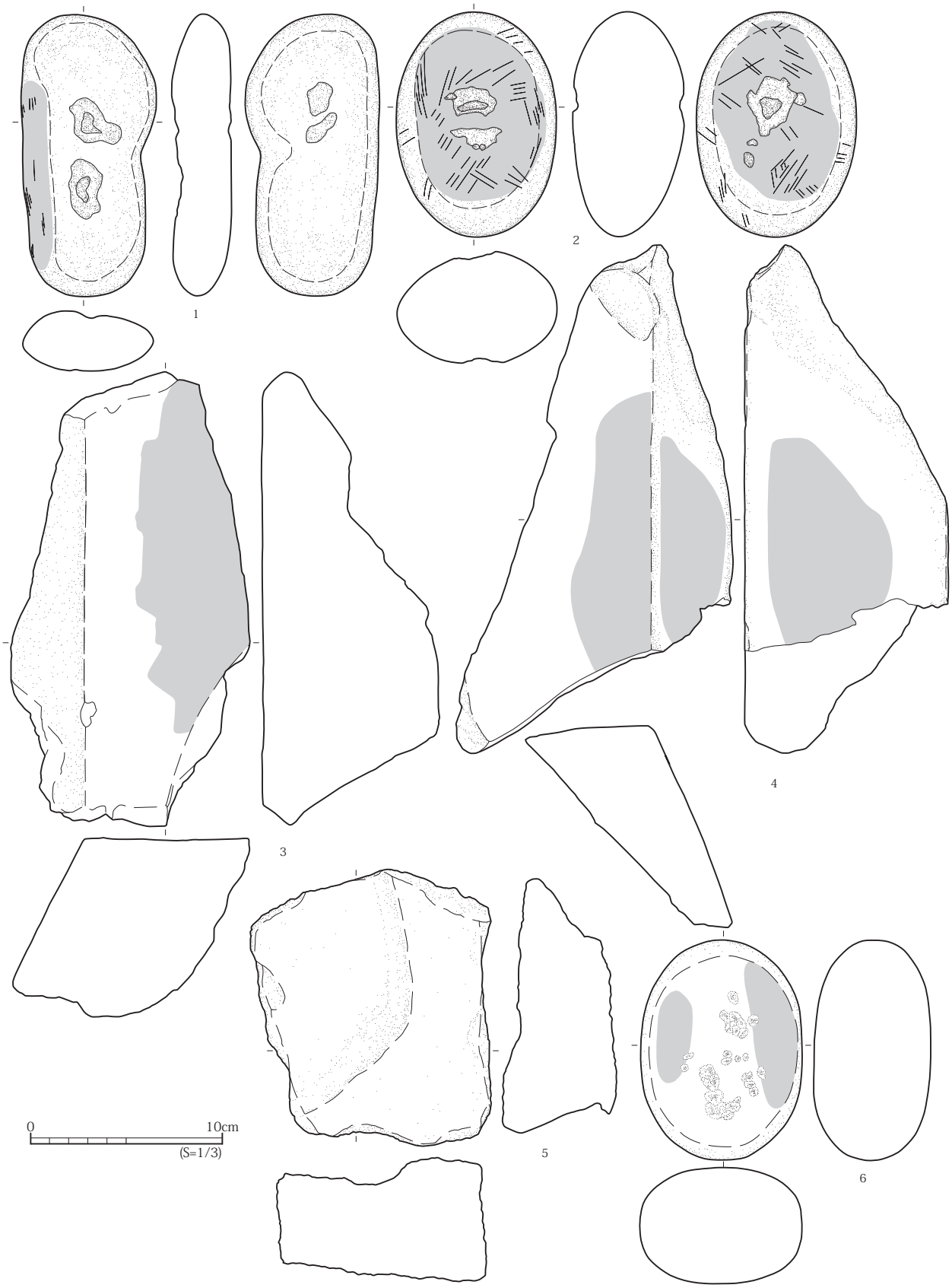
【SK56土坑】（遺構：第37図・第５表、遺物：第40図）

C区南西に位置する。上端は径1.1mの円形、下端は径1.3mの円形で、壁がオーバーハングしており、外側に５～19cm広がる。深さは114cmで、断面形はフラスコ形である。堆積土は８層に分けられ、いずれも自然堆積である。堆積土から縄文土器（第40図６）、底面から縄文土器（第40図４・５・７）、



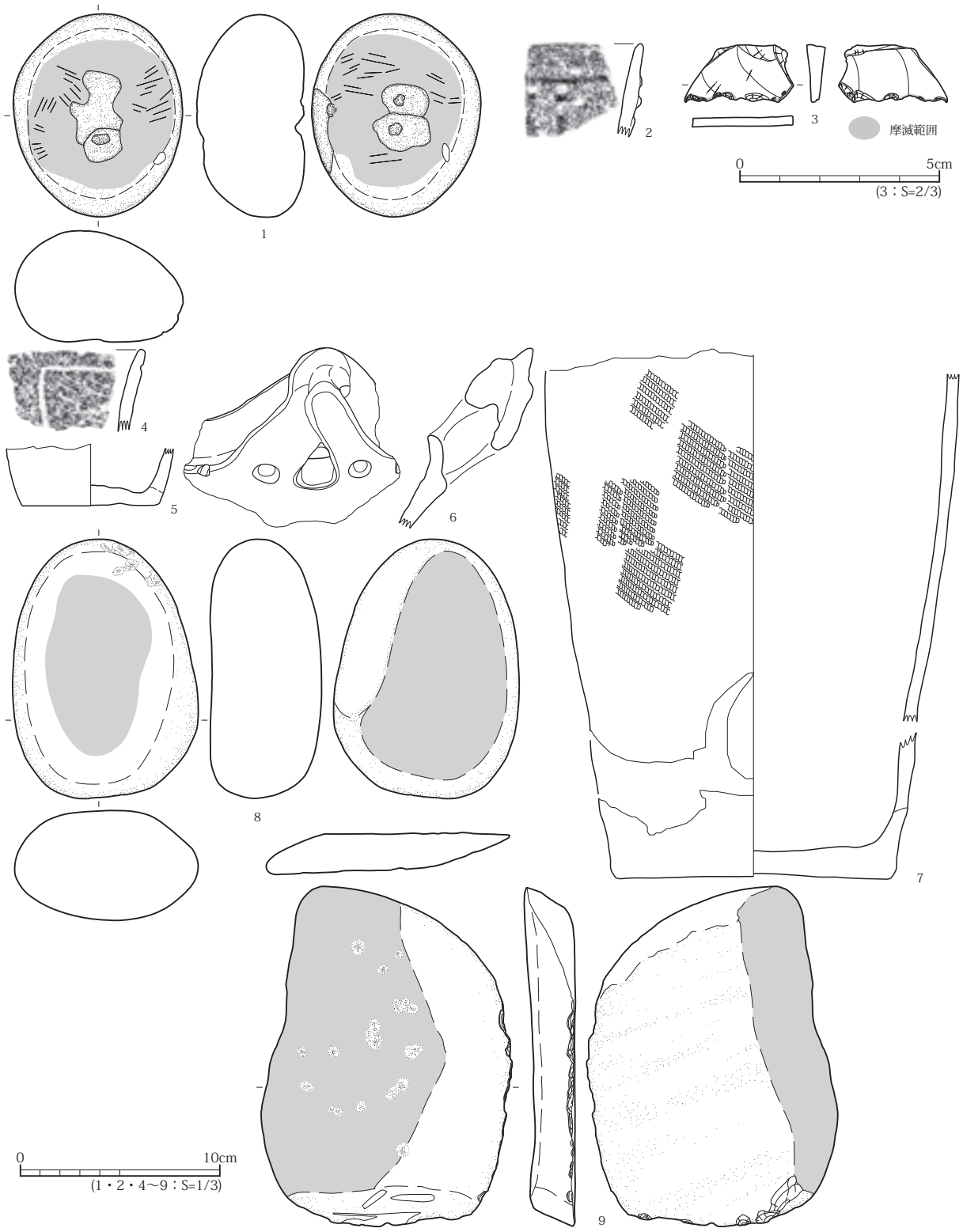
番号	遺構・層	器種	特徴	写真	登録番号
1	SK52・9層	深鉢	縄文（LRか）→隆沈線＋２個１対の刻み	28－2	pa040
2	SK52・堆積土	深鉢	口径（19.9㎝）、縄文（RLか）→沈線→鎮状隆線文	28－4	pa043
3	SK52・堆積土	深鉢	口径13.6㎝、縄文（RL）	28－1	pa042
4	SK52・堆積土	深鉢	底径（9.5㎝）、底面：網代痕(２本越１本潜２本送)	28－5	pa044
5	SK52・9層	円盤状土製品	最大径43.8㎜、幅43.5㎜、打ち欠き、研磨	28－3	Pd01
6	SK52・上層	円盤状石製品	安山岩、長さ59.9mm、幅53.9mm、厚さ13.7mm、重さ54.5g	28－6	S 302
7	SK52・7層	円盤状石製品	粘板岩、長さ64.0mm、幅62.0mm、厚さ9.0mm、重さ43.4g、自然面あり	28－7	S 280
8	SK52・8層	磨石	安山岩、長さ208.5mm、幅40.5mm、厚さ33.6mm、重さ369.0g	28－10	S 459
9	SK52・8層	磨石	粘板岩、長さ274.2mm、幅50.6mm、厚さ29.2mm、重さ468.5g	28－9	S 460
10	SK52・8層	磨石	安山岩、長さ117.2mm、幅108.5mm、厚さ72.1mm、重さ1535g	28－11	S 458

第38図　SK52土坑出土遺物（1）



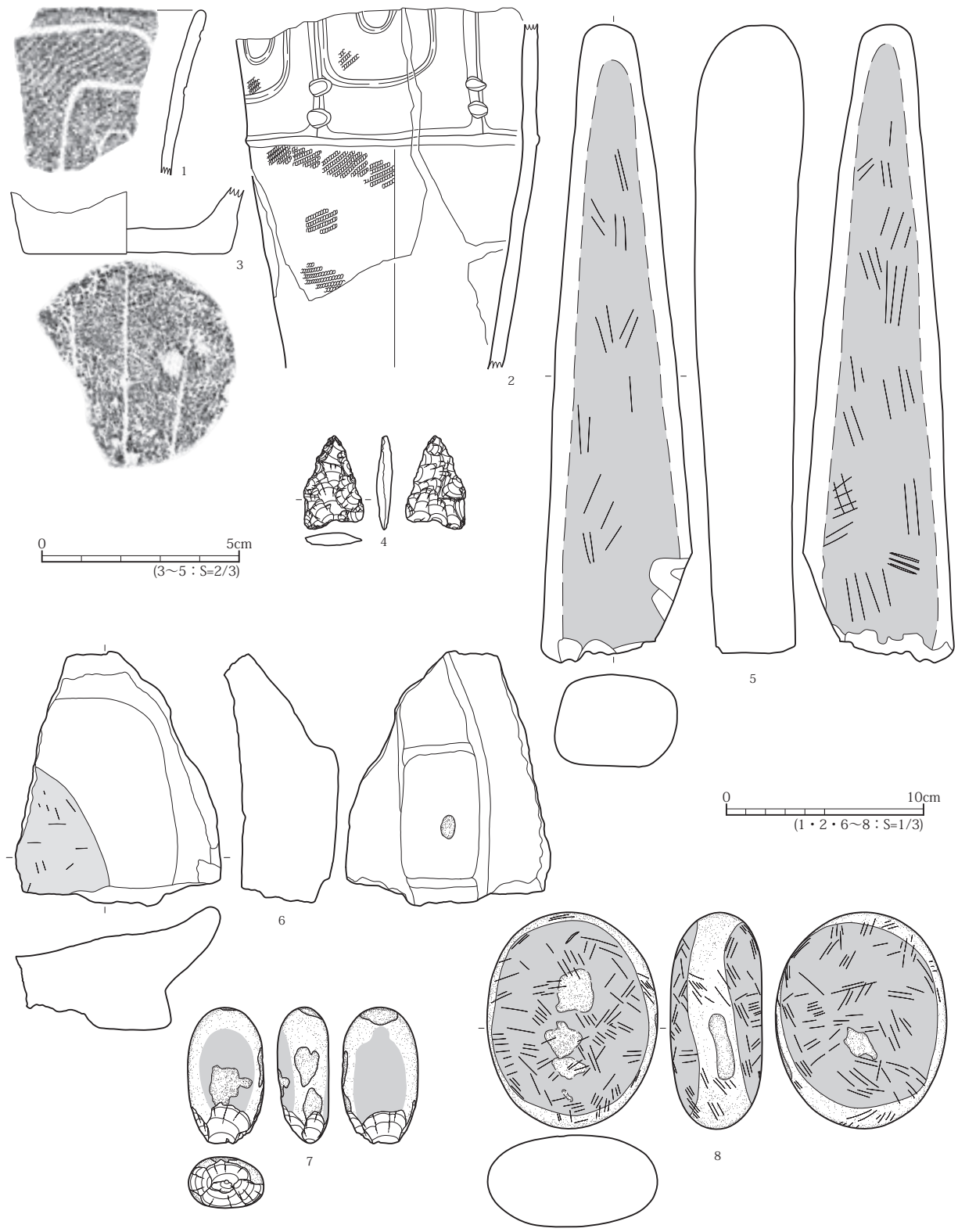
番号	遺構・層	器種	特徴	写真	登録番号
1	SK52・9層	凹石	安山岩、長さ146.2mm、幅70.1mm、厚さ30.5mm、重さ395.5g	28－8	S 264
2	SK52・底面	凹石	安山岩、長さ116.9mm、幅83.2mm、厚さ58.2mm、重さ724.5g、転用（磨石→）	28－12	S 285
3	SK52・底面	石皿	安山岩、長さ220.5mm、幅113.8mm、厚さ93.2mm、重さ2610g、被熱あり	28－15	S 466
4	SK52・底面	石皿	凝灰岩、長さ206.5mm、幅203.5mm、厚さ75.6mm、重さ1732.0g、被熱あり	28－16	S 467
5	SK52・底面	石皿	花崗岩、長さ134.8mm、幅116.8mm、厚さ63.3mm、重さ1689.0g	28－14	S 468
6	SK52・底面	凹石	安山岩、長さ113.5mm、幅83.8mm、厚さ59.4mm、重さ823.5g	28－13	S 469

第39図　SK52土坑出土遺物（2）



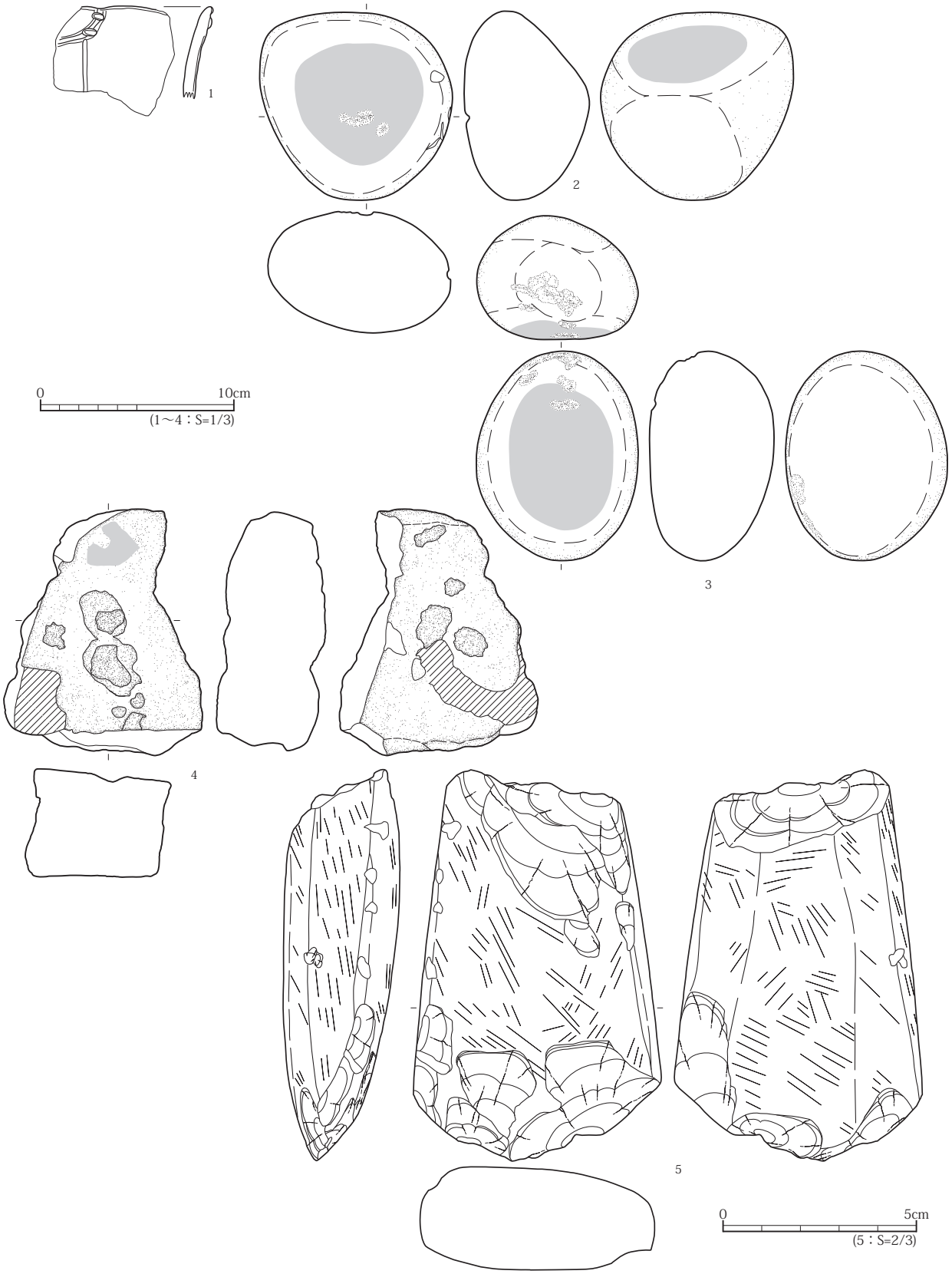
番号	遺構・層	器種	特徴	写真	登録番号
1	SK53・10層	凹石	安山岩、長さ100.9mm、幅84.1mm、厚さ56.2mm、重さ629.5g、転用（磨石→）	27－6	S 283
2	SK54・堆積土	深鉢	隆線文＋２個１対の刻み（斜位）	27－7	pa046
3	SK54・堆積土	不定形石器	黒色頁岩、長さ27.3mm、幅14.5mm、厚さ4.3mm、重さ1.7g、鋸歯状の刃部磨滅	27－8	S 212
4	SK56・底面	深鉢	縄文（RLか）→沈線	29－11	pa049
5	SK56・底面	深鉢	底径6.9cm	29－12	pa051
6	SK56・堆積土	深鉢	突起に盲孔＋刻み目文（２個１対か）	29－10	pa052
7	SK56・底面	深鉢	底径13.8cm、縄文（RL)	29－9	pa050
8	SK56・底面	磨石	安山岩、長さ127.2mm、幅91.4mm、厚さ56.7mm、重さ947.0 g	29－13	S 409
9	SK56・底面	石皿	凝灰岩、長さ171.3mm、幅121.3mm、厚さ21.3mm、重さ546.0 g	29－14	S 410

第40図　SK53・54・56土坑出土遺物



番号	遺構・層	器種	特徴	写真	登録番号
1	SK55・９～10層	深鉢	縄文（LR）→沈線	29－2	pa047
2	SK55・９～10層	深鉢	縄文（LR)→隆線→沈線文→２個１対の刻み目	29－1	pa048
3	SK55・９～10層	ミニチュア土器	底径51.7㎜、底面：木葉痕	29－3	pm001
4	SK55・８～9層	石鏃	珪質頁岩、長さ22.5mm、幅15.3mm、厚さ3.3mm、重さ1.2g	29－5	S 119
5	SK55・８～9層	石刀	安山岩、長さ158.5mm、幅36.3mm、厚さ27.3mm、重さ192.0g	29－4	S 413
6	SK55・９～10層	脚付石皿	凝灰岩、長さ130.9mm、幅106.1mm、厚さ49.8mm、重さ616.0g	29－8	S 107
7	SK55・９～10層	敲石	安山岩、長さ68.1mm、幅38.0mm、厚さ26.6mm、重さ95.5g、転用（磨石→）	29－6	S 296
8	SK55・堆積土	凹石	安山岩、長さ118.6mm、幅85.1mm、厚さ46.4mm、重さ652.5g、転用（磨石→）	29－7	S 310

第41図　SK55土坑出土遺物



番号	遺構・層	器種	特徴	写真	登録番号
1	SK57	深鉢	ヒレ状隆線文→２個１対の刻み・沈線	27－9	pa053
2	SK57・12～14層	凹石	安山岩、長さ104.1mm、幅94.2mm、厚さ62.4mm、重さ780g、転用（磨石→）	27－11	S 415
3	SK57・底面	磨石	安山岩、長さ106.8mm、幅82.9mm、厚さ63.5mm、重さ736.5g	27－12	S 416
4	SK57・底面	凹石	凝灰岩、長さ124.3mm、幅101.9mm、厚さ53.1mm、重さ869.5g	27－13	S 312
5	SK57・堆積土	磨製石斧	凝灰岩、長さ101.1mm、幅67.8mm、厚さ29.3mm、重さ255.9g、刃部欠損	27－10	S 205

第42図　SK57土坑出土遺物

磨石（第40図８）、石皿（第40図９）が出土している。縄文土器には方形区画文（第40図４）や環状把手に盲孔と刻み目文（第40図６）が施されたものがある。

【SK57土坑】（遺構：第37図・第５表、遺物：第42図）

C区南西に位置する。上端は径1.2mの円形、下端は径1.4mの不整円形で、壁がオーバーハングしており、外側に８～19cm広がる。深さは155cmで、断面形はフラスコ形である。底面中央にピットが認められる。ピットは長軸44cm、短軸33cmの楕円形で、深さは９cmである。堆積土は14層に分けられる。７・８層は炭化物や焼土粒を含む人為的な廃棄土層で、その他は自然堆積である。堆積土から、２個１対の刻み目文が施された縄文土器（第42図１）、磨製石斧（第42図５）、凹石（第42図２）、底面から凹石（第42図３・４）が出土している。

③その他の土坑

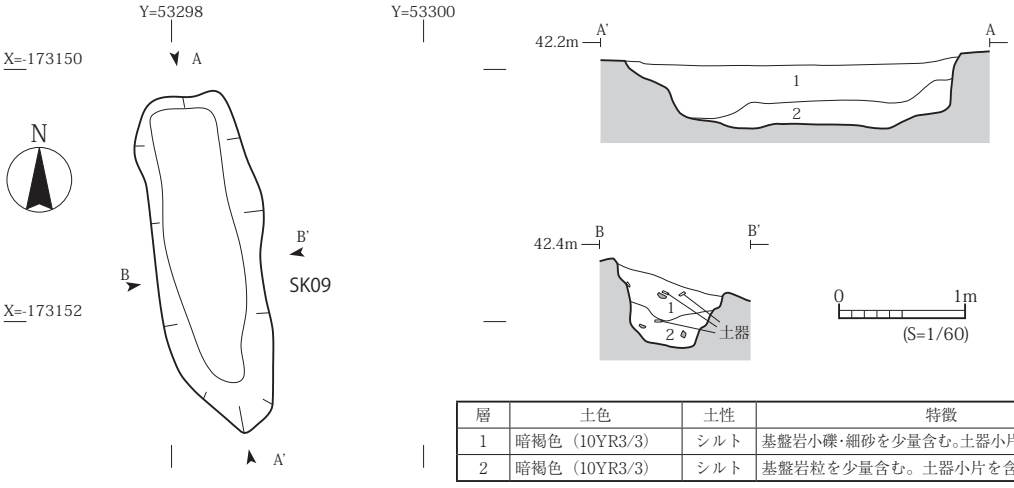
形態が特徴的な土坑としては、平面形が長軸2.7mの長楕円形のもの（SK09：第43図）と断面形がフラスコ形のもの（SK01：第45図）がある。その他、SK02・34・49・60・86土坑で縄文土器や石器が（第46～48図）が出土している。

【SK09土坑】（遺構：第43図、遺物：第44図）

C区中央に位置する。長軸2.7m、短軸0.9mの長楕円形で、深さは71cmである。断面形は逆台形である。堆積土は２層に分けられ、いずれも自然堆積とみられる。堆積土から縄文土器（第44図１～４）、石鏃（第44図５）、石錐（第44図６・８）、楔形石器（第44図７）、磨石（第44図８）、石皿（第44図９）、砥石（第44図11）が出土している。縄文土器には沈線文（第44図１・３・４）、隆線文（第44図２）が施されたものがある。

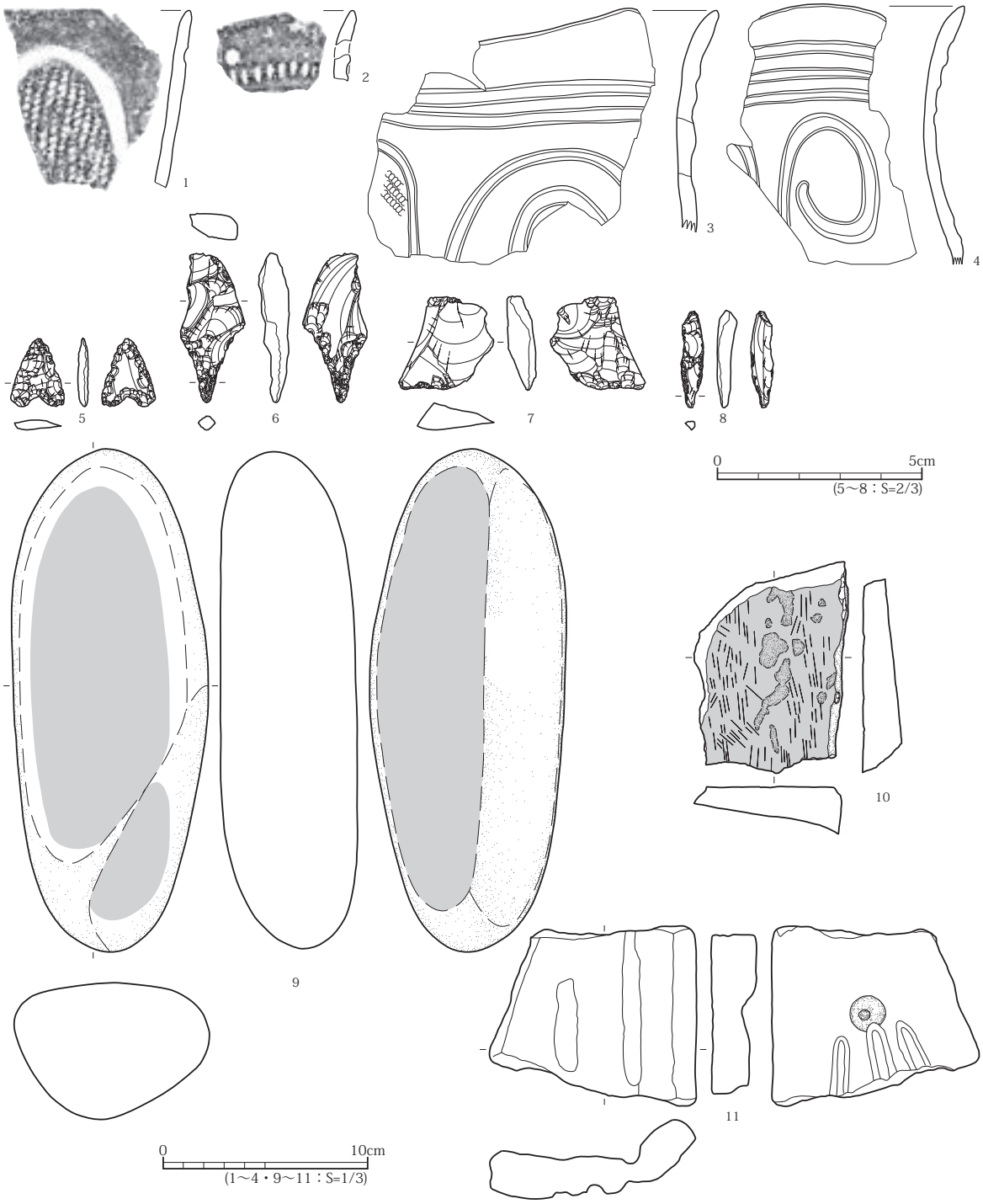
【SK01土坑】（第45図）

試掘調査で検出された土坑で、C区南に位置する。SI91竪穴建物跡より新しい。上端は長軸1.2m、短軸1.0mの楕円形、下端は径1.3mの円形で、壁はオーバーハングしており、外側に６～16cm広がる。深さは121cmで、断面形はフラスコ形である。底面の南東隅にピットが認められる。ピットは径22cmの円形で、深さは８cmである。堆積土は21層に分けられる。６層、８・９層、13・14・18層は焼土や炭化物を含む人為的な廃棄土層で、その他は自然堆積である。堆積土上部から縄文土器（第45



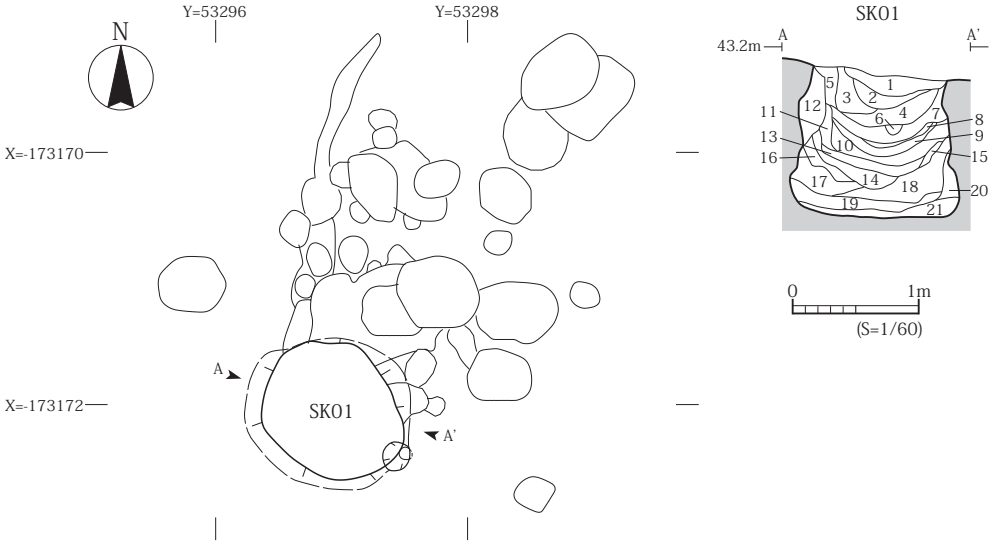
層	土色	土性	特徴	解釈
1	暗褐色（10YR3/3）	シルト	基盤岩小礫･細砂を少量含む。土器小片含む。	人為堆積か
2	暗褐色（10YR3/3）	シルト	基盤岩粒を少量含む。土器小片を含む。	人為堆積か

第43図　SK09土坑

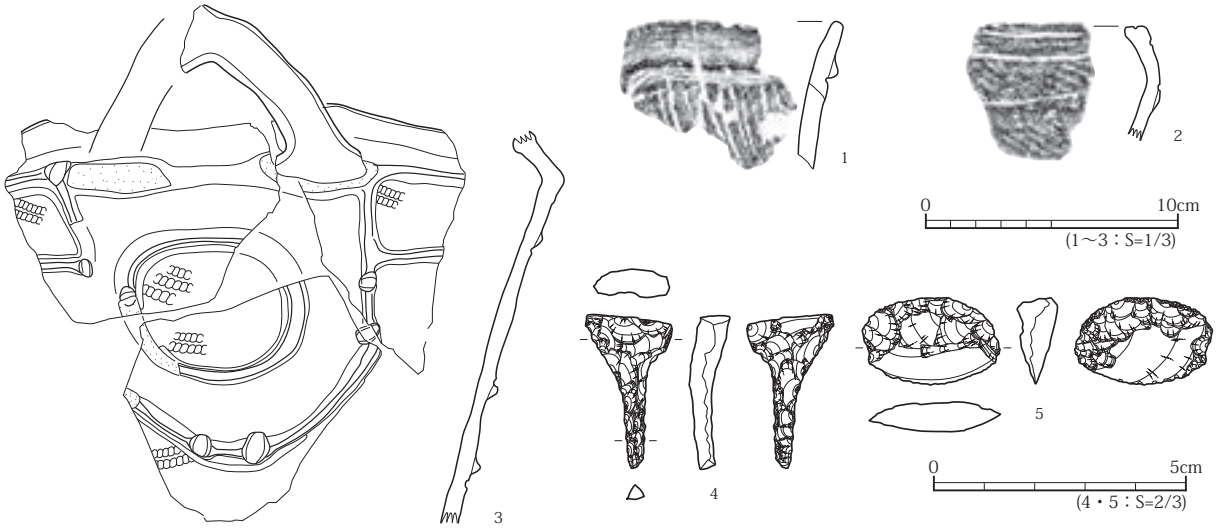


番号	遺構・層	器種	特徴	写真	登録番号
1	SK09・1層	深鉢	平縁、縄文（RLR）→沈線（幅広）	26－1	pa036
2	SK09・1層	深鉢	波状口縁、隆線→連続刺突文（縦位）、補修孔（両側穿孔）	26－2	pa037
3	SK09・2層	深鉢	波状口縁、縄文（RLか）→沈線	26－3	pa038
4	SK09・2層	深鉢	波状口縁、縄文（RLか）→沈線（幅広）	26－4	pa039
5	SK09・1層	石鏃	珪質頁岩、長さ16.5mm、幅12.8mm、厚さ2.1mm、重さ0.5g	26－5	S 109
6	SK09・1層	石錐	珪質頁岩、長さ37.3mm、幅15.4mm、厚さ6.4mm、重さ3.1g	26－6	S 122
7	SK09・1層	楔形石器	珪質凝灰岩、長さ26.3mm、幅19.2mm、厚さ6.6mm、重さ2.7g	26－8	S 179
8	SK09・2層	石錐	珪質頁岩、長さ23.4mm、幅5.4mm、厚さ4.2mm、重さ0.5g	26－7	S 228
9	SK09・1層	磨石	安山岩、長さ239.8mm、幅95.3mm、厚さ66.3mm、重さ2253g	26－11	S 485
10	SK09・1層	石皿	凝灰岩、長さ115.2mm、幅72.1mm、厚さ22.5mm、重さ202.9g	26－9	S 314
11	SK09・2層	砥石	安山岩、長さ100.5mm、幅86.0mm、厚さ23.5mm、重さ246.1g、転用（石皿→）	26－10	S 273

第44図　SK09土坑出土遺物



遺構	層	土　色	土性	特　　徴	性格
SK01	1	黒褐色(10YR2/3)	粘土質シルト	基盤岩粒を少量含む。焼土・炭化物粒を極少量含む。土器片混入。	自然堆積
	2	黒褐色(10YR3/2)	粘土質シルト	基盤岩細礫・炭化物粒を極少量含む。	自然堆積
	3	暗褐色(10YR3/3)	粘土質シルト	基盤岩細礫を含む。焼土粒・炭化物粒を極少量含む。土器片混入。	自然堆積
	4	暗褐色(10YR3/4)	粘土質シルト	基盤岩粒・焼土粒・炭化物粒を極少量含む。	自然堆積
	5	灰黄褐色(10YR4/2)	粘土質シルト	基盤岩粒を少量含む。焼土粒・炭化物粒を極少量含む。	自然堆積
	6	灰黄褐色(10YR4/2)	粘土質シルト	地山粘土ブロックを多量含む。焼土小ブロック・炭化物粒小を極少量含む。	人為堆積
	7	暗褐色(10YR3/4)	粘土質シルト	砂岩粒・焼土粒小・炭化物粒を極少量含む。	自然堆積
	8	明赤褐色(5YR3/4)	粘土質シルト	焼土主体。炭化物粒を極少量含む。	人為堆積
	9	灰黄褐色(10YR4/2)	粘土質シルト	炭化物主体。焼土粒を極少量含む。	人為堆積
	10	暗褐色(10YR3/4)	粘土質シルト	焼土粒・炭化物粒を極少量含む。	自然堆積
	11	黒褐色(10YR3/2)	粘土質シルト	基盤岩粒・炭化物を極少量含む。	自然堆積
	12	褐色(10YR4/6)	粘土質シルト	炭化物粒を極少量含む。	壁崩落土
	13	黒褐色(10YR2/2)	粘土質シルト	炭化物層。	人為堆積
	14	黒褐色(7.5YR3/2)	粘土質シルト	焼土主体。基盤岩細礫・炭化物粒を極少量含む。	人為堆積
	15	暗褐色(10YR3/3)	粘土質シルト	泥岩細礫を含む。炭化物粒を極少量含む。	自然堆積
	16	暗褐色(10YR3/4)	粘土質シルト	基盤岩粒・焼土粒・炭化物粒を極少量含む。	自然堆積
	17	灰黄褐色(10YR4/2)	粘土質シルト	地山粘土ブロックを含む。焼土粒・炭化物粒を極少量含む。	自然堆積
	18	暗褐色(10YR3/4)	粘土質シルト	基盤岩細礫を含む。焼土粒・炭化物粒を少量含む。土器片混入。	人為堆積
	19	褐色(10YR4/6)	粘土質シルト	地山粘土ブロック・基盤岩粒を多量含む。	自然堆積
	20	暗褐色(10YR3/3)	粘土質シルト	基盤岩粒を含む。焼土粒・炭化物粒を極少量含む。	自然堆積
	21	黒褐色(10YR3/2)	粘土質シルト	基盤岩粒～細礫を少量含む。炭化物粒を極少量含む。	自然堆積



番号	遺構・層	器種	特徴	写真	登録番号
1	SK01・5～7層	深鉢	平縁、撚糸文（L）→隆沈線	27－2	pa054
2	SK01・21層	深鉢	平縁、口唇部に沈線１条、外面：縄文（RLか）→沈線	27－3	pa056
3	SK01・21層	深鉢	波状縁、環状突起、縄文（RL)→隆沈線文→２個１対の刻み	27－1	pa055
4	SK01・21層	石錐	珪質頁岩、長さ29.8mm、幅17.1mm、厚さ5.1mm、重さ1.9g、錐部欠小	27－4	S 106
5	SK01・下層	不定形石器	珪質頁岩、長さ17.3mm、幅27.2mm、厚さ7.9mm、重さ3.1g	27－5	S 214

第45図　SK01土坑と出土遺物

図１）、堆積土下層から不定形石器（第45図５）、底面直上（21層）から縄文土器（第45図２・３）、石錐（第45図４）が出土している。第45図３は環状把手が付く縄文土器で、隆線に２個１対の刻み目文が施されている。

【SK02土坑】（第46図）

試掘調査で検出された土坑で、C区北に位置する。長軸0.7m、短軸0.5mの楕円形で、深さは26cmある。断面形は逆台形である。堆積土は自然堆積である。堆積土から隆線文の施された縄文土器（第46図１）、楔形石器（第46図２）が出土している。

【SK45土坑】（第46図）

C区北に位置する。P123より古い。径0.9mの円形で、深さは25㎝である。断面形は逆台形状である。堆積土は７層に分けられ、１～４層は人為堆積、５～７層は自然堆積である。堆積土１層から磨石（第46図３）が出土しているほか、１・３層から10～30cm大の亜角礫や縄文土器の小片が出土している。

【SK60土坑】（遺構：第46図、遺物：第47図）

C区南に位置する。長軸0.8m、短軸0.6mの楕円形で、深さは36㎝である。断面形は逆台形である。堆積土は人為堆積である。堆積土から石皿（第47図１・２）と縄文土器の小片が出土している。

【SK86土坑】（遺構：第10図、遺物：第48図）

B区南西に位置する。SI66竪穴建物跡より新しい。径0.6mの不整円形で、深さは18cmである。堆積土は２層に分けられ、いずれも人為堆積である。１層から隆線文が施された縄文土器（第48図２）が出土している。

【SK34土坑】（遺構：第20図、遺物：第48図）

C区北に位置する。長軸1.1m、短軸0.9mの楕円形で、深さは28cmである。断面形は皿状である。堆積土は人為堆積とみられる。堆積土から凹石（第48図１）や縄文土器の小片が出土している。

【SK49土坑】（遺構：第37図、遺物：第48図）

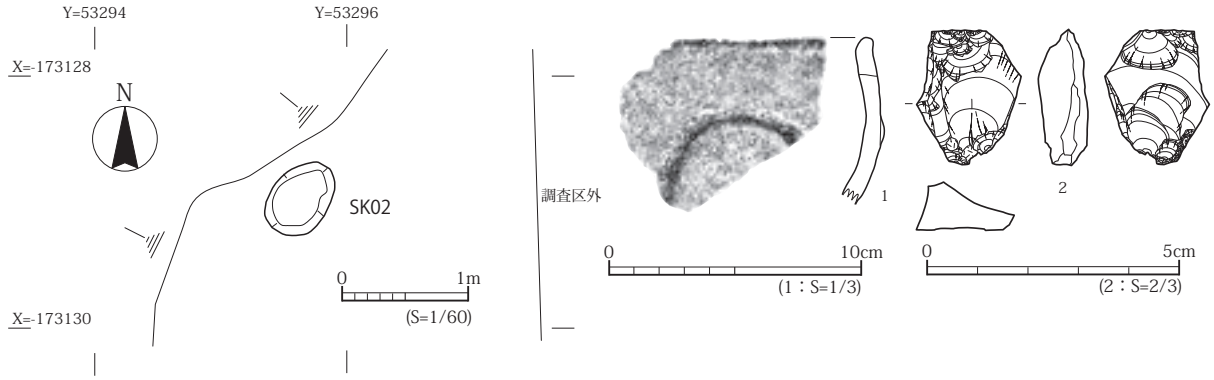
C区南に位置する。径0.6mの不整円形で、深さは24cmである。断面形は逆台形である。堆積土は単層で、人為堆積である。堆積土から板状石器（第48図３）や縄文土器の小片が出土している。

（５）遺物包含層

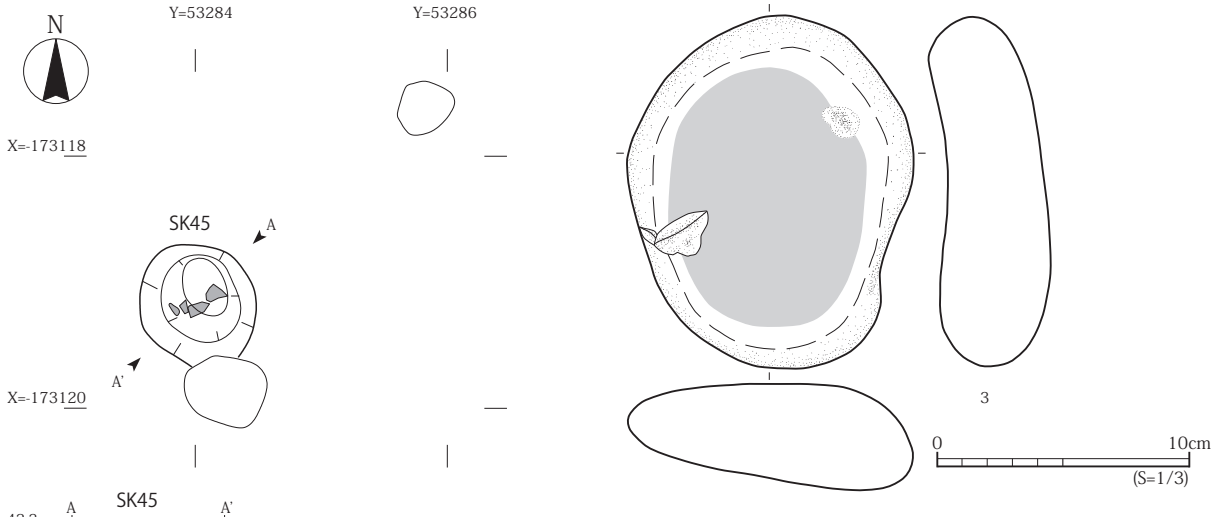
遺物包含層は丘陵の北斜面際（A区北端・SX30）、西斜面に北西から入る沢の先端（E区・SX110）、西斜面に西から入る沢の先端（D区西・SX10）の３ヶ所で確認されている。このうちE区のSX110遺物包含層では鳥獣骨・魚骨・貝類などを含む貝層が確認されている。

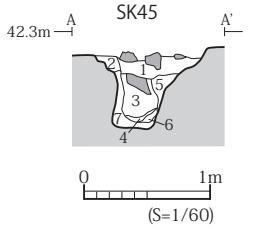
【SX30遺物包含層】（第49・50図）

A区の北端に位置する。A区は近現代の造成で段状に削平されており、B区の北端より標高が約0.7～2.1m低くなっている。SX30遺物包含層は丘陵北斜面に入る溝状の沢を埋める形で形成されたとみられるが、北側を近現代の造成や撹乱で壊されており、検出長は東西1.8m、南北2.5mに限られる。深さは48cmで、断面形は皿状である。堆積土は２層に分けられ、いずれも炭化物を含む暗褐色粘土



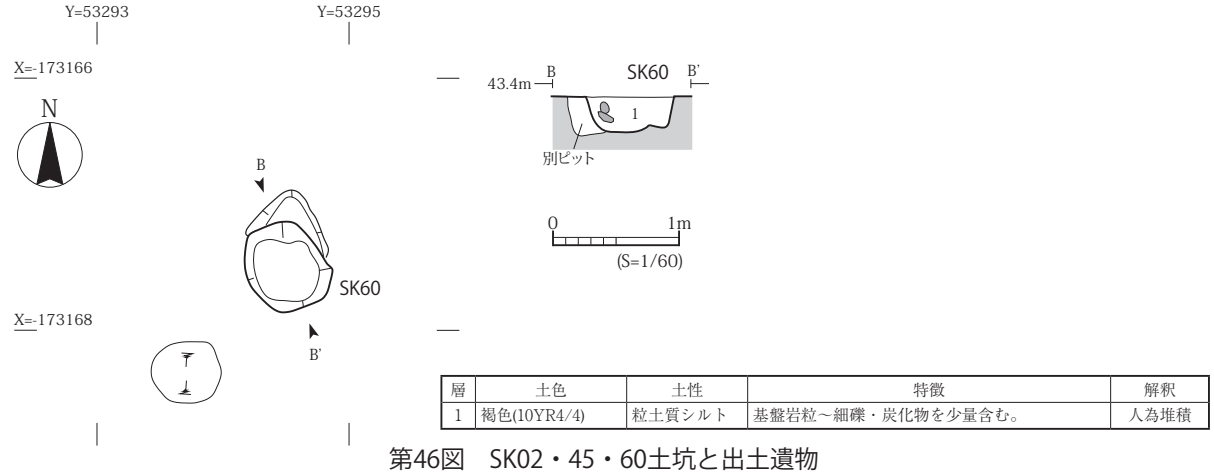
番号	遺構・層	器種	特徴	写真	登録番号
1	SK02・堆積土	深鉢	平縁、縄文（RLか）・隆線文	25－6	pa035
2	SK02・堆積土	楔形石器	珪質頁岩、長さ27.0mm、幅20.9mm、厚さ10.4mm、重さ4.5g	25－7	S 217





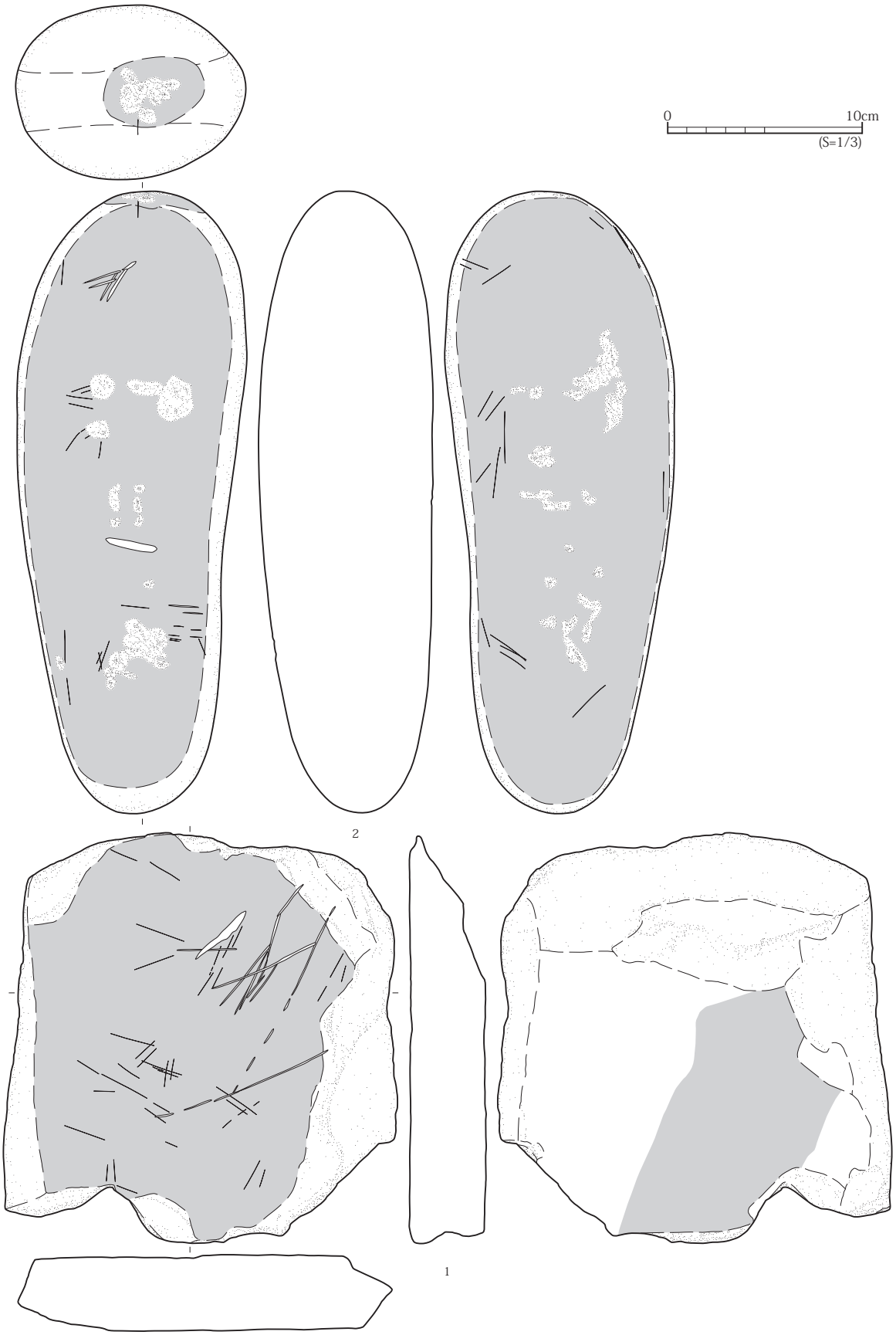
遺構	層	土色	土性	特徴	解釈
SK45	1	褐色(10YR4/4)	砂質シルト	基盤岩粒～細礫・炭化物を極少量含む。	人為堆積
	2	にぶい黄褐色(10YR4/3)	砂質シルト	基盤岩細礫を多く含む。	人為堆積
	3	褐色(10YR4/4)	砂質シルト	基盤岩粒・炭化物を少量含む。	人為堆積
	4	暗褐色(10YR3/4)	シルト	炭化物層。	人為堆積
	5	黄褐色(10YR4/6)	シルト	基盤岩細礫を含む。亜角礫含む。	崩落土か
	6	黄褐色(2.5Y5/3)	砂質シルト	基盤岩粒を極少量含む。	自然堆積
	7	褐色(10YR4/6)	砂質シルト	基盤岩粒を少量含む。	自然堆積

番号	遺構・層	器種	特徴	写真	登録番号
3	SK45・1層	磨石	安山岩、長さ138.7mm、幅114.6mm、厚さ44.2mm、重さ955.5g	25－12	S 452



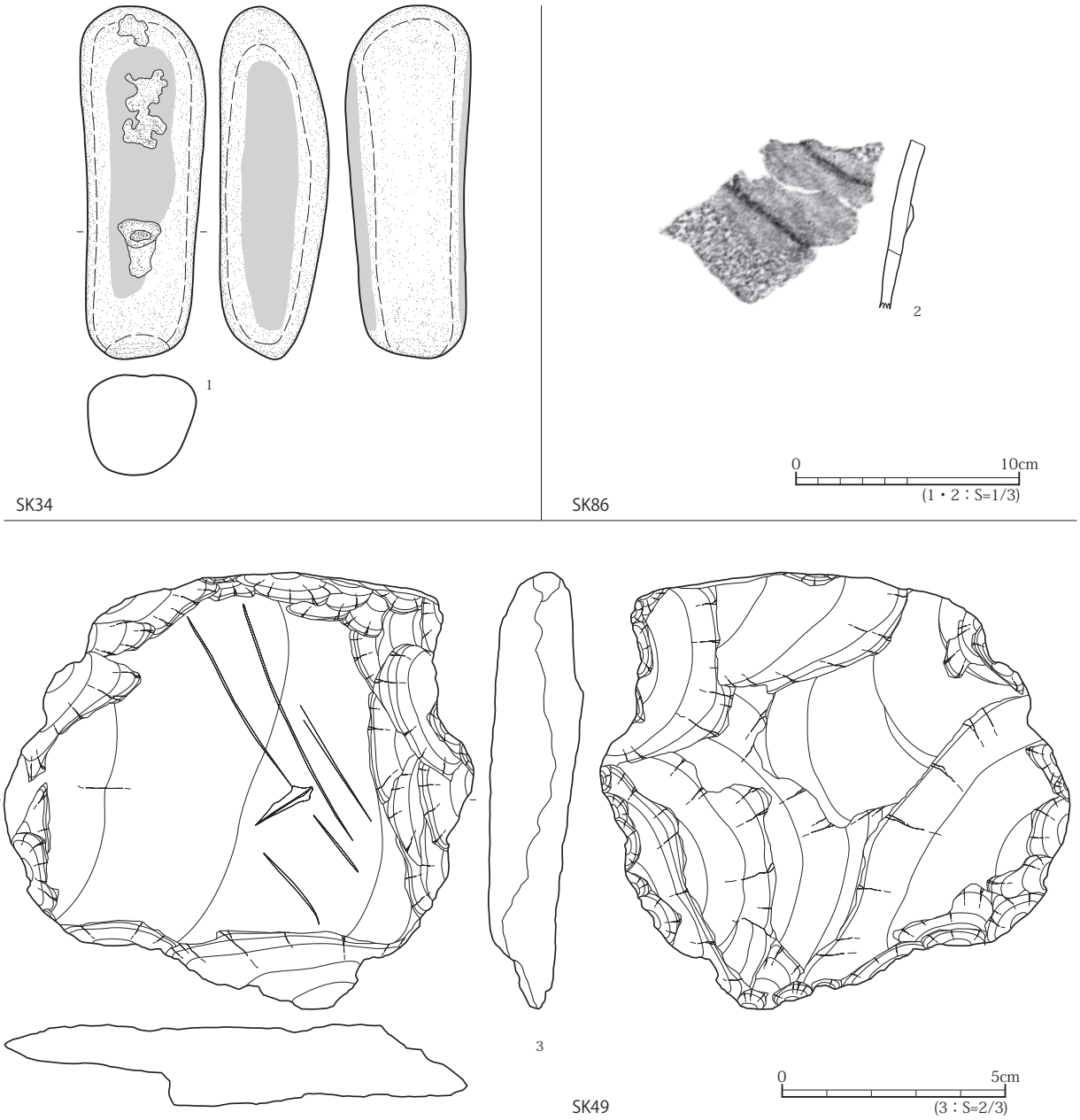
層	土色	土性	特徴	解釈
1	褐色(10YR4/4)	粒土質シルト	基盤岩粒～細礫・炭化物を少量含む。	人為堆積

第46図　SK02・45・60土坑と出土遺物



番号	遺構・層	器種	特徴	写真	登録番号
1	SK60・1層	石皿	安山岩、長さ205.5mm、幅197.5mm、厚さ40.5mm、重さ2333g	26－13	S 486
2	SK60・1層	石皿	安山岩、長さ315.5mm、幅111.9mm、厚さ83.1mm、重さ4600g	26－12	S 488

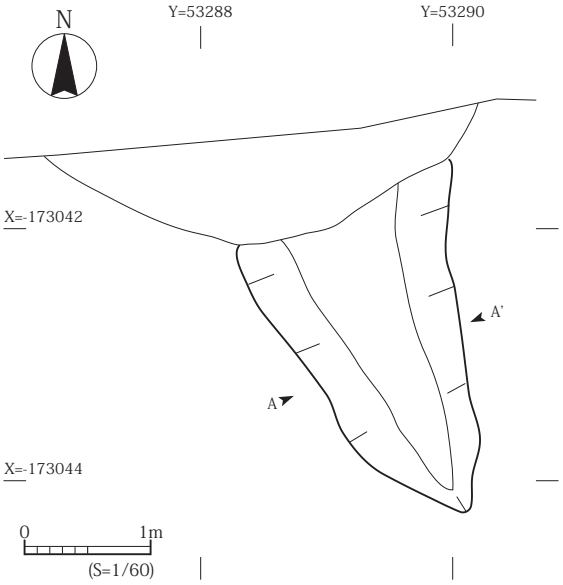
第47図　SK60土坑出土石器



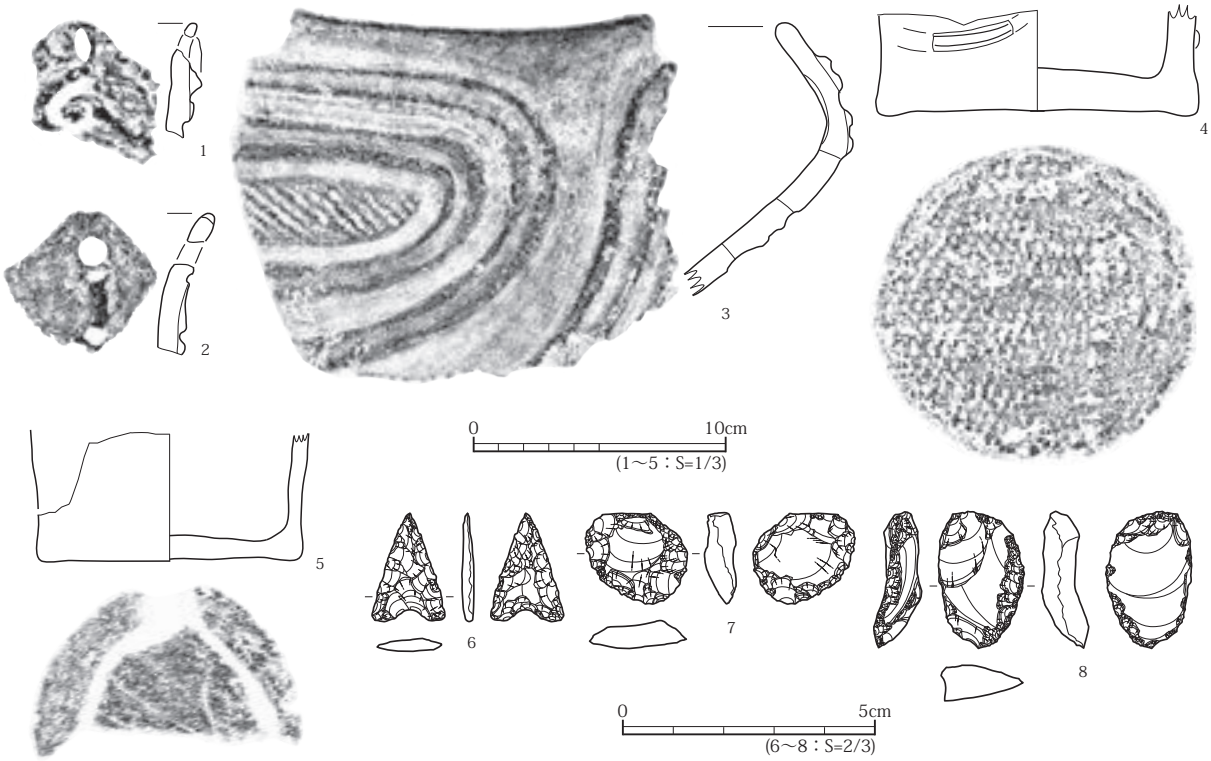
	遺構・層	器種	特徴	写真	登録番号
1	SK34・堆積土	凹石	安山岩、長さ155.2mm、幅54.8mm、厚さ48.2mm、重さ634.0g、転用（磨石→）	25－13	S 269
2	SK86・1層底面	深鉢	縄文（RL)→隆線文	25－8	pa030
3	SK49・堆積土	板状石器	粘板岩、長さ104.5mm、幅98.1mm、厚さ17mm、重さ190.4g	25－14	S 278

第 48 図　SK34・86・49土坑出土遺物

質シルトで、自然堆積である。堆積土１層から縄文土器（第49図１・２）、堆積土２層及び底面付近から縄文土器（第49図３～５）、石鏃（第49図６）、不定形石器（第49図７・８）、磨石（第50図１）、凹石（第50図２）、石皿（第50図３）が出土している。縄文土器には厚手の隆沈線文土器（第49図３）や隆線に２個１対の刻み目文が施されるもの（第49図２）がある。

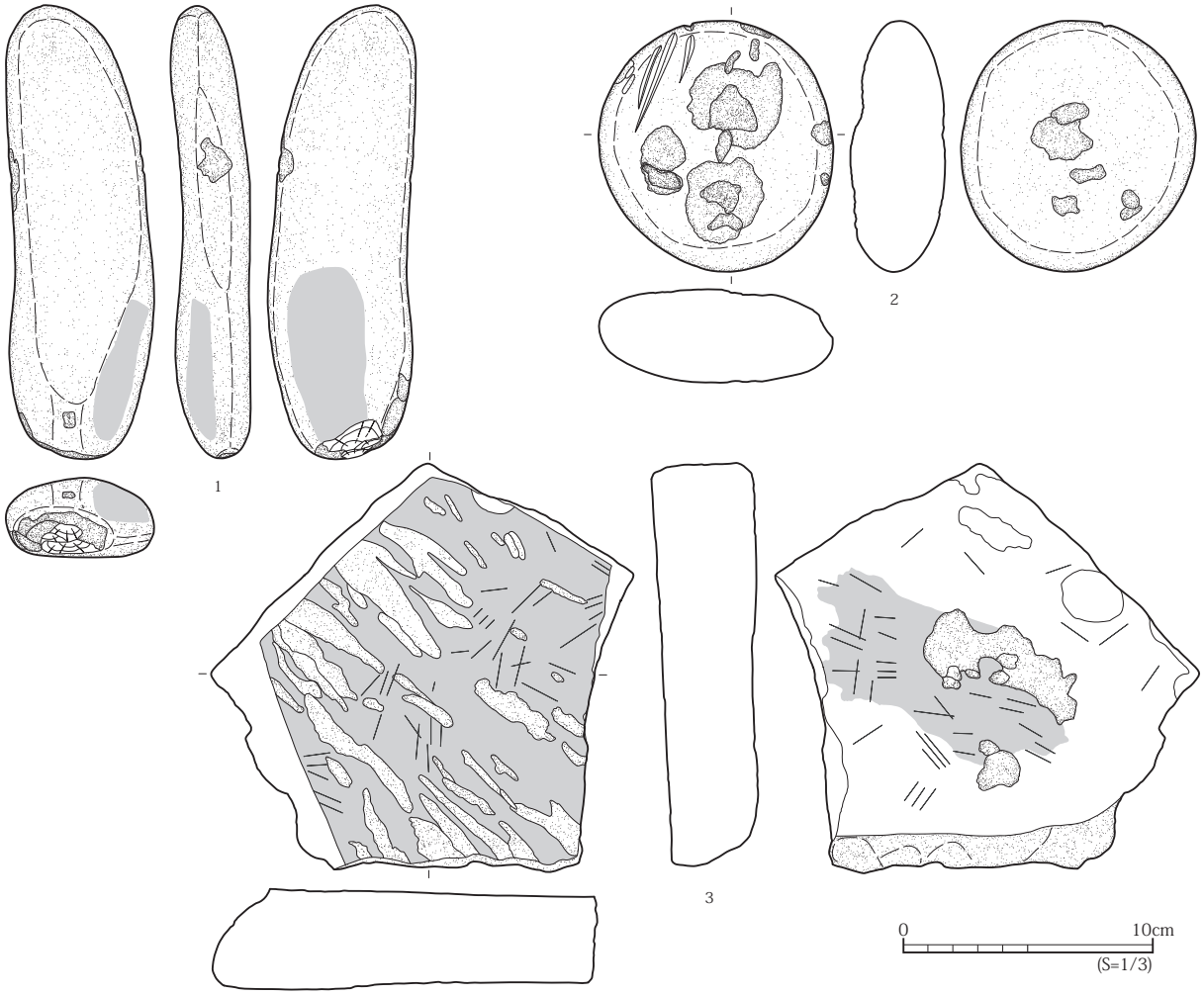


遺構名	層	土色	土性	特徴	性格
SX30	1	暗褐色(10YR3/4)	粘土質シルト	地山由来の細礫・炭化物を多く含む。	自然堆積
	2	暗褐色(10YR3/3)	粘土質シルト	地山由来の細礫を多く含む。炭化物を含む。	自然堆積



番号	遺構・層	器種	特徴	写真	登録番号
1	SX30・1層	深鉢	波状口縁、波頂部に貫通孔、隆沈線文（渦巻状文）	30－３	pa001
2	SX30・1層	深鉢	波状口縁、波頂部に貫通孔、隆線文→刻み（横位）、口唇部に刻み	30－２	pa002
3	SX30・2層	深鉢	平縁、縄文（RL)→隆沈線文	30－１	pa004
4	SX30・2層	深鉢	底径12.8cm、隆線文、底面：網代痕(３本越１本潜２本送か)	30－５	pa005
5	SX30・2層	深鉢	底径10.6㎝、底面：木葉痕	30－４	pa003
6	SX30・2層	石鏃	珪質頁岩、長さ21.4mm、幅14.4mm、厚さ2.2mm、重さ0.6g	30－６	S 114
7	SX30・2層	不定形石器	珪質頁岩、長さ16.6mm、幅21.3mm、厚さ5.4mm、重さ2.3g	30－８	S 026
8	SX30・2層	不定形石器	珪質頁岩、長さ27.2mm、幅17.2mm、厚さ7.2mm、重さ3.8g	30－７	S 027

第49図　SX30遺物包含層と出土遺物



番号	遺構・層	器種	特徴	写真	登録番号
1	SX30・2層	磨石	安山岩、長さ183.5mm、幅57.6mm、厚さ29.8mm、重さ329.0g	30－11	S 326
2	SX30・2層	凹石	安山岩、長さ96.5mm、幅96.1mm、厚さ38.0mm、重さ451.0g	30－ 9	S 324
3	SX30・2層	石皿	凝灰岩、長さ162.45mm、幅145.8mm、厚さ40.5mm、重さ1472.5g	30－10	S 328

第 50 図　SX30遺物包含層出土遺物

【SX110遺物包含層・貝層】（遺構：第51図、遺物：第52～58図）

①調査の概要

E区に位置し、丘陵西斜面の北側に北西方向から入る沢の先端部にあたる。造成工事中に切土した面で土器・石器などの遺物や動物遺存体が散布していたことから確認された。E区の周辺は近現代の造成時に丘陵頂部を切土した土で高さ1.5m以上盛土されていた。試掘調査ではE区の北側にトレンチを設定して調査しているが、北側が低くなる斜面で、盛土が厚く堆積していたことから、調査深度が遺構面に達しなかった。造成工事では標高約40mに合わせて平坦に切土しており、遺物包含層・貝層を確認した時点で最大50cm程度上部が削平されていた可能性がある。造成後の面で遺構検出したところ、東西20.7m、南北6.8m以上に渡る遺物包含層と遺物包含層の中央に部分的に広がる貝層を確認した。工事による切土掘削が既に完了しており、検出面から30cm程度盛土されることから、貝層付近に設定したサブトレンチ（ST1）による部分的な断割り調査を中心とした確認調査にとどめ、残りの部分は現状保存することとした。ただし、貝層についてはサブトレンチを２ヶ所追加（ST1東拡張区、

ST2）して精査し、貝層土壌は土のう袋43袋分を回収し、ほぼ完掘した。

ST1部分ではSX110遺物包含層は基本層Ⅳ層に対応する旧表土１・２の直下から地山・地山漸移層（７・８層）の間に厚さ最大80cm堆積しており、６層に大別できた。１～３層は黒褐色のシルト～粘土質シルトで、土器・石器の出土量は少量～中量である。４層は炭化物小ブロックを多く含む暗褐色シルトで、上部より下部の方が炭化物や遺物の出土量が多く、特に貝層付近は遺物が多量に出土した。５層はカキ・アサリ・巻貝などの貝類を主体とする純貝層に近い混土貝層で、土器・石器が多量に出土した。分布範囲は東西3.5m、南北1.9mで厚さは最大28cmである。６層は地山由来の礫を多く含む暗褐色粘土質シルトで、土器・石器が中量、獣骨やマグロの骨が少量出土した。

②縄文土器（第52～55図、第６表）

SX110遺物包含層から出土した縄文土器は遺物収納箱で約14箱である。１～３層から出土した土器は小破片で器面が摩耗したものが多いが、４層～６層から出土した土器は他の遺構や遺物包含層から出土したものよりも器面の残存状況がよく、特に４層・５層（貝層）からは大型の破片や全体の1/3程度復元可能なものが出土している。掲載する資料については、口縁部、底部、文様の施されたものなど土器の特徴が捉えられる個体を出土状況が良好な４・５層を中心に抽出し、38点を図示した。以下では層ごとにどのような土器が出土しているかを示し、出土土器の年代的な位置付けや特徴については総括で述べることとする。

第６表　SX110遺物包含層・貝層出土器点数表

	総破片数	口縁部	底部	掲載
１層	31	1	0	0
２層	92	2	2	0
３～４層上部	690	62	24	8
４層	2247	204	125	13
５層	2443	155	58	14
６層	578	50	21	3
遺構確認面	726	46	22	0
計	6807	520	252	38

１～２層からは出土した縄文土器は極少量で、小破片で器面が摩耗したものが多い。土器の特徴は４層と類似する。

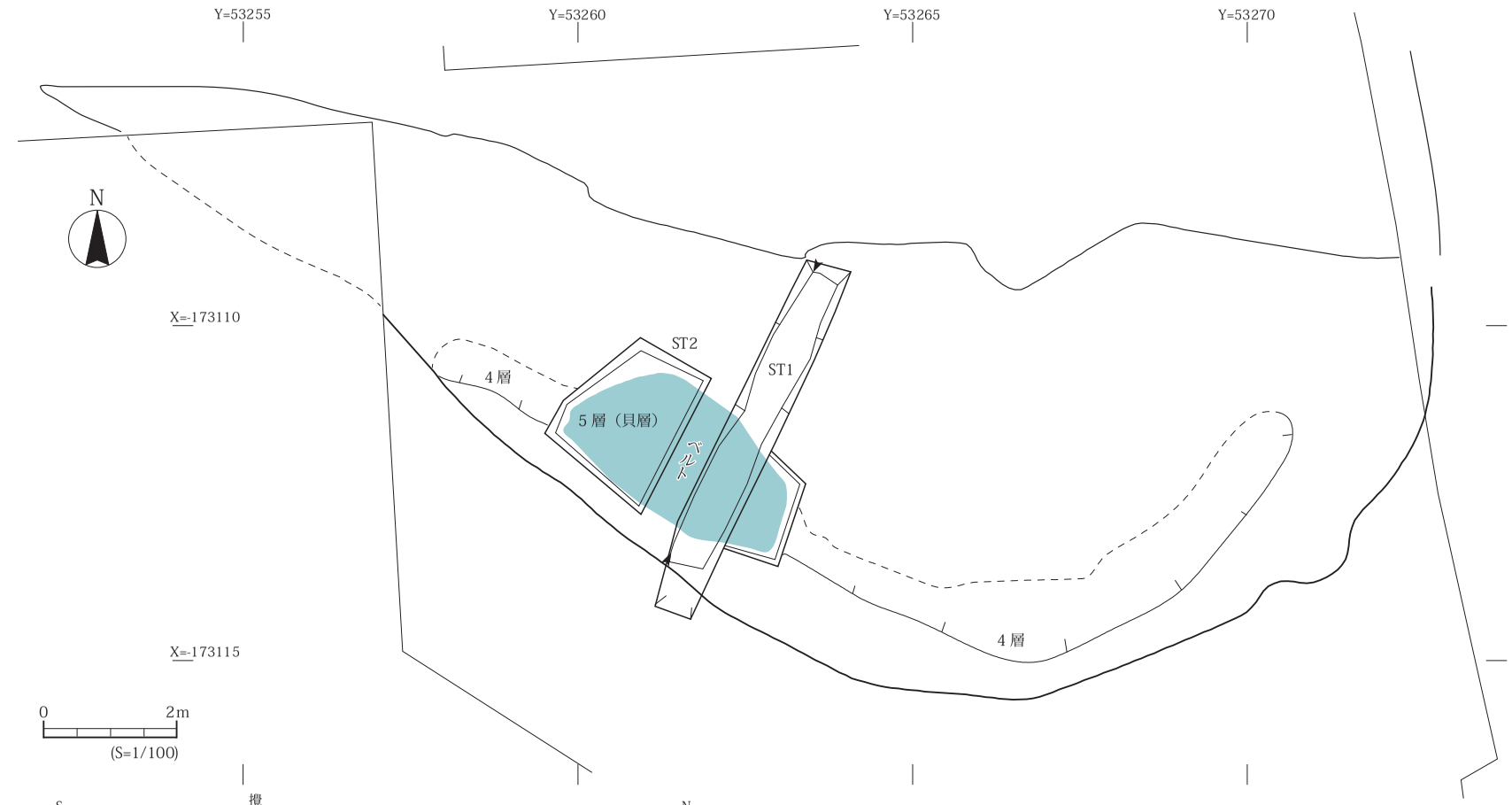
３層から４層上部にかけては調査時にまとめて取上げたものが多い。３層から出土した土器は小破片で器表面が摩耗したものが多く、特徴は４層と類似する。櫛描文が施された土器（第52図１）が１点のみ出土している。

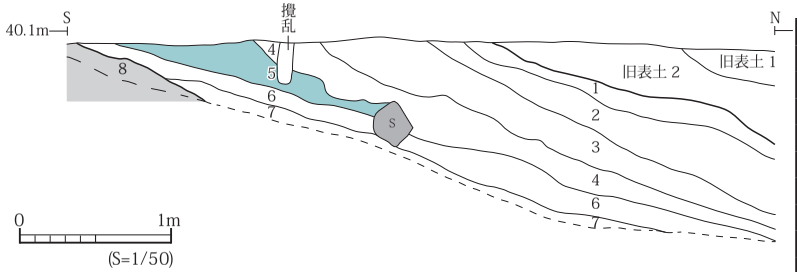
４層上部（第52図２～７）では、隆線に２個１対（または３個１対）の刻み目文（第52図２～６）、ボタン状貼付文（第52図５・６）が施されたものが出土している。刻み目文の方向は隆線に直交するもの（第52図２～４）と隆線方向のもの（第52図５・６）に分けられる。

４層（４層下部）（第53図、第54図１～４）では、注口部が付くもの（第53図１・２）、隆線に沿う連続刺突文（第53図１・４・６・８）、沈線間に充填する刺突文（第53図３・４）、隆線に２個１対の刻み目文（第53図５・７）が施されるものが出土している。

５層（貝層）（第54図５～９、第55図１～９）では、注口部が付くもの（第54図７～９）、隆線に沿う連続刺突文（第54図６・7）、沈線間に充填する刺突文（第54図７）、隆線に２個１対（または３個１対）の刻み目文（第54図６、第55図３）、Ｊ字状の沈線文（第54図6、第55図１）が施されたものが出土している。第54図９は注口部の内外面に文様が施されている。

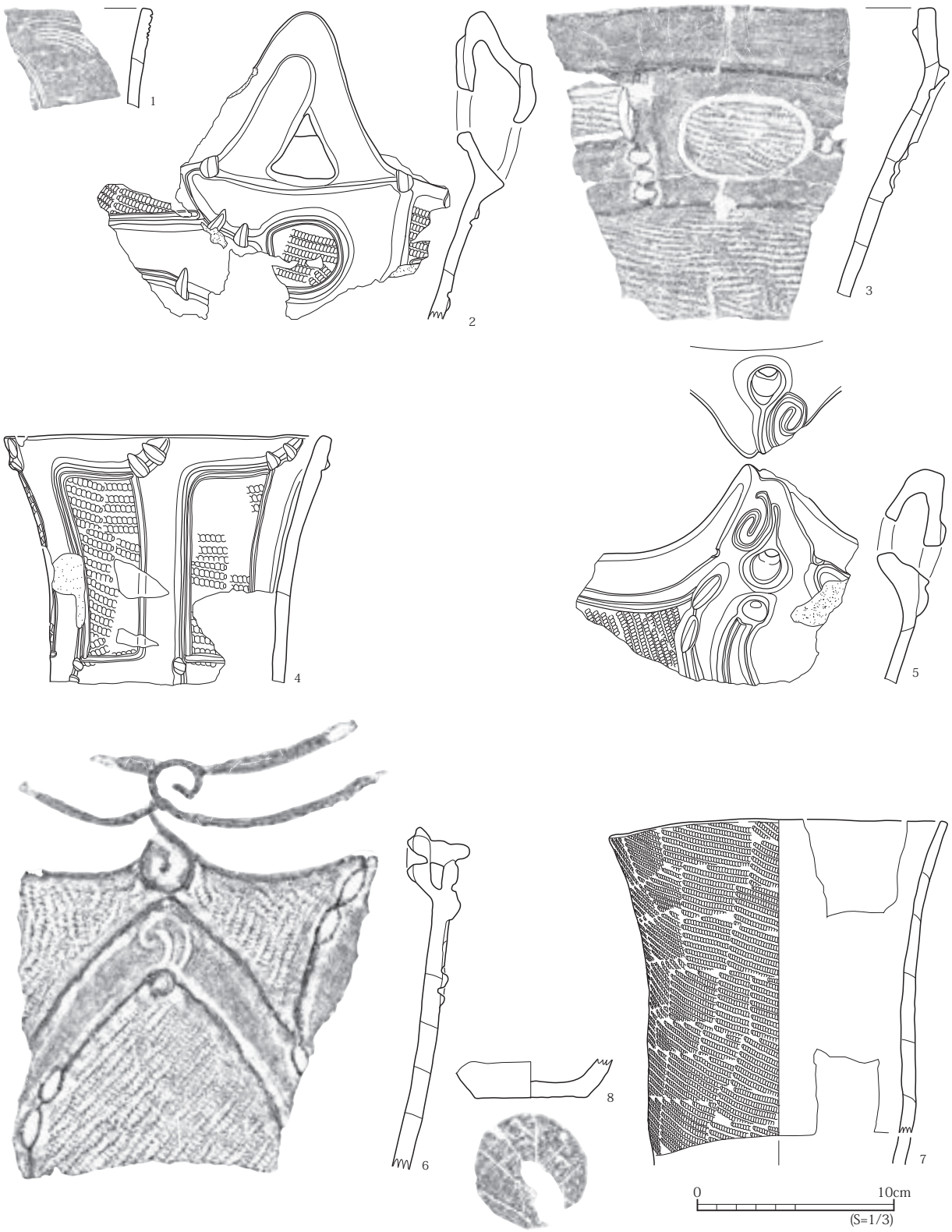
６層（第55図10～12）では、隆線に沿う連続刺突文（第55図10）、沈線間に充填する刺突文（第55





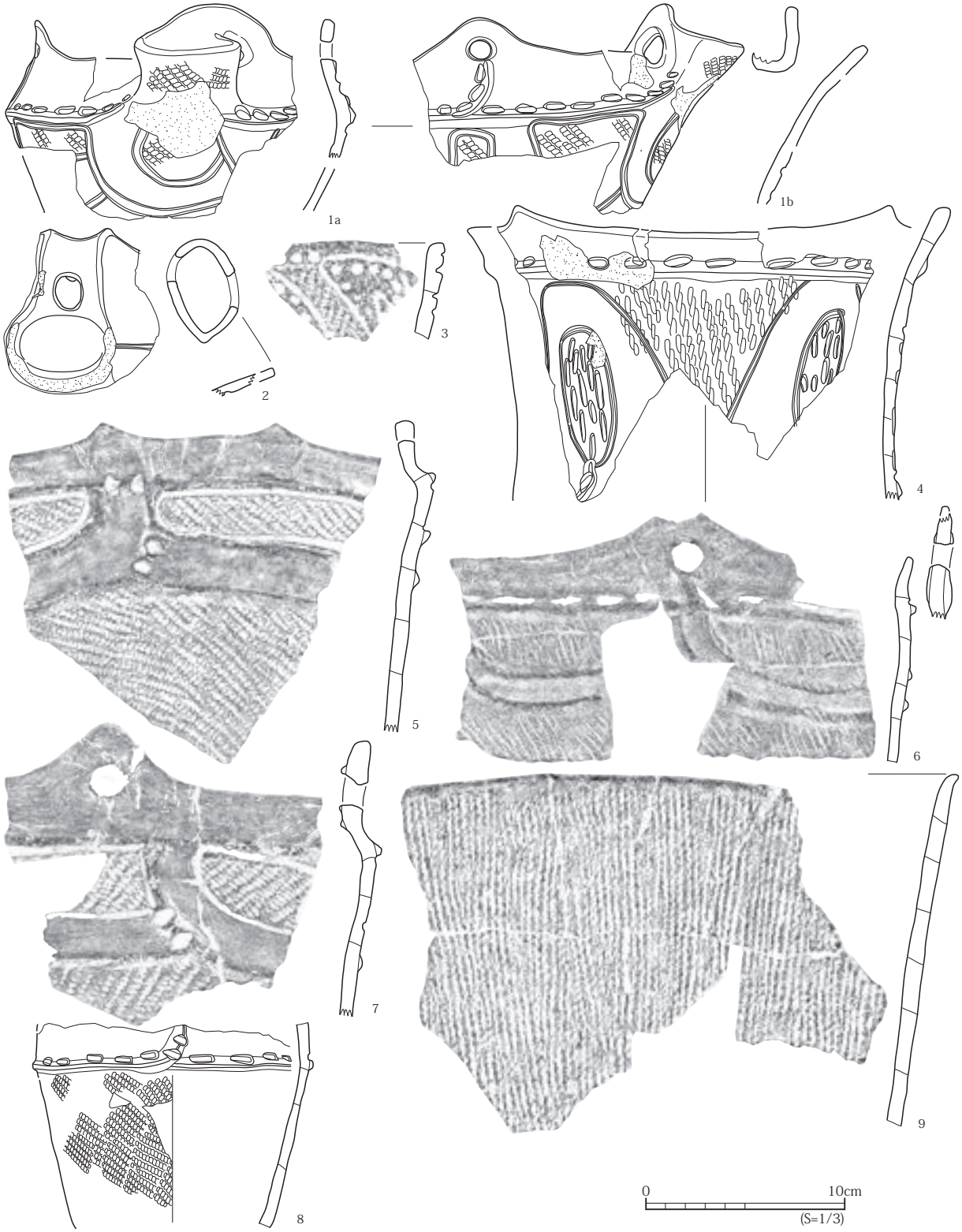
番号	土色	土性	備考
旧表土1	褐色（10YR4/4）	シルト	基盤岩粒～細礫を多く含む。遺物なし。
旧表土2	暗褐色（10YR3/3）	シルト	基盤岩粒～細礫を多く含む。遺物なし。
1	黒褐色（10YR2/2）	粘土質シルト	基盤岩粒～細礫を含む。炭化物を少量含む。遺物極少量。
2	黒褐色（10YR2/3）	シルト	基盤岩粒～細礫を多く含む。炭化物少量含む。遺物少量。
3	黒褐色（7.5YR3/2）	シルト	基盤岩粒～細礫を多く含む。、炭化物含む、遺物中量。
4	暗褐色（7.5YR3/4）	シルト	基盤岩粒～細礫を多量含む。炭化物小ブロックを多く含む。遺物多量（特に貝層付近）。
5	暗褐色（10YR3/3）	粘土質シルト	カキ・アサリ・巻貝など貝主体の混土貝層（ほぼ純貝層）。遺物・骨多量。
6	暗褐色（10YR3/4）	粘土質シルト	基盤岩礫を多く含む。基盤岩粒～細礫を少量含む。遺物中量、獣骨・マグロ骨少量。
7	黒褐色（10YR2/3）	粘土質シルト	地山漸移層。基盤岩粒～細礫を多く含む。粘性あり。遺物極少量。
8	にぶい黄褐色（10YR4/3）	粘土質シルト	地山。基盤岩粒～細礫極多く含む。遺物なし

第51図　SX110遺物包含層・貝層



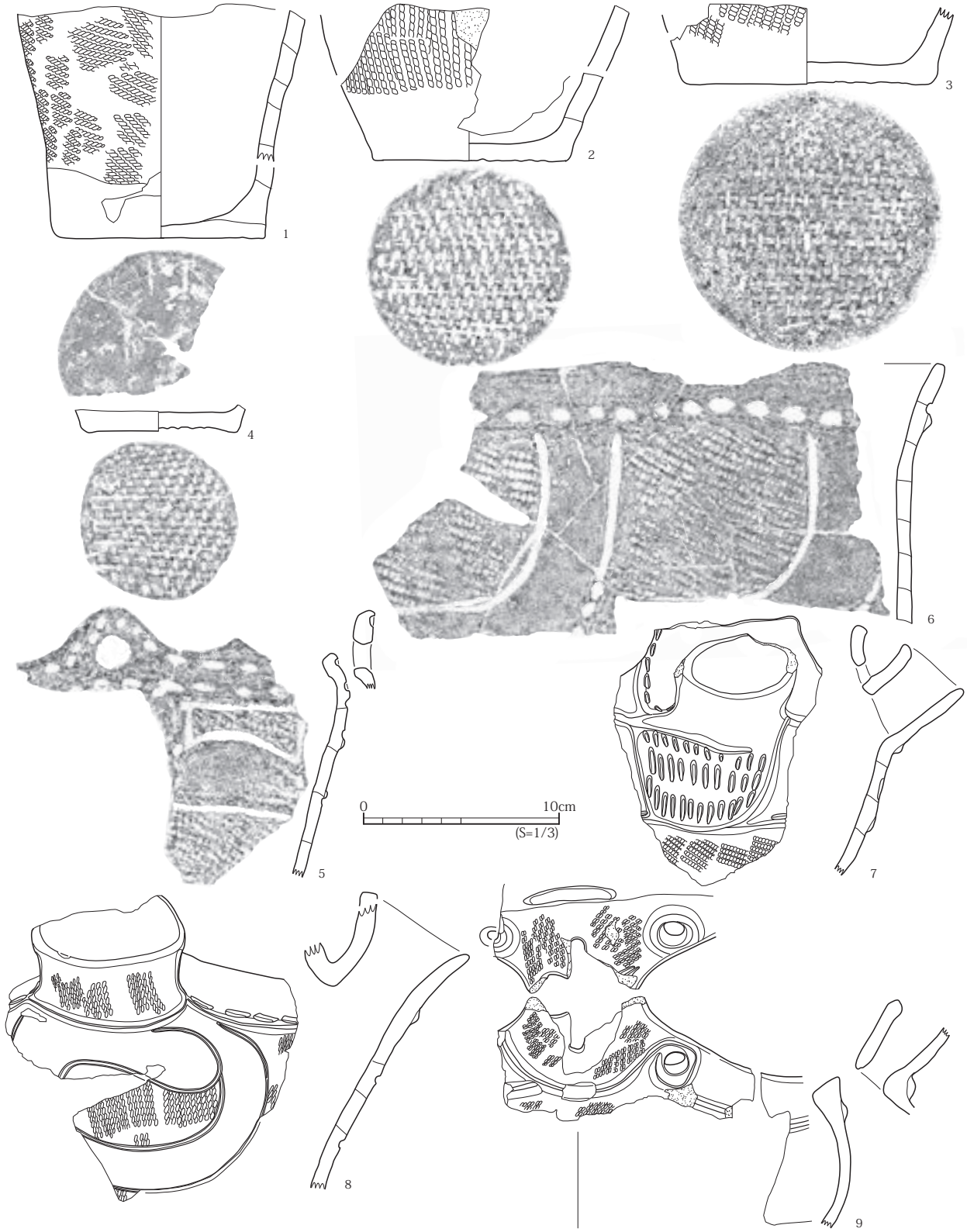
番号	遺構・層	器種	特徴	写真	登録番号
1	SX110・３層	深鉢	櫛描文	30－12	Pa150
2	SX110・４層上部	深鉢	隆線→２個１対の刻み目文（隆線に直交）・縄文（LR）→沈線、充填縄文か	30－14	Pa152
3	SX110・４層上部	深鉢	口径（29.0cm）、隆線→刻み目文・縄文（RL）→沈線、磨消縄文か	30－15	Pa151
4	SX110・４層上部	深鉢	LR縄文→沈線、充填縄文	31－１	Pa122
5	SX110・４層上部	深鉢	RL縄文→沈線、隆線＋刻み目文（隆線に平行）	31－４	Pa153
6	SX110・４層上部	深鉢	隆線文＋２個１対の刻み目文、充填縄文（RL）、ボタン状貼付文、弧状沈線文	31－３	Pa138
7	SX110・４層上部	深鉢	縄文（RL）	31－２	Pa121
8	SX110・４層上部	深鉢	底径5.6cm、底面：木葉痕（網状葉脈）	30－13	Pa154

第52図　SX110遺物包含層・貝層出土遺物（1）



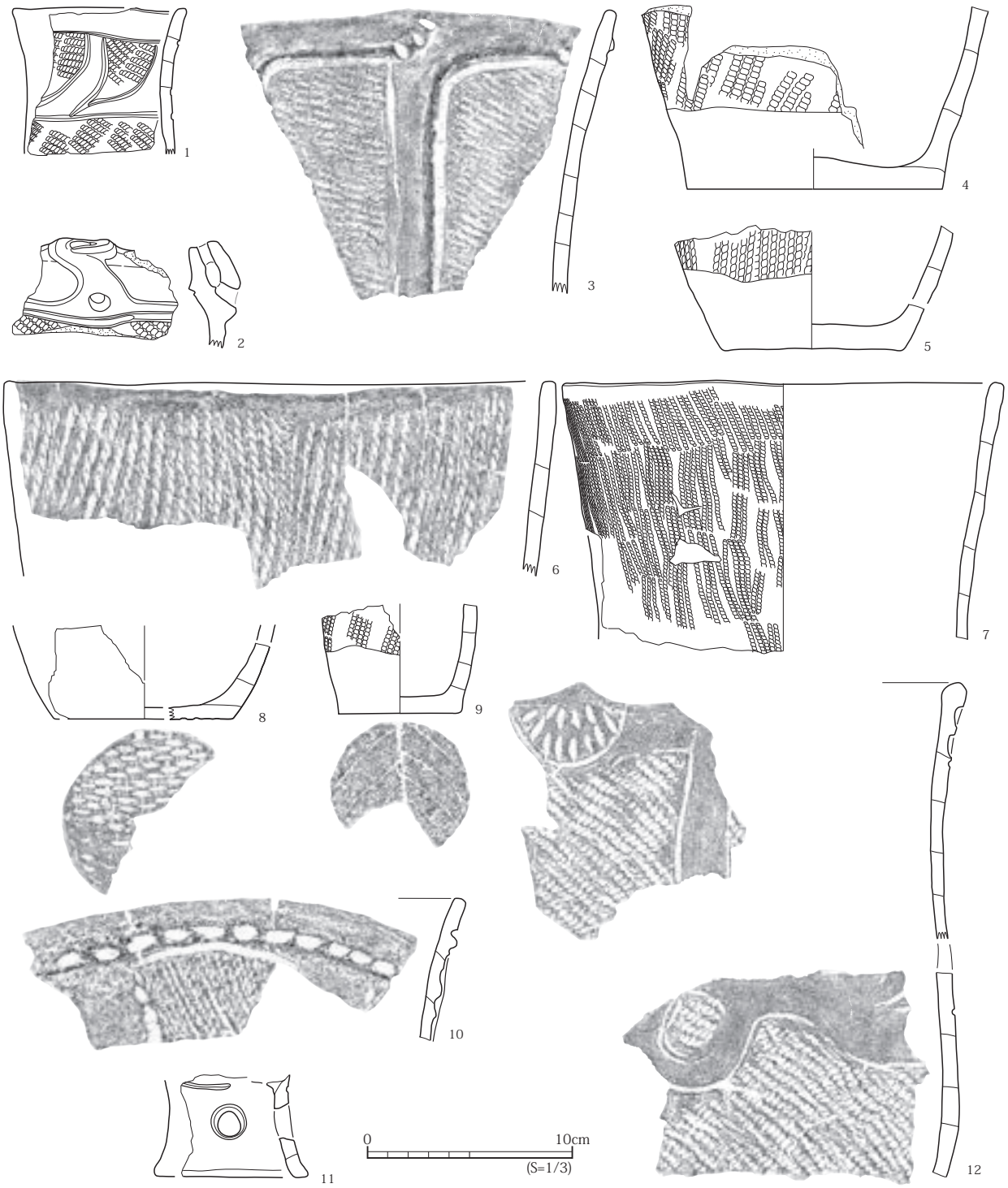
番号	遺構・層	器種	特徴	写真	登録番号
1	SX110・4層	深鉢	環状把手に注口付、RL縄文→沈線、磨消か	31－5	Pa149
2	SX110・4層	深鉢	環状把手に注口付	31－6	Pa143
3	SX110・4層	深鉢	沈線→縄文（RL）・円形連続刺突文→沈線引き直し	31－7	Pa142
4	SX110・4層	深鉢	沈線→撚糸文（L）→ミガキか	31－8	Pa155
5	SX110・4層	深鉢	隆線＋２個１対の刻み目文（隆線に直交）→縄文（LR0段多条）→ミガキ沈線	31－9	Pa141
6	SX110・4層	深鉢	隆線→撚糸文（r）、充填縄文	32－1	Pa139
7	SX110・4層	深鉢	磨消縄文（RL）	31－10	Pa140
8	SX110・4層	深鉢	隆線＋連続刺突文（半截竹管）、縄文（LR）	32－3	Pa144
9	SX110・4層	深鉢	口径(24.8cm)、撚糸文（L）	32－2	Pa145

第53図　SX110遺物包含層・貝層出土遺物（2）



番号	遺構・層	器種	特徴	写真	登録番号
1	SX110・4層	深鉢	底径10.7cm、縄文（LR)、底面：木葉痕	32－4	Pa137
2	SX110・4層	深鉢	底径10.2cm、底面：網代痕（２本越１本潜１本送）	32－5	Pa147
3	SX110・4層	深鉢	底径13.1cm、縄文（RL)、底面：網代痕（３本越１本潜２本送）	32－6	Pa148
4	SX110・4層	深鉢	底径8.2cm、底面：網代痕（２本越１本潜２本送）	32－7	Pa146
5	SX110・5層	深鉢	隆線文＋連続刺突文、磨消縄文（RL)、沈線文＋ヒレ状隆線文＋３個１対の刻み？	32－9	Pa123
6	SX110・5層	深鉢	隆線文＋連続刺突文、体部は沈線文＋ヒレ状隆線文＋２個１対の刻み、磨消縄文（LR)	32－8	Pa124
7	SX110・5層	深鉢	把手（欠落）に注口付、ヒレ状隆線文＋縦長連続刺突文（充填)、縄文（LR）	32－10	Pa127
8	SX110・5層	深鉢	把手（欠落）に注口付＋ヒレ状隆線文＋連続刺突文、体部は沈線文→撚糸文（L）	32－13	Pa128
9	SX110・5層	深鉢	口径（26.8cm)、複節縄文（RLR）→沈線、注口部に縄文＋ヒレ状隆線文＋貫通孔	33－1	Pa130

第54図　SX110遺物包含層・貝層出土遺物（3）



番号	遺構・層	器種	特徴	写真	登録番号
1	SX110・5層	深鉢	口径(9.5cm)、沈線文（J字文か）、縄文（LR）→沈線（ミガキ）	32－12	Pa131
2	SX110・5層	深鉢	橋状把手（S字状）に貫通孔２個、縄文（LR）→沈線（ミガキ）	32－11	Pa129
3	SX110・5層	深鉢	口径（20.3cm）、ヒレ状隆線文＋３個１対の刻み目文、隆線文→縄文（LR)→沈線（ミガキ）	33－4	Pa125
4	SX110・5層	深鉢	底径12.8cm、外：縄文（RL）、底面：ナデ調整	33－7	Pa135
5	SX110・5層	深鉢	底径9.0cm、外：撚糸文（L），底面：ナデ調整	33－8	Pa133
6	SX110・5層	深鉢	推定口径27.0cm、撚糸文（R）	33－3	Pa126
7	SX110・5層	深鉢	口径21.0㎝、外：撚糸文（R）	33－6	Pa136
8	SX110・5層	深鉢	底径8.6cm、底面：網代痕（２本越３本潜３本送）	33－5	Pa134
9	SX110・5層	深鉢	底径6.7cm、外：縄文RL、底面：木葉痕（網状葉脈）	33－2	Pa132
10	SX110・6層	深鉢	口径19.7cm、平縁、隆線文区画＋連続刺突文、撚糸文L→沈線（区画文か）	33－9	Pa158
11	SX110・6層	深鉢	底径8.3cm、脚部に透かし孔４個、体部に沈線文か	33－10	Pa159
12	SX110・6層	深鉢	波頂部下に連続刺突文（縦長）、沈線文（波濤文か）＋磨消縄文（LR0段多条）	33－11	Pa156

第55図　SX110遺物包含層・貝層出土遺物（4）

図12）が施された土器や脚部に円形の透かし孔を４個もつ土器（第55図11）が出土している。

③石器（第56・57図、第７表）

SX110遺物包含層・貝層から出土した石器には石鏃、楔形石器、不定形石器、磨石、凹石、敲石、石皿、剥片・石核があり、トゥール54点、全体で57点出土している（第７表）。以下では器種ごとに出土状況と石器の特徴を示す。

石鏃は８点出土しており、完形または全体の形状がわかる３点を図示した（第56図６～８）。５層から出土しているが、全て４mmの水洗篩で確認されたものである。基部の形態は凹基のもの（第56図６・７）と平基のもの（第56図８）がある。第56図６は黒曜石製である。

楔形石器は５層から２点出土しており、４mmの水洗篩で確認されたものである。いずれも珪質頁岩製で片側が大きく欠損しており、図示したものはない。

不定形石器は４層から２点出土している（第56図１・２）。二次加工により尖頭部を作出しているものと、二次加工が縁辺の一部に施されるものがある。

礫石器には磨石、凹石、敲石、砥石、石皿がある。42点出土しており、石器全体の約70％、トゥール全体の約80％を占める。特に磨石、凹石は出土点数が多いことから、完形品で明瞭に使用痕が残るものから代表的な形態や石材のものを抽出し、資料化する点数は最小限にとどめた。磨石は各層から24点出土しており、５点図示した。使用面が１面（第56図９･第57図３）、２面（第56図10、第57図４）、４面（第56図４）に認められるものがある。凹石は各層から13点出土しており、４層から出土したもの（第56図３）を図示した。磨石を転用したもので、使用面が３面に認められる。敲石は５層から１点出土している（第57図１）。磨石を転用したもので、両端部に敲打痕が認められる。石皿は４点出土しており、２点図示した（第56図５、第57図２）。いずれも板状の安山岩を素材としており、使用面は平坦になっている。

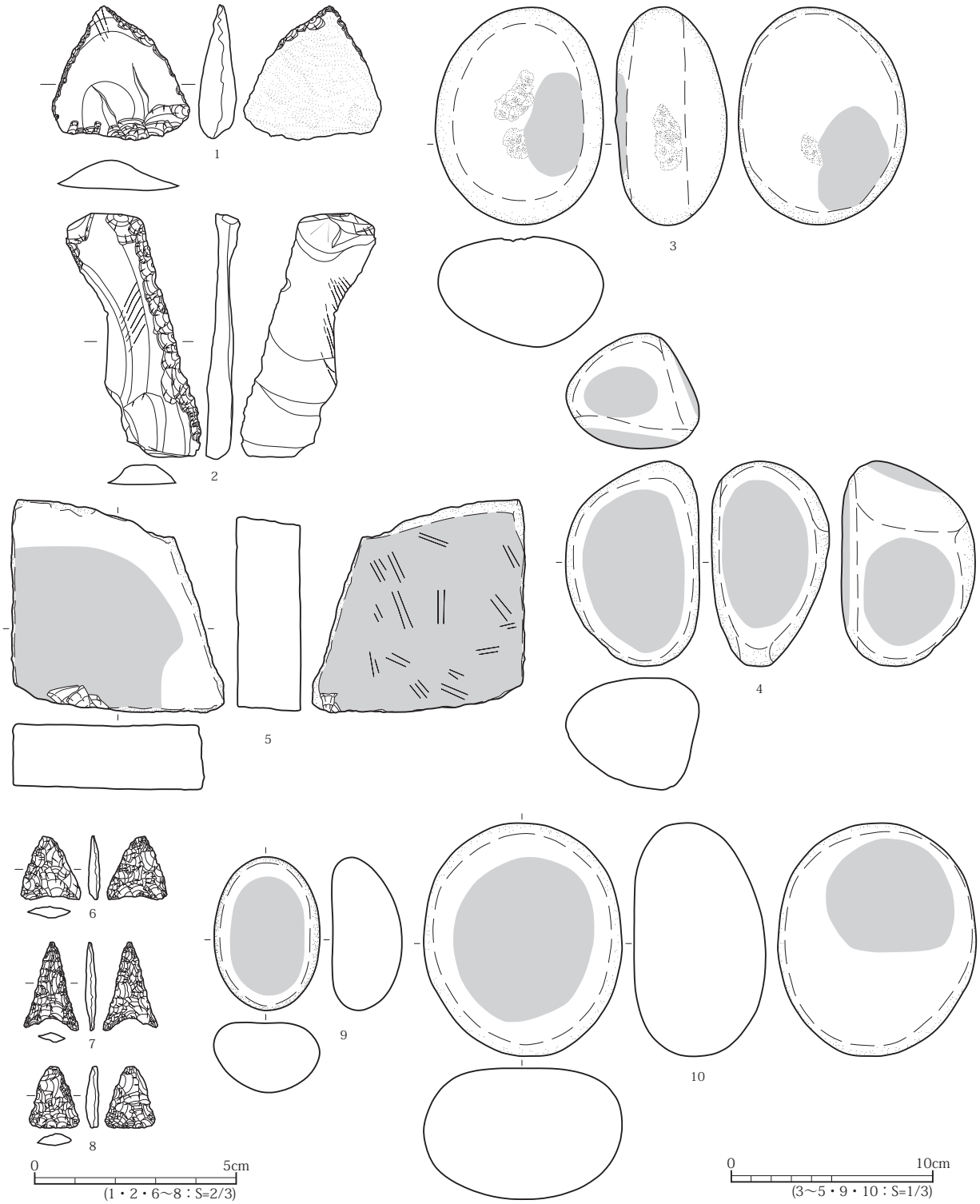
④石製品ほか（第57図、第７表）

SX110遺物包含層から出土した石製品には円盤状石製品（第57図５）がある。５層から出土しており、４mmの水洗篩で確認されたものである。敲打で円形状に加工した後表面を研磨している。その他に遺跡外から採集して持ち込まれたと考えられる礫で、自然の営力や素材礫の特質性により孔をもつに至ったと考えられる有孔礫がある（第57図６・７）。有孔礫は石錘や装身具として利用された可能性があることから遺物として登録し、写真のみ掲載した。

第７表　SX110遺物包含層出土石器・石製品ほか点数表

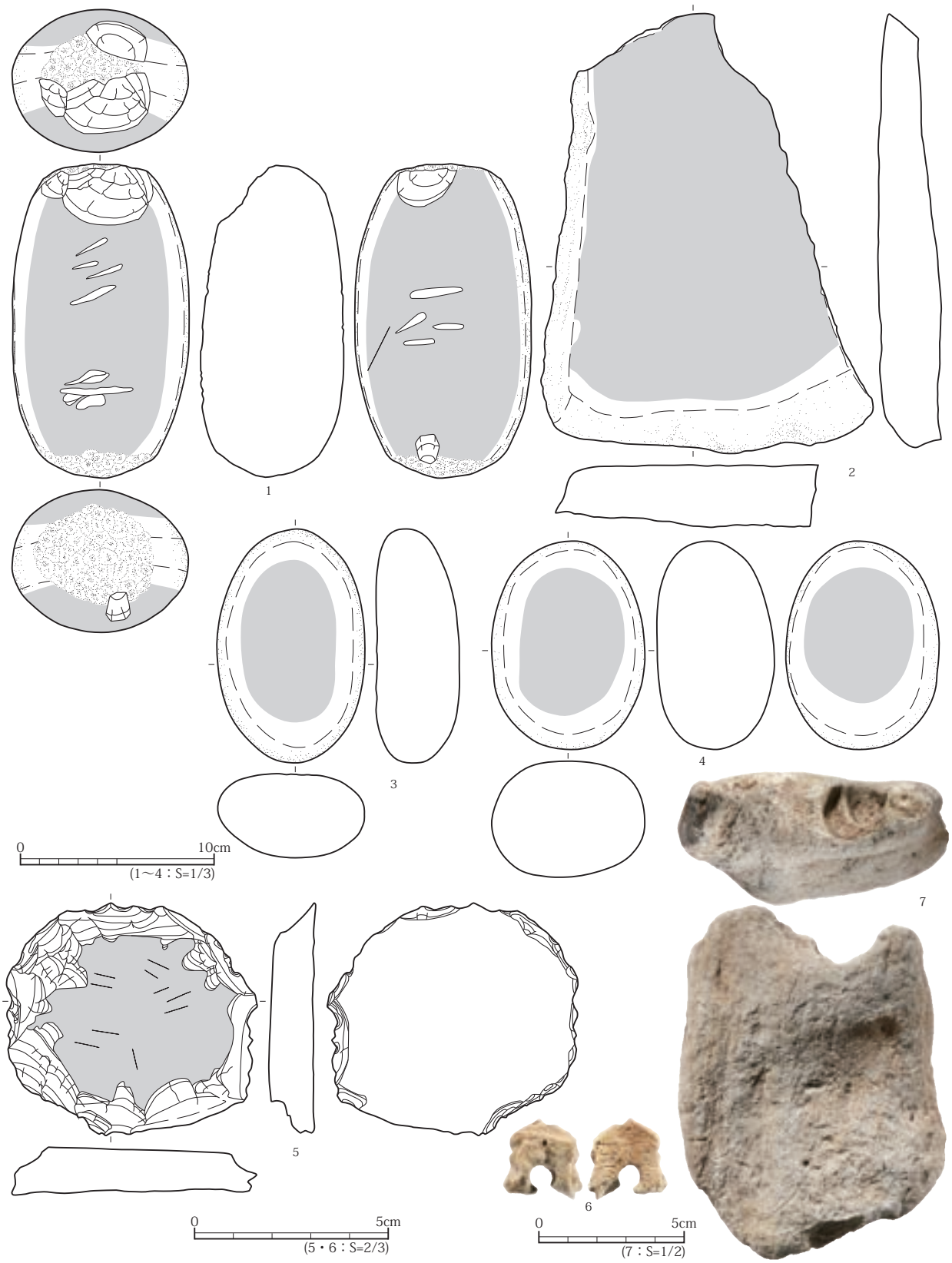
	石鏃	楔形石器	不定形石器	磨石	凹石	敲石	石皿	小計	剥片	石核	石製品	有孔礫	総計
3～４層上部			1	2	2		1	6	1				7
4層			1	11	7		2	21					21
5層（水洗篩）	8（8）	2（2）		6（1）	1	1	1	19（11）		1（1）	1（1）	3（1）	24（14）
6層				4	2			6					6
遺構確認面				1	1			2		1			3
計	8	2	2	24	13	1	4	54	1	2	1	3	61
掲載	3		2	5	1	1	2	14			1	2	17

＊（　）内の点数は４㎜の水洗篩で確認されたもの



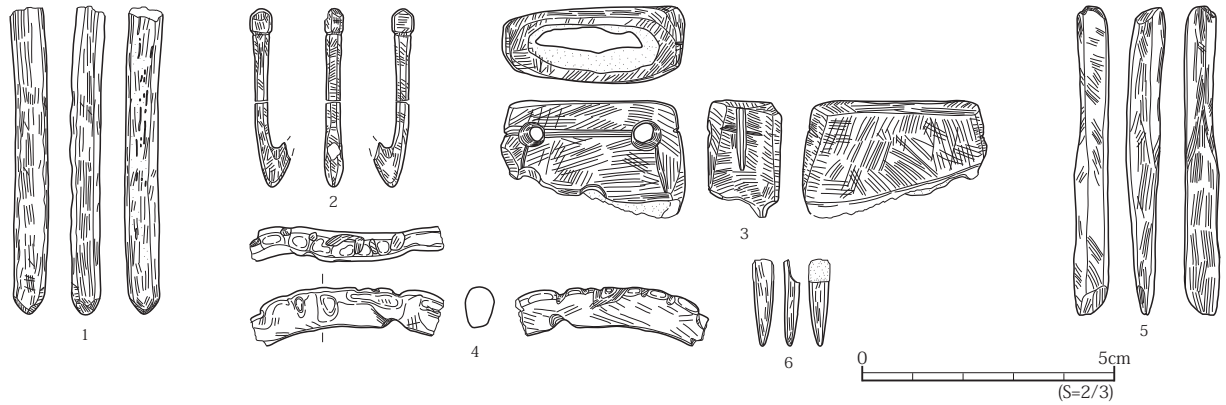
番号	遺構・層	器種	特徴	写真	登録番号
1	SX110・4層上部	不定形石器	碧玉、長さ33.5mm、幅33.5mm、厚さ8.3mm、重さ8.1g、自然面あり	34－1	SⅡ03
2	SX110・4層	不定形石器	珪質頁岩、長さ63.2mm、幅19.7mm、厚さ6.5mm、重さ3.6g	34－2	SⅡ01
3	SX110・4層	凹石	安山岩、長さ107.9mm、幅80.2mm、厚さ53.1mm、重さ699.5g、転用（磨石→）	34－4	SR011
4	SX110・4層	磨石	安山岩、長さ100.8mm、幅60.7mm、厚さ60.6mm、重さ488.5g	34－3	SR009
5	SX110・4層	石皿	安山岩、長さ103.8mm、幅95.1mm、厚さ32.0mm、重さ638.0g	34－5	SR038
6	SX110・5層	石鏃	黒曜石、長さ15.3mm、幅14.7mm、厚さ2.2mm、重さ0.5g、尖頭部欠小	34－6	SⅡ04
7	SX110・5層	石鏃	珪質頁岩、長さ21.3mm、幅13.5mm、厚さ2.2mm、重さ0.5g	34－8	SⅡ06
8	SX110・5層	石鏃	珪質頁岩、長さ15.2mm、幅12.5mm、厚さ2.8mm、重さ0.5g	34－7	SⅡ07
9	SX110・5層	磨石	安山岩、長さ76.3mm、幅51.8mm、厚さ35.2mm、重さ192.9g	34－9	SR026
10	SX110・5層	磨石	安山岩、長さ115.6mm、幅97.2mm、厚さ63.5mm、重さ1095g	34－13	SR020

第56図　SX110遺物包含層・貝層出土遺物（5）



番号	遺構・層	器種	特徴	写真	登録番号
1	SX110・5層	敲石	安山岩、長さ155.4mm、幅90.6mm、厚さ72.9mm、重さ1675g、転用（磨石→）	34－14	SR016
2	SX110・5層	石皿	安山岩、長さ222.1mm、幅164.8mm、厚さ34.3mm、重さ1638.0g	34－15	SR019
3	SX110・6層	磨石	安山岩、長さ106.1mm、幅79.3mm、厚さ69.5mm、重さ733.0g	34－16	SR028
4	SX110・6層	凹石	安山岩、長さ118.7mm、幅75.5mm、厚さ43.0mm、重さ548g、転用（磨石→）	34－17	SR030
5	SX110・5層	石製円盤	粘板岩、長さ68.2mm、幅59.6mm、厚さ11.9mm、重さ58.9g、全側縁加工	34－10	SⅡ15
6	SX110・5層	有孔礫	凝灰岩、長さ21.4mm、幅20.4mm、厚さ11.7mm、重さ3.3g	34－11	SⅡ16
7	SX110・5層	有孔礫	凝灰岩、長さ120.4mm、幅92.7mm、厚さ27.1mm、重さ311.0g	34－12	SR017

第57図　SX110遺物包含層・貝層出土遺物（6）



番号	遺構・層	器種	特徴	写真	登録番号
1	SX110・4層	棒状製品	鹿角製、長さ60.8mm、幅7.6mm、厚さ7.0mm、重さ3.2g	33－12	BH04
2	SX110・5層	釣針	鹿角製、長さ35.4mm、幅8.1mm、厚さ3.7mm、重さ0.4g、針先欠損	33－13	BH01
3	SX110・5層	腰飾りか	鹿角製、長さ23.3mm、幅36.5mm、厚さ14.7mm、重さ9.4g、欠損大	33－16	BH02
4	SX110・5層	装飾品	鹿角製、長さ38.4mm、幅11.6mm、厚さ6.9mm、重さ2.3g、欠損大	33－17	BH03
5	SX110・5層	刺突具	シカ・イノシシの四肢骨、長さ61.3mm、幅7.0mm、厚さ7.8mm、重さ3.3ｇ	33－15	BH05
6	SX110・5層	骨針か	獣骨製、長さ17.2mm、幅4.2mm、厚さ3.1mm、重さ0.6g、欠損大	33－14	BH06

第58図　SX110遺物包含層・貝層出土遺物（7）

⑤骨角器（第58図）

SX110遺物包含層から出土した骨角器には釣針、装飾品、棒状製品、刺突具がある。４層で１点、５層（貝層）で７点出土しており、５層で出土したものは全て４mmの水洗篩で確認された。骨角器の素材は鹿角が６点、シカ・イノシシの四肢骨が１点、獣骨が１点である。欠損したものがほとんどで、特徴がわかるもの６点を図示した。

釣針（第58図２）は５層から出土しており、鹿角を素材としている。U字形に湾曲するもので、欠損していることから針先の形状は不明である。チモト部には糸掛りの丸みのある突起を１個もつ。

棒状の形態のもののうち、先端部が丸いものを棒状製品、先端部が鋭利に尖るもので加工が粗いものを刺突具、加工が丁寧で薄手のものを骨針と分類した。棒状製品は４層・５層から各１点出土しており、鹿角を素材としている。４層から出土したもの（第58図１）は先端が丸く加工されており、上端部は欠損している。刺突具（第58図５）は５層から出土しており、素材はシカ・イノシシの四肢骨とみられる。先端部に粗い加工を施し尖らせている。骨針は５層から２点出土しており、１点図示した（第58図６）。獣骨を素材としており、先端部は細身で薄く尖るように丁寧に加工されている。

第58図３は鹿角の坐を素材とした装飾品で、腰飾りの一部とみられる。正面には縦位・横位の線刻と４個の穿孔、側面に十字形の線刻が認められる。

第58図４は鹿角を素材としており、環状の装飾品の一部とみられる。側面外側に抉りが複数入れられている。

【SX10遺物包含層】（遺構：第59・60図、遺物：第61～72図）

①調査の概要

D区西側の基本層Ⅳ層の直下に縄文土器・石器を多く含む土層の分布を確認したため、SX10遺物包含層として認識し調査を行った。調査は東西方向の２本のサブトレンチ（ST1・ST2）と調査区の西壁沿いに設定した南北方向のサブトレンチ（ST3）を先行して地山まで掘下げ、遺物包含層の堆積

状況を確認した。その結果、工事の掘削が遺物包含層の下部まで及ばないことが判明したことから、復興事業に伴う発掘調査の方針に基づき、遺物包含層の調査は工事で破壊される深度（標高42.0m）までを調査対象とし、それより下部についてはサブトレンチによる部分的な断割り調査にとどめ現状保存することとした。遺物はサブトレンチを基準として設定した２m四方のグリッド（第60図下）やサブトレンチごとに取上げ、可能な限りサブトレンチで確認した細別層に帰属させるように努めた。

SX10は丘陵西斜面に西から入り込む沢を埋める形で東西12.1m以上、南北19.2m以上、深さ0.9m以上に渡って形成されている。沢は主に東－西方向に傾斜しており、SX10は調査区外西側にも広がるものとみられる。基本層Ⅳ層の直下から地山までの堆積土は大別６層、細別22層に大別できた。遺物が含まれるのは１～４層までで、５・６層は無遺物層・地山漸移層となる。遺物が最も多く出土した２層は炭化物を含む黒褐色～暗褐色のシルトで、2a～2fの７層に細別できた。ST3中央で確認できた2b層では底面付近でまとまって縄文土器・石器が出土した（写真図版12－５）。また、ST2北端・ST1西側、B1・B2グリッドで確認できた2e層でも縄文土器がまとまって出土している。SX10の掘下げ時にST2中央で４層を掘り込む遺構（SX31）、ST1西側北壁断面で４層を掘り込む遺構とみられる落ち込み（④・⑤層）を確認しており、４層が堆積した段階で遺構面になっていた可能性がある。

②土器（第61～66図、第８表）

SX10遺物包含層から出土した土器は遺物収納箱で約15箱である。土器は小破片で器面が摩耗したものが多く、全体の器形がある程度わかる個体は２点に限られる。掲載する資料の抽出については、遺物が面的に広がる出土状況が確認された2b層・2e層を中心に、口縁部、底部、文様の施されたものなど土器の特徴が捉えられる個体を抽出し、51点を図示した（第８表）。

１層からは隆線に沿う連続刺突文（第61図１・２）、沈線間に充填する連続刺突文（第61図３）、多条沈線文（第61図４）が施される土器のほか、口縁部に無文帯をもつ撚糸文土器（第61図５）などが出土している。第61図１は口縁部に注口が付く土器で、把手は欠損している。

２層から出土した土器は、サブトレンチやその周辺で細別層（2a～2f層）に帰属できた遺物は細別層で示し、その他は２層に一括して扱った。

2a層からは環状突起の内外面にヒレ状隆線文を施す土器（第61図９）、メビウス状の把手が付く注口土器（第61図10）が出土している。

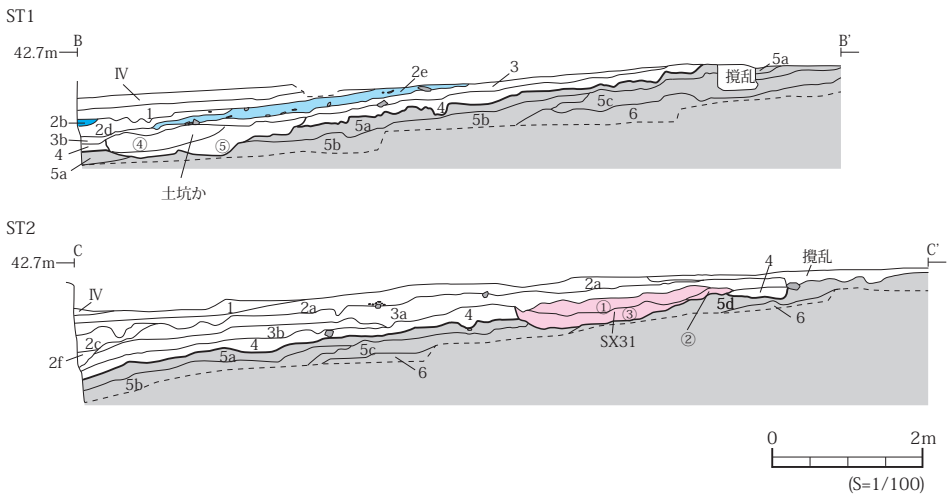
2b層からは口唇部に粘土紐を貼付したもの（第61図11）、無文部でU字状（第61図12）や横S字状（第62図２）のモチーフを描くもの、文様の交点にヒレ状隆線文が施されるもの（第62図１）が出土している。

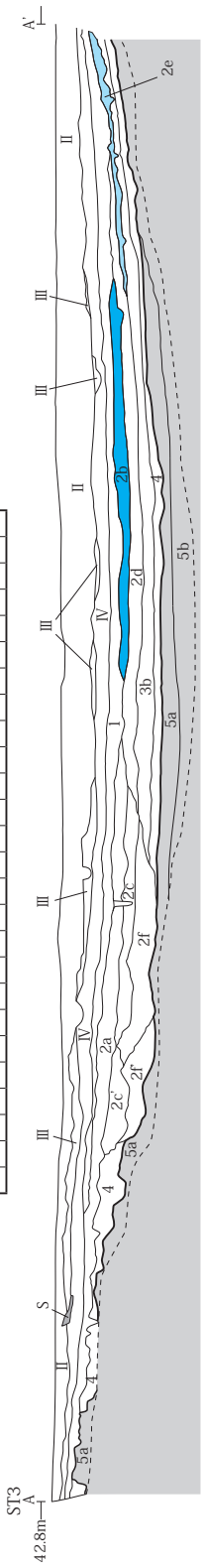
2b層底面からは無文部でL字状のモチーフを描くもの（第62図３・４）、ヒレ状隆線文（第62図５）や隆線に沿う連続刺突文（第62図６、第63図１～３）が施されるもの出土している。第63図１・３は注口部が付き、第63図１はメビウス状の把手で、第63図３は把手が欠損している。第63図３は隆線の上下に円形の刺突が施されている。

第８表　SX10遺物包含層出土土器点数表

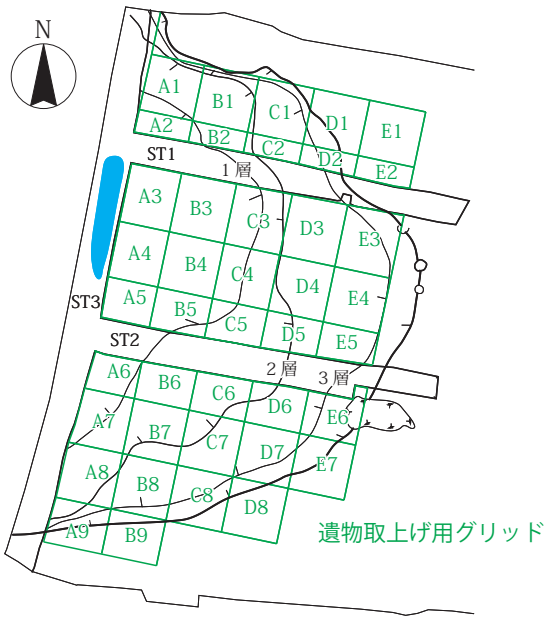
	総破片数	口縁部	掲載
１層	3799	148	8
２層	4690	201	38
３層	1331	45	3
４層	750	11	0
遺構確認面	468	20	0
１～２層	85	6	0
１～３層	48	1	0
２～３層	464	36	2
３～４層	157	3	0
計	11792	471	51

第59図　SX10遺物包含層（1）

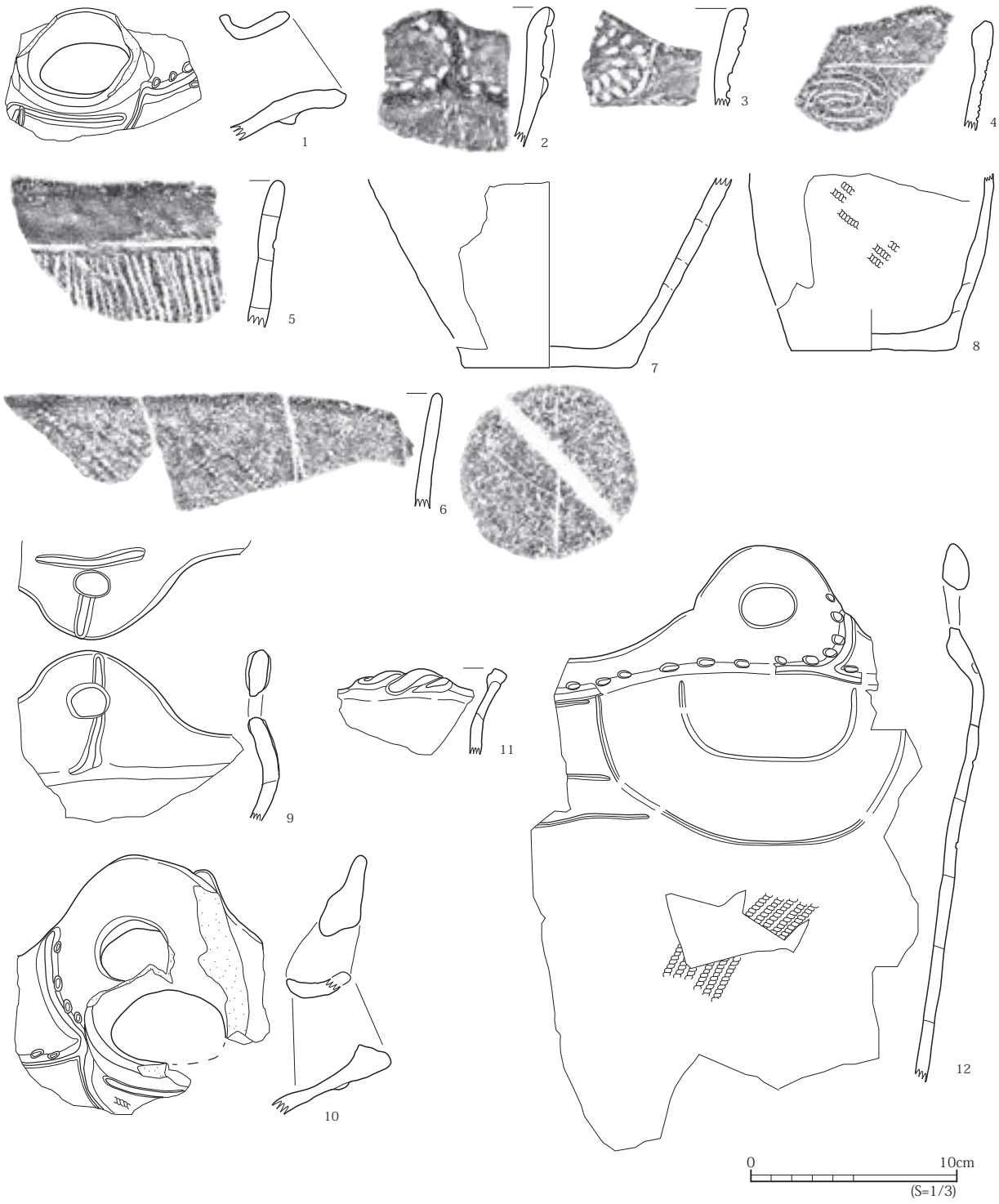




番号	土色	土性	特徴	備考
Ⅱ	黄褐色(10YR5/8)	シルト	盛土	盛土
Ⅲ	暗褐色(10YR3/4)	シルト	旧耕作土	旧耕作土
Ⅳ	暗褐色(10YR3/3)	シルト質砂	細礫・炭化物を少量含む。	土器細片極少量。自然堆積層。
1	暗褐色(10YR3/3)	砂質シルト	基盤岩粒～中礫・炭化物を極少量含む。	土器片極少量。
2a	黒褐色(10YR2/3)	砂質シルト	炭化物を多く含む。細礫～中礫を少量含む。	土器・石器を多く含む。
2b	暗褐色(10YR3/3)	シルト	細礫・炭化物を多く含む。	土器・石器がまとまって出土。
2c	黒褐色(10YR2/3)	砂質シルト	細礫・炭化物を含む。	土器片中量。
2c'	明褐色(7.5YR5/8)	シルト	地山ブロック･細礫を含む。炭化物を極少量含む。	土器片少量。
2d	暗褐色(10YR3/4)	シルト	細礫・炭化物を少量含む。	土器片極少量。
2e	黒褐色(10YR2/3)	シルト	炭化物を多量含む。細礫～中礫を少量含む。	土器・石器多量（3b層との境）。
2f	暗褐色(10YR3/4)	シルト	細礫を含む。炭化物を極少量含む。	
2f'	褐色(10YR4/6)	シルト	地山ブロック主体。炭化物を極少量含む。	
3a	暗褐色(10YR3/4)	シルト質砂	細礫～中礫を少量含む。炭化物を極少量含む。	土器片中量。
3b	暗褐色(10YR3/4)	シルト質砂	細礫を少量含む。	土器を極少量含む。
4	暗褐色(10YR3/3)	シルト質砂	細礫・炭化物を少量含む。	土器を極少量含む。
①	暗褐色(10YR3/4)	砂質シルト	細礫～中礫を多く含む。炭化物を含む。	SX31。土器片を極少量含む。
②	褐色(10YR4/4)	細砂	細礫を極少量含む。	SX31。
③	オリーブ褐色(2.5Y4/4)	シルト	炭化物を多く含む。細礫～中礫を含む。ややグライ化。	SX31。土器片を極少量含む。
④	黒褐色(10YR2/3)	シルト	地山ブロック・細礫を少量含む。	遺構埋土か。
⑤	褐色(10YR4/6)	シルト	地山ブロックを含む。細礫を少量含む。	遺構埋土か。
5a	褐色(10YR4/6)	砂質シルト	細礫を少量含む。	
5b	明褐色(7.5YR5/4)	シルト	中礫～細礫を少量含む。	
5c	褐色(10YR4/6)	シルト	細礫を含む。	
5d	褐色(10YR4/6)	砂質シルト	礫中量含む。	
6	黄褐(10YR5/6)	シルト	大礫～細礫を含む。	

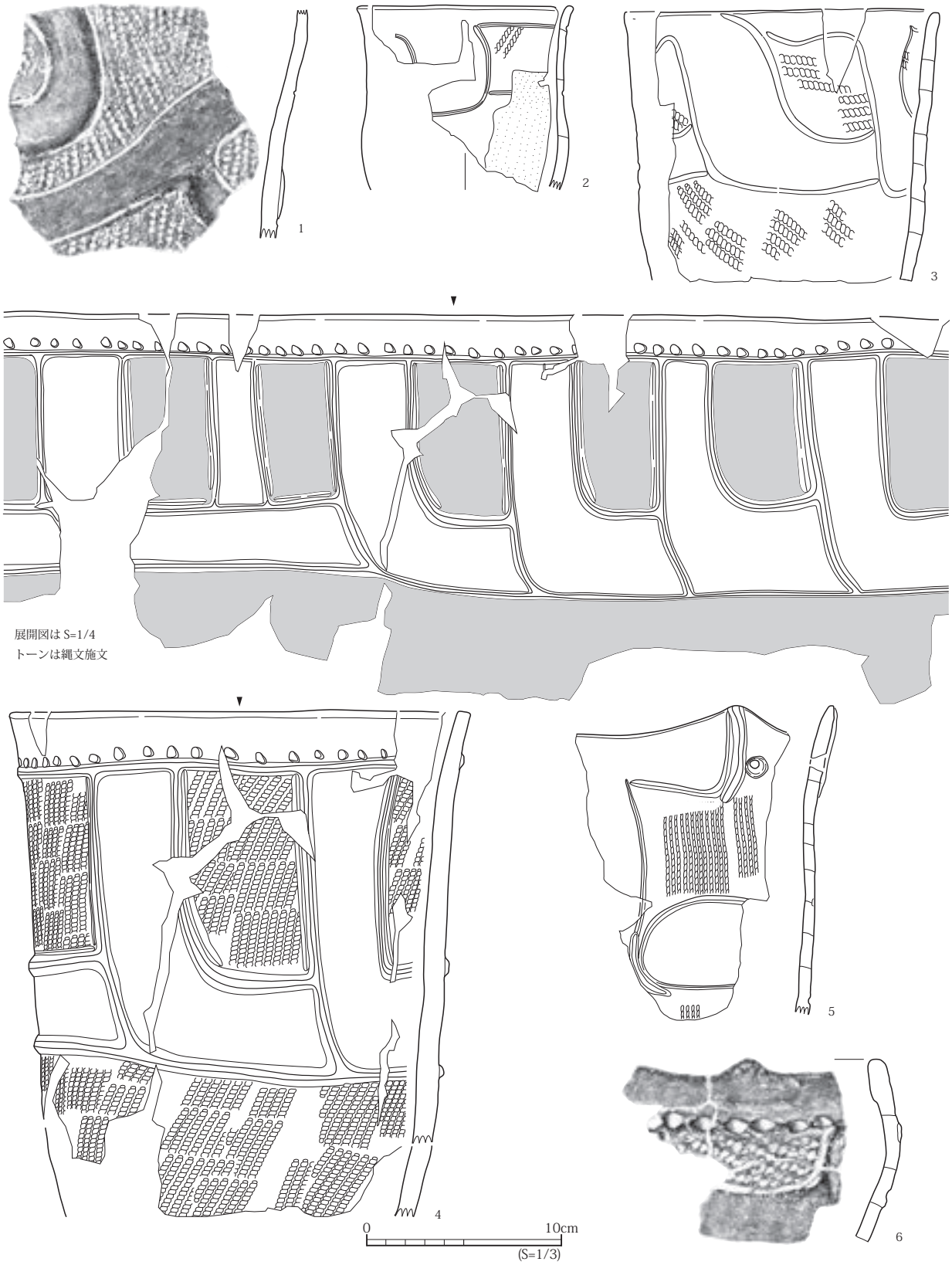


第60図　SX10遺物包含層（2）



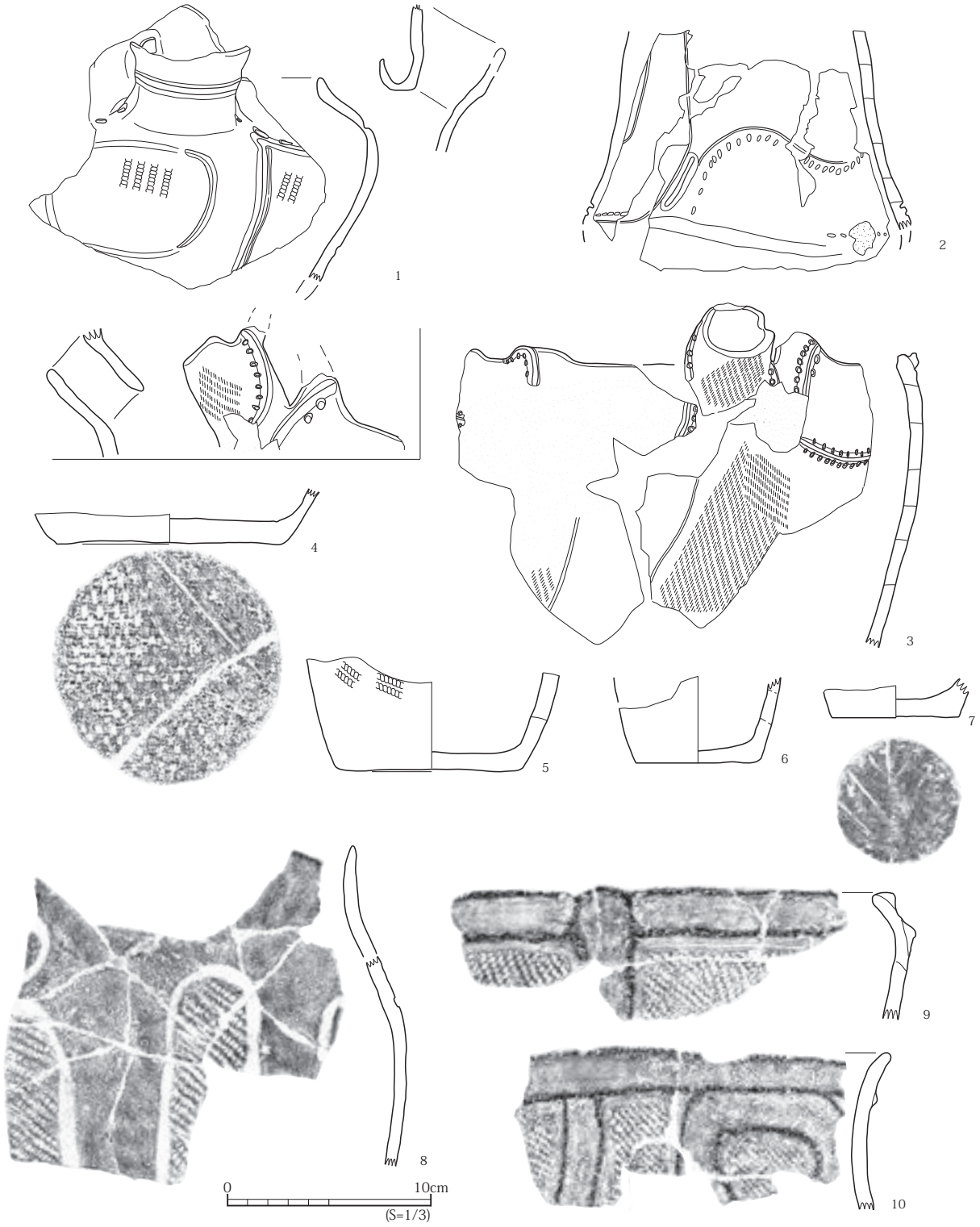
番号	遺構・層	器種	特徴	写真	登録番号
1	SX10・1層	深鉢	注口部、隆線文→縄文（RLか）→連続刺突文	35－1	Pa104
2	SX10・1層	深鉢	小波状口縁、撚糸文（L）・隆線文→連続刺突文	35－2	Pa071
3	SX10・1層	深鉢	波状口縁、環状把手に沈線文→連続刺突文（2列）	35－3	Pa100
4	SX10・1層	深鉢	波状口縁、多条沈線文（渦巻文か）	35－4	Pa101
5	SX10・1層	深鉢	平縁、狭い口縁部無文帯＋沈線（区画）、撚糸文（R）	35－5	Pa064
6	SX10・1層	深鉢	平縁、口径（26.3cm）、縄文（RL)	35－8	Pa063
7	SX10・1層	深鉢	底径8.5cm、底面:木葉痕	35－7	Pa061
8	SX10・1層	深鉢	底径8.1cm、縄文（RL）	35－6	Pa062
9	SX10・2a層	深鉢	波状口縁、波頂部に貫通孔→ヒレ状隆線文（内外面）	35－13	Pa068
10	SX10・2a層	深鉢	メビウス状把手に注口付、隆線文＋連続刺突文・縄文（RLか）	35－12	Pa105
11	SX10・2b層	深鉢	波状口縁、口唇部に粘土紐貼付（縄紐状）	35－14	Pa094
12	SX10・2b層	深鉢	環状突起、縄文（LRか）→沈線文（U字文）、隆線文→連続刺突文	35－17	Pa076

第61図　SX10遺物包含層出土遺物（1）



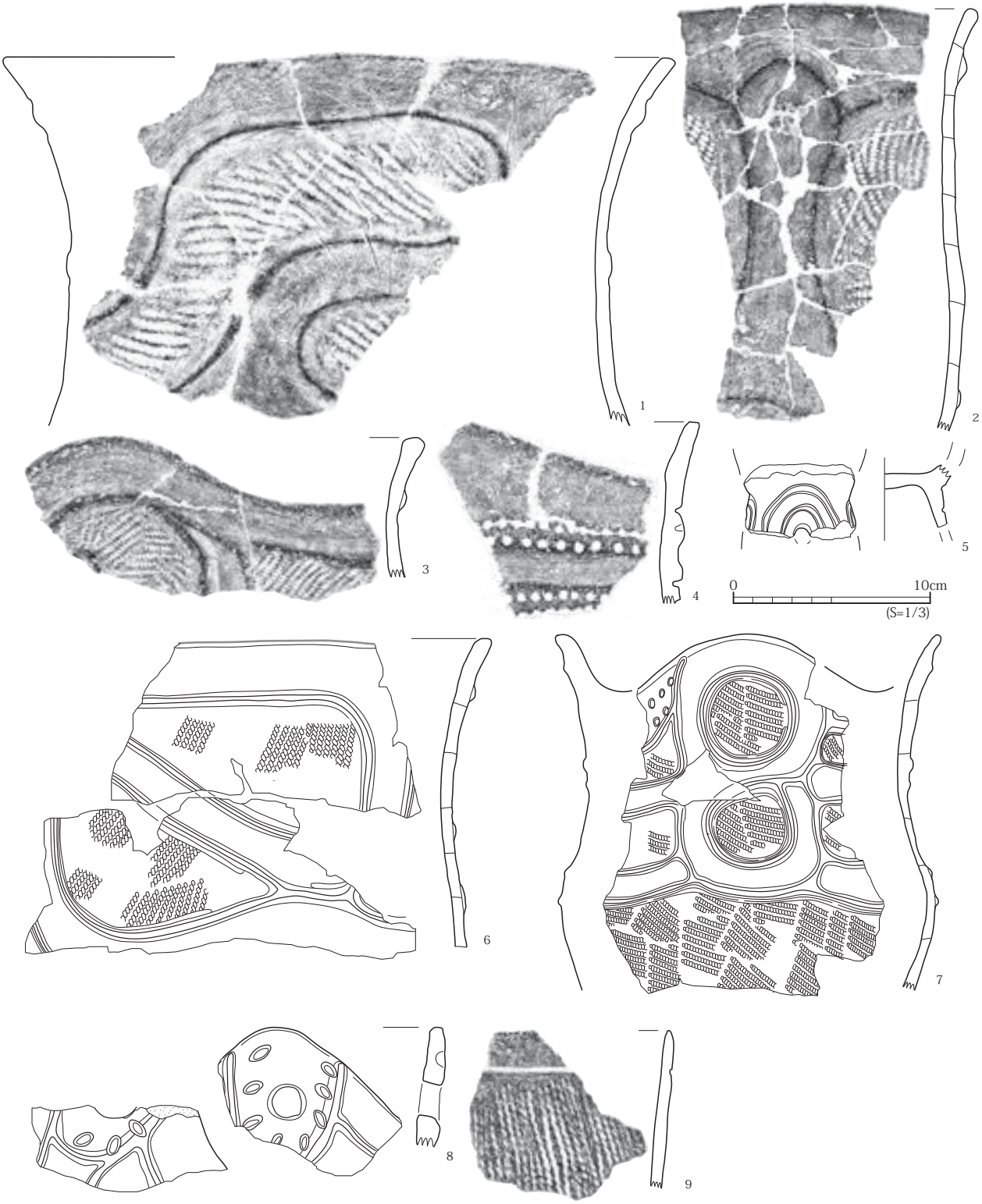
番号	遺構・層	器種	特徴	写真	登録番号
1	SX10・2b層	深鉢	縄文（RLR）→沈線→ヒレ状隆線文、充填縄文	35－16	Pa096
2	SX10・2b層	深鉢	口径11.1cm、平縁、縄文（LR）→沈線文（横Ｓ字文か）	35－15	Pa093
3	SX10・2b層底面	深鉢	口径16.6cm、平縁、縄文（RLか）→沈線文（L字文）	36－2	Pa085
4	SX10・2b層底面	深鉢	口径23.6cm、平縁、隆線文（Ｌ字文）→縄文→ミガキ沈線	36－1	Pa080
5	SX10・2b層底面	深鉢	波状口縁、撚糸文（L）→沈線（J字文か）→ヒレ状隆線文、補修孔あり	36－3	Pa083
6	SX10・2b層底面	深鉢	波状口縁、縄文（LR）→沈線、隆線（区画）＋連続刺突文	36－7	Pa079

第62図　SX10遺物包含層出土遺物（2）



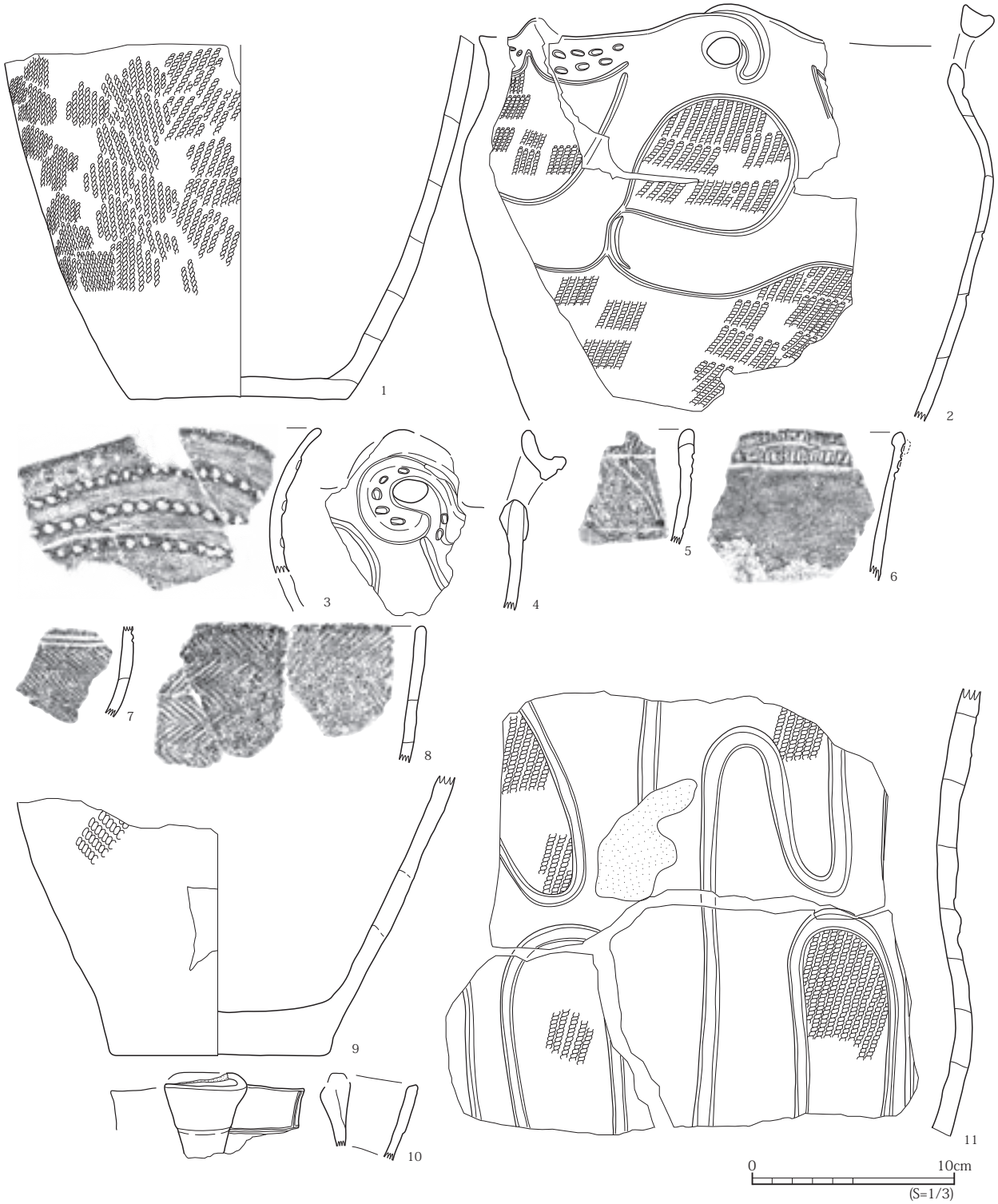
番号	遺構・層	器種	特徴	写真	登録番号
1	SX10・2b層底面	深鉢	メビウス状把手に注口付、縄文（LRか）→沈線、隆線文→連続刺突文	36－6	Pa081
2	SX10・2b層底面	深鉢	縄文（RL前段多条か）→沈線（L字文か）→連続刺突文、ヒレ状隆線文（文様交点）	36－5	Pa084
3	SX10・2b層底面	深鉢	注口部に把手か、縄文(L)→沈線、隆線文→連続刺突文（円孔文）	36－4	Pa082
4	SX10・2b層底面	深鉢	底径11.4cm、底面：網代痕（３本越１本潜４本送）	36－10	Pa089
5	SX10・2b層底面	深鉢	底径9.1cm、外面：縄文（RLか）底面：網代痕(不明)	36－11	Pa088
6	SX10・2b層底面	深鉢	底径6.1cm	36－9	Pa078
7	SX10・2b層底面	深鉢	底径6.0cm、底面：木葉痕	36－8	Pa077
8	SX10・2e層	深鉢	波状口縁、縄文（LR）→沈線（幅広・楕円文）、磨消縄文	37－1	Pa103
9	SX10・2e層	深鉢	口径（29.1cm）、平縁、縄文（RL)→隆線文→ミガキ	37－2	Pa102
10	SX10・2e層	深鉢	平縁、縄文（LR)・隆線文→ミガキ、充填縄文か、赤彩あり	37－3	Pa097

第63図　SX10遺物包含層出土遺物（3）



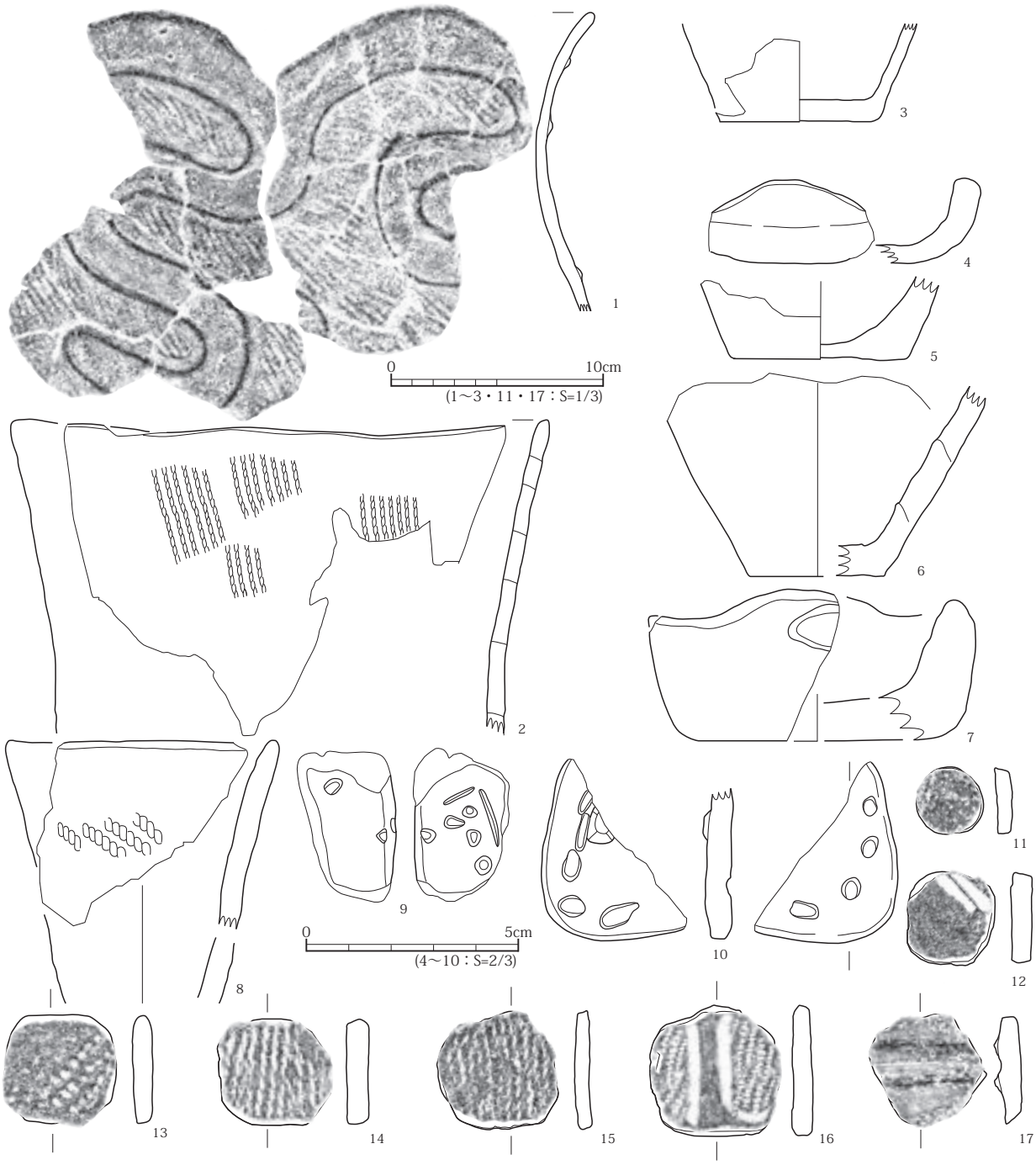
番号	遺構・層	器種	特徴	写真	登録番号
1	SX10・2e層	深鉢	平縁、隆線文、充填縄文→ミガキ	37－5	Pa106
2	SX10・2e層	深鉢	平縁、隆線文・縄文(LR・RL)→ミガキ、充填縄文	37－4	Pa108
3	SX10・2e層	深鉢	口径（30.6cm）、波状口縁、隆線文、充填縄文（RL)→ミガキ	37－10	Pa098
4	SX10・2e層	深鉢	波状口縁、隆線→円形刺突文（2列）	37－12	Pa099
5	SX10・2e層	台付鉢	脚部に透かし孔４個、沈線文（半円文か）	37－8	Pa095
6	SX10・2e層	深鉢	平縁、縄文（RL）→隆線文（逆ノ字状文）→ミガキ沈線	37－6	Pa060
7	SX10・2e層	深鉢	波状口縁、充填縄文(RL)→隆沈線文（８字状文）→連続刺突文	37－9	Pa059
8	SX10・2e層	深鉢	波状口縁、貫通孔→隆線文→連続刺突文	37－7	Pa057
9	SX10・2e層	深鉢	平縁、口縁部無文帯、撚糸文(R)→沈線（区画）	37－11	Pa058

第64図　SX10遺物包含層出土遺物（4）



番号	遺構・層	器種	特徴	写真	登録番号
1	SX10・2e層	深鉢	縄文（RL）、体部下端～底部ナデ	37－13	Pa109
2	SX10・2層	深鉢	波状口縁、貫通孔、縄文(RL)→沈線（S字状文）→ヒレ状隆線文・連続刺突文	35－9	Pa065
3	SX10・2層	深鉢	波状口縁、隆線文＋円形刺突文	35－10	Pa066
4	SX10・2層	深鉢	波状口縁、環状把手（C字状隆線文）→連続刺突文、沈線文	35－11	Pa107
5	SX10・2層	深鉢	平縁に突起、縄文（LR）→沈線文（入組文か）→貼瘤	38－3	Pa073
6	SX10・2層	深鉢	平縁、連続刺突文→沈線文→貼瘤（ハガレ）、口縁に刻み目文（2列）	38－2	Pa072
7	SX10・2層	深鉢	縄文（RL)→平行沈線（2条）	38－4	Pa074
8	SX10・2層	深鉢	平縁、非結束羽状縄文（RL・LR)	38－5	Pa075
9	SX10・2層	深鉢	底径10.6cm、縄文（RL)	38－1	Pa067
10	SX10・2～3層	深鉢	口径9.6cm、平縁、注口付、ヒレ状隆線文、縄文（LRか）	38－7	Pa090
11	SX10・2～3層	深鉢	充填縄文(RL)、沈線文（楕円文）	38－6	Pa091

第65図　SX10遺物包含層出土遺物（5）



番号	遺構・層	器種	特徴	写真	登録番号
1	SX10・3層	深鉢	波状口縁、縄文(RL)→隆線文（S字状文）	38－10	Pa069
2	SX10・3層	深鉢	口径25.4cm、平縁、撚糸文（L)	38－9	Pa092
3	SX10・3層	深鉢	底径7.5㎝	38－8	Pa070
4	SX10・1層	ミニチュア土器	皿形か、器高（20.1mm）	38－12	Pm002
5	SX10・2層	ミニチュア土器	底径40.8mm	38－15	Pm003
6	SX10・2e層	ミニチュア土器	深鉢形、底径31.3mm	38－14	Pm005
7	SX10・3層	ミニチュア土器	皿形か、器高35.3mm、復元底径53.8mm、隆線文か	38－13	Pm006
8	SX10・3層	ミニチュア土器	深鉢、口径（63.7mm）、残存高62.1mm、縄文（RL)	38－11	Pm004
9	SX10・2層	土偶片か	片面は剥離、正面・側面に沈線文＋刺突文	38－17	Pp002
10	SX10・2層	土製品	右：刺突文、左：突起貼付→刺突文	38－16	Pp001
11	SX10・1層	円盤状土製品	最大径33.1mm、幅32.0mm、打ち欠き、研磨	38－18	Pd02
12	SX10・1層	円盤状土製品	最大径43.9mm、幅40.5mm、打ち欠き、研磨	38－19	Pd03
13	SX10・2a層	円盤状土製品	最大径53.8mm、幅51.1mm、打ち欠き、研磨	38－21	Pd04
14	SX10・2b層	円盤状土製品	最大径52.9mm、幅50.8mm、打ち欠き、研磨	38－22	Pd06
15	SX10・2層	円盤状土製品	最大径57.1mm、幅55.0mm、打ち欠き、研磨	38－20	Pd05
16	SX10・3層	円盤状土製品	最大径61.4mm、幅60.7mm、打ち欠き、研磨	38－24	Pd07
17	SX10・3～4層	円盤状土製品	最大径54.2mm、幅51.7mm、打ち欠き、研磨	38－23	Pd08

第66図　SX10遺物包含層出土遺物（6）

２e層からは沈線文で楕円状のモチーフを描くもの（第63図８）、隆線文（第63図９・10、第64図１～４、６～８）が施されるものや、透かし孔を４個もつ台付鉢の脚部（第64図５）が出土している。隆線のモチーフには横S字状（第64図１）、逆の字状（第64図６）、８字状（第64図７）などがある。第64図４は隆線に２列の連続刺突文が施されている。

２層として一括したものには、ヒレ状（第65図２）やC字状（第65図４）の隆線文、隆線文に円形の連続刺突文が施される土器のほか、貼瘤が施されるもの（第65図5・6）や細い原体で縄文が施されるもの（第65図７・８）がある。

３層からはS字状のモチーフを描く隆線文（第66図１）などが出土している。また、２～３層として取り上げたものには、注口が付くもの（第65図10）や沈線文で楕円状のモチーフを描くもの（第65図11）がある。

③土製品（第66図）

SX10遺物包含層から出土した土製品には、ミニチュア土器、土偶の破片とみられるもの、円盤状土製品、不明土製品が出土している。ミニチュア土器は器高10.0cm以下または底径5.0cm以下の小型の土器で、９点出土しており、器形が推定できたものを中心に６点図示した（第66図３～８）。深鉢形（第66図６・８）と皿形（第66図４・７）のものがある。土偶の破片とみられるもの（第66図９）には正面と側面に沈線文・刺突文が施されている。円盤状土製品は12点出土しており、残存状況がよく文様があるものを中心に７点図示した（第66図11～17）。大きさは最大径で3.3～6.1cmのものがある。深鉢の体部破片を利用し周縁を打ち欠き、研磨して成形している。

不明土製品とした第66図10は薄い板状で、両面に刺突文、片面に突起が施されている。

④石器（第67～71図、第９表）

SX10遺物包含層から出土した石器には石鏃、石錐、石匙、石篦、尖頭器、楔形石器、不定形石器、板状石器、打製石斧、磨製石斧、磨石、凹石、敲石、石皿、剥片・チップ・石核があり、トゥールは195点、全体で1221点出土している（第９表）。剥片石器は全体の形状がわかるもの、礫石器は完形品で明瞭に使用痕が残るものを中心に抽出し、68点図示した。以下では層ごとに石器を図示し、その特徴を示す。

１層からは石鏃（第67図１～８）、石錐、石篦（第67図９）、石匙（第67図11）、楔形石器（第67図12）、不定形石器（第第67図10）、打製石斧、磨製石斧（第67図13）、磨石、凹石（第67図14）が出土

第９表　SX10遺物包含層出土石器・石製品ほか点数表

	石鏃	石錐	石匙	石篦	楔形石器	尖頭器	板状石器	打製石斧	磨製石斧	不定形石器	磨石	凹石	敲石	石皿	小計	剥片	チップ	石核	石製品	有孔礫	総計
1層	30	2	1	1	4	2		1	4	9	3	4			61	190	232	7	3		493
2層	43	6	1		8	2			1	13	8	6	1	2	91	217	213	5	1	2	529
3層	3	1	1		1			1	1	1	1				10	21					31
4層	1				1		1								3	11					14
遺構確認面	1	1		1	2					2	1	1			9	33	6				48
１～２層	4	2								6					12	16	33				61
１～３層															0					1	1
２～３層	2	1			1					1					5	16	19				40
３～４層	2									2					4	5	2				11
計	86	13	3	2	17	4	1	2	6	34	13	11	1	2	195	509	505	12	4	3	1228
掲載	36	4	2	1	2	0	1	1	2	9	3	5	1	1	68	0	0	0	3	4	75

しており、トゥール全体の約30％を占める。石鏃は基部の形態が凹基のもの（第67図１～６）と平基のもの（第67図７・８）がある。石匙はつまみ部が欠損しているが、縦型のものである。磨製石斧は側縁が刃部に向かってあまり開かないもので、刃部の断面形は楕円形である。

２層から出土した石器には、石鏃、石錐、石匙、楔形石器、尖頭器、不定形石器、打製石斧、磨製石斧、磨石、凹石、敲石、石皿があり（第68～70図）、トゥール全体の約47％を占める。石鏃は基部の形態が凹基のもの（第68図１～５、第70図１・２・５～９）、平基のもの（第68図６・７）、凸基（有茎）のもの（第68図８・９）や未成品とみられるもの（第68図11、第70図３・10・11・12）がある。基部が有茎のものは全て2a層から出土している。タール状の付着物がみられるものが２点ある（第68図８、第70図５）。石錐（第70図14・15）はつまみ部と錐部が明瞭にわかれるものである。石匙（第70図16）は刃部が欠損しているが、縦型のものである。

３層から出土した石器には石鏃（第71図１・２）、石錐（第71図３）、石匙、不定形石器（第71図４）、磨製石斧（第71図５）、板状石器（第71図７）、磨石（第71図６）がある。磨製石斧は側辺が刃部に向かってやや開くもので、刃部の断面は丸みのある長方形である。

⑤石製品ほか（第72図、第９表）

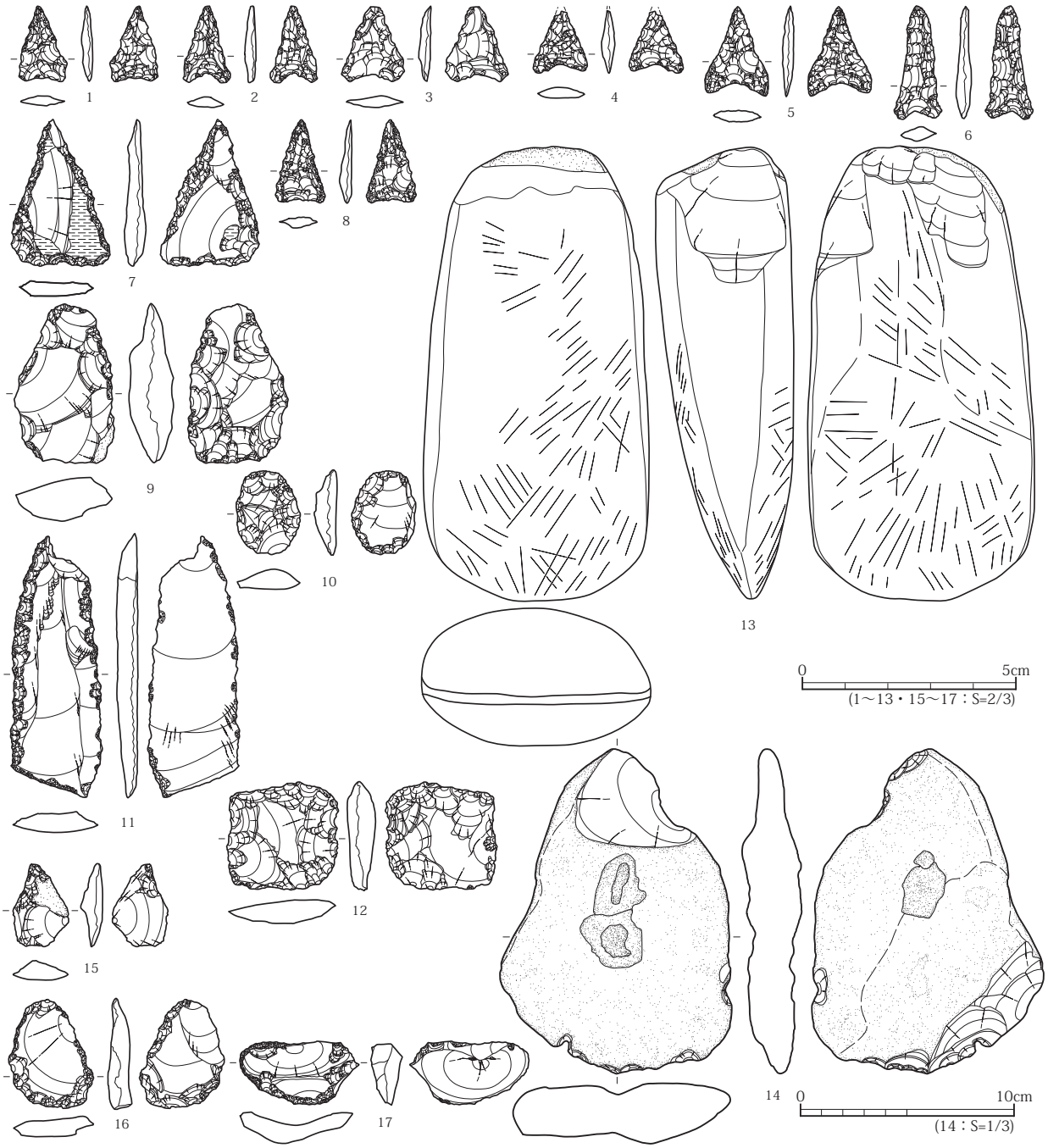
SX10遺物包含層から出土した石製品には石棒類（第72図１）、石刀類（第72図２）、円盤状石製品（第72図３）がある。石棒類、石刀類は大部分が破損しており、全体の形状は不明である。円盤状石製品は敲打で円形状に加工した後表面を研磨している。その他に自然の営力や素材礫の特質性により孔をもつに至ったと考えられる有孔礫があり、石錘や装身具として利用された可能性があることから遺物として登録し、写真のみ掲載した（第72図４～７）。

（６）江戸時代以降の墓跡

B区の中央東側で江戸時代以降の墓跡が14基まとまって検出された。平面形は隅丸方形や円形で、底面から副葬品の古銭、煙管、漆器椀、近世陶器などが出土している。埋土の上部には大形の礫が多数認められ、埋葬後に遺体が野生動物に掘り返されないよう入れられたものとみられる。墓跡の規模や特徴は表にまとめ（第73図下）、出土遺物の掲載は報告書作成の簡略化のため省略した。

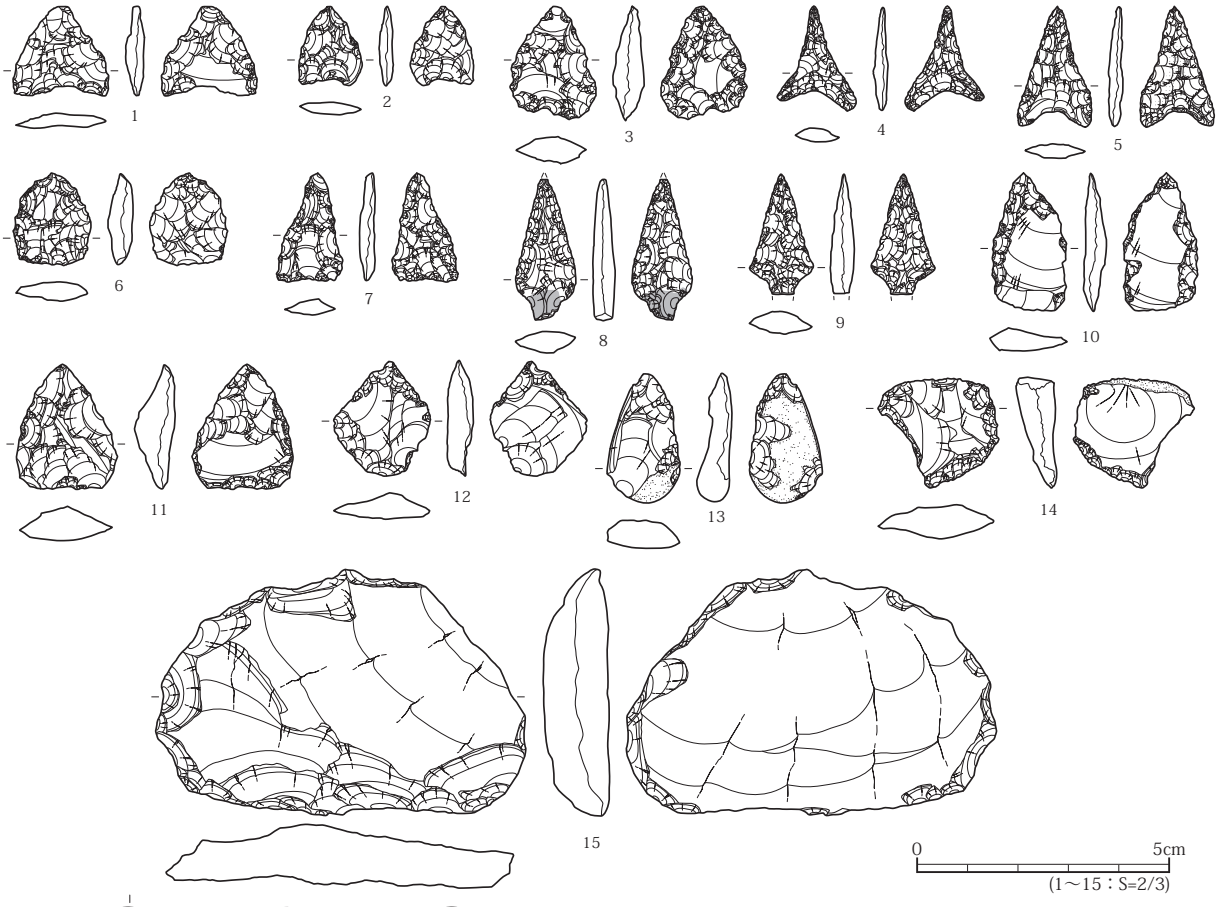
（７）ピット・基本層出土遺物

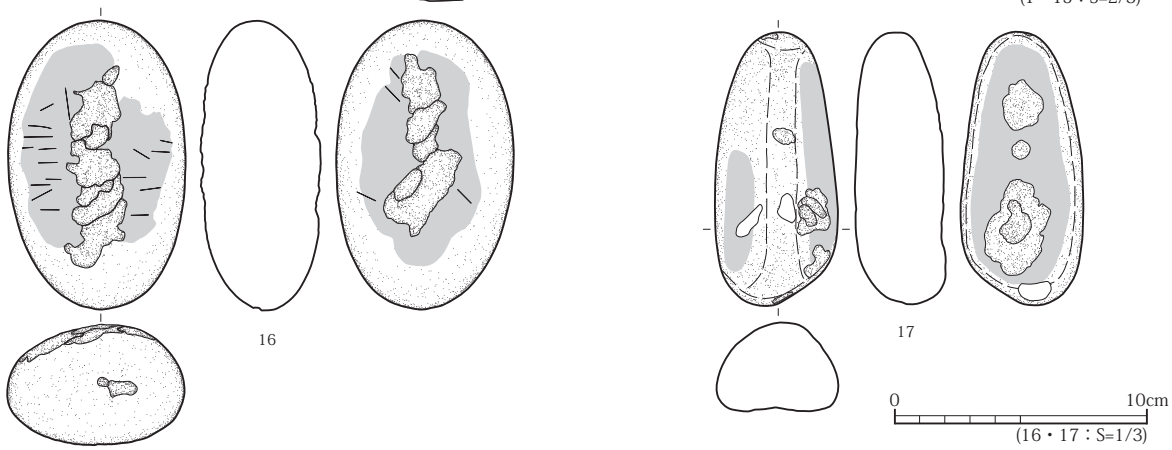
ピットはB区、C区、D区で約300個確認しており、その一部で縄文土器・石器が出土しているが、縄文土器には時期を特定できるものはなかった。石器が出土したピットは遺構配置図（第７～９図）や近接する遺構の個別平面図にピット番号を明記し、その位置を示した。出土した石器のうち竪穴建物跡、掘立柱建物跡、SX10遺物包含層などの主要な遺構に隣接するピットから出土したものを中心に図示し（第73～76図３）、一部は写真のみ掲載した（写真図版42～44）。その他に、B区・C区の基本層Ⅴ層から縄文土器・石器が出土しており、主要なものを図示した（第76図４～８・第77図）。



番号	遺構・層	器種	特徴	写真	登録番号
1	SX10・1層	石鏃	珪質頁岩、長さ17.6mm、幅11.3mm、厚さ2.4mm、重さ0.4g	39－1	S 003
2	SX10・1層	石鏃	珪質頁岩、長さ17.7mm、幅10.5mm、厚さ2.5mm、重さ0.4g	39－2	S 110
3	SX10・1層	石鏃	珪質頁岩、長さ17.3mm、幅14.6mm、厚さ3.1mm、重さ0.5g	39－3	S 092
4	SX10・1層	石鏃	珪質頁岩、長さ14.2mm、幅14.9mm、厚さ4.2mm、重さ0.4g	39－4	S 091
5	SX10・1層	石鏃	珪質頁岩、長さ20.2mm、幅14.9mm、厚さ2.2mm、重さ0.6g	39－5	S 113
6	SX10・1層	石鏃	珪質頁岩、長さ26.4mm、幅11.2mm、厚さ3.7mm、重さ0.7g	39－6	S 081
7	SX10・1層	石鏃	珪質頁岩、長さ34.6mm、幅23.6mm、厚さ5.2mm、重さ3.1g	39－8	S 043
8	SX10・1層	石鏃	珪質頁岩、長さ19.0mm、幅11.2mm、厚さ2.5mm、重さ0.4g	39－7	S 115
9	SX10・1層	石篦	珪質頁岩、長さ36.9mm、幅23.9mm、厚さ10.6mm、重さ8.3g	39－9	S 141
10	SX10・1層	不定形石器	珪質頁岩、長さ19.8mm、幅14.6mm、厚さ5.2mm、重さ1.6g	39－11	S 142
11	SX10・1層	石匙	珪質頁岩、長さ61.9mm、幅21.7mm、厚さ4.5mm、重さ6.8g	39－10	S 137
12	SX10・1層	楔形石器	珪質頁岩、長さ26.0mm、幅25.5mm、厚さ6.3mm、重さ5.1g	39－12	S 146
13	SX10・1層	磨製石斧	凝灰岩、長さ105.3mm、幅50.7mm、厚さ32.0mm、重さ267.8g	39－13	S 226
14	SX10・1層	凹石	凝灰岩、長さ150.9mm、幅107.1mm、厚さ34.6mm、重さ425.0g	39－14	S 258
15	SX10・1～2層	不定形石器	黒曜石、長さ19.6mm、幅13.2mm、厚さ5.2mm、重さ0.9g	39－15	S 064
16	SX10・1～2層	不定形石器	珪質頁岩、長さ18.5mm、幅25.9mm、厚さ5.3mm、重さ2.6g	39－16	S 144
17	SX10・1～2層	不定形石器	珪質頁岩、長さ14.5mm、幅27.8mm、厚さ4.9mm、重さ2.3g	39－17	S 135

第67図　SX10遺物包含層出土遺物（7）



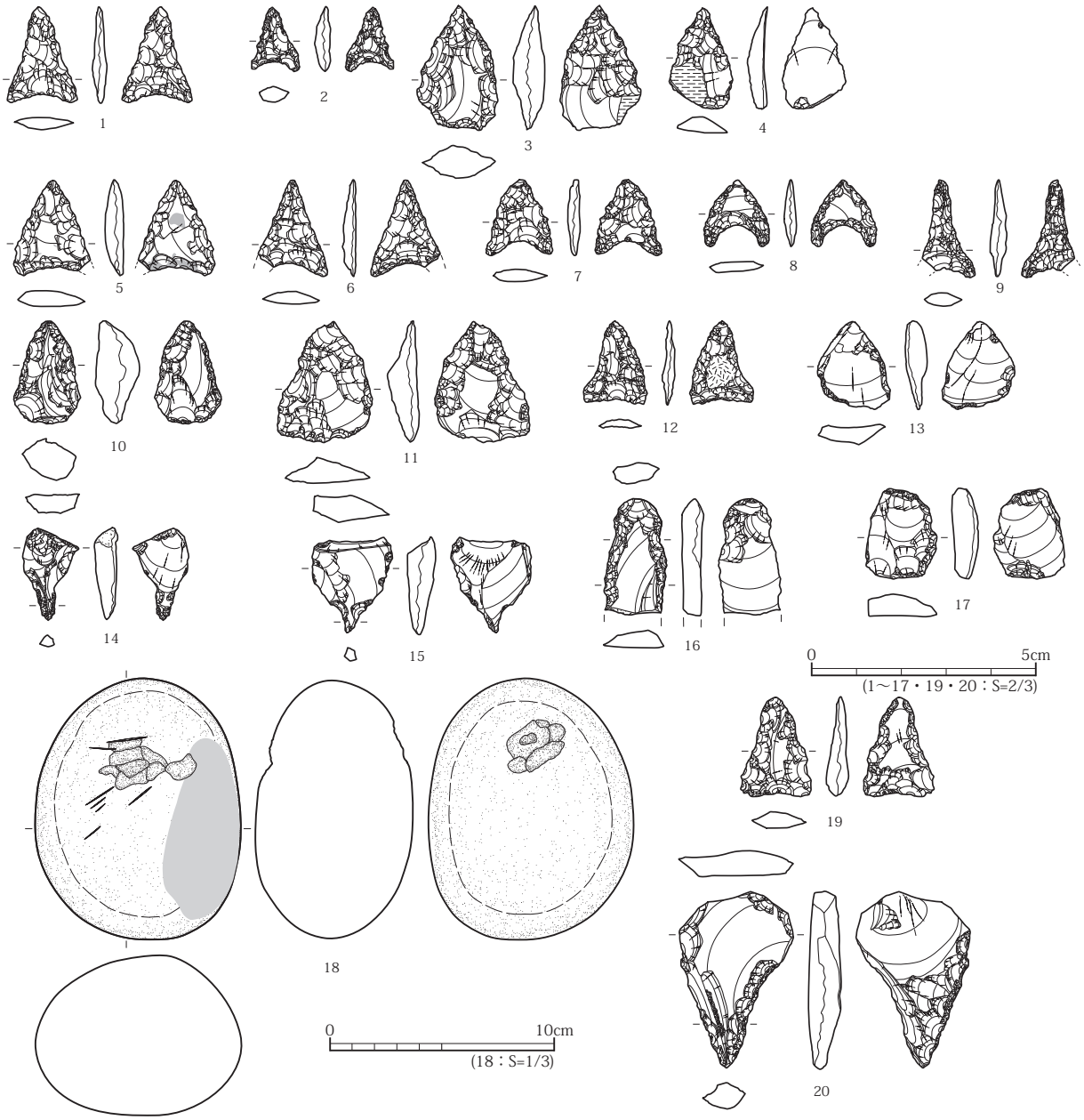


番号	遺構・層	器種	特徴	写真	登録番号
1	SX10・2a層	石鏃	珪質頁岩、長さ17.6mm、幅18.9mm、厚さ2.8mm、重さ0.8g	40－1	S 004
2	SX10・2a層	石鏃	黒曜石、長さ15.1mm、幅12.6mm、厚さ2.1mm、重さ0.5g	40－2	S 117
3	SX10・2a層	石鏃	鉄石英、長さ21.7mm、幅17.9mm、厚さ6.3mm、重さ2.0g、被熱処理か	40－3	S 022
4	SX10・2a層	石鏃	珪質頁岩、長さ21.4mm、幅15.6mm、厚さ2.9mm、重さ0.4g	40－4	S 008
5	SX10・2a層	石鏃	珪質頁岩、長さ23.7mm、幅14.5mm、厚さ2.9mm、重さ0.8g	40－5	S 077
6	SX10・2a層	石鏃	珪質頁岩、長さ18.2mm、幅15.7mm、厚さ5.1mm、重さ1.5g	40－7	S 054
7	SX10・2a層	石鏃	珪質凝灰岩、長さ21.2mm、幅13.2mm、厚さ2.8mm、重さ0.8g	40－6	S 044
8	SX10・2a層	石鏃	珪質頁岩、長さ27.9mm、幅12.0mm、厚さ4.1mm、重さ1.1g、基部に付着物あり	40－12	S 024
9	SX10・2a層	石鏃	珪質頁岩、長さ23.8mm、幅12.6mm、厚さ4.5mm、重さ1.1g	40－13	S 002
10	SX10・2a層	不定形石器	珪質頁岩、長さ26.6mm、幅14.7mm、厚さ4.4mm、重さ1.4g	40－8	S 058
11	SX10・2a層	石鏃	珪質頁岩、長さ24.3mm、幅19.5mm、厚さ7.8mm、重さ2.8g	40－9	S 118
12	SX10・2a層	不定形石器	珪質凝灰岩、長さ22.3mm、幅18.8mm、厚さ5.1mm、重さ1.7g	40－10	S 237
13	SX10・2a層	不定形石器	黒曜石、長さ25.3mm、幅14.4mm、厚さ6.2mm、重さ2.1g	40－11	S 023
14	SX10・2a層	不定形石器	頁岩、長さ20.8mm、幅24.5mm、厚さ6.8mm、重さ3.3g	40－14	S 152
15	SX10・2a層	打製石斧	砂岩、長さ73.3mm、幅49.2mm、厚さ14.2mm、重さ56.2g	40－15	S 263
16	SX10・2a層	凹石	安山岩、長さ113.9mm、幅69.8mm、厚さ46.3mm、重さ566.0g、転用（磨石→）	40－16	S 244
17	SX10・2a層	凹石	安山岩、長さ107.7mm、幅46.5mm、厚さ33.4mm、重さ231.9g、転用（磨石→）	40－17	S 287

第68図　SX10遺物包含層出土遺物（8）

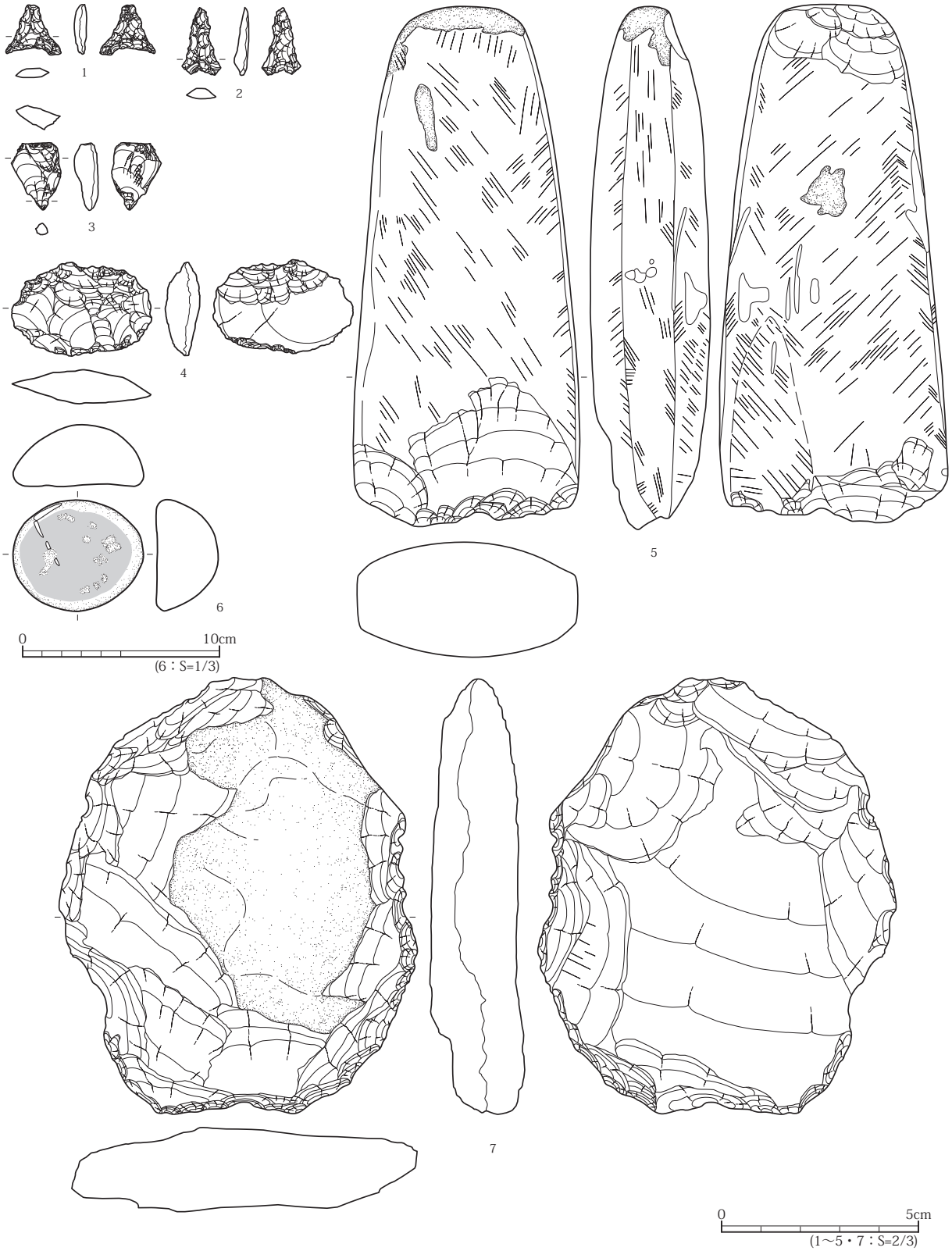
番号	遺構・層	器種	特徴	写真	登録番号
1	SX10・2a層	磨石	安山岩、長さ106.1mm、幅72.7mm、厚さ62.5mm、重さ638.5g	40－18	S 286
2	SX10・2a層	磨石	安山岩、長さ170.7mm、幅45.6mm、厚さ50.9mm、重さ487.5g	40－20	S 260
3	SX10・2a層	敲石	安山岩、長さ86.6mm、幅78.4mm、厚さ71.8mm、重さ639.0g	40－23	S 254
4	SX10・2b層	石鏃	碧玉、長さ25.5mm、幅19.4mm、厚さ4.2mm、重さ2.7g、被熱処理か	40－22	S 120
5	SX10・2b層	石鏃	玉髄、長さ21.9mm、幅14.2mm、厚さ3.9mm、重さ1.3g	40－21	S 061
6	SX10・2b層底面	凹石	安山岩、長さ89.6mm、幅82.2mm、厚さ44.4mm、重さ430.0g、転用（磨石→）	40－19	S 249
7	SX10・2b層底面	石皿	凝灰岩、長さ160.8mm、幅169.1mm、厚さ47.0mm、重さ954.5g	40－24	S 262

第69図　SX10遺物包含層出土遺物（9）



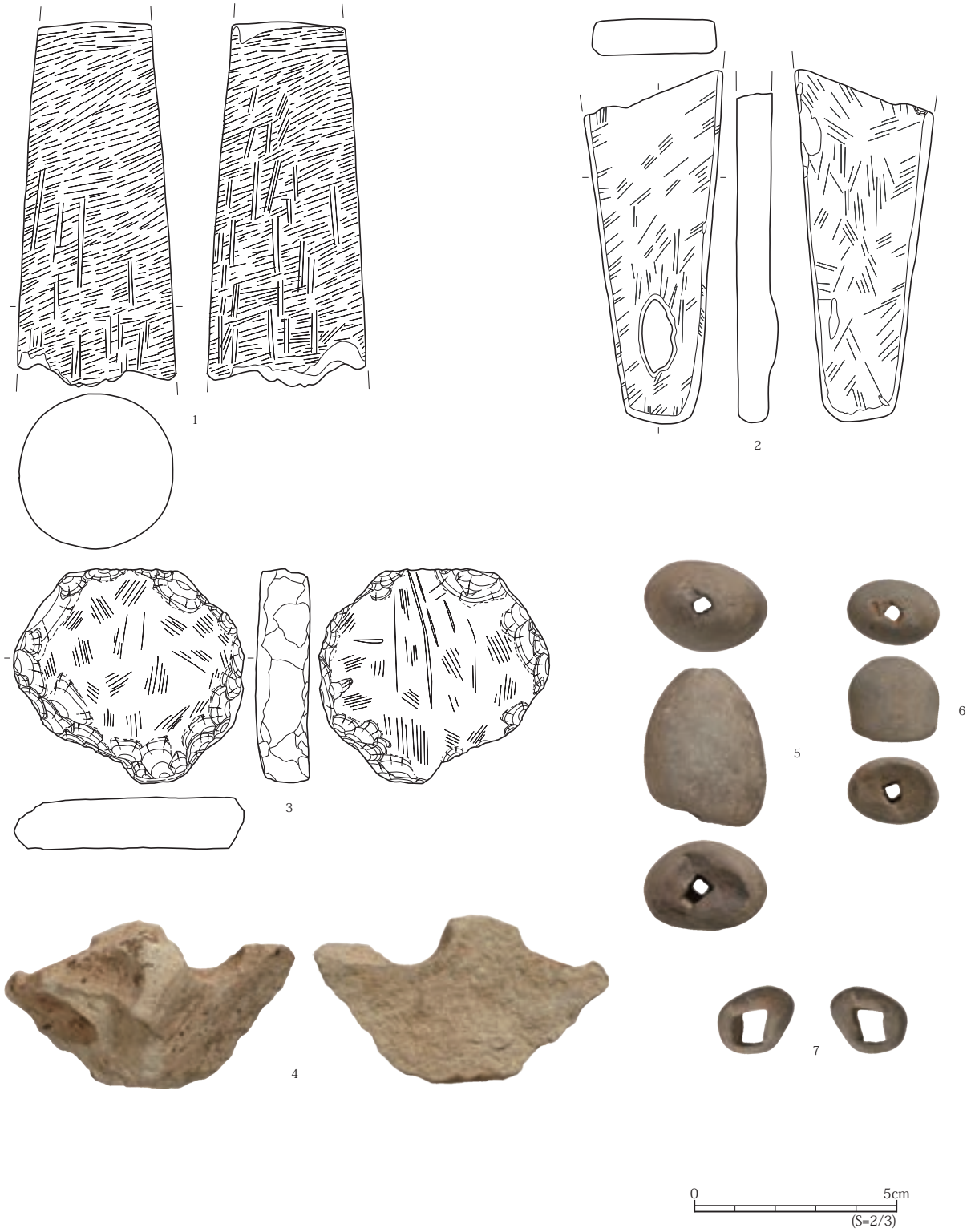
番号	遺構・層	器種	特徴	写真	登録番号
1	SX10・2e層	石鏃	黒曜石、長さ21.3mm、幅15.6mm、厚さ2.9mm、重さ0.7g	41－2	S 001
2	SX10・2e層	石鏃	珪質頁岩、長さ14.4mm、幅10.5mm、厚さ3.2mm、重さ0.4g	41－1	S 108
3	SX10・2e層	石鏃	珪質頁岩、長さ26.8mm、幅17.7mm、厚さ7.6mm、重さ2.7g	41－3	S 055
4	SX10・2e層	不定形石器	珪質頁岩、長さ22.8mm、幅14.2mm、厚さ3.6mm、重さ1.0g、節理面あり	41－4	S 062
5	SX10・2層	石鏃	珪質頁岩、長さ21.6mm、幅17.2mm、厚さ4.6mm、重さ1.5g、付着物あり	39－18	S 090
6	SX10・2層	石鏃	珪質頁岩、長さ21.2mm、幅15.3mm、厚さ3.1mm、重さ0.5g	39－19	S 095
7	SX10・2層	石鏃	珪質頁岩、長さ16.7mm、幅14.8mm、厚さ2.3mm、重さ0.7g	39－20	S 111
8	SX10・2層	石鏃	珪質頁岩、長さ14.9mm、幅14.6mm、厚さ2.3mm、重さ0.4g	39－21	S 070
9	SX10・2層	石鏃	珪質頁岩、長さ22.0mm、幅11.9mm、厚さ3.2mm、重さ0.5g	39－22	S 083
10	SX10・2層	石鏃	珪質頁岩、長さ22.3mm、幅14.6mm、厚さ8.4mm、重さ2.8g	39－23	S 057
11	SX10・2層	石鏃	珪質頁岩、長さ26.7mm、幅20.6mm、厚さ6.3mm、重さ2.7g	39－24	S 056
12	SX10・2層	石鏃	珪質頁岩、長さ18.4mm、幅14.2mm、厚さ2.6mm、重さ0.5g、被熱あり	39－25	S 084
13	SX10・2層	石鏃	珪質頁岩、長さ20.1mm、幅16.8mm、厚さ4.7mm、重さ1.2g	39－26	S 236
14	SX10・2層	石錐	珪質頁岩、長さ20.9mm、幅11.2mm、厚さ4.6mm、重さ0.9g、錐部長7.2mm	39－27	S 033
15	SX10・2層	石錐	珪質頁岩、長さ22.5mm、幅18.0mm、厚さ6.3mm、重さ1.3g、錐部長5.3mm	39－28	S 036
16	SX10・2層	石匙	珪質頁岩、長さ51.6mm、幅19.6mm、厚さ3.6mm、重さ2.0g	39－29	S 041
17	SX10・2層	楔形石器	珪質頁岩、長さ19.7mm、幅15.2mm、厚さ5.1mm、重さ1.9g	39－30	S 138
18	SX10・2層	凹石	安山岩、長さ115.2mm、幅90.0mm、厚さ70.9mm、重さ1015.5g、転用（磨石→）	39－31	S 255
19	SX10・2～3層	石鏃	珪質頁岩、長さ22.3mm、幅15.6mm、厚さ4.7mm、重さ1.4g	41－5	S 021
20	SX10・2～3層	石錐	碧玉、長さ39.7mm、幅25.4mm、厚さ6.5mm、重さ6.4g、錐部長23.0mm	41－6	S 104

第70図　SX10遺物包含層出土遺物（10）



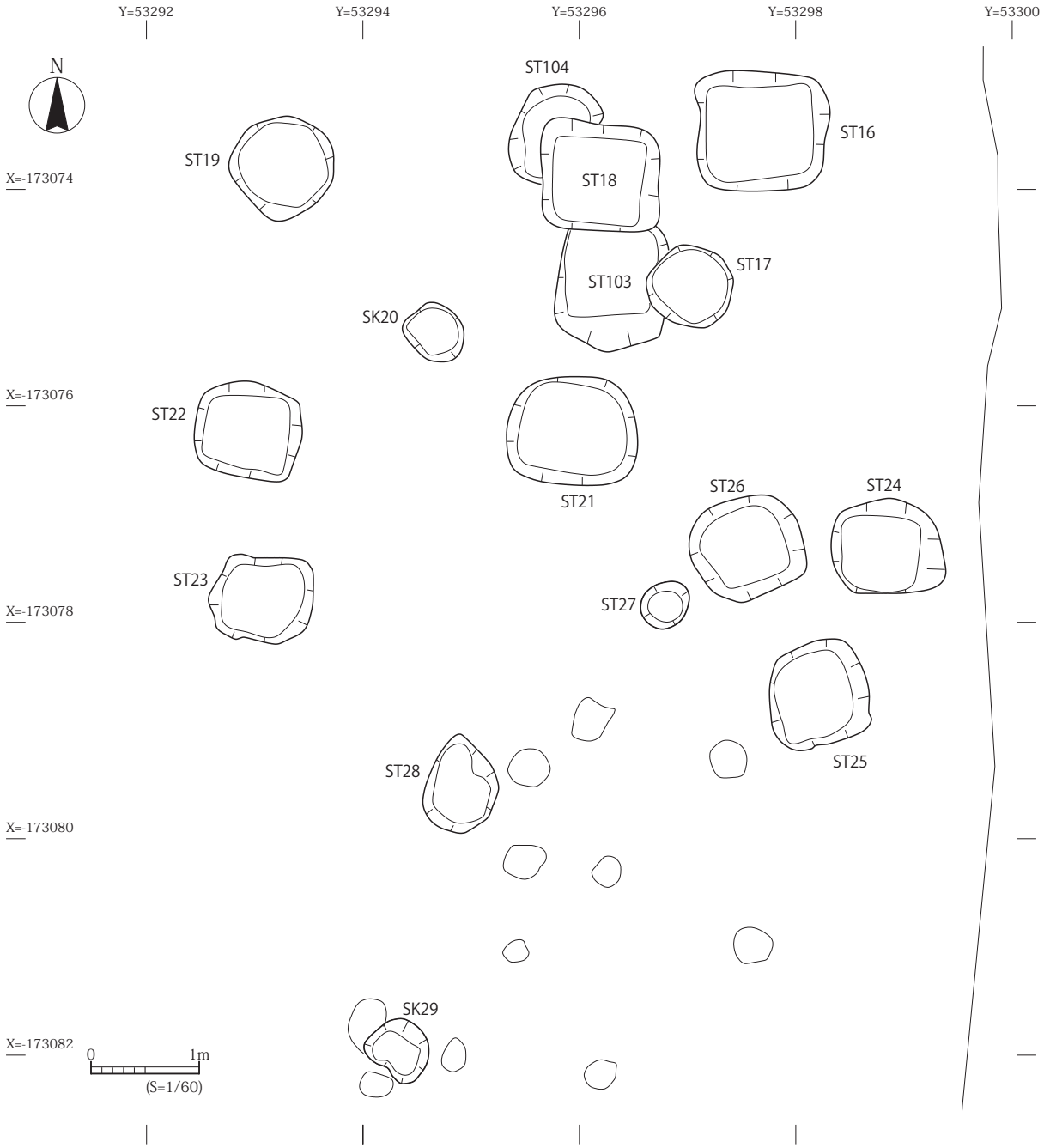
番号	遺構・層	器種	特徴	写真	登録番号
1	SX10・3b層	石鏃	珪質頁岩、長さ12.7mm、幅13.9mm、厚さ3.2mm、重さ0.4g	41－7	S 075
2	SX10・3b層	石鏃	珪質頁岩、長さ16.9mm、幅9.8mm、厚さ3.3mm、重さ1.3g	41－8	S 082
3	SX10・3層	石錐	珪質頁岩、長さ17.1mm、幅12.3mm、厚さ6.1mm、重さ1.0g、錐部長3.2mm	41－9	S 035
4	SX10・3b層	不定形石器	碧玉、長さ35.3mm、幅33.6mm、厚さ7.8mm、重さ6.4g	41－10	S 143
5	SX10・3b層	磨製石斧	安山岩、長さ131.6mm、幅57.1mm、厚さ31.0mm、重さ355.0g	41－12	S 204
6	SX10・3b層	磨石	安山岩、長さ65.1mm、幅56.0mm、厚さ30.2mm、重さ136.4g	41－11	S 298
7	SX10・3層	板状石器	粘板岩、長さ109.5mm、幅87.9mm、厚さ22.5mm、重さ235.2g	41－13	S 018

第71図　SX10遺物包含層出土遺物（11）



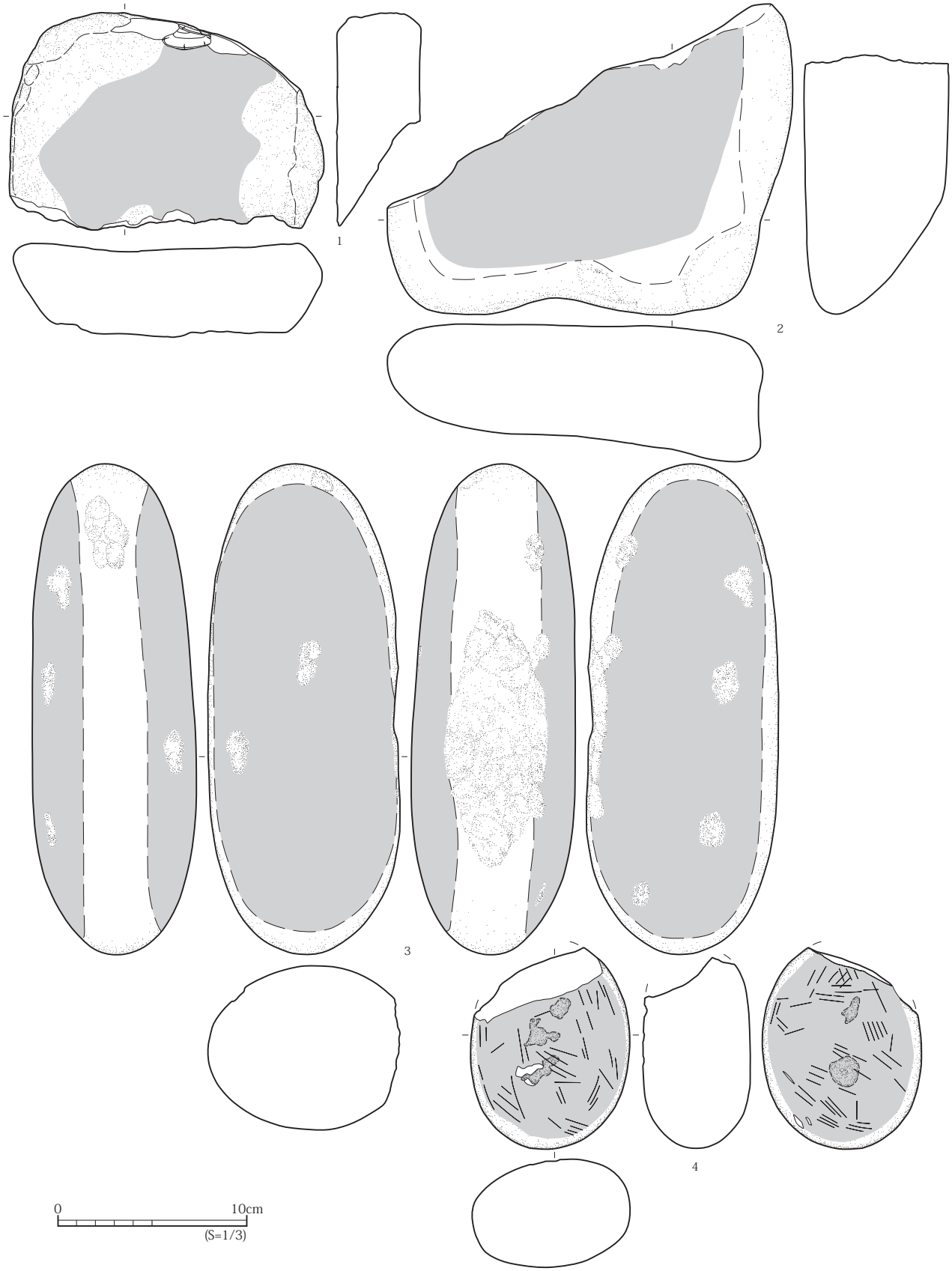
番号	遺構・層	器種	特徴	写真	登録番号
1	SX10・2a層	石棒	粘板岩、長さ89.8mm、幅39.7mm、厚さ39.7mm、重さ205.9g	41－14	S 207
2	SX10・2e層	石刀	凝灰岩、長さ85.5mm、幅33.7mm、厚さ9.0mm、重さ43.8g	41－15	S 295
3	SX10・2a層	石製円盤	凝灰岩、長さ55.4mm、幅49.8mm、厚さ12.7mm、重さ54.2g、周囲打欠き・表面研磨	41－16	S 300
4	SX10・2a層	有孔礫	凝灰岩、長さ74.2mm、幅42.3mm、厚さ25.8mm、重さ49.1g	41－17	S 276
5	SX10・2e層	有孔礫	頁岩、長さ40.2mm、幅30.3mm、厚さ22.5mm、重さ33.0g	41－19	S 006
6	SX10・2層	有孔礫	頁岩、長さ20.4mm、幅16.8mm、厚さ7.1mm、重さ2.6g	41－18	S 102
7	SX10・3～4層	有孔礫	頁岩、長さ20.1mm、幅23.7mm、厚さ18.7mm、重さ12.0g	41－20	S 103

第72図　SX10遺物包含層出土遺物（12）



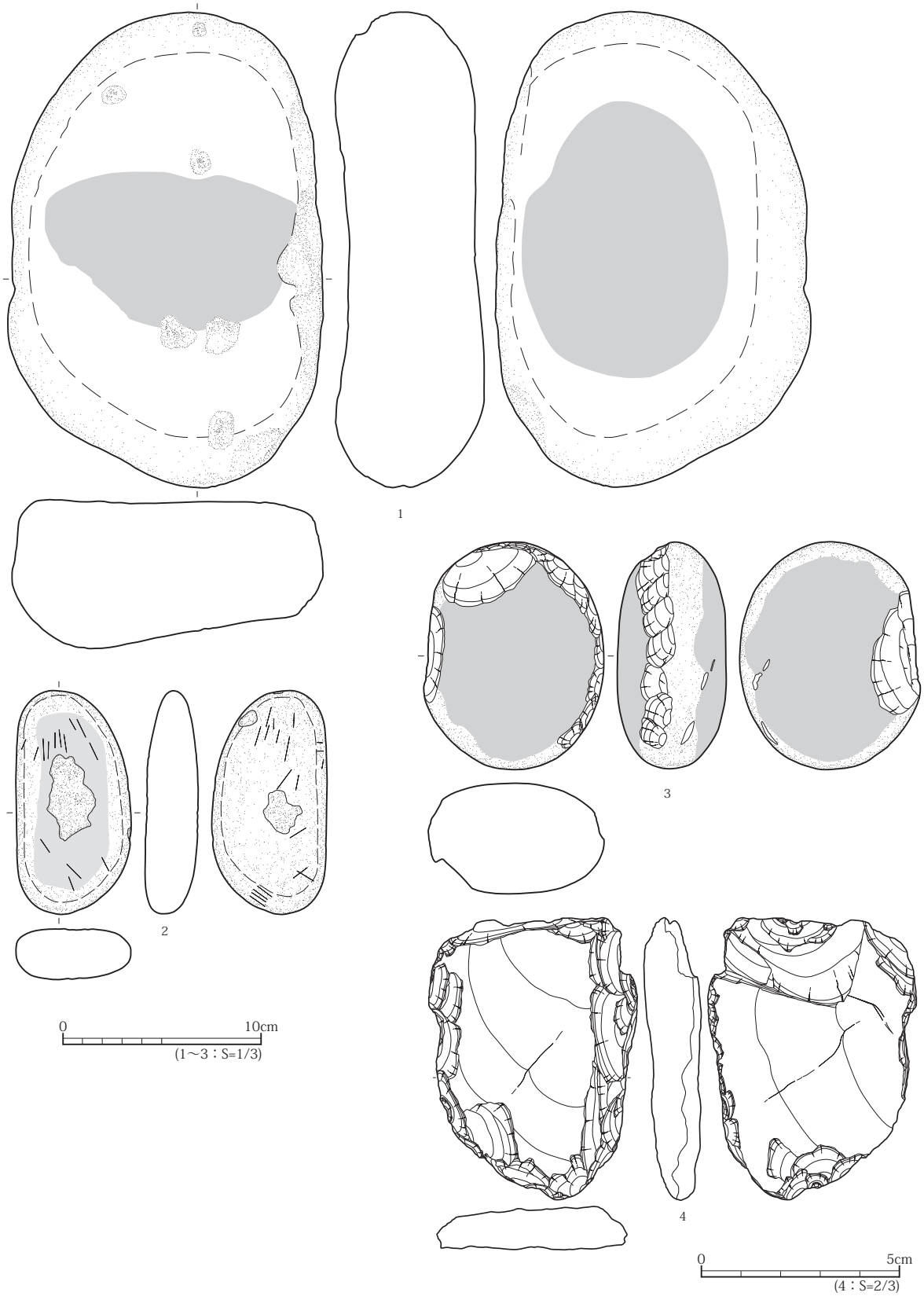
遺構	位置	新旧関係	規模			平面形	断面形	特記事項
			長軸(m)	短軸(m)	深さ(cm)			
ST16	B区北	なし	1.2	1.2	56	隅丸方形	箱形	煙管、古銭が出土。
ST17	B区北	ST103→ST17	0.8	0.8	13	円形	皿状	
ST18	B区北	ST103・104→ST18	1.1	1.0	66	隅丸方形	箱形	煙管、古銭が出土。
ST19	B区北	なし	1.0	0.9	15	円形	皿状	古銭が出土。
ST21	B区北	なし	1.2	1.0	25	隅丸方形	箱形か	
ST22	B区北	なし	1.0	0.9	25	隅丸方形	箱形か	煙管、古銭、陶器が出土。
ST23	B区北	なし	1.0	0.8	17	隅丸方形	皿状	煙管、古銭が出土。
ST24	B区北	なし	1.0	0.9	59	隅丸方形	箱形	煙管、古銭、漆器椀が出土。埋土に大型の礫を多数含む。
ST25	B区北	なし	1.0	1.0	61	隅丸方形	逆台形	煙管、漆器が出土。埋土に大型の礫を多数含む。
ST26	B区北	なし	1.0	0.9	55	隅丸方形	箱形	煙管、古銭が出土。
ST27	B区北	なし	0.5	0.4	38	円形	箱形	埋土に大形の礫を多数含む。
ST28	B区北	なし	0.9	0.7	18	楕円形	皿状	
ST103	B区北	ST103→ST18	1.1以上	1.0	27	隅丸方形か	箱形か	古銭が出土。埋土に大形の礫を含む。
ST104	B区北	ST104→ST18	0.9	0.7	24	隅丸方形か	箱形か	埋土に大形の礫を含む。

第73図　江戸時代以降の墓跡



番号	遺構（平面図）	器種	特徴	写真	登録番号
1	P203（第10図）	石皿	安山岩、長さ166.9mm、幅114.8mm、厚さ44.4mm、重さ1071.0g、被熱あり	42－2	S 322
2	P277（第10図）	石皿	安山岩、長さ214.5mm、幅164.5mm、厚さ78.5mm、重さ2980g	42－6	S 481
3	P277（第10図）	凹石	安山岩、長さ258.8mm、幅96.7mm、厚さ84.7mm、重さ3500g	42－5	S 480
4	P219（第10図）	磨石	安山岩、長さ104.7mm、幅82.9mm、厚さ57.6mm、重さ672.0g、転用（凹石→）	42－3	S 321

第74図　ピット出土遺物（1）



番号	遺構（平面図）	器種	特徴	写真	登録番号
1	P45（第20図）	石皿	安山岩、長さ266.1mm、幅152.1mm、厚さ78.7mm、重さ4500g、被熱あり	43－4	S 426
2	P51（第20図）	凹石	安山岩、長さ113.0mm、幅57.3mm、厚さ25.7mm、重さ247.0g	43－2	S 308
3	P70（第９図）	敲石	安山岩、長さ114.8mm、幅88.1mm、厚さ55.1mm、重さ801.0g、転用（磨石→）	42－7	S 282
4	P103（第18図）	打製石斧	粘板岩、長さ114.2mm、幅104.4mm、厚さ26.5mm、重さ399.5g	43－1	S 315

第75図　ピット出土遺物（2）

番号	遺構（平面図）	器種	特徴	写真	登録番号
1	P183（第59図）	楔形石器	黒曜石、長さ13.3mm、幅23.1mm、厚さ7.8mm、重さ2.1g	44－5	S 158
2	P192（第59図）	石鏃	珪質頁岩、長さ18.8mm、幅13.6mm、厚さ3.7mm、重さ0.9g	44－4	S 045
3	P189（第59図）	凹石	安山岩、長さ129.8mm、幅76.5mm、厚さ36.7mm、重さ517.5g、転用（磨石→）	44－3	S 265
4	C区Ⅴ層（SX110か）	深鉢	平縁、口径29.2cm、縄文（RL)→沈線文、充填縄文	44－6	pal13
5	C区Ⅴ層（SX110か）	深鉢	底径9.4㎜、隆沈線文	44－10	pal14
6	C区Ⅴ層（SX110か）	深鉢	波状口縁、口径14.3cm、縄文（RL)→隆沈線文	44－8	pal16
7	C区Ⅴ層（SX110か）	深鉢	縄文(RL)→隆沈線文、磨消縄文	44－7	pal17
8	C区Ⅴ層（SX110か）	深鉢	波状口縁、縄文（LR)→沈線→連続刺突文、充填縄文	44－9	pal15

第76図　ピット・基本層出土遺物

1

2

0　5cm
(S=2/3)

番号	遺構・層	器種	特徴	写真	登録番号
1	C区北東の谷部	磨製石斧	緑色片岩、長さ130.3mm、幅69.9mm、厚さ34.4mm、重さ553.0g、刃部・基部欠損	44－11	S012
2	C区南東Ⅴ層	有孔礫	凝灰岩、長さ93.7cm、幅80.6cm、厚さ25.2mm、重さ147.4g	44－12	S275

第77図　基本層出土遺物

第５章　総括

今回の調査で出土した遺物、検出した遺構のうち主要なものについて検討し、遺構の年代や変遷などについてまとめる。

１．遺物

（１）縄文土器

今回の調査で出土した土器点数（破片数）は全部で23,496点（口縁部破片1199点）あり、そのうち文様や時期の特徴が分かりやすい資料として本報告に図示したものが約110点である。縄文土器の約８割は遺物包含層・貝層から出土しているほか、土坑、竪穴建物跡、掘立柱建物跡から少量出土している。主に隆線、沈線、貼付、刺突などの技法によって文様が施されるものと、地文のみのものがあり、地文は縄文が大半を占め、そのほかに撚糸文がみられる。ほとんどは破片資料で完形に復元できたものはないが、器種は大部分が深鉢とみられ、その他に台付鉢・浅鉢などが少数伴う。これらの土器を従来の研究に従って時期ごとに大別すると、Ⅰ群（中期中葉）、Ⅱ群（中期後葉）、Ⅲ群（中期末葉～後期初頭）、Ⅳ群（後期後葉）に分けられる。ここでは、遺物包含層・貝層から出土した土器を中心に文様や器形などの特徴について分類ごとに記述し、他遺跡の資料との比較から年代的な位置付けを行う。

【Ⅰ群】（中期中葉）（第78図１）

口縁部に隆帯と沈線を組み合わせた隆沈線によって文様を描く厚手の土器で、SX30遺物包含層から１点のみ出土している。口縁部は内湾しており、器形は体部がすぼまるキャリパー形とみられる。類例としては仙台市高柳遺跡Ⅱ群土器（仙台市教育委員会 1995）、塩竈市桂島貝塚（塩竈市教育委員会 2010）などが挙げられ、これらは大木８b式に位置付けられている。

【Ⅱ群】（中期後葉）（第78図２～８）

主に幅の広い沈線で文様を描くもので、SK09土坑、SX30遺物包含層、C区基本層Ⅴ層から少量出土している。器面全体に楕円文（第78図２・３・５）、U字・∩字状文（第78図５・６・７）などの文様が縦方向に描かれる。口縁部に２～３条の横位沈線文（第78図７・８）や２列の円形刺突文（第78図５）が施される文様帯をもつものがある。沈線文様内は縄文が充填施文されている（充填縄文）。体部がやや膨らみ口縁部が外半する器形で、口縁部形態は平縁（第78図２）と波状口縁（第78図３・６～８）がある。類例としては七ヶ宿町大梁川遺跡第Ⅲ層土器（宮城県教育員会 1988）、登米市青島貝塚（加藤・後藤 1975・登米市教育委員会 2011）、石巻市南境貝塚７・８トレンチ（後藤 2004・2005）などが挙げられる。これらの土器は大梁川遺跡出土土器の検討（宮城県教育委員会 1988）から大木９式後半に位置付けられており（丹羽 1989、森 2008など）、Ⅱ群土器の年代は大木９式後半に位置付けられる。

【Ⅲ群】(中期末葉～後期初頭)（第78図９～23・第79図）

主に隆線で文様を描くもの（１類）、隆線に沿って連続刺突文が施されるものやヒレ状隆線文が施

されるもの（2類）、隆線に２個１対の刻み目文が施されるもの（３類）がある。

【Ⅲ群１類】（第78図９～23）

口縁部から体部上半に主に隆線で文様を描くもので、SX10遺物包含層2e層からまとまって出土している。文様は隆線文のほか連続刺突文や沈線文を伴うものが少数みられる。頸部の隆線で口縁部無文帯と体部文様帯に区画されるもの（第78図12～14・16・17）や口縁部に隆線と連続刺突文による文様帯をもつもの（第78図18・21～23）がある。体部の文様には縄文帯で非連結横S字状文（第78図９）が施されたもの、無文帯で連結S字状文（第78図15）や８字状文（第78図18）が施されたものがあり、第78図18は体部文様帯の下端が隆線によって区画されている。縄文帯で文様が施されるものは、隆線文様内は縄文が充填施文されている（充填縄文）。器形は体部でやや膨らみ口縁部が外反するものが主体で、口縁部が内湾するもの（第78図14）や直立ぎみに立ち上がるもの（第78図11）がわずかにある。口縁部形態は平縁（第78図９～14）と波状縁（第78図15～18・21～23）がある。類例としては、栗原市玉造遺跡１群土器（宮城県球威区委員会 1980）・鰻沢遺跡１類土器（築館町教育委員会 2005）、大梁川遺跡第Ⅱa～b層出土土器（宮城県教育委員会 1988）などが挙げられる。玉造遺跡１群土器の特徴はⅢ群１類とほぼ同じで、大梁川遺跡出土土器の検討において大木10式古段階後半に位置付けられていることから、Ⅲ群１類土器の年代は大木10式古段階後半に位置付けられると考えられる。

【Ⅲ群２類】（第79図１～17）

SX10遺物包含層2b層から面的な広がりをもって出土しているほか、SX110遺物包含層４・５層から多数出土している。隆線に沿って連続刺突文が施されるもの（2a類）が主体で、ヒレ状隆線文が施されるもの（2b類）や2a・2b類に類似した沈線文が施されるもの（2c類）がある。隆線に沿って施される連続刺突文は主に口縁部無文帯と体部文様帯の区画線としてみられる。

2a類には口縁部が内湾するもの（深鉢Ａ類）（第79図1～10）と外反･外傾するもの（深鉢Ｂ類）（第79図11～17）がある。深鉢A類は口縁に注口・把手がつくもの（第79図１～６）と環状把手がつくもの（第79図７・８）がある。文様は沈線で楕円形区画文が施されるもの（第79図１・２・４・7）が主体で、無文部に刺突文が充填されるもの（第79図５）や隆線の上下に沿って円形の連続刺突文が施されるもの（第79図６）がある。深鉢Ｂ類は口縁部に環状把手がつくもの（第79図11・12）、口縁部形態が波状縁のもの（第79図13・14）、平縁のもの（第79図15～17）がある。文様は沈線で楕円形区画文が施されるもの（第79図11・14）、沈線で方形区画文が施されるもの（第79図13）、隆線で方形区画文（第79図13・15）が施されるもの、環状把手や文様内部に刺突文が充填されるもの（第79図12・14・17）がある。

2b類は口縁部が内湾するもの（第79図18・19）と外反するもの（第79図20）がある。ヒレ状隆線文は環状把手（第79図18・19）、波頂部（第79図20）、文様の交点（第79図18・20・22）に施されており、2a類にも文様の交点にヒレ状隆線文が施されるものがわずかにある（第79図13・14）。2b類の文様は沈線で楕円形区画文（第79図18）や方形区画文（第79図20・22）が施されており、沈線に沿って連続刺突文が施されるものもある（第79図22）。

2c類（第79図23～27）は2a類や2b類のうち沈線で文様が施されるものに類似するものである。沈線

で方形区画文を基調とする文様が施されており、玉抱文（第79図23）やフック状文（第79図24）が付く。口縁部形態は平縁が主体で、第79図23は波頂部下に刺突文が充填されている。

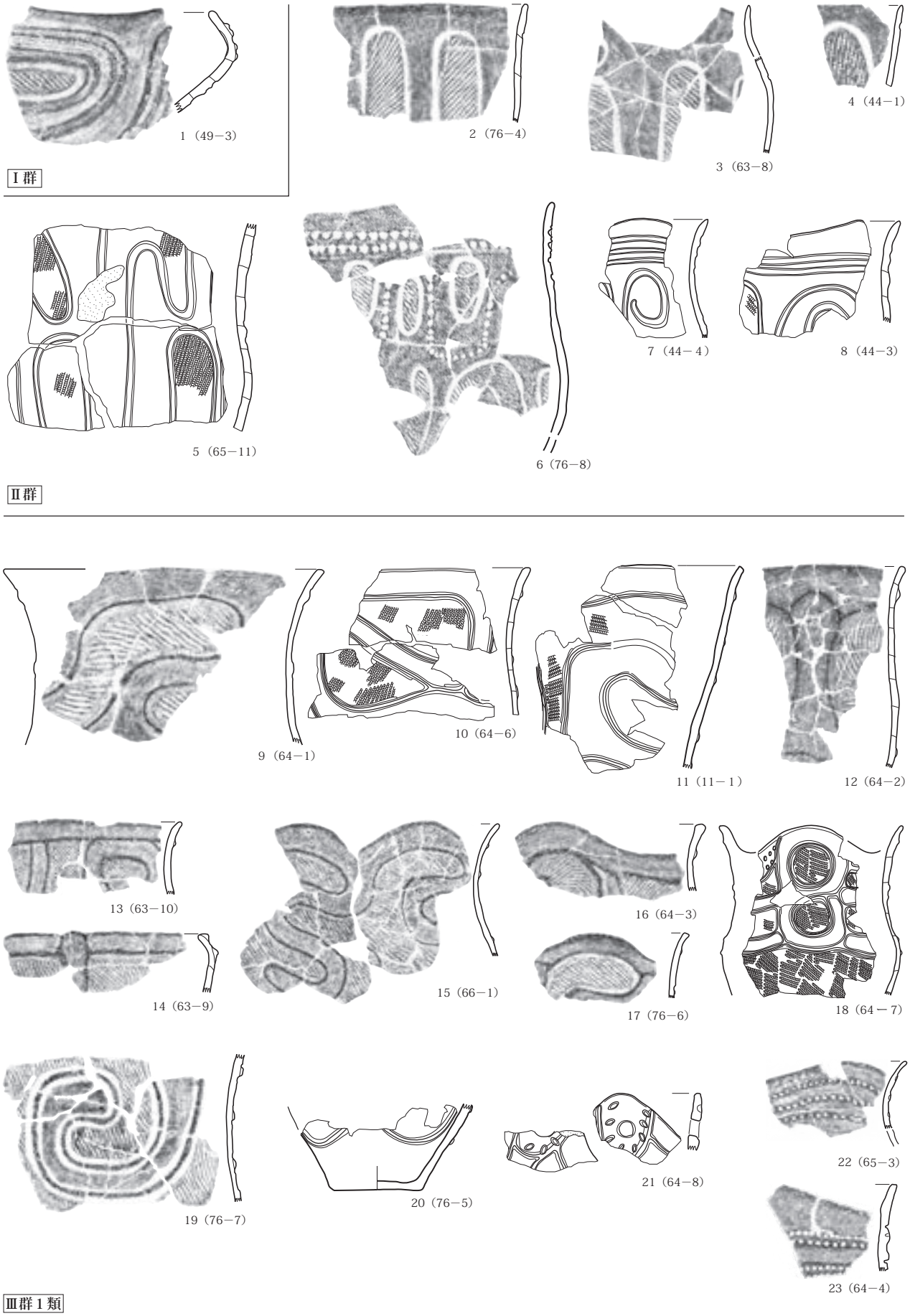
Ⅲ群２a～c類は松島町西の浜貝塚Aトレンチ第２貝層出土土器（松島町教育委員会 2008）と特徴がほぼ同じであるほか、石巻市山居遺跡第Ⅷ群土器（宮城県教育委員会 2008)、仙台市山田上ノ台遺跡第Ｘ群土器（仙台市教育委員会 1987)、岩手県一関市上野平遺跡（岩手県文化振興事業団 2000)・清水遺跡（岩手県文化振興事業団 2002）などが類例に挙げられる。また、Ⅲ群Ⅱa類の隆線の上下に沿って円形の連続刺突文が施される土器（第79図６）は岩手県の滝沢市けやきの平遺跡（滝沢村教育委員会 1995)、盛岡市湯沢遺跡（岩手県埋蔵文化財センター 1983)、花巻市観音堂遺跡（大迫町教育委員会 1986)、北上市横欠遺跡11号住居出土土器（北上市教育委員会 1995・1997）などの北上川上流域に類例がみられる。相原淳一氏は本遺跡の約22km北西に位置する山居遺跡の出土土器について層位的な出土状況をもとに中期末葉から後期前葉の土器編年を検討しており（相原 2009、宮城県教育委員会 2008)、山居遺跡第Ⅷ群土器・西の浜貝塚Aトレンチ出土土器を中期末葉大木10式後半期（大木10式新段階）に位置付けている。Ⅲ群２類土器の年代は大木10式新段階に位置付けられると考えられる。

【Ⅲ群３類】（第80図１～16）

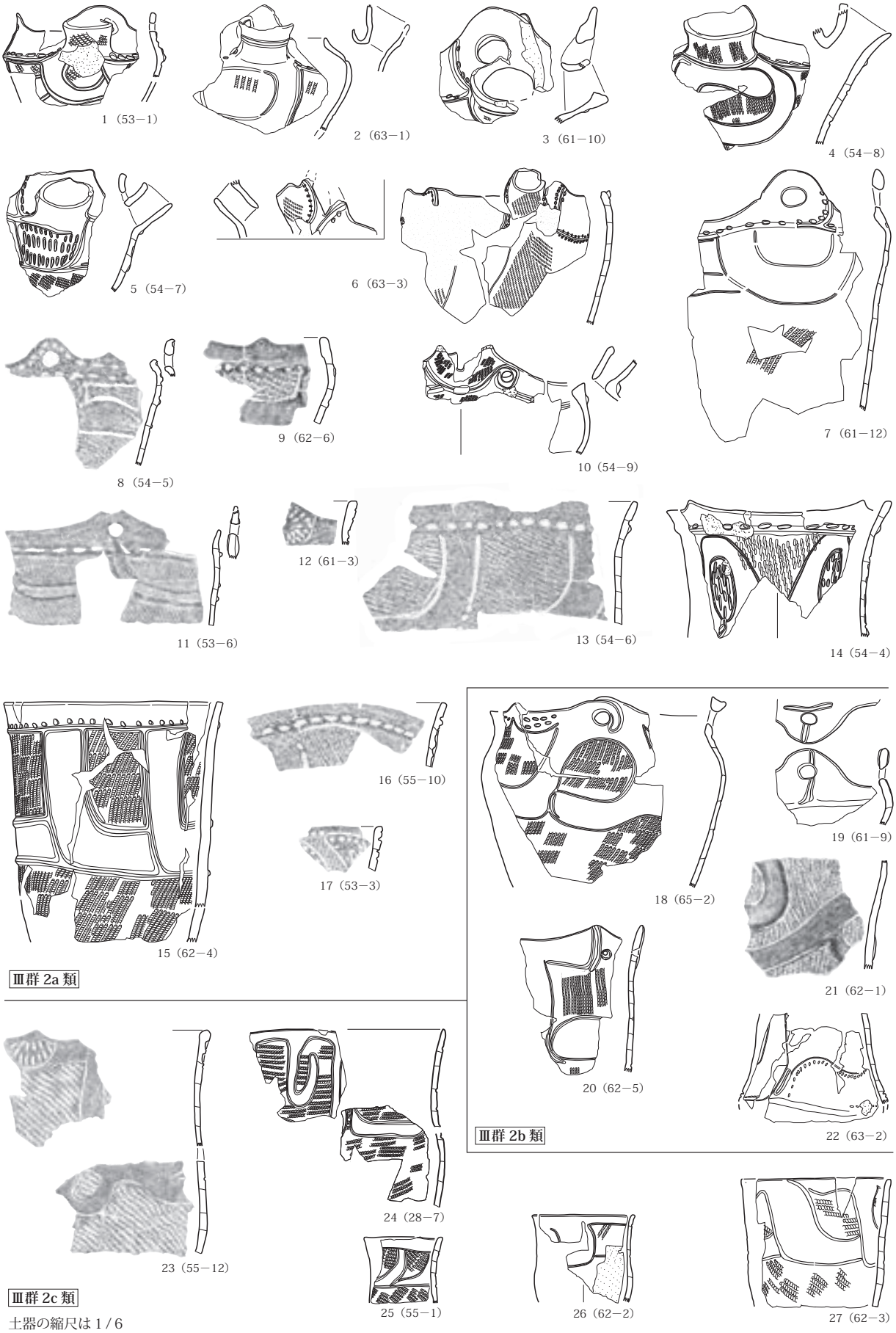
SX110遺物包含層４層上部から多数出土しているほか、SK01・07・55・56土坑から少量出土している。隆線に２個１対（または３個１対）の刻み目文が施される土器で、口縁部が内湾するもの（第80図１～７・13・14）と外反・外傾するもの（第80図８～10・12）があり、体部中央にやや膨らみをもつ（第80図10・11)。口縁部が内湾するものには環状把手（第80図１～３・５・13)、小型の橋状部（第80図12・14・15)、小波状突起（第90図４・６）が付くものがあり、口縁部が外反するものは平縁である。文様は沈線・隆線で楕円形区画文（第80図１)、巻き込みの浅い渦巻き文（第80図２)、方形区画文及び方形区画文を基調とする文様（第80図5～11）が施されている。隆線文が体部下半まで施されるもの（第80図16）もみられる。２個1対（または３個１対）の刻み目文は隆線に直交する方向のもの（第80図１～３・５～11）が主体で、隆線方向のもの（第80図12・13）が少数あり、後者は突起下にボタン状貼付文が施されている。山居遺跡第Ⅶ群土器（宮城県教育委員会 2008）と特徴がほぼ同じであるほか、南境貝塚（後藤 2004・2005)、栗原市青木畑遺跡（宮城県教育委員会 1982)、気仙沼市田柄貝塚（宮城県教育委員会 1986)、上野平遺跡（岩手県文化振興事業団 2000)、清水遺跡（岩手県文化振興事業団 2002）などに類例がある。前述した相原氏の土器編年では山居遺跡第Ⅷ群土器は後期初頭門前式に位置付けられていることから、Ⅲ群３類土器の年代は門前式に位置付けられる。

【Ⅳ群】（第80図17～20）

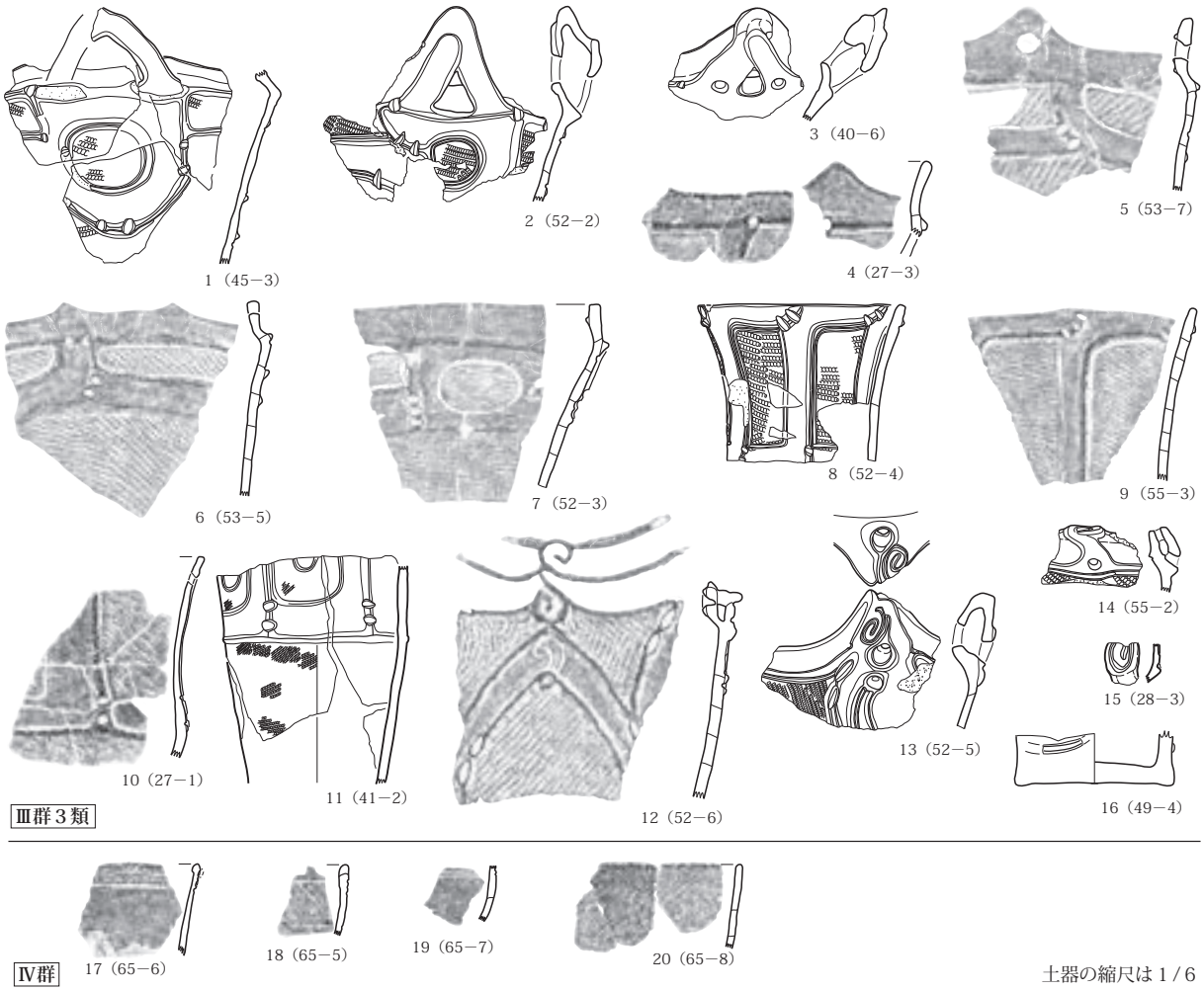
SX10遺物包含層２層から小破片が４点出土している。Ⅰ～Ⅲ群土器と比較して器厚は薄く、貼瘤（第80図17、はがれている)、先端の細い工具による刻み目（第80図17）や沈線（第80図１7～19)、粒の細かい縄文（第80図18～20）で文様が施される土器である。平縁で口縁部が外傾するもの（第80図17・20）と口唇部に小突起をもち口縁部がゆるく内湾するもの（第80図18）がある。山居遺跡（宮城県教育委員会 2008)、西の浜貝塚（宮城県教育委員会 1967)、田柄貝塚（宮城県教育委員会 1986）に類例があり、Ⅳ郡土器の年代はおおよそ後期中葉の宮戸Ⅲa式に位置付けられると考えられる。



第78図　縄文土器分類図（1）



第79図　縄文土器分類図（2）



第80図　縄文土器分類図（3）

（２）石器

石器は剥片類も含めて1820点出土しており、このうちトゥールは672点である（第10表）。石器の年代は、共伴している土器の年代から、おおよそ縄文時代中期末葉〜後期初頭と考えられる。

①分類

〔石鏃〕二次加工により作出した尖頭部をもち、先端が薄く偏平なもの。基部の形状から、A類（凹基）、B類（平基）、C類（有茎）の３類に大別され、さらにA〜C類は鏃身の両側辺の形状で細別される。その他に製作途中と考えられる未成品（D類）がある（第81図１〜19）。105点出土しており、剥片石器の50％を占める。

A類：凹基のもの(58点)。両側辺の形状が直線的なA1類(29点)、緩やかに外湾するA2類(９点)、尖頭部付近で内湾し基部付近で外湾するＡ３類(10点)、内湾して尖頭部と基部で三叉状となるＡ４類(３点)に細別される。

B類：平基のもの（17点)。両側辺の形状が直線的なB1類（12点)、緩やかに外湾するB2類（５点に細別される。

C類：有茎のもの（２点)。両側辺の形状が直線的なC1類、尖頭部付近で内湾し基部付近で外湾するＣ２類に細別される。

第10表　遺構別出土石器一覧表

	遺構名	石鏃	石錐	石匙	石篦	楔形石器	尖頭器	板状石器	打製石斧	磨製石斧	不定形石器	磨石	凹石	敲石	砥石	石皿	トゥール小計	剥片	チップ	石核	石製品	総計
竪穴建物跡	SI66A											1					1					1
	SI66B	1								1		10	2			2	16	10	1	1		28
	SI91								1			2	1				4	3				7
	SI58								2								2	2				4
	SI14	1										2	1			1	5					5
掘立柱建物跡	SB108											3				1	4					4
	SB61															1	1					1
柱穴集中	SX98												1				1					1
土坑	SK01		1								1						2	3				5
	SK02					1											1					1
	SK04								1		1	16		3		28	49	6				55
	SK05											1	1			2	4	2				6
	SK07												3				3				1	4
	SK08											2					2					2
	SK09	3	2			1					4	1			1	1	13	7	4	1		25
	SK32											1					1					1
	SK34												1				1					1
	SK37												1				1					1
	SK45											1				1	2					2
	SK49							1									1					1
	SK52											8	6			1	15				2	17
	SK53											2	2				4					4
	SK54										1						1					1
	SK55	1										2	1	1		2	7	2			1	10
	SK56											2	2			1	5	4				9
	SK57									1		2	3				6	4				10
	SK60															2	2					2
	SK90																0					0
	SK95											1					1					1
	SX31												1				1					1
遺物包含層	SX30	1									2	5	3			1	12	11				23
	SX110	8				2					2	24	13	1		3	53			2	1	56
	SX10	86	13	3	2	17	4	3	1	6	34	65	33	11		14	292	527	531	12	5	1367
近世墓	ST16											1					1					1
	ST24										1						1					1
ピット		1				1			1			8	7	1		6	25	11	1			37
遺構外		3								5	1	70	33	11	1	8	132	3				135
総計		105	16	3	2	22	4	4	6	13	47	230	115	28	2	75	672	595	537	16	10	1830

D類：未成品とみられるもの（11点）。一部に厚みがあるなどの特徴をもつ。

〔石錐〕二次加工により作出した尖頭部（錐部）をもち、その先端が厚みをもつもので、16点出土している。錐部は回転穿孔の機能を有していたと考えられる。つまみ部と錐部の境界が明瞭なA類（14点）、つまみ部がなく棒状のB類（１点）に大別され、さらにA類は錐部がつまみ部よりも長いA1類（７点）、錐部がつまみ部より短いA2類（６点）に細別される（第81図20～24）。

〔石匙〕両側辺に抉りを入れて作出したつまみ部を有するもの。３点出土しているが、完形品はない。つまみ部に対して刃部が縦長になり、刃部にも二次加工が施される（第81図26・27）。

〔石篦〕一端に長軸と直交する刃部を作出したもので、側辺は刃部に向かってやや開く（第81図25）。２点出土している。

〔楔形石器〕対向する縁辺に両極打法による剥離面（両極剥離痕）が認められるもので、22点出土している。対になる２辺１組に認められるA類（14点）と２辺２組に認められるB類（３点）がある（第81図28・29）。

〔打製石斧〕末端に刃部を有する打製の石器。形態は石篦に類似するが、おもに粗粒の石材を利用し、基部整形の二次加工がやや粗い（第81図39・40）。６点出土している。

1（67−2）
2（56−7）
5（68−2）
7（70−2）
8（67−5）
A4 類
11（68−4）
3（44−5）
4（41−4）
A1 類
6（68−1）
A 2 類（5・6）
9（68−5）
10（67−6）
A3 類（7 ～ 10）
12（68−9）
13（68−8）
C 類（12・13）
14（56−8）
15（67−8）
B1 類（14 ～ 16）
〔石鏃〕
16（67−7）
17（68−6）
B2 類
18（68−11）
19（70−3）
D 類（18・19）
20（45−4）
A1 類（20・21）
〔石錐〕
21（44−6）
22（70−15）
A2 類（22・23）
23（70−14）
24（44−8）
B 類
25（67−9）
〔石箆〕
26（70−16）
〔石匙〕
27（67−11）
28（70−17）
A 類
〔楔形石器〕
29（67−12）
B 類
30（69−5）
31（69−4）
32（68−10）
A 類（30 ～ 32）
〔不定形石器〕
33（71−4）
34(67−10）
B 類（33・34）
35（67−16）
36（49−8）
C3 類（35・36）
37（69−14）
C2 類（37）
38（40−3）
C1 類（38）
39（19−1）
〔打製石斧〕
40（16−1）
41（67−13）
42（90−5）
〔磨製石斧〕
43（71−7）
〔板状石器〕
1 ～ 38：S＝1/2
39 ～ 42：S＝1/4

第81図　石器分類図

〔磨製石斧〕末端に刃部を有する石器で、器体の前面を研磨して成形しているもの。側辺が刃部に向かってやや開き、断面形は楕円形状である。刃部は緩やかに外湾している（第81図41・42）。13点出土している。

〔板状石器〕粘板岩の剥片の周縁に二次加工を施し、板状に成形したもの。平面形は不定形で、粗い二次加工により縁辺（刃部）を作出している（第81図43）。４点出土している。

〔不定形石器〕二次加工が施された打製石器のなかで、上記の定形的な石器の定義に該当しないものを不定形石器として一括している。二次加工の状況によりA～C類に大別した。C類は二次加工の状況によりさらに細分される。47点出土している。

A類（11点）:二次加工により尖頭部を作出しているもの（尖頭状石器）。形態は石鏃に類似するが、二次加工が剥片の先端や縁辺のみに施され基部はほとんど加工されず、自然面や素材面を大きく残すものが多くみられる。一部は石鏃の未成品の可能性がある（第81図30～32）。

B類（３点）：剥片等に面的な二次加工を施すもの。両面に二次加工を施すものの、片面は素材面を大きく残す、半両面加工石器である（第81図33・34）。

C類：剥片等の縁辺に二次加工を施すもの。素材面は両面ともに大きく残る。二次加工の状況により、鋸歯状の二次加工を施すC1類（３点）（第81図38）、深い抉りを入れたノッチ状のC2類（１点）（第81図37）、縁辺の大半に二次加工を施すC3類（14点）（第81図35・36）、縁辺の一部に二次加工を施す剥片C4類（15点）に細別される。

〔礫石器〕礫石器は450点出土しており、トゥール全体の67％を占める。平坦あるいは緩やかに凹む磨面を有するものを石皿（75点）とし、それ以外のものについては使用痕により大別した。石皿には脚付（四脚）のものが２点ある（第13図３、第41図６）。石皿以外で磨面を有するものを磨石（230点）、敲打痕による凹みを有するものを凹石（115点）、敲打痕を有するものを敲石（28点）、溝状の凹み（磨面）を有するものを砥石（２点）とした。なお、１つの石器に複数の使用痕を有するもの

第11表　器種ごとの石材別点数表

	珪質頁岩	黒色頁岩	黒曜石	碧玉	珪質凝灰岩	玉髄	緑色片岩	安山岩	凝灰岩	砂岩	粘板岩	花崗岩	凝灰質安山岩	シルト岩	総計
石鏃	73	5	17	5	2	3									105
石錐	13	1			1	1									16
石匙	2	1													3
石篦	2														2
楔形石器	16	2	2		1				1						22
尖頭器	4														4
板状石器											4				4
打製石斧									1	1	3				5
磨製石斧							3	1	4	4		1			13
不定形石器	33	2	4	1	4	3									47
磨石								185	23	15	3	3	1		230
凹石								71	24	15	2	3			115
敲石								6	6	16					28
砥石								1	1						2
石皿								33	19	1	3	16		1	73
脚付石皿									2						2
剥片	413	7	46	60	13	41			5	1	9				595
チップ	391	2	108	27	1	7					1				537
石核	12	2	2												16
円盤状石製品								1	1		3				5
石刀								2	2						4
石棒											1				1
総計	959	22	179	93	22	55	3	300	89	53	29	23	1	1	1830

については、使用痕の新旧関係がわかるものは最終段階の使用痕で器種を決定し、新旧関係の不明なものについては広い面に残された使用痕で器種を決定した。

②石材

石器と石材の関係をみると（第11表）、剥片石器には頁岩（珪質頁岩・黒色頁岩）、磨製石斧には緑色片岩・砂岩・凝灰岩、礫石器には安山岩・凝灰岩・砂岩が主に使用されている。

剥片石器及び石核の石材に注目すると、頁岩が圧倒的に多く、剥片・チップを含めてもこの傾向は変わらない。他の石材としては、黒曜石、碧玉、珪質凝灰岩がある。接合資料は認められないが、頁岩や黒曜石は剥片・チップが多数出土していることから、遺跡内で頁岩・黒曜石を素材とした石器製作が行われたと考えられる。黒曜石は主に石鏃の素材として利用されており、石器・剥片類が全て長さ３cm以内であることや２点出土した石核が長さ２～３cmの自然面を残す小型の礫であることから、遺跡に持ち込まれた石刻（素材）は小型のものであったと考えられる。

③石器の出土状況

石器の出土状況を確認すると（第10表）、剥片石器の62％はSX10遺物包含層から出土しており、竪穴建物跡や掘立柱建物跡などの遺構から出土したものは極めて少ない。SX10遺物包含層からは特に石鏃が多く出土しており、石鏃全体の81％を占める。礫石器は、遺物包含層のほか、SI66B竪穴建物跡やSK04・SK52土坑からも10点以上出土している。特にSK04土坑では土坑底面付近と12層で礫石器や礫石器の素材とみられる礫が一括廃棄されており、12層で磨石３点・石皿12点、底面付近で磨石10点・石皿９点がまとまって出土している。

２．遺構

（１）遺構の年代と特徴

出土遺物の年代や遺構の重複関係などから各遺構の年代を検討し、その特徴について述べる。

①竪穴住居跡

縄文時代の竪穴建物跡は、建て替えも含めて７軒で、いずれも丘陵斜面際で検出している。

A．年代

SI66Aは柱穴掘方埋土から、SI66Bは複式炉の埋設土器及び柱穴掘方埋土からⅢ群１類土器が出土していることから、大木10式古段階後半に位置付けられると考えられる。この他に年代が特定できる土器が出土したものはないが、本遺跡から出土している土器が中期末葉～後期初頭が主体であることから概ね中期末葉～後期初頭と考えられ、遺構の重複関係からSI91・SI14A・BはSB61建物跡より古く、SI91はSK01土坑より古い。

B．特徴（第12表）

竪穴建物跡はいずれも残存状況が悪く、検出しているのは炉跡、柱穴、周溝の一部のみである。

〔平面形・規模〕周溝の一部を検出しているSI91、SI14A・B、SI58A・Bの平面形は円形を基調とす

第12表　竪穴建物跡一覧表

遺構	平面形	推定規模(m)	床面の残存	主柱穴	周溝	炉	主な重複関係
SI66A	円形か	径6.6以上	×	5	–	複式炉〔土器埋設部堀り込み部＋堀り込み部〕、埋設土器は正位	SI66A→SK86
SI66B	円形か	径6.0以上	×	5	–	複式炉〔土器埋設部堀り込み部＋堀り込み部（石組みか）〕 埋設土器は正位と横位	SI66A→SI66B
SI91	円形か	径6.0	×	–	北西部で残存	複式炉〔土器埋設部か＋掘り込み部〕	SI91→SB61・SK01
SI14A	円形か	径5.4	×	5	北側と西側で残存	地床炉（SX65）か	SI14A→SI58・SB61
SI14B	円形か	径5.4	×	5	北側と西側で残存	地床炉（SX65）か	SI14A→SI14B→SI58・SB61
SI58A	円形か	径5.3	×	6	北側で残存	地床炉	SI14→SI58A→SI58B
SI58B	円形か	径5.3	×	6	北側で残存	地床炉	SI14→SI58A→SI58B

第13表　掘立柱建物跡一覧表

遺構	位置	構成柱数	平面形	棟持柱	規模		棟方向	総長（m）／測定柱列／柱間寸法（m）						方向	柱穴の平面規模（cm）	備考
					東西	南北		東西			南北					
SB108	C区北	7	五角形	あり	1間	2間	南北棟	3.3	北	3.3	5.7	西	3.0・2.7	N-2°-W	径66～88	
SB61	C区南東	6	五角形	あり	2間	1間	南北棟	3.9	北	2.0・1.9	4.5	東	4.5	N-1°-W	径48～67	SI91・14・58→SB61

るものとみられる。規模は径5.3～6.6m程度で、5.3m程度のもの（SI14A・B、SI58A・B）と6.0m以上のもの（SI66A・B、SI91）があり、後者は複式炉を伴うものである。

〔主柱〕５本（SI66A・B、SI14A・B）と６本（SI58A・B）で構成されるものがある。主柱の数と平面規模には特に相関関係は認められない。柱構成をみると。SI66A・B、SI58A・Bでは炉の長軸方向を対称軸とした配置になっているとみることができる。また、５本構成のものでは、外縁に補助的な柱穴が付設される場合がある（SI14A・B）。

〔炉〕複式炉（SI66A・B、SI91）と地床炉（SI14A・B、SI58A・B）がある。SI66Bの炉は正位及び横位に土器を埋設した土器埋設掘り込み部とそれと接した石組みを伴うとみられる掘り込み部からなる複式炉で、「斜位土器埋設複式炉」に分類されるものである（千葉 2005、駒木野 2004・2005など）。炉の長軸方向と直交する位置に土器を埋設した斜位土器埋設複式炉は大木10式古段階後半から新段階に岩手県南部から宮城県北部で主体的に構築されており（千葉 2005）、正位と横位の埋設土器を組み合わせた複式炉は仙台市沼遺跡SI－６住居跡（仙台市教育委員会 1992）、大崎市寺下遺跡第１号炉（宮城県教育委員会 1999）、岩手県奥州市沢田遺跡第１号土器埋設炉（岩手県文化振興事業団 1996a）に類例があり、いずれもSI66B炉と同じ大木10式古段階後半に位置付けられている。また、SI91の炉は焼面を切るピットを埋設土器の抜取穴とみると、土器埋設掘り込み部と掘り込み部からなる複式炉と考えられる。本町を含む石巻地方ではこれまでに複式炉の検出例はなく、本遺跡のものが石巻地方では初の検出例となる。地床炉は中期末葉に位置付けられているものでは寺下遺跡第１号住居跡（宮城県教育委員会 1999）、岩手県奥州市柳上遺跡（岩手県文化振興事業団 1994）に類例がある。

②掘立柱建物跡

南辺に棟持柱（張出し）をもつ南北棟掘立柱建物跡が２棟（SB108・SB61）検出されている（第13表）。SB108は東西１間、南北２間の７本柱、SB61は東西２軒、南北１間の６本柱で、平面形は五角形である。いずれも年代が特定できる土器は出土していない。SB108は柳上遺跡（岩手県文化振興事業団 1994）、SB61は柳上遺跡や山元町谷原遺跡（山元町教育委員会 2016）に類例があり、これらは中期末葉～後期前葉に位置付けられている。SB61がSI91より新しいこと、本遺跡から出土している土器が中期末葉～後期初頭が主体であることから、SB61の年代は概ね大木10式新段階～後期初頭、

SB108の年代は中期末葉～後期初頭頃と考えられる。

③柱穴・ピット集中

D区東の丘陵斜面際で２ヶ所の半円形または円形に並ぶ柱穴・ピット集中（SX98・SX99）を検出している。柱穴・ピット集中の内側にはSX98では横位の埋設土器と地床炉、SX99では斜位土器埋設炉を検出していることから、これらは竪穴建物跡の可能性が考えられる。仮に円形を基調とする竪穴跡物跡と想定した場合、規模は4.8m程度となる。SX99の石組みを伴わない単式の斜位土器埋設炉は岩手県奥州市清田台遺跡（岩手県文化振興事業団 2003）・柳上遺跡（岩手県文化振興事業団 1994）、大船渡市長谷堂貝塚（岩手県文化振興事業団 2004）、山田町山ノ内Ⅱ遺跡（岩手間文化振興事業団 1996b）に類例がある。これらは大木10式新段階～後期初頭に位置付けられていることから、SX99の年代は概ね大木10式新段階～後期初頭に位置付けられると考えられる。

④土坑

土坑はB～D区で40基検出している（第３表）。土坑には下端が径1.2～1.6mの円形状の土坑で断面形がフラスコ形や箱形となる形態の、貯蔵穴と考えられるものが12基ある。これらのうち６基（SK03～08）がB区南端、５基（SK52･53･55～57）がC区南西に位置し、群集して分布する傾向がみられる。堆積土下部から出土した土器の特徴から時期を推定すると、Ⅲ群２類土器が出土しているSK03・05が大木10式新段階、Ⅲ群３類土器が出土しているSK01・04・07・53・55～57が後期初頭の門前式に相当すると考えられる。また、SK06は重複関係からSK07より古く、概ね中期末葉に位置付けられる。

貯蔵穴と考えられる土坑には底面に施設をもつものがあり、ピット（小穴）のみをもつもの（A類）が５基（SK01・06・52・55・57）、ピットと壁際に周溝状の溝が巡るもの（B類）が１基（SK04）、中央のピットから周溝状の溝まで放射状に４本の溝が延びるもの（C類）が１基（SK05）ある。県内の同時期の類例としては、利府町郷楽遺跡（宮城県教育委員会 1990b）では大木10式古階段後半の貯蔵穴と考えられるフラスコ状の土坑が検出されており、A類が４基、C類が２基ある。ピットや溝の堆積土は本遺跡と同様に自然堆積で、柱穴や間仕切りとは異なる機能が想定される。また、岩沼市北原遺跡（宮城県教育委員会 1993）では大木９～10式のフラスコ状土坑が検出されており、底面の中央にピットと放射状に延びる２～７条の溝をもつものが９基あるが、周構状の溝が巡るものはない。底面に周溝状の溝が巡る土坑の類例は県内では郷楽遺跡（C類）に限られ、本遺跡（SK04・05）で２例目となる。

また、貯蔵穴と考えられる土坑には、堆積土中に炭化物や焼土を含む廃棄土層がみられるものが９基あり（SK03・04・05・06・07・08・52・53・57）、これらは貯蔵穴の機能を果たさなくなった後に、ゴミ捨て穴として再利用されたと考えられる。

その他の土坑について、堆積土中から出土した土器により時期を推定すると、Ⅱ群土器が出土しているSK02・SK09が大木９式後半、Ⅲ群１類土器が出土しているSK86が大木10式古段階前半、SK54が大木10式新段階～門前式に相当すると考えられる。

⑤遺物包含層・貝層

遺物包含層は丘陵の北斜面際と西斜面の３ヶ所で確認されている（SX30・SX10・SX110）。遺物包含層の層別の土器出土状況を第14表にまとめた。

SX30は、出土した土器は小破片が主体で出土量も少なく、時期的なまとまりが確認できないことから、二次的な堆積の可能性が高いと考えられる。

SX10は２a～２e層で出土量が多く、特に2b層は底面付近で大型の破片が面的に広がって出土しており、廃棄された状況が良好に保たれている。各層の年代について主体を占める土器から判断すると、2e層は大木10式古段階後半、2a・2b層は大木10式新段階となる。SX10は大木10式古段階後半から新段階にかけて、居住域に隣接する捨て場になっていたとみられる。この他に、１層からⅣ群土器（宮戸Ⅲa式）、３層からⅡ群土器（大木９式後半）が少量出土している。

SX110は４層上部～５層で出土量が多く、特に４層下部の貝層付近から５層（貝層）は一次的な廃棄の状況が良好に保たれている。各層の年代について主体を占める土器から判断すると、５層は大木10式新段階、４層（下部）は大木10式新段階～門前式、４層上部は門前式に位置付けられる。SX110は大木10式新段階から門前式にかけて、居住域に隣接する捨て場になっていたとみられる。

第14表　遺物包含層の土器出土状況

		中期				後期	
		大木8b	大木９	大木10		門前	宮戸Ⅲa
調査区	層位	Ⅰ群	Ⅱ群	Ⅲ群１類	Ⅲ群２類	Ⅲ群３類	Ⅳ群
SX30	１層						
	２層						
SX10	１層						
	２層						
	2a層						
	2b層						
	2e層						
	3層						
SX110	3層						
	４層上部						
	４層						
	５層						
	６層						

底面付近でまとまって出土　分類可能な土器の主体を占めるもの　少数出土しているもの

（２）遺構の変遷

①各時期の主な遺構

前項で検討した各遺構の年代は、Ⅰ期：大木９式、Ⅱ期：大木10式古段階後半、Ⅲ期：大木10式新段階、Ⅳ期：門前式の４時期に分けられる。主な遺構の時期と重複関係を第15表に示した。なお、遺構に伴う遺物などから年代を特定できなかった遺構については、遺跡から出土している土器が中期末葉から後期初頭が主体であることから、概ねその時期（Ⅱ～Ⅳ期）のものと考えられる。

第15表　主な遺構の時期と重複関係

時期／調査区	中期後葉	中期末葉		後期初頭
	Ⅰ期（大木９式）	Ⅱ期（大木 10 式古段階後半）	Ⅲ期（大木 10 式新段階）	Ⅳ期（門前式）
B 区		SI66A ⟶ SI66B ⟶ SK86	SK03　SK05	SK04　SK07
E 区			SX110－５層	SX110－４層上部
C 区	SK02 SK09	中期末葉～後期初頭 Ⅱ～Ⅳ期 SB101 SI91 SI14A ⟶ SI14B SI58A ⟶ SI58B	SK54 SB61	SK52　SK53 SK55　SK56　SK57 SK01
D 区		SX10－2e 層	SX98　SX99 SX10－2b 層　SX10－2a 層	

Ⅰ期には、土坑２基（SK02・09）が該当し、いずれも丘陵東斜面際（C区東）に位置する。Ⅰ期は遺物の出土量が少なく、建物跡や捨て場も認められないことから、集落の様相は不明である。

Ⅱ期には、竪穴建物跡２棟（SI66A・66B）、土坑１基（SK86）、遺物包含層１ヶ所（SX10－2e層）が該当する。丘陵西斜面際（B区南西）が居住域、丘陵西斜面に入る南側の沢（D区西）が捨て場として利用されていたとみられる。竪穴建物跡には斜位土器埋設複式炉を伴うものがある。

Ⅲ期には、貯蔵穴と考えられる土坑２基（SK03・SK05）、遺物包含層２ヶ所（SX10－2a・b層、SX110－５層）が該当する。丘陵頂部（B区南）が食糧貯蔵域、丘陵西斜面に入る２ヶ所の沢（D区西・E区）が捨て場として利用されていたとみられる。北側の捨て場には貝層が形成されており、周囲に居住域が分布していたと考えられる。

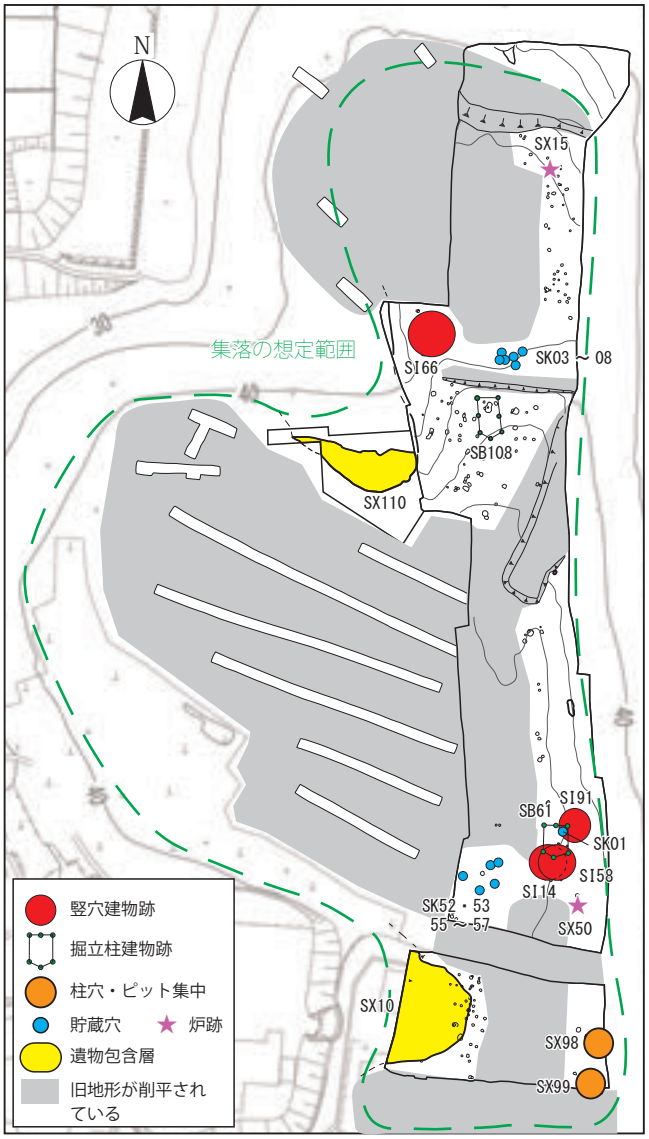
Ⅳ期（門前式）には、貯蔵穴と考えられる土坑８基（SK01・04・07・52・53・55・56・57）、遺物包含層１ヶ所（SX110－４層上部）が該当する。丘陵頂部の平坦面（B区南・C区南西）が食糧貯蔵域、丘陵西斜面に入る北側の沢（E区）が捨て場として利用されていたとみられる。

②中期末葉～後期初頭の集落について

主な遺構の分布を第82図に示した。丘陵頂部は近現代に削平され旧地形が残存していないが、捨て場の配置や遺物の出土量から判断すると、遺構が分布していた可能性が高いと考えられる[註1]。本来は丘陵先端の平坦部全体に集落が展開していたと推定され、今回の調査で確認できたのは、斜面際で削平を免れた一部の遺構に限られるとみられる[註2]。

集落の構成は竪穴建物跡、掘立柱建物跡、貯蔵穴と考えられる土坑、捨て場（遺物包含層・貝層）が主体となる。貯蔵穴と考えられる土坑は主に２ヶ所に集中しており、B区南（北側）の土坑群はⅢ～Ⅳ期に亘る。竪穴建物跡や竪穴建物跡の可能性がある柱穴・ピット集中に伴う炉跡をみると、複式炉（斜位土器埋設複式炉）、地床炉、単式斜位土器埋設炉があり、形態に多様性がある。また、C区南東では複数の竪穴建物跡と掘立柱建物跡に重複関係があり、竪穴建物跡から掘立柱建物跡への変遷が確認できる。

特徴が類似する遺構が検出されている他の遺跡と比較すると、斜位土器埋設複式炉の類例が



第82図　中期末葉～後期初頭の主な遺構の分布

ある仙台市沼遺跡では、大木10式古段階に位置付けられる集落は複式炉を伴う竪穴建物跡、貯蔵穴（土坑）、捨て場で構成されている（仙台市教育委員会 1992)。単式斜位土器埋設炉の類例がある奥州市柳上遺跡では、竪穴建物跡に伴う炉跡の形態に時期変遷が認められ、大木10式古段階後半（Ⅱ期）には複式炉、大木10式新段階（Ⅲ期）には単式斜位土器埋設炉や単式正位土器埋設炉が主体となり、地床炉もみられる（岩手県文化振興事業団 1994)。また、Ⅲ期以降から後期初頭には、竪穴建物跡から掘立柱建物跡への変遷が認められる。この２遺跡でみられる集落構成や竪穴建物跡に伴う炉跡の形態変化から、本遺跡の中期末葉から後期初頭の集落では、Ⅱ期に斜位土器埋設複式炉など複式炉を伴う竪穴建物跡、Ⅲ期以降の古い段階に単式斜位土器埋設炉や地床炉を伴う竪穴建物跡、Ⅲ期以降の新しい段階に掘立柱建物跡、という順に主体となる構成が変化した可能性が指摘できる。

３．まとめ

内山遺跡は、女川湾を望む丘陵先端の平坦部に立地している。遺跡の時期は縄文時代中期～後期と江戸時代以降に分けられるが、主体は縄文時代中期末葉から後期初頭である。以下、要点をまとめる。

・検出した遺構は、縄文時代の竪穴建物跡７棟、掘立柱建物跡２棟、炉跡を伴うと考えられる柱穴・ピット集中２ヶ所、炉跡２基、貯蔵穴と考えられる土坑12基を含む土坑40基、貝層１ヶ所を含む遺物包含層３ヶ所、江戸時代以降の墓跡14基である。

・出土した遺物は、縄文土器・土製品、石器（打製石器、磨製石器、礫石器）、石製品、骨角器、動物遺存体、江戸時代以降の古銭、煙管、近世陶器、漆器、鉄製品である。このうち縄文時代中期末葉～後期初頭の縄文土器・石器が主体を占める。

・縄文時代中期末葉～後期初頭に竪穴建物跡、掘立柱建物跡、貯蔵穴と考えられる土坑、捨て場で構成される集落が存在したことがわかり、集落は丘陵先端の平坦部全体に展開していたと推定される。

・縄文時代中期末葉の竪穴建物跡には、斜位土器埋設複式炉を伴うものがある。複式炉を伴う竪穴建物跡の検出例は、本町を含む石巻地方では初となる。

・貝層から出土した動物遺存体の分析によると、集落に暮らした人びとの生業について、狩猟の主な対象はイノシシ・シカである。漁の主な対象は、沖合でマグロ属・マダイ・マイワシ・カタクチイワシ、岩礁でフカカサゴ・アイナメ属であり、採集（貝類）の主な対象は内湾の砂地・砂泥地でアサリ・ウミニナ・オオノガイ、岩礁でスガイ・イシダタミ・マガキなどである（詳細は附章）。

註１　調査区で検出された盛土層(基本層Ⅱ層)は、近現代に丘陵頂部を切土した際の廃土を盛土したものと考えられる。この盛土から縄文時代とみられる礫石器が100点以上出土していることからも、旧地形が削平された部分に遺構が分布していた可能性が考えられる。

註２　遺構の掘り込まれている地山（基盤層）には、柔らかいシルト質土と固い岩盤が縞状に分布している。検出した遺構の大半はシルト質土を掘り込んで構築されており、掘削が困難な岩盤部分ではほとんど遺構が検出されていない。地山（基盤層）の固さは、遺構の配置を決定する要因の一つになっていたと考えられ、丘陵平坦部の中でも地山がシルト質土の箇所を選んで遺構が構築されたと考えられる。

引用文献

相原淳一　2005「宮城県における複式炉と集落の様相」『日本考古学協会2005年度福島大会シンポジウム資料集』

相原淳一　2009「東北地方における縄文時代中期末葉から後期前葉に関する土器編年－宮城県石巻市山居遺跡の調査成果から－」『東北歴史博物館研究紀要』10

岩手県埋蔵文化財センター　1983『湯沢遺跡発掘調査報告書（遺物編）』岩手県埋蔵文化財センター文化財調査報告書第２集

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　1996a『沢田・仙人東遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第230集
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　1996b『山ノ内Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第249集
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　2000『上野平遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第382集
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　2002『清水遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第382集
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　2003『清田台遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第412集
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　2004『長谷堂貝塚発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第434集
大迫町教育委員会　1986『観音堂遺跡』大迫町埋蔵文化財調査報告第11集
女川町教育委員会　1993『尾田峰貝塚発掘調査報告書』女川町文化財調査報告書第１集
女川町教育委員会　2001『女川町の板碑』女川町文化財調査報告書第２集
女川町教育委員会　2017『崎山遺跡　－女川町東日本大震災復興事業関連遺跡調査報告書Ⅱ－』女川町文化財調査報告書第７集
女川町誌編さん委員会1991『女川町誌　続編』女川町
加藤孝･後藤勝彦　1975「登米郡南方町青島貝塚発掘調査報告」『南方町史』資料編　南方町史編纂委員会
北上市教育委員会　1995『横欠遺跡（図版編）』北上市埋蔵文化財調査報告第20集
北上市教育委員会　1997『横欠遺跡（本文編）』北上市埋蔵文化財調査報告第30集
後藤勝彦　2004「南境貝塚調査の層位的成果Ⅰ－７トレンチの場合－」『宮城考古学』第６号　宮城県考古学会
後藤勝彦　2005「南境貝塚調査の層位的成果Ⅱ－８トレンチの場合－」『宮城史学』第24号　宮城教育大学歴史研究会
駒木野智寛　2004「複式炉の研究－岩手県における複式炉の地域別分布傾向とその分析－」『岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター紀要』XXⅢ
駒木野智寛　2005「複式炉の地域的諸相　岩手」『日本考古学協会2005年度福島大会シンポジウム資料集』
塩竈市教育委員会　2010『桂島貝塚』塩竈市文化財調査報告書第８集
仙台市教育委員会　1987『山田上ノ台遺跡－昭和55年度発掘調査報告書－』仙台市文化財調査報告書第100集
仙台市教育委員会　1992『沼遺跡』仙台市文化財調査報告書第166集
仙台市教育委員会　1995『高柳遺跡調査報告書』仙台市文化財調査報告書第205集
滝沢村教育委員会　1995『けや木の平団地遺跡』岩手県滝沢村文化財調査報告書第30集
千葉直樹　2005「東北地方における斜位土器埋設複式炉」『宮城考古学』第7号　宮城県考古学会
築館町教育委員会　2005『鰻沢遺跡　ふるさと農道緊急整備事業に係る町道木戸２号線改良工事に伴う発掘調査報告書』築館町文化財調査報告書第18集
丹羽　茂　1989「大木式土器様式」『縄文土器大観』１　小学館
邊見鞆高　1971『出島山下貝塚　第１次調査概況報告』南三陸先史文化研究会
邊見鞆高　1972『出島山下貝塚　第２次調査概況報告』南三陸先史文化研究会
邊見鞆高　1974『出島山下貝塚　第３次調査概況報告』南三陸先史文化研究会
邊見鞆高　1977『出島山下貝塚　第４次調査概況報告』南三陸先史文化研究会
松島町教育委員会　2008『西の浜貝塚』松島町文化財調査報告書第１集
宮城県教育委員会　1967「Ⅰ 西ノ浜貝塚緊急発掘調査概報」『新産業都市指定地区埋蔵文化財緊急発掘調査等報告書』宮城県文化財調査報告書第13集
宮城県教育委員会　1980『玉造遺跡』宮城県文化財調査報告書第68集
宮城県教育委員会　1982「青木畑遺跡」『東北自動車道遺跡調査報告書Ⅵ』宮城県文化財調査報告書第83集
宮城県教育委員会　1986a『田柄貝塚Ⅰ　遺構・土器編』宮城県文化財調査報告書第111集
宮城県教育委員会　1986b『小梁川遺跡遺物包含層土器編　七ヶ宿ダム関連遺跡発掘調査報告書Ⅱ』宮城県文化財調査報告書第117集
宮城県教育委員会　1988『大梁川遺跡･小梁川遺跡（石器編）七ヶ宿ダム関連遺跡発掘調査報告書Ⅳ』宮城県文化財調査報告書第126集
宮城県教育委員会　1990a『利府町郷楽遺跡Ⅱ―仙塩道路関連遺跡発掘調査報告書―』宮城県文化財調査報告書第134集、利府町文化財調査報告書第５集
宮城県教育委員会　1990b「出島貝塚」『大貫館山館跡ほか』宮城県文化財調査報告書第137集
宮城県教育委員会　1993『北原遺跡』宮城県文化財調査報告書第159集
宮城県教育委員会　1999「寺下遺跡」『名生館遺跡　下草古城本丸跡 ほか』宮城県文化財調査報告書第181集
宮城県教育委員会　2006「浦宿B遺跡」『東山官衙遺跡周辺地区ほか』宮城県文化財調査報告書第208集
宮城県教育委員会　2007『山居遺跡（縄文時代編）ほか－三陸自動車道建設関連遺跡調査報告書Ⅸ－』宮城県文化財調査報告書第214集
宮城県教育委員会　2015「Ⅲ－２（10）荒井田貝塚」『平成25年度東日本大震災復興事業関連遺跡調査報告Ⅱ』宮城県文化財調査報告書第236集
宮城県教育委員会　2016「Ⅲ－１（１）荒井田貝塚」『平成26年度東日本大震災復興事業関連遺跡調査報告Ⅲ』宮城県文化財調査報告書第240集
森　幸彦　2008「大木9･10式土器」『総覧縄文土器』 アム･プロモーション
山元町教育委員会　2016『谷原遺跡２　常磐自動車道（県境－山元間）建設工事に係る発掘調査報告書』山元町文化財調査報告書第13集

附章　内山遺跡から出土した動物遺存体

（株）パレオ・ラボ　中村　賢太郎

１．はじめに

内山遺跡の発掘調査では、SX110遺物包含層で縄文時代中期末葉から後期初頭頃の貝層が検出された。ここでは、貝層から出土した動物遺存体の同定結果を報告する。

２．試料と方法

試料は、SX110遺物包含層で検出された貝層（５層）から採取された動物遺存体が中心である。動物遺存体の内訳は、発掘調査時に目視で確認され採取された動物遺存体（目視取上試料）29試料（71～99、４～６層）及び水洗選別用に土壌ごと取り上げられた動物遺存体（水洗選別試料）42試料（１～42、全て５層）である。第１表に目視取上試料の一覧、第２表に水洗選別試料の一覧を示した。

目視取上試料については、まず付着した土を水洗し、乾燥させた。目視取上試料は原則として全て同定対象とした。

水洗選別試料については、１㎜メッシュの篩上で水洗した。水洗時に４㎜メッシュの篩を用いて、試料をサイズにより１㎜以上４㎜未満と４㎜以上に区分した。以下、１㎜以上４㎜未満の水洗選別試料を「１㎜試料」、４㎜以上の水洗選別試料を「４㎜試料」と呼ぶ。水洗後は乾燥させた。乾燥後、４㎜以上の全試料を対象に、遺物、哺乳類、魚類、貝類など種類ごとに選別した。水洗選別試料のうち、８試料（１、４、17、20、21、25、31、33）については、選別後の各種重量を記録した（第３表）。水洗選別後、４㎜試料から、同定対象とする動物遺存体を抽出した。抽出にあたって、哺乳類は部位が同定可能な試料全てを、魚類は主上顎骨、前上顎骨、歯骨、角骨、方骨、主鰓蓋骨、前鰓蓋骨、椎骨（椎体1/2以上残存）を全てとその他同定に有効な部位を、貝類は殻頂が残る二枚貝と殻軸が２巻以上残存する巻貝を、甲殻類は全てを、鳥類、両生類、爬虫類は部位が同定できる試料を対象とした。なお、水洗選別試料のうち、ST1の１と４、ST1東拡張部の17、ベルトの25、ST2の33の５試料については、100ccずつ１㎜試料も同定対象とした。

対象試料について、同定は現生標本との比較により、肉眼および実体顕微鏡下で行った。部位ごとに計数し、最小個体数(MNI)を算出した。人為的な加工痕について観察し記載した。年齢に関する情報として、骨端の癒合、大泰司(大泰司1980)に従ってシカ後臼歯摩滅指数、Grant(Grant1982)に従いイノシシ下顎骨の歯の摩滅指数を記録した。また、魚類のサイズ計測をノギスで行った。

３．同定結果

（１）哺乳類（第４・６・７表）

哺乳類は、目視取上試料から275点、水洗選別試料から325点超（クジラ類破片概算含む）の合計600点超、11分類群が検出された。

〔ヒト〕目視取上試料から右橈骨、右大腿骨が検出された。MNIは１。

〔齧歯目〕４㎜試料から切歯、右下顎骨が検出された。

〔ネズミ類〕４㎜試料から頭蓋骨破片、右下顎骨、右大腿骨が検出された。MNIは２。

〔食肉目〕４㎜試料から犬歯、臼歯、歯種不明歯が検出された。

〔テン〕４㎜試料から左下顎骨、左肩甲骨、左右上腕骨、右尺骨、左距骨が検出された。左上腕骨は遠位端が未癒合であった。

〔イヌ〕目視取上試料から左下顎骨、４㎜試料から左上顎骨、左右下顎骨、歯が検出された。MNIは３。

〔タヌキ？〕４㎜試料からタヌキの可能性がある右脛骨が見られた。

〔イノシシ〕目視取上試料から、頭蓋骨破片、後頭骨、左右上顎骨、左右下顎骨（連合部など）、左右不明下顎骨片、下顎骨の可能性がある破片、左下顎第４前臼歯、左下顎第２後臼歯、環椎、軸椎、左右肩甲骨、右上腕骨、右橈骨、左右尺骨、左中手骨（第４）、左寛骨、右膝蓋骨、左距骨、基節骨が検出された。４㎜試料から、後頭骨、右上顎骨、左右下顎骨、上顎骨あるいは下顎骨破片、左上顎第２切歯、右上顎第２切歯、右上顎第１前臼歯、右上顎第３後臼歯、左右不明上顎前臼歯、左下顎第３切歯、左右不明下顎切歯、上下左右不明の未萌出の臼歯、歯種不明の歯、左橈骨、左右不明中手骨、左右不明中手骨か中足骨、右脛骨、左距骨、基節骨、中節骨、末節骨が検出された。下顎骨と下顎歯の数に基づき、同一個体由来の可能性を考慮すると、MNIは５。乳歯、未萌出の歯、摩滅の進んでいない歯、骨端未癒合の四肢骨などが目立った。

〔シカ〕目視取上試料から、角破片、右前頭骨（角付き）、左上顎骨、左下顎骨、左右不明下顎切歯、右下顎第１あるいは２後臼歯、右下顎第３後臼歯、仙椎、右肩甲骨、左右上腕骨、左右中手骨、左右不明中手骨、左寛骨、左右大腿骨、左右脛骨、右踵骨、左右距骨、右足根骨、左右中足骨、左右不明中足骨、基節骨、中節骨が検出された。４㎜試料から、角破片、左右上顎後臼歯、左下顎切歯、上下左右不明の臼歯、歯破片、右肩甲骨、右中手骨、左右不明中手骨、左右不明中手骨あるいは中足骨、右距骨、左足根骨、右中足骨、左右不明中足骨、基節骨、中節骨、末節骨が検出された。MNIは５。右肩甲骨に解体痕と思われる切創が見られた。左右不明中足骨は焼けていた。落角１点と前頭骨に付いた状態の角１点を含めた６点の角には分割のための溝切りが見られた。未萌出の歯や骨端が未癒合の四肢骨などが見られた。

〔クジラ類〕目視取上試料と４㎜試料から部位不明破片が検出された。

〔アシカ科〕目視取上試料から、おそらく左後肢の基節骨と思われる破片が検出され、解体痕と思われる切創が複数見られた。MNIは１。

（２）魚類（第５・８・９表）

魚類は、目視取上試料から1033点、４㎜試料から739点超、１㎜試料から112点の合計1884点超、21分類群が検出された。

〔エイ・サメ類〕４㎜試料から椎骨が検出された。

〔エイ類〕４㎜試料から尾棘が検出された。MNIは１。

〔アカエイ科〕１㎜試料から歯板が検出された。MNIは１。ただし、１㎜試料のうち同定対象としたのは、試料全体のごく一部であるため、アカエイ科の数量は少なめに表れている。

〔サメ類〕４㎜試料から椎骨が検出された。サメ類のMNIは１である。

〔カタクチイワシ〕４㎜試料から椎骨、１㎜試料から椎骨が検出された。MNIは１。ただし、１㎜試料のうち同定対象としたのは、試料全体のごく一部であるため、カタクチイワシの数量は他の分類群に比べかなり少なく表れている。水洗選別試料全体の量は170ℓ程度あるが、１㎜試料を同定対象としたのはおよそ1／340にあたる0.5ℓ（５点×100cc）分だけである。全ての水洗選別試料で１㎜試料を同定対象とすれば、カタクチイワシの検出数は数千点となるであろう。

〔ニシン科〕４㎜試料から椎骨、１㎜試料から椎骨が検出された。カタクチイワシと同様に、ニシン科の数量は他の分類群に比べ、少なく表れている。全ての水洗選別試料で１㎜試料を同定すれば、１万点以上の検出が見込まれる。

〔マイワシ〕４㎜試料から第１椎骨、１㎜試料から左右主上顎骨、第１椎骨、第２椎骨が検出された。MNIは５。なお、マイワシもニシン科であり、マイワシの数量もかなり少なめに表われている。全ての１㎜試料を同定すれば、MNIは千を超えると見込まれる。

〔サバ属〕４㎜試料から右方骨、椎骨、１㎜試料から椎骨が検出された。右方骨の数に基づくと、MNIは1。

〔マグロ属〕目視取上試料から、左歯骨、右角骨、左前鰓蓋骨、椎骨破片（椎体1/2未満）、腹椎（椎体1/2以上）、尾椎（椎体1/2以上）、尾椎尾柄部（椎体1/2以上）、尾部棒状骨、鰭棘破片、部位不明破片が検出された。４㎜試料から、左右歯骨、左角骨、左方骨、腹椎、尾椎、尾椎尾柄部、尾部棒状骨が検出された。尾椎に交連しているものが見られた。複数の腹椎と尾椎には解体痕と思われる切創が見られた。腹椎１点が焼けており、それ以外の椎骨は全て生であった。MNIについては、検出された椎体が1/2以上残存する椎骨（尾部棒状骨を除く）の合計が927点であり、試みにクロマグロの椎骨（尾部棒状骨除く）の合計38で除すと、25個体分に相当する。

〔ブリ属？〕４㎜試料から、ブリ属の可能性がある左角骨、椎骨が見られた。

〔スズキ〕４㎜試料から、左右主上顎骨、左歯骨、左前鰓蓋骨、左主鰓蓋骨が検出された。MNIは1。

〔タイ科〕４㎜試料から、前上顎骨あるいは歯骨の破片、歯、左角骨、椎骨、１㎜試料から歯が検出された。

〔マダイ亜科〕目視取上試料から、左右前上顎骨、左主上顎骨、左右歯骨が検出された。４㎜試料から、左右前上顎骨、右主上顎骨、左右歯骨、左右角骨、左右方骨、左右主鰓蓋骨、第１椎骨が検出された。MNIは８。

〔マダイ〕目視取上試料から前頭骨、上後頭骨、４㎜試料から前頭骨、上後頭骨が検出された。MNIは10。

〔カレイ科〕４㎜試料から第１椎骨が検出された。MNIは１。

〔カワハギ科〕４㎜試料から鰭棘が検出された。MNIは１。

〔コイ科？〕１㎜試料からコイ科の可能性がある骨が見られた。

〔サケ科〕 1㎜試料から歯と椎骨破片が見られた。サケ科のMNIは1。1㎜試料のうち、同定対象はわずかであるため、サケ科の数は少なく表れている。

〔タラ科〕 4㎜試料から、タラ科の椎骨が検出された。MNIは1。

〔フサカサゴ科〕 4㎜試料から、左右前上顎骨、左右主上顎骨、左右歯骨、左右角骨、左右方骨、左右前鰓蓋骨、左右主鰓蓋骨、左口蓋骨、左舌顎骨、第1椎骨、椎骨が検出された。1㎜試料から、左主上顎骨が見られた。MNIは20。

〔アイナメ属〕 4㎜試料から、左前上顎骨、右歯骨、左右方骨、第1椎骨が検出された。MNIは4。

（3）貝類（第9・10・11表）

貝類は、目視取上試料から160点、4㎜試料から48292点の合計48452点で、二枚貝綱12分類群、腹足綱13分類群の合計25分類群が検出された。

【二枚貝綱】

〔アサリ〕目視取上試料と4㎜試料から検出された。4㎜試料の数量に基づくMNIは9635。

〔マガキ〕目視取上試料と4㎜試料から検出された。4㎜試料の数量に基づくMNIは624。

〔オオノガイ〕目視取上試料と4㎜試料から検出された。4㎜試料の数量に基づくMNIは230。

〔オニアサリ〕 4㎜試料から検出された。MNIは7。

〔バカガイ科〕 4㎜試料から検出された。MNIは4。

〔ウバガイ〕目視取上試料のみに見られた。目視取上試料の数量に基づくMNIは1。

〔ミルクイ〕目視取上試料と4㎜試料から検出された。4㎜試料の数量に基づくMNIは1。

〔ハマグリ〕 4㎜試料から検出された。MNIは3。

〔ウチムラサキ〕目視取上試料と4㎜試料から検出された。4㎜試料の数量に基づくMNIは35。

〔カリガネエガイ〕 4㎜試料から検出された。MNIは19。

〔イタヤガイ科〕 4㎜試料から検出された。MNIは1。

〔イガイ科〕 4㎜試料から検出された。MNIは8。

【腹足綱】

〔カサガイ科〕 4㎜試料から検出された。MNIは8。

〔エゾバイ科〕 4㎜試料から検出された。MNIは1。

〔ウミニナ〕目視取上試料からと4㎜試料から検出された。4㎜試料の数量に基づくMNIは5226。

〔イシダタミ〕 4㎜試料から検出された。MNIは868。

〔イボニシ〕 4㎜試料から検出された。MNIは258。

〔レイシ〕 4㎜試料から検出された。MNIは24。

〔アカニシ〕目視取上試料と4㎜試料から検出された。4㎜試料の数量に基づくMNIは4。

〔クボガイ〕目視取上試料と4㎜試料から検出された。4㎜試料の数量に基づくMNIは152。

〔ヘソアキクボガイ〕 4㎜試料から検出された。MNIは365。

〔スガイ〕目視取上試料と4㎜試料から検出された。MNIは3461。

〔ニシキウズガイ科〕４㎜試料から検出された。MNIは1498。
〔オカチョウジガイ類〕４㎜試料から検出された。MNIは１。
〔ヘビガイ〕４㎜試料から検出された。破片のためMNIの算出は難しい。

（４）甲殻類（第９・10表）
甲殻類は、４㎜試料から485点、２分類群が検出された。
〔フジツボ類〕４㎜試料から殻破片、１㎜試料から殻破片が検出された。
〔カニ類〕４㎜試料から爪が検出された。MNIは１。

（５）鳥類（第12表）
鳥類は合計３点で２分類群が検出された。
〔カイツブリ科〕４㎜試料から左烏口骨が検出された。MNIは１。
〔キジ科〕目視取上試料から右上腕骨が検出された。MNIは２。

（６）両生類・爬虫類（第９・13表）
両生類はカエル類の１分類群、爬虫類はヘビ類の１分類群が検出された。
〔カエル類〕４㎜試料から、椎骨と右腸骨が検出された。MNIは１。
〔ヘビ類〕４㎜試料から椎骨、１㎜試料から椎骨が検出された。MNIは１。

４．まとめ

・陸上での狩猟対象はイノシシ（MNI：５）とシカ（MNI：５）が主だったと考えられる。イノシシもシカも幼獣が含まれていた。
・魚類に関しては、沖でのマグロ属（MNI：25）を対象とした漁が盛んだったと考えられる。また、やや沖や岩礁でのマダイ（MNI:10)、岩礁でのフサカサゴ科（MNI:20）やアイナメ属（MNI:４）を対象とした漁も比較的盛んに行われていたと考えられる。１㎜試料では、マイワシなどニシン科やカタクチイワシが多数見られ、沿岸から沖の表層ではイワシ類を対象とする漁も盛んだったと考えられる。また、サケ科魚類の検出は河川での漁も行われた可能性を示す。
・貝類では、内湾の砂地でのアサリ（MNI：9635）の採集が盛んに行われたと考えられる。同じ内湾の砂泥地では、ウミニナ（MNI：5226）が多く採集され、オオノガイ（MNI：230）も比較的多く採集されたと考えられる。岩礁では、主にスガイ（MNI：3461)、その他イシダタミ（MNI：868)、マガキ（MNI:624)、ヘソアキクボガイ（MNI:365)、イボニシ（MNI:258)、クボガイ（MNI:152）が比較的多く採集されたと考えられる。

参考文献

Grant, A.　1982 The use of tooth wear as a guide to the age of domestic ungulates. Ageing and Sexing animal bones from archaeological sites. BAR British Series 109　pp.91-108.

松井章　2008『動物考古学』京都大学学術出版会.

大泰司紀之　1980「遺跡出土ニホンジカの下顎骨による性別・年齢・死亡季節査定法」『考古学と自然科学』13 pp.51-74

山崎京美・上野輝彌　2008『硬骨魚類の顎と歯』アート＆サイエンス工房TALAI

第１表　目視取上試料一覧

袋No.	位置	層	備考
71	ST1	4層	
72	ST1	4層	
73	ST1	4層	
74	ST1	5層	貝層
75	ST1	5層	貝層
76	ST1	6層	
77	ベルト	5層	貝層
78	ベルト	5層	貝層
79	ベルト	5層	貝層
80	ST1東拡張部	4層	
81	ST1東拡張部	4層	
82	ST1東拡張部	5層	貝層
83	ST1東拡張部	6層	
84	ST2	5層	貝層
85	ST2	5層	貝層
86	ST2	5層	貝層
87	ST2	5層	貝層
88	ST2	4層	
89	ST2	6層	
90	ST2	6層	
91	ST1	5層	貝層
92	ST1	5層	貝層
93	ST1東拡張部	5層	貝層
94	ベルト	5層	貝層
95	ベルト	5層	貝層
96	ベルト	5層	貝層
97	ST2	5層	貝層
98	ST2	5層	貝層
99	ST2	5層	貝層

第２表　水洗選別試料一覧

袋No.	場所	層	重量（約kg）	体積（ml）
1	ST1	5層	10.6	−
2	ST1	5層	8.3	3100
3	ST1	5層	8.2	3150
4	ST1	5層	10.7	4525
5	ST1	5層	11.1	4250
6	ST1	5層	9.8	3800
7	ST1	5層	10.6	3650
8	ST1	5層	9.5	3800
9	ST1	5層	11.0	5100
10	ST1	5層	10.5	4150
11	ST1	5層	10.2	4250
12	ST1	5層	9.4	3350
13	ST1	5層	10.4	4150
14	ST1	5層	12.3	6100
15	ST1	5層	10.3	4300
16	ST1東拡張部	5層	12.4	4800
17	ST1東拡張部	5層	9.7	4100
18	ST1東拡張部	5層	12.7	4500
19	ST1東拡張部	5層	11.9	4300
20	ST1東拡張部	5層	11.9	4550
21	ベルト	5層	12.5	4850
22	ベルト	5層	12.2	4750
23	ベルト	5層	12.4	4800
24	ベルト	5層	11.9	5100
25	ベルト	5層	10.0	4150
26	ベルト	5層	11.0	4450
27	ベルト	5層	11.7	4700
28	ベルト	5層	7.5	2800
29	ベルト	5層	11.2	4150
30	ベルト	5層	10.1	3800
31	ST2	5層	11.1	−
32	ST2	5層	7.0	2850
33	ST2	5層	10.5	4200
34	ST2	5層	8.6	3300
35	ST2	5層	9.5	3750
36	ST2	5層	11.9	4455
37	ST2	5層	9.5	3500
38	ST2	5層	10.4	3800
39	ST2	5層	11.1	3950
40	ST2	5層	13.5	5500
41	ST2	5層	11.0	4150
42	ST2	5層	15.2	5750

第３表　水洗選別試料の計量結果

袋№	場所	重量(kg)	体積(ml)	4㎜以上の種類別重量												4㎜未満1㎜以上の全重量	備考
				貝	魚類	哺乳類	甲殻類	鳥類	爬虫類両生類	不明骨	炭化植物	土器	石器	骨角器	合計		
1	ST1	10.6	−	3.154	0.172	0.006	0.003	>0.001	>0.001	0.000	0.002	0.073	0.002	0.000	3.412	1.035	詳細分析
				92.44%	5.04%	0.18%	0.09%	—	—	0.00%	0.06%	2.14%	0.06%	0.00%	100.00%		
4	ST1	10.7	4525	2.348	0.076	0.018	0.008	0.000	0.000	0.000	0.002	0.058	>0.001	0.003	2.513	1.105	詳細分析
				93.43%	3.02%	0.72%	0.32%	0.00%	0.00%	0.00%	0.08%	2.31%	—	0.12%	100.00%		
17	ST1東	9.7	4100	0.935	0.061	0.025	0.001	>0.001	>0.001	0.000	0.002	0.153	0.002	0.001	1.180	0.927	詳細分析
				79.24%	5.17%	2.12%	0.08%	—	—	0.00%	0.17%	12.97%	0.17%	0.08%	100.00%		
20	ST1東	11.9	4550	0.210	0.095	0.038	0.000	>0.001	0.002	0.002	0.004	0.300	0.021	0.000	0.672	0.950	
				31.25%	14.14%	5.65%	0.00%	—	0.30%	0.30%	0.60%	44.64%	3.13%	0.00%	100.00%		
21	ベルト	12.5	4850	3.592	0.082	0.111	0.006	0.000	0.001	0.000	0.002	0.118	0.001	0.002	3.915	1.381	
				91.75%	2.09%	2.84%	0.15%	0.00%	0.03%	0.00%	0.05%	3.01%	0.03%	0.05%	100.00%		
25	ベルト	10.0	4150	2.694	0.087	0.007	0.002	0.001	>0.001	0.000	0.002	0.157	0.003	0.000	2.953	0.951	詳細分析
				91.23%	2.95%	0.24%	0.07%	0.03%	—	0.00%	0.07%	5.32%	0.10%	0.00%	100.00%		
31	ST2	11.1	−	2.052	0.259	0.072	0.001	0.000	0.001	0.000	0.004	0.442	0.008	0.000	2.839	1.131	
				72.28%	9.12%	2.54%	0.04%	0.00%	0.04%	0.00%	0.14%	15.57%	0.28%	0.00%	100.00%		
33	ST2	10.5	4200	1.942	0.141	0.012	>0.001	0.000	>0.001	0.000	0.003	0.183	>0.001	0.000	2.281	1.144	詳細分析
				85.14%	6.18%	0.53%	—	0.00%	—	0.00%	0.13%	8.02%	—	0.00%	100.00%		

＊計量したのは乾燥重量で、単位はkg

第４表　ヒト目視取上試料一覧

位置	分類群	部位	左右	部分・状態	数量	備考
ST1　5層	ヒト	橈骨	右	近位端	1	№75
ST1　6層	ヒト	大腿骨	右	骨幹	1	№76

第５表　魚類目視取上試料一覧

分類群	部位	左右	ST1			ST1東拡			ベルト	ST2			合計	備考
			4層	5層	6層	4層	5層	6層	5層	4層	5層	6層		
マグロ属	歯骨	左		1					1		1		3	ST1-5層の歯骨高:26.8mm ベルトの歯骨高:29.1mm ST2-5層の歯骨高:28.3mm
	角骨	右				1							1	
	前鰓蓋骨	左										1	1	
	椎骨破片	—	19	21	25	5	10	4	40	9	16	21	170	ST1-6層の3点に切創、ST1東拡-4層の3点に切創
	腹椎	—	12	14	3	6	5		12	3	20	11	86	ST1-5層の1点に切創と焼け1点 ST2-5層の1点に切創、ST2-6層の1点に切創
	尾椎	—	71	82	46	13	23	11	111	34	162	77	630	ST1-4層の2点に切創、ST1-5層の1点に切創 ST1-6層の1点に切創、ST2-5層の3点に切創
	尾椎（尾柄部）	—	1	1			3				3	1	9	
	尾部棒状骨	—		1	1		4		1				7	
	鰭棘								1				1	
	不明破片	不明	12	16	8	10	2		7		13	7	75	
マグロ属？	前上顎骨/歯骨破片	不明										1	1	
マダイ亜科	前上顎骨	左					1						1	ST1東拡-5層の前上顎骨長:52.2mm
		右				1							1	
	主上顎骨	左		1					1				2	
	歯骨	左								1			1	
		右	1							1			2	
マダイ	前頭骨	—		1						1		2	4	
	上後頭骨	—				1					1	1	3	
硬骨魚綱	角骨？	右？				1							1	未同定
	鰭棘	不明										1	1	
	不明破片				12	6	5		3	1		5	32	
硬骨魚綱？	不明破片	不明	1										1	

第６表　哺乳類目視取上試料一覧

分類群	部位	左右	ST1			ST1東拡張			ベルト	ST2			遺構確認面	合計	備考
			4層	5層	6層	4層	5層	6層	5層	4層	5層	6層			
イヌ	下顎骨	左		1			1							2	
アシカ科	基節骨（後肢？）	左？					1							1	ST1東拡切創複数
イノシシ	頭蓋骨（破片）	―	1						1		6			8	ベルト-5層後頭骨
	上顎骨	左	1	1					1					3	ST1-4層P4-M2、ST1-5層I1、ベルト5層乳臼歯は幼獣
		右							1		1			2	ベルト-5層乳臼歯？、ST2-5層P4-M1
	下顎骨（連合部）	左右							1					1	
	下顎骨（下顎体）	左			1				1	1		1		4	ベルト-5層P3-M3の摩滅指数(P4:c,M1:f,M2:e,M3:a) ST2-4層P3-M1の磨滅指数(P4:b,M1:e) ST2-6層のM3摩滅指数(M3:a)
		右			1									1	
	下顎骨（下顎枝）	左										1		1	
		右									1			1	
	下顎骨（破片）	不明							11					11	
	下顎骨？（破片）	不明			1									1	
	下顎第4前臼歯	左							1					1	
	下顎第2後臼歯	左								1				1	
	環椎	―	1									1		2	
	軸椎	―											1	1	
	肩甲骨	左	1		1						1			3	
		右			1				1	1				3	
	上腕骨（骨幹）	右			1									1	
	上腕骨（遠位端）	右	1								1			2	
	橈骨（近位端）	右								1	1			2	
	尺骨（近位端）	左			1				1					2	
		右			1									1	
	中手骨(第4)	左					1							1	
	寛骨	左									1			1	
	膝蓋骨	右	1											1	
	距骨	左						1			1			2	
	基節骨（前後不明）	不明									1	1		2	
	中節骨（前後不明）	不明				1								1	
イノシシ？	下顎骨（破片）	不明									1			1	
	上腕骨（遠位端）	不明			1									1	
イノシシ？ シカ？	脛骨？	不明		1										1	ST1-5層骨端未癒合
シカ	角（破片）	不明		1	1		1			1	2			6	ST1-6層縦位溝切、ST1東拡-5層横位溝切 ST2-4層縦位溝切、ST2-5層の右角は落角で縦位溝切
	角～前頭骨	右						1						1	ST1東拡-6層横位溝切
	上顎骨	左							1					1	ベルト-5層M1-M2の摩滅指数(M1:6,M2:6)
	下顎骨（下顎体）	左			1									1	
	下顎骨（下顎枝）	左			1									1	
	下顎切歯	不明									3			3	
	下顎第1/2後臼歯	右		1										1	
	下顎第3後臼歯	右									1			1	
	仙椎（破片）	―		3										3	
	肩甲骨	右									2			2	ST2-5層の1点に切創
	上腕骨（遠位端）	左					1				1	1		3	
		右			1									1	
	中手骨（近位端）	左	1											1	
		右		1								1		2	
	中手骨（骨幹）	不明		1								1		2	
	中手骨（遠位端）	右								1				1	
	中手骨？(近位端破片)	不明										1		1	
	寛骨	左								1	1			2	
	大腿骨（近位端）	左			1									1	
		右		1										1	ST1-5層骨端未癒合
	大腿骨（骨幹）	左								1				1	ST2-4層近位端未癒合
		右				1								1	ST1東拡-4層遠位端未癒合
	脛骨（近位端）	右								1				1	
	脛骨（遠位端）	左			1				2					3	ベルト-5層の1点骨端未癒合
		右										1		1	
	踵骨	右									1			1	
	距骨	左						1		1				2	
		右	1	1			1							3	
	足根骨(中心+第4)	右							1					1	
	中足骨（骨幹）	不明	1	1										2	
	中足骨（遠位端）	左								1				1	
		右		1							1			2	
	中足骨（遠位端破片）	不明							1					1	
	基節骨（前後不明）	不明						1			1			2	
	中節骨（前後不明）	不明		1		1				2	1			5	
シカ？	頭蓋骨（破片）	―			1									1	
	寛骨	左		1								1		2	
クジラ類	不明破片	不明							7					7	
哺乳綱	各部位		8	12	36	7	15	1	20	20	9	5	2	135	ST1東拡-5層肋骨破片1点に切創
哺乳綱？	不明破片	不明		1			1							2	

第７表　哺乳類４㎜試料一覧

分類群	部位	左右	ST1	ST1東拡	ベルト	ST2	合計	備考
齧歯目	下顎骨（破片）	右				1	1	ST2リス？ムササビ？
	切歯	不明				1	1	
ネズミ類	頭蓋骨（破片）	―				2	2	
	下顎骨	右	1		1		2	
	大腿骨（近位端）	右	1				1	
食肉目	歯	不明				3	3	
テン	下顎骨（下顎体）	左			1		1	
	肩甲骨（関節部）	左			1		1	
	上腕骨（骨幹）	左			1		1	ベルト骨端未癒合
	上腕骨（遠位端）	右			1		1	
	尺骨（近位端）	右			1		1	
	距骨（完存）	左			1		1	
テン？	歯	不明			3		3	
イヌ	上顎骨（破片）	左	1				1	
	下顎骨（下顎体）	左			1		1	
		右	1				1	
	歯	不明	2				2	
イヌ？	上顎骨（破片）	不明	1				1	
	歯	不明	1	2	1		4	
	大腿骨（近位端）	右	1				1	
タヌキ？	脛骨（遠位端）	右		1			1	
イノシシ	頭蓋骨（後頭骨破片）	―				1	1	ST2赤色付着物
	上顎骨（破片）	右				2	2	ST2はP2含む破片とM2含む破片
	下顎骨（下顎体）	左				1	1	ST2乳臼歯摩滅無→幼獣
		右				1	1	
	下顎骨（破片）	左				1	1	
	上顎骨/下顎骨（破片）	不明				1	1	
	上顎第2切歯	左	1				1	
		右			1		1	
	上顎第1前臼歯	右		1			1	
	上顎第3後臼歯	右	1			1	2	ST2未萌出
	上顎前臼歯	不明				1	1	ST2未萌出
	下顎第3切歯	左				1	1	
	下顎切歯	不明	1				1	
	臼歯	不明		1		1	2	ST1東拡未萌出、ST2未萌出
	歯	不明		1		4	5	
	橈骨（近位端）	左	1			1	2	
	中手骨（近位端）	不明			1		1	
	中手骨/中足骨（遠位端）	不明	1		1	1	3	ST1骨端未癒合、ベルト骨端未癒合
	脛骨（近位端）	右		1			1	
	距骨（ほぼ完存）	左				1	1	
	基節骨（前後不明）	不明		1		4	5	ST1東拡骨端未癒合、ST2骨端未癒合、ST2の1点骨端未癒合
	中節骨（前後不明）	不明	1			3	4	ST2骨端未癒合
	末節骨（前後不明）	不明	1	1	1	1	4	
イノシシ？	大腿骨（骨幹）	右				1	1	
	中手骨/中足骨（遠位端破片）	不明	1				1	
シカ	角	不明		1	2		3	ST1東拡の1点に縦位溝切
	上顎後臼歯	左			2	1	3	ベルトの1点未萌出
		右				1	1	
	下顎切歯	左			1		1	
	臼歯	不明			6	1	7	ベルトの2本未萌出
	歯	不明		1	3		4	
	肩甲骨	右				1	1	
	中手骨（骨幹）	不明	1	1		3	5	
	中手骨（遠位端）	右	1				1	
	中手骨/中足骨(遠位端破片)	不明			1	1	2	
	距骨	右	1			1	2	
	足根骨	左	1				1	
	中足骨（近位端）	右	1				1	
	中足骨（骨幹）	不明				1	1	ST2焼け
	基節骨（前後不明）	不明				3	3	
	中節骨（前後不明）	不明			2		2	
	末節骨（前後不明）	不明			1		1	
シカ？	上顎骨/下顎骨（破片）	不明			2		2	
	肩甲骨破片	不明				1	1	
クジラ類	不明破片	不明			約85		約85	
哺乳綱	各部位		20	8	45	48	121	ST1の大腿骨近位端未癒合、ST1の手根骨/足根骨切創2条 ベルト大腿骨骨幹骨端未癒合
哺乳綱？	指骨	不明			1		1	

第８表　魚類４㎜試料一覧

分類群	部位	左右	ST1	ST1東拡	ベルト	ST2	合計	備考
エイ・サメ類	椎骨	―	1				1	
エイ類	尾棘		1				1	
サメ類	椎骨	―	4	1		2	7	
カタクチイワシ	椎骨	―			3	1	4	
ニシン科	椎骨	―	12	7	21	11	51	
マイワシ	第1椎骨	―	1				1	
サバ属	方骨	右		1			1	
	椎骨	―	37	7	8	6	58	
サバ属？	方骨	左		1			1	
マグロ属	歯骨	左			2		2	ベルト歯骨高:26.0mm
		右			1	2	3	ベルト歯骨高:22.1mm、ST2歯骨高:28.0mm
	角骨	左			1		1	
	方骨	左				1	1	
	腹椎	―	3	1	4	15	23	
	尾椎	―	32	6	41	93	172	ST1焼1点、ST2尾椎2点交連
	尾椎（尾柄部）	―	1	2		6	9	
	尾部棒状骨	―	1		1	1	3	
マグロ属？	歯	不明		5	2		7	
	前上顎骨/歯骨破片	不明	12	7	6	4	29	
ブリ属？	角骨	左	1				1	
	椎骨	―	9	7			16	
スズキ	主上顎骨	左			1		1	
		右		1			1	
	歯骨	左	1				1	ST1歯骨高:9.6mm
	前鰓蓋骨	左	1				1	
	主鰓蓋骨	左				1	1	
タイ科	歯	不明	22	2	6	21	51	
	前上顎骨/歯骨破片	不明	3				3	
	椎骨	―	7	3	1	3	14	
マダイ亜科	前上顎骨	左	5	2		1	8	ST1前上顎骨長:38.5mm、ST1東拡前上顎骨長:49.2mm
		右			1	2	3	ベルト前上顎骨長:41.2mm
	主上顎骨	右			1		1	
	歯骨	左	3	2	1	1	7	
		右	2		1	2	5	
	角骨	左	1		3		4	
		右	2				2	
	方骨	左	2				2	
		右	1				1	
	主鰓蓋骨	左	1	1	1		3	
		右	1		1		2	
	第1椎骨	―		1	1	1	3	
マダイ	前頭骨	―	2			4	6	
	上後頭骨	―	2		1	1	4	
カレイ科	第1椎骨	―	1				1	
カワハギ科	鰭棘	―	1				1	
タラ科	椎骨	―	1				1	
タラ科？	耳石	不明			2		2	
	椎骨	―	3				3	
フサカサゴ科	前上顎骨	左	10	1	4	1	16	
		右	8	5	4	3	20	
	主上顎骨	左	3		1		4	
		右	2				2	
	歯骨	左	8	3	6	1	18	
		右	5	1	1		7	
	角骨	左	5	1	1		7	
		右	1		3	2	6	
	方骨	左	2	2	1	4	9	
		右	5	2	3	2	12	
	前鰓蓋骨	左	8	1	8	1	18	
		右	4	2	1		7	
	主鰓蓋骨	左	8	2	5	1	16	
		右	3	1	2	2	8	
	口蓋骨	左	1				1	
	舌顎骨	左	1		1		2	
	第1椎骨	―	4	2	3		9	
	椎骨	―	4				4	
フサカサゴ科？	前上顎骨	左			1		1	
	角骨	右			1		1	
アイナメ属	前上顎骨	左		1	1		2	
	歯骨	右	2				2	
	方骨	左	1			1	2	
		右	1				1	
	第1椎骨	―		1	1	2	4	
硬骨魚綱	各部位		15超	2超	10超	9超	40超	ベルト椎骨焼2点、ST1不明破片1点切創

第９表　１㎜詳細分析試料一覧

分類群		部位	左右	調査区・試料番号					合計
				ST1		ST1東拡	ベルト	ST2	
				№1	№4	№17	№25	№33	
魚類	アカエイ科	歯板	不明		1				1
	マイワシ	主上顎骨	左		1				1
			右	1					1
		第1椎骨	—		2		1	1	4
		第2椎骨	—	1	2				3
	ニシン科	椎骨	—	8	10	9	13	10	50
	カタクチイワシ	椎骨	—	1	9		6	5	21
	コイ科？	咽頭骨？	不明		1				1
	サケ科	歯	不明	1		2	1		4
		椎骨	—			1			1
	フサカサゴ科	主上顎骨	左			1			1
	サバ属	椎骨	—					1	1
	タイ科	歯	不明	2	3		2		7
	硬骨魚綱	歯	不明	1			1	1	3
		方骨	左			1			1
		第1椎骨	—	1					1
		椎骨	—	2	3	2	1	3	11
甲殻類	フジツボ	殻破片	—		4	3	3	4	14
貝類	海産二枚貝	殻	左右(混合)		16	13	4	14	47
	海産微小巻貝	殻	—	13	13	13	32	21	92
	陸産微小巻貝	殻	—	1	2				3
爬虫類	ヘビ類	椎骨	—					1	1

第11表　貝類目視取上試料一覧

分類群	左右	ST1			ST1東拡		ベルト	ST2		合計
		4層	5層	6層	4層	5層	5層	5層	6層	
アサリ	左	1	4					7		12
	右		1				3	7		11
マガキ	左		3			3	4	16		26
	右		7			4	4	27		42
オオノガイ	右							2		2
ウバガイ	右		1							1
ミルクイ	左		1							1
ウチムラサキ	左		6			1	1	5		13
	右		7				8	8		23
ウミニナ	—		3	1	1		5	2		12
アカニシ	—		1			1	3	1		6
クボガイ	—		2							2
クボガイ？	—						2			2
スガイ	—		2	1			3			6
腹足綱	—						1			1

第12表　鳥類目視及び４㎜試料一覧

分類群	部位	左右	ST1 5層	ST2 6層	合計	備考
カイツブリ科	烏口骨	左	1		1	水洗選別
キジ科	上腕骨（近位端）	右	1	1	2	目視

第13表　両生類・爬虫類４㎜試料一覧

分類群	部位	左右	ST1	ST1東拡	ベルト	ST2	合計
カエル類	椎骨	—	3				3
	腸骨	右	1				1
ヘビ類	椎骨	—		2		18	20

第10表　貝類・甲殻類４㎜試料一覧

分類群	左右	ST1	ST1東拡	ベルト	ST2	合計
アサリ	左	3381	585	3063	2606	9635
	右	3318	547	3140	2478	9483
マガキ	左	169	23	221	211	624
	右	120	16	133	111	380
オオノガイ	左	66	14	57	68	205
	右	86	17	58	69	230
オニアサリ	左			5	1	6
	右	3	1	1	2	7
バカガイ科	左	1		3		4
	右	2		1	1	4
ミルクイ	左					0
	右				1	1
ハマグリ	左		1		1	2
	右	1	1	1		3
ウチムラサキ	左	11	2	8	14	35
	右	10	3	7	9	29
カリガネエガイ	左	2		7	2	11
	右	8		6	5	19
イタヤガイ科	左	1				1
	右			1		1
イガイ科	左	1		1	3	5
	右	4			4	8
二枚貝未同定	左右	14	7	23	6	50
二枚貝不明	左右	1659	547	1657	2167	6030
カサガイ科	—	6		2		8
エゾバイ科	—			1		1
ウミニナ	—	1748	233	1996	1249	5226
イシダタミ	—	407	49	288	124	868
イボニシ	—	109	9	101	39	258
レイシ	—	7		9	8	24
アカニシ	—			3	1	4
クボガイ	—	81	13	38	20	152
ヘソアキクボガイ	—	192	18	101	54	365
スガイ	—	1402	408	1064	587	3461
スガイフタ	—	797	427	554	295	2073
ニシキウズ科	—	521	58	525	394	1498
巻貝C	—				6	6
巻貝D	—	28		27	8	63
オカチョウジガイ類	—			1		1
巻貝他	—	944	205	803	649	2601
巻貝未同定	—	52	6	24	29	111
巻貝不明	—	1508	722	1326	1216	4772
ヘビガイ	—	3	1	9	14	27
フジツボ	—	180	19	208	77	484
カニ爪	不明			1		1
ウニ？	—	1				1

図版１　イノシシ

１・２：左上顎骨、３：頭蓋骨、４・５：左下顎骨、６：軸椎、７：右肩甲骨、８：右上腕骨、９：右尺骨、10：左中手骨（第４）
11：左寛骨、12：左距骨、13：右膝蓋骨、14：基節骨

（ ➡ の位置に切創あり）

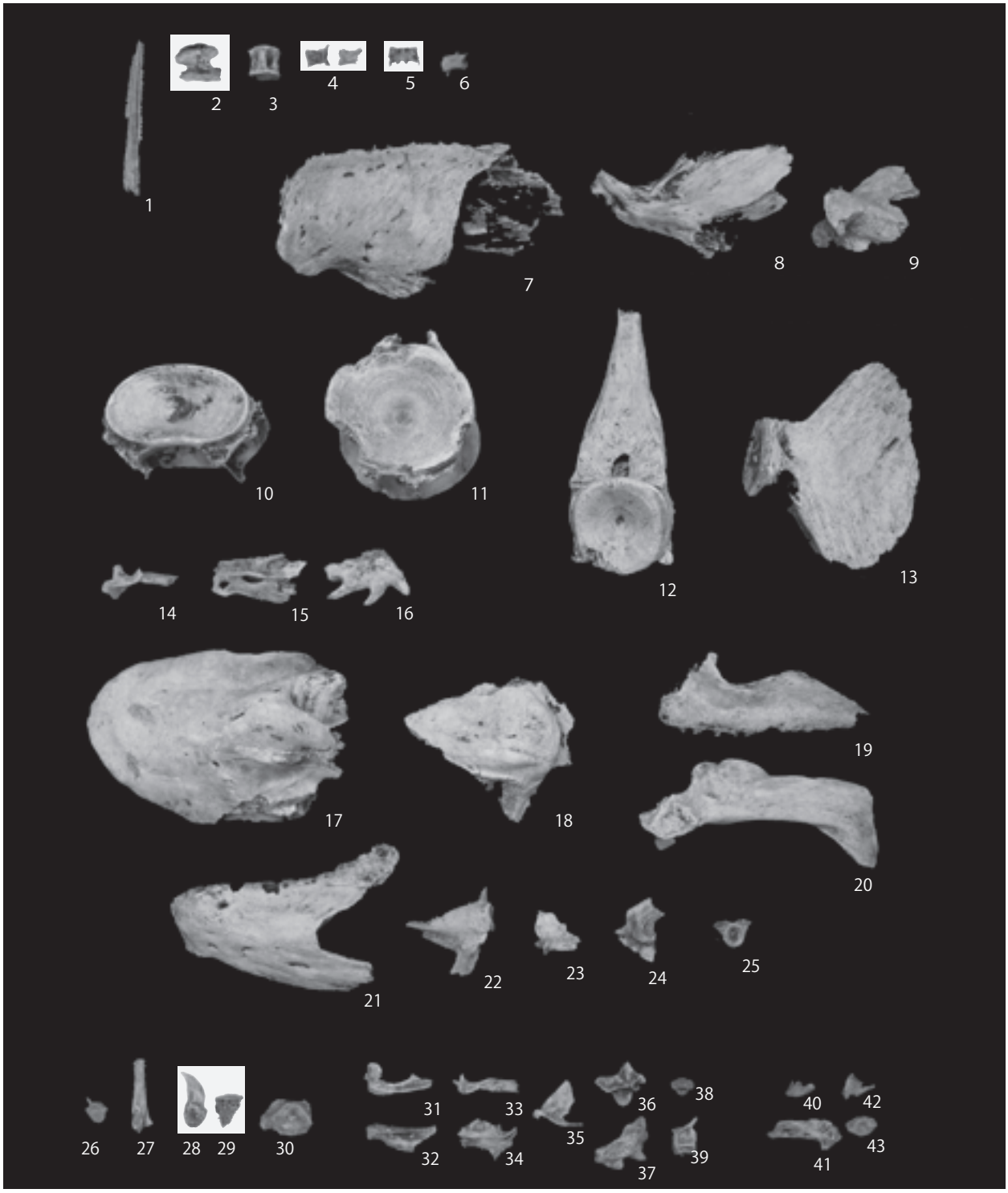
図版２　シカ

１：右前頭骨（角付き）、２：右角、３：左下顎骨臼歯、４：左下顎骨、５：右肩甲骨、６：左上腕骨、７：右中手骨
８：左大腿骨、９：右大腿骨（近位端未癒合）、10・11：左脛骨、12：右中足骨、13：右踵骨、14：右距骨

（ ➡ の位置に切創あり）

図版３　その他の哺乳類と鳥類

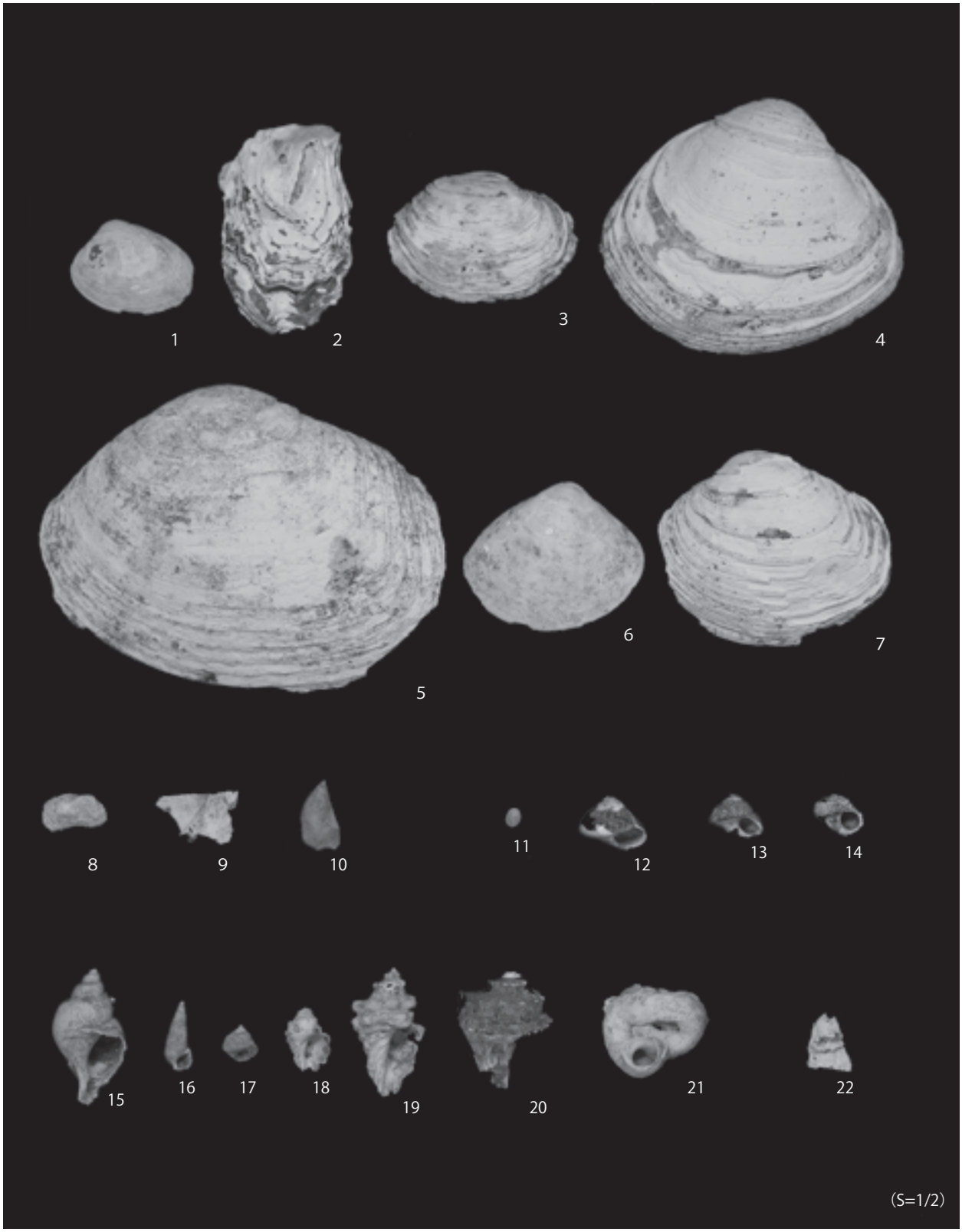
１：ヒト右橈骨、２：ヒト右大腿骨、３～７：テン（３：左下顎骨、４：左肩甲骨、５：左上腕骨、６：右尺骨、７：左距骨）
８：イヌ左下顎骨、９：クジラ類部位不明破片、10：アシカ科左後肢基節骨？、11：カイツブリ科左烏口骨、12：キジ科右上腕骨



（白背景は顕微鏡写真で縮尺２倍、その他は S＝2/3）

図版４　魚類

１：エイ類尾棘、２：アカエイ科歯板、３：エイ類椎骨、４：カタクチイワシ椎骨、５：マイワシ第１椎骨、６：サバ属椎骨
７～13：マグロ属　（7：左歯骨、８：右角骨、９：左方骨、10：腹椎、11：尾椎、12：尾椎（尾柄部）、13：尾部棒状骨）
14～16：スズキ（14：左主上顎骨、15：左歯骨、16：左前鰓蓋骨）、17：マダイ前頭骨、18：マダイ上後頭骨
19～25：マダイ亜科（19：左前上顎骨、20：左主上顎骨、21：左歯骨、22：左角骨、23：左方骨、24：左主鰓蓋骨、25：第一椎骨）
26：カレイ科第１椎骨、27：カワハギ科鰭棘、28：サケ科歯、29：サケ科椎骨、30：タラ科椎骨
31～36：フカカサゴ科（31：左前上顎骨、32：左主上顎骨、33：左歯骨、34：左角骨、35：左方骨、36：左主鰓蓋骨
37：左前鰓蓋骨、38：第１椎骨、39：椎骨）、40～43：アイナメ属（43：左前上顎骨、41：右歯骨、42：左方骨、43：第１椎骨）



図版５　貝類および甲殻類

１～10：二枚貝綱（１：アサリ左殻、２：マガキ右殻、３：オオノガイ右殻、４：ウバガイ右殻、５：ミルクイ左殻、６：ハマグリ右殻、７：ウチムラサキ左殻、8：カリガネエガイ右殻、9：イタヤガイ科左殻、10：イガイ科右殻）

11～21：腹足綱（11：カサガイ科、12：クボガイ、13：ヘソアキクボガイ、14：スガイ、15：エゾバイ科、16：ウミニナ、17：イシダタミ、18：イボニシ、19：レイシ、20：アカニシ、21：ヘビガイ）、22：フジツボ類

写 真 図 版

1. 調査区全景（北から）

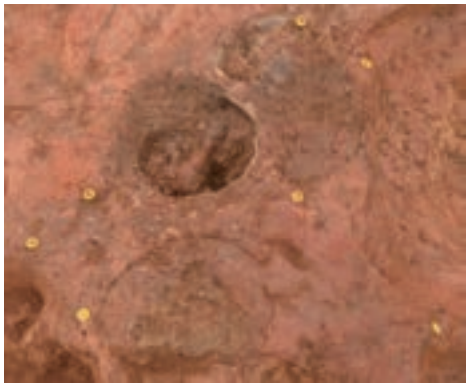
2．調査区全景（西上から）

写真図版 1

1.B 区 SI66 竪穴建物跡全景（南から）

2.SI66 埋設土器 1・2（東から）

3.SI66 複式炉堀り込み部断面（東から）


4.SI66 埋設土器 1 ～ 3（南から）

5.SI66 埋設土器 4（西から）

6.SI66A-P1 断面（西から）

7.SI66B-P1 断面（北から）

8.SI66B-P2 石器出土状況（西から）

9.SI66-P2 断面（西から）

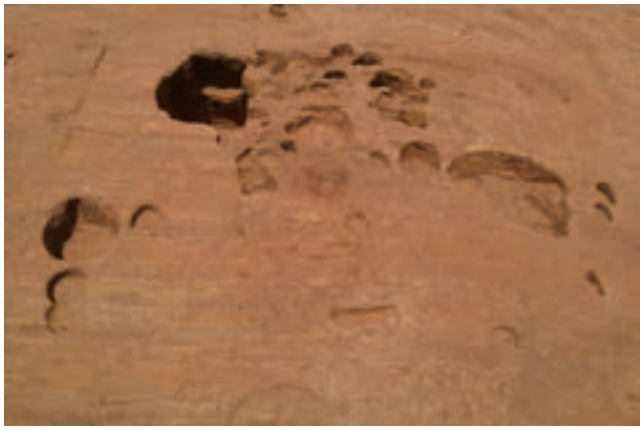
10.SI66-P3 断面（西から）

11.SI66-P3 土器出土状況（西から）

12.SI66-P4 断面（西から）

13.SI66-P5 断面（西から）

写真図版 2



1.C 区 SI91 竪穴建物跡完掘状況（東から）

2.SI91 検出状況（東から）

3.SI91 複式炉前庭部（南から）

4.SI91 複式炉先端部断面（南から）

5.SI91 複式炉先端部焼面（南から）

6.SI91- 周溝断面（北から）

7.SI91-P1 断面（南から）

8.SI91-P3 断面（南から）

9.SI91-P4 断面（南から）

10.C 区 SI91-P5 断面（南から）

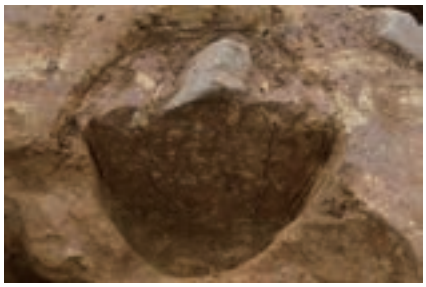
11.SI91-P6 断面（南西から）

12.SI91-P7 断面（北西から）

13.SI91-P8 断面（南から）

写真図版 3

1.C 区 SI14・58 竪穴建物跡完掘状況（西から）



2.SI14A-P4 断面（東から）

3.SI14A-P5 断面（北から）

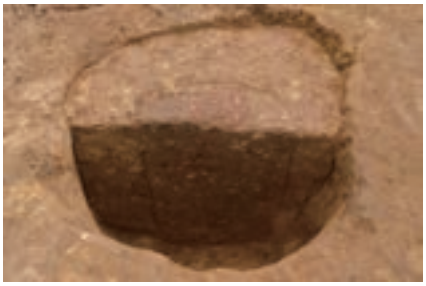
4.SI14B-P6 断面（北から）

5.SX65 炉跡（南から）

6.SI58- 炉跡調査状況（南から）

7.SI58B-P1 断面（南から）

8.SI58-P5 断面（南から）

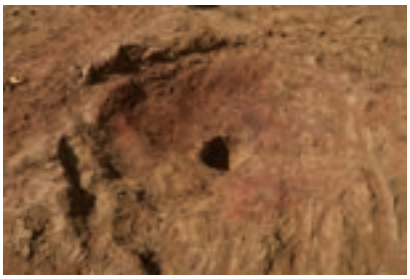


9.SI58-P6 断面（北から）

写真図版 4

1.D 区 SX98 柱穴・ピット集中全景（南から）

2.SX98 埋設土器（東から）


3.SX98 炉跡か（南から）

4.SX98-P2 断面（南から）

5.SX98-P3 断面（南から）

6.SX98-P5 断面（南から）

7.D 区 SX99 柱穴・ピット集中全景（南から）

8.SX99 土器埋設炉断面（南から）

9.SX99-P2 断面（南西から）

10.SX99-P4 断面（南東から）

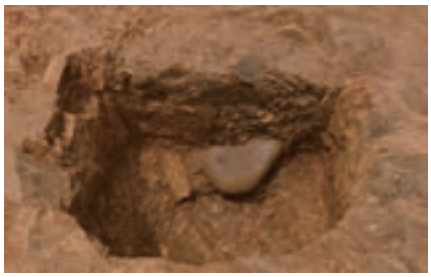
11.SX99-P6 断面（東から）

12.SX99-P7 断面（東から）

写真図版 5

1.SB108 掘立柱建物跡と周辺のピット（北から）

2.SB108-N2E1（西から）


3.SB108-N4 断面（東から）

4.P44 断面（西から）

5.P45 断面（西から）

6.P51 断面（南東から）

7.P254 断面（西から）

8.P262 断面（南から）

9.P267 断面（西から）

10.SB61 掘立柱建物跡（北から）

11.SB61-N1E1 断面（南から）

12.SB61-N2E3 断面（西から）

写真図版 6

1.C 区 SX50 炉跡断面（南から）

2.SX15 炉跡断面（南から）

3.B 区 SX15 炉跡と周辺のピット（北から）

4.P3 断面（東から）

5.P203 断面（西から）

6.B 区 SI66 竪穴建物跡と周辺のピット（南西から）

7.P219 断面（東から）

8.P277 断面（南西から）

写真図版 7

1.B 区土坑群（東から）

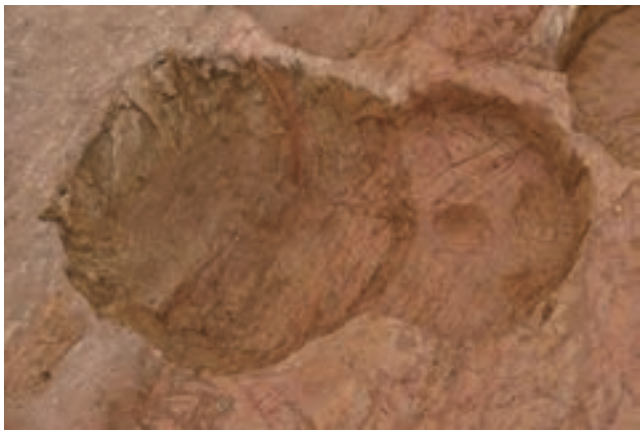
2.SK03 土坑全景（南から）

3.SK04 土坑断面（東から）

4.SK04　12 層遺物出土状況（南東から）

5.SK04　底面遺物検出状況（南西から）

6.SK05 土坑全景（北西から）

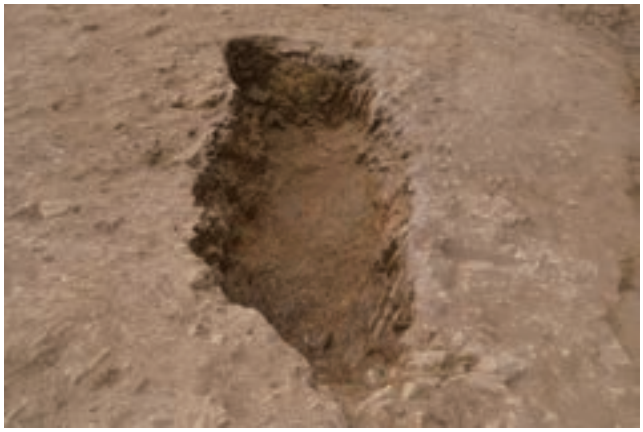

7.SK06・SK07 土坑全景（南から）

8.SK06　礫出土状況（北から）

写真図版 8

1.B 区 SK86 土坑土器出土状況（東から）

2.C 区 SK02 土坑断面（南から）



3.C 区 SK09 土坑全景（北から）

4.C 区 SK45 土坑断面（北西から）

5.C 区 SK49 土坑断面（南から）

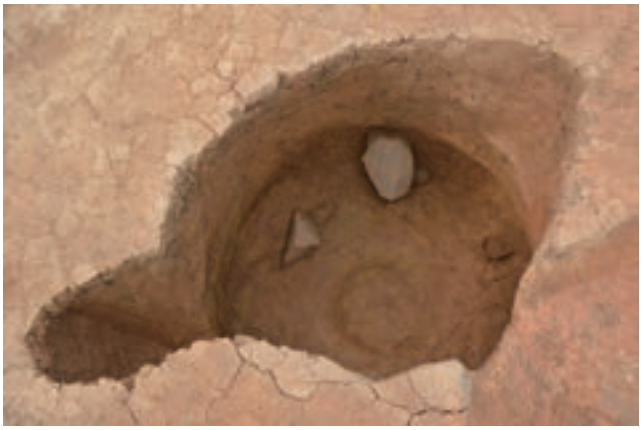
6.C 区 SK60 土坑断面（南西から）

7.C 区 SK01 土坑全景（南から）

8.SK01 土坑断面（南から）

写真図版 9

1.C 区南東の土坑群（北から）


2.SK52 土坑全景（南から）

3.SK52 土坑断面（西から）

4.SK53 土坑断面（東から）

5.SK54 土坑断面（南から）

6.SK55 土坑断面（南東から）

7.SK56 土坑全景（南から）

8.SK57 土坑全景（東から）

写真図版 10

1.A 区 SX30 遺物包含層全景（南東から）

2.SX30 遺物出土状況（北から）

3.E 区 SX110 遺物包含層・貝層確認状況（南西から）

4.SX110 貝層確認状況（南から）

5.SX110　ST1 西壁（南東から）

6.SX110 貝層分布範囲（北東から）

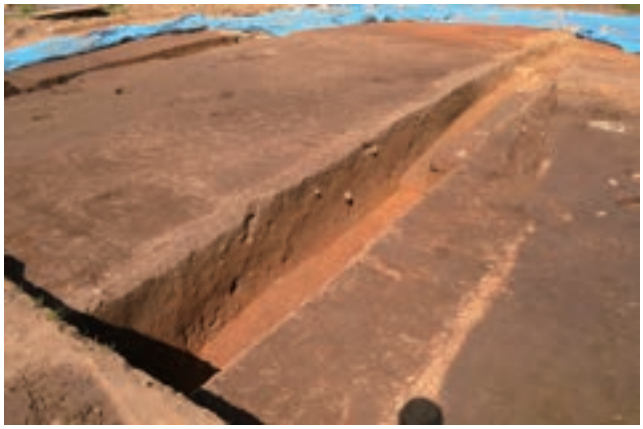
7.SX110　ST1 西壁貝層詳細（東から）

8.SX110 貝層マグロ骨出土状況（西から）

写真図版 11

1.D 区空撮全景（南上から）

2.SX10　ST1 北壁断面（南西から）



3.SX10　ST2 北壁断面（南西から）

4.SX10　ST3 西壁（北東から）

5.SX10　ST3 中央 2b 層遺物出土状況（北から）

6.SX10　B1 グリッド 2e 層遺物出土状況（西から）

7.SX10　ST1 南端 2e 層土器出土状況（南東から）

8.2a 層遺物出土状況（西から）

9.SX31 検出状況（東から）

写真図版 12

1.C 区 P70 断面（北から）

2.C 区 P71 断面（西から）

3.D 区 P183 断面（西から）

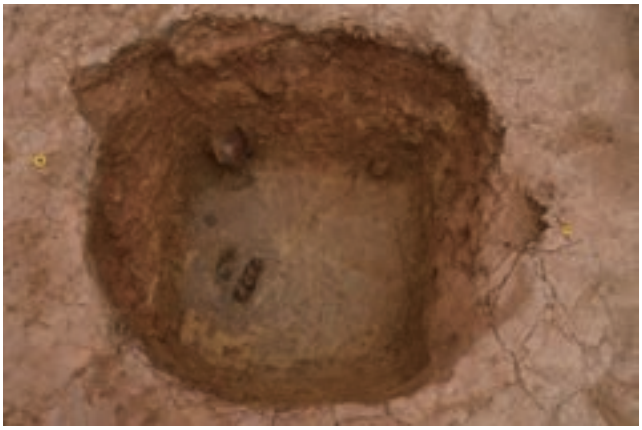
4.D 区 P192 断面（南東から）

5.B 区近世墓群全景（南西から）

6. 近世墓群全景（北から）

7.ST18・ST103 墓跡古銭出土状況（西から）

8.ST22 墓跡遺物出土状況（北から）


9.ST19 墓跡遺物出土状況（北から）

写真図版 13

（1～7・9～11：S=1/3，8：S=1/2）

写真図版 14　SI66 竪穴建物跡出土遺物

写真図版 15　SI66・91 竪穴建物跡出土遺物

1・2：SI14
3・4：SI58
5：SX99
6・7：SX98
（1～3・5～7：S＝1/3，4：S＝1/2）

写真図版 16　SI14・58 竪穴建物跡及び SX98・99 柱穴集中出土遺物

写真図版 17　SB108・61 掘立柱建物跡出土遺物

（1～12・14～18：S=1/3，13：S=2/3）

写真図版 18　SK04 土坑出土遺物（1）

1

2

（1・2：S＝1/3）

写真図版 19　SK04 土坑出土遺物（2）

（1 ～ 4：S＝1/3）

写真図版 20　SK04 土坑出土遺物（3）

SK04 土坑 12 層出土の礫

（1：S＝1/2，2：S＝1/4）

写真図版 21　SK04 土坑出土遺物（4）

1～8：底面
（1～8：S＝1/3）

写真図版 22　SK04 土坑出土遺物（5）

1

2

1・2：底面
（1・2：S＝1/3）

写真図版 23　SK04 土坑出土遺物（6）

SK04 土坑底面出土の礫

1～6：SK07
（1～5：S＝1/3，6：S＝1/2）

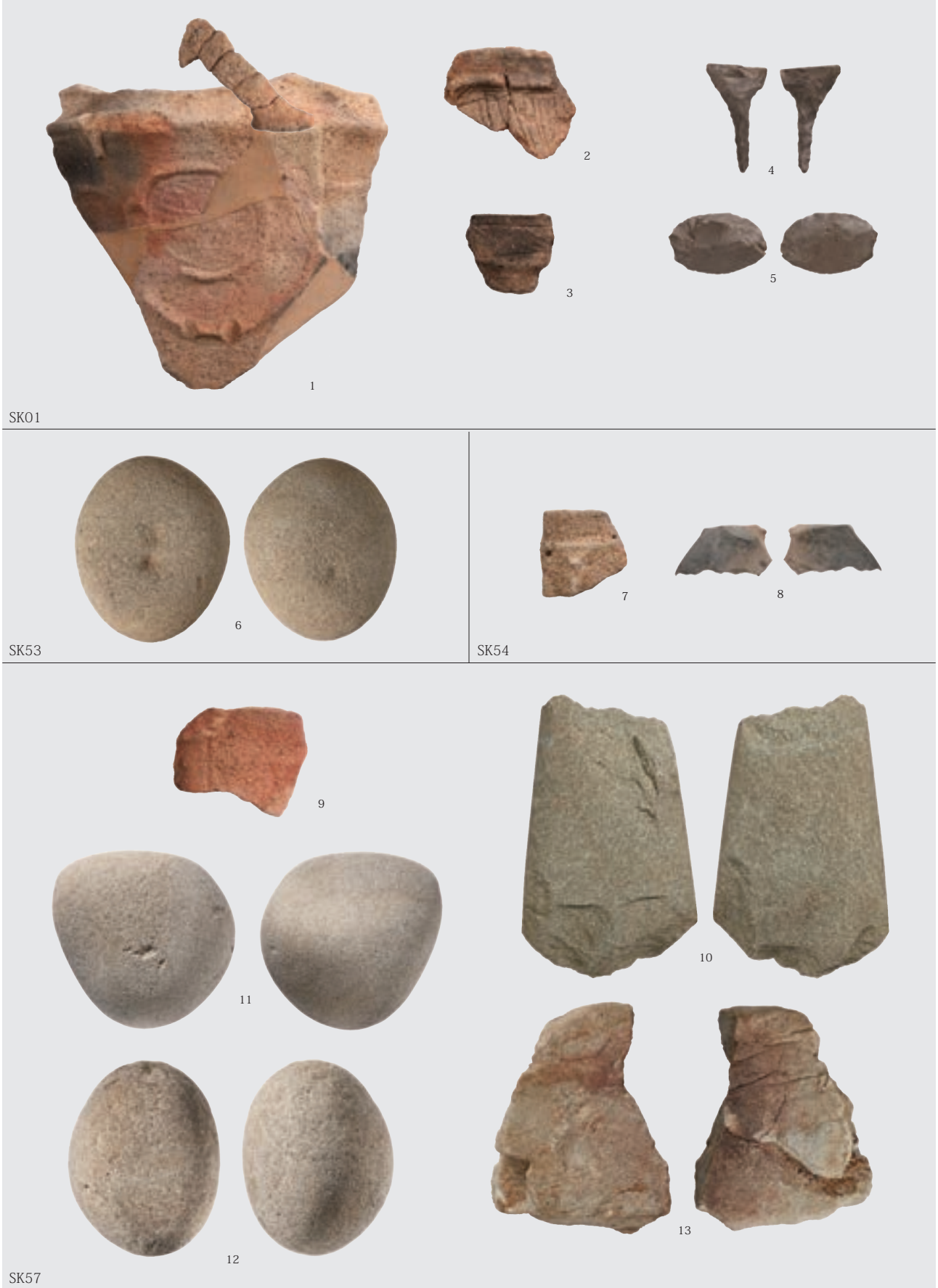
写真図版 24　SK04・07 土坑出土遺物

1～4：SK05
5：SK03
6・7：SK02
8：SK86
9～11：SK08
12：SK45
13：SK34
14：SK49
（1～6・8～13：S＝1/3，7：S＝2/3，14：S＝1/2）

写真図版 25　SK02・03・05・08・34・45・49・86 土坑出土遺物

1～11：SK09
12・13：SK60
（1～4・9～13：S＝1/3，5～8：S＝2/3）

写真図版 26　SK09・60 土坑出土遺物



1～5：SK01
6：SK53
7・8：SK54
9～13：SK57
（1～3・6・7・9・11～13：S=1/3，4・5・7：S=2/3，10：S=1/2）

写真図版 27　SK01・53・54・57 土坑出土遺物

（1～5・8～16：S=1/3，6・7：S=1/2）

写真図版 28　SK52 土坑出土遺物

1～8：SK55
9～14：SK56
（1～3・6～14：S＝1/3，4：S＝1/2，5：S＝2/3）

写真図版 29　SK55・56 土坑出土遺物

1～11：SX30
12～15：SX110
（1～5・9～15：S=1/3，6～8=S=2/3）

写真図版 30　SX30・110 遺物包含層出土遺物

1～10：4層
（1～10：S＝1/3）

写真図版 31　SX110 遺物包含層・貝層出土土器（1）

写真図版 32　SX110 遺物包含層・貝層出土土器（2）

写真図版 33　SX110 遺物包含層・貝層出土土器・骨角器

1～5：4層
6～15：5層
16・17：6層
（1・2・6～8：S=2/3，10～12：S=1/2，3～5・9・13～17：S=1/3）

写真図版 34　SX110 遺物包含層・貝層出土石器

写真図版 35　SX10 遺物包含層出土遺物（1）

1～11：2b 層底面
（1～11：S＝1/3）

写真図版 36　SX10 遺物包含層出土遺物（2）

1～13：2e 層
（1～13：S＝1/3）

写真図版 37　SX10 遺物包含層出土遺物（3）

1～5：2層
6・7：2～3層
8～10：3層
11～15：ミニチェア土器
16・17：土製品
18～23：円盤状土製品
（1～9・18～24：S＝1/3，11～17：S＝2/3）

写真図版 38　SX10 遺物包含層出土遺物（4）

1～14：1層
15～17：1～2層
18～31：2層
（1～12・15～17・18～30：S＝2/3，13：S＝1/2，14・31：S＝1/3）

写真図版 39　SX10 遺物包含層出土遺物（5）

1～20：2a 層
21～24：2b 層
（1～14・21・22：S＝2/3，15：S＝1/2，16～20・23・24：S＝1/3）

写真図版 40　SX10 遺物包含層出土遺物（6）

1～4・15・19：2e 層
5・6：2～3 層
7～13：3 層
14・16・17：2a 層
18：2 層
20：3～4 層
（1～10：S＝2/3，11：S=1/3，12～20：S＝1/2）

写真図版 41　SX10 遺物包含層出土遺物（7）

1：P3
2：P203
3・4：P219
5・6：P277
7：P236
8・9：P70
10：P44
（1～10：S＝1/3）

写真図版 42　ピット出土遺物（1）

1：P103
2：P55
3：P267
4：P45
5：P254
6：P262
（1：S＝1/2，2～6：S＝1/3）

写真図版 43　ピット出土遺物（2）

1：SX31　2：P71　3：P189　4：P192
5：P183　6～12：基本層
（1～3・6～10：S＝1/3，4・5：S＝2/3，11・12：S＝1/2）

写真図版 44　ピット・基本層出土遺物

報　告　書　抄　録

ふりがな	うちやまいせき
書名	内山遺跡
副書名	女川町東日本大震災復興事業関連遺跡調査報告書Ⅰ
巻次	
シリーズ名	女川町文化財調査報告書
シリーズ番号	第６集
著者名	古田和誠・中村賢太郎
編集機関	女川町教育委員会
所在地	〒986-2261　宮城県牡鹿郡女川町女川浜字大原316　　TEL 0225－53－2295
発行年月日	西暦 2017年３月24日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		世界測地系		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
うちやまいせき 内山遺跡	おしかぐんおながわちょう 牡鹿郡女川町 わしのかみはまあざうちやま 鷲神浜字内山	04581	73019	38度 44分 59秒	141度 46分 18秒	2014.04.14 ～07.25 2015.01.14 ～01.17	4,400㎡	女川町被災市街地復興土地区画整理事業（中心部地区）

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
内山遺跡	集落	縄文時代	竪穴建物跡、掘立柱建物跡、炉跡、土坑、遺物包含層・貝層	縄文土器、土製品、石器、石製品、骨角器、動物遺存体、人骨	縄文時代中期末葉～後期初頭の集落跡
	墓域	江戸時代以降	墓跡	古銭、煙管、漆器、近世陶器	

要約	内山遺跡は、宮城県東部の三陸沿岸に位置し、女川湾を望む丘陵先端の標高35～44mの平坦部に立地する。今回の調査では縄文時代中期～後期の遺構・遺物と江戸時代以降の遺構・遺物が検出された。 縄文時代中期末葉～後期初頭に、竪穴建物跡７棟、棟持柱を持つ掘立柱建物跡２棟、貯蔵穴と考えられる土坑12基、捨て場２ヶ所などで構成される集落が形成されていたことがわかった。遺構は主に丘陵斜面際で検出されているが、丘陵尾根の頂部付近は近現代に削平されており、集落は本来丘陵先端の平坦部全体に展開していたと推定される。中期末葉の竪穴建物跡には斜位土器埋設複式炉を伴うものがある。遺物は、縄文土器･石器が主体で、大半は遺物包含層･貝層から出土している。また、貝層から出土した動物遺存体（鳥獣骨・魚骨・貝類など）の分析により、生業（狩猟・漁労）や遺跡周辺の環境に関する知見を得られた。 丘陵平坦部で江戸時代の以降の墓跡が14基まとまって検出され、その一部では底面から古銭、煙管、漆器、近世陶器などが出土した。

女川町文化財調査報告書第６集

内　山　遺　跡

平成29年３月17日印刷
平成29年３月24日発行

発　行　宮城県女川町教育委員会
〒986-2261 宮城県牡鹿郡女川町女川浜字大原190

印　刷　株式会社　鈴 木 印 刷 所
〒986-0861 宮城県石巻市蛇田字新谷地前121
TEL0225－22－4101